

県道改良工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告

八丁地遺跡
本村・横内遺跡

2000. 2

香川県教育委員会
財団法人 香川県埋蔵文化財調査センター

県道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

八丁地遺跡 本村・横内遺跡

正誤表

位 置	誤	正
例言 12 行	平成 7 年 6 月 30 日	平成 6 年 6 月 30 日
圖版 図版 51(1)	S B 101・S B 102 柱穴土層	S B 102 柱穴土層
5 頁 7 行	鴨部川流域流	鴨部川流域
5 頁 29 行	縄文時代時代後期	縄文時代後期
51 頁 30 行	S R 120	S D 120
103 頁 6 行	南側約 12 m	南側約 120 m
108 頁 34	石枝古墳	古枝古墳
113 頁 5 行	北側約 12 m	北側約 200 m
130 頁 38 行	第 93 図 S K 101 平・断面図 (1/20)	第 93 図 S K 101 平・断面図 (1/20), 出土遺物(1/4)
図版 14(2)	・・・出土集中部	・・・土器集中部
図版 15(1)	・・・出土集中部	・・・土器集中部
図版 51(1)	S B 101・S B 102 柱穴土層	S B 102 柱穴土層

県道改良工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告

八丁地遺跡
本村・横内遺跡

2000. 2

香川県教育委員会
財団法人 香川県埋蔵文化財調査センター



(1) 八丁地遺跡 SD101 出土土器



(2) 八丁地遺跡 SK101 出土土器



(3) 木村・横内遺跡 SX101 出土土器 (土師器)



(4) 木村・横内遺跡 SX101 出土土器 (須恵器)

序 文

香川県教育委員会では、四国横断自動車道や高松東道路の建設、高松空港跡地の整備など、大規模開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査と出土文化財の整理研究・報告書刊行の業務を、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して実施いたしております。

このたび、「県道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 八丁地遺跡、本村・横内遺跡」として刊行いたしますのは、県道高松志度線の道路改良工事に伴い、平成6・7年度に調査を行いました大川郡志度町の八丁地遺跡と、県道石田東志度線の道路改良工事に伴い平成6年度に調査を行いました大川郡寒川町の本村・横内遺跡についてであります。

八丁地遺跡の調査では弥生時代から中世の、本村・横内遺跡の調査では古代から中世の遺構・遺物が出土しました。なかでも、八丁地遺跡の弥生時代後期の土器群や製塩土器、本村・横内遺跡の古代の掘立柱建物群や多量の土器は、当時の生活・文化を究明するうえで貴重なものと考えられます。

本報告書が香川県の歴史を考える資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心を深められるものとなれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土文化財の整理・報告にいたるまでの間、香川県土木部及び関係諸機関並びに地元関係各位に多大な御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表すとともに、今後ともよろしく御支援賜りますようお願い申し上げます。

平成12年 2月

香川県教育委員会

教育長 折原 守

例 言

1. 本報告書は、県道高松志度線道路改良工事及び県道石田東志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業で、香川県大川郡志度町志度に所在する八丁地遺跡（はっちょうじいせき）、香川県大川郡寒川町石田東に所在する本村・横内遺跡（ほんむら・よこうちいせき）の報告を収録した。
2. 発掘調査は、香川県教育委員会が香川県土木部道路建設課からの委託を受け、香川県教育委員会が調査主体となり、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当として実施した。
3. 本調査は、八丁地遺跡が平成6年7月1日から平成7年3月31日までと、平成7年7月1日から8月31日まで実施し、本村・横内遺跡が平成6年4月1日から平成7年6月30日まで実施した。
発掘調査の担当は、本文中に記したとおりである。
4. 調査及び整理作業にあたっては、次の機関や方々の協力を得た。記して謝辞を表したい。
（順不同・敬称略）
香川県土木部道路建設課・香川県長尾土木事務所・地元各自治会・地元各水利組合・森内秀造・小川真理子
5. 報告書の作成は、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。
本報告書の執筆・編集は山元が担当した。
6. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
 - (1) 挿図の縮尺は掲載の図面内にスケールで示した。
 - (2) 方位は、国土座標第Ⅳ座標系の北を示す。
 - (3) 水平基準線の数値は、海拔高を示している。
7. 本書に用いている遺構記号は次のとおりである。

S A	柵列	S B	掘立柱建物	S D	溝状遺構
S K	土坑	S P	柱穴	S R	自然河川
S X	性格不明遺構				
8. 挿図の一部は、建設省国土地理院地形図 志度（1/25,000）及び鹿庭（1/25,000）を使用した。

本文目次

(八丁地遺跡)

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査の経過	3

第2章 立地と環境

第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5

第3章 調査の成果

第1節 調査成果の概要	9
第2節 土層序	17
第3節 遺構・遺物	
(1) 縄文時代晩期	23
(2) 弥生時代後期～古墳時代初頭	24
(3) 古代	47
(4) 鎌倉・室町時代	48
(5) 現代	74

第4章 まとめ	77
---------------	----

(本村・横内遺跡)

第5章 調査の経緯

第1節 調査に至る経過	103
第2節 調査の経過	103

第6章 立地と環境

第1節 地理的環境	107
第2節 歴史的環境	107

第7章 調査の成果

第1節 調査成果の概要	113
第2節 土層序	113
第3節 遺構・遺物	
(1) 奈良・平安時代	116
(2) 鎌倉・室町時代	138
(3) 近世	144

第8章 まとめ	146
---------------	-----

挿 図 目 次

(八丁地遺跡)

第1図 遺跡位置図(1) …………… 1	第31図 VI区弥生土器包含層
第2図 遺跡位置図(2) (1/10,000) …………… 2	出土遺物(2) (1/4・1/2) …… 46
第3図 周辺遺跡図(1/50,000) …………… 7	第32図 S D106断面図(1/40),
第4図 調査区割図(1/2,000) …………… 9	出土遺物(1/4) …………… 47
第5図 I区遺構配置図(1/200) …………… 10	第33図 III区ピット平・断面図(1/10),
第6図 II・III区遺構配置図(1/200) …… 11~12	出土遺物(1/4) …………… 48
第7図 IV区遺構配置図(1/200) …………… 13~14	第34図 S P107・108平・断面図(1/10),
第8図 V~VII区遺構配置図(1/200) …… 15~16	出土遺物(1/4) …………… 49
第9図 I・II・III区土層図	第35図 S K102平・断面図(1/10),
(左右1/400・天地1/40) …………… 18	出土遺物(1/4) …………… 50
第10図 III・IV区土層図	第36図 S D108平・断面図(1/10) …………… 52
(左右1/400・天地1/40) …………… 20	第37図 S D108断面図(1/20),
第11図 V・VI区土層図	出土遺物(1/4) …………… 52
(左右1/400・天地1/40) …………… 21~22	第38図 S D109断面図(1/20),
第12図 V区縄文土器包含層出土遺物(1/4)	出土遺物(1/4) …………… 52
…………… 23	第39図 S D110断面図(1/20) …………… 52
第13図 VII区縄文土器包含層出土遺物(1/4)	第40図 S D111断面図(1/20),
…………… 24	出土遺物(1/4) …………… 52
第14図 S D101土器出土状況(北部・中部)	第41図 S D112断面図(1/20) …………… 52
(1/4) 1/40 …………… 25	第42図 S D113断面図(1/20),
第15図 S D101土器出土状況	出土遺物(1/4) …………… 52
(南部), 断面図(1/40) …………… 26	第43図 S D114断面図(1/20) …………… 54
第16図 S D101出土遺物(1) (1/4) …………… 27	第44図 S D115平・断面図(1/10),
第17図 S D101出土遺物(2) (1/4) …………… 28	断面図(1/20), 出土遺物(1/4) …… 54
第18図 S D101出土遺物(3) (1/4) …………… 29	第45図 S D116出土遺物(1/2) …………… 54
第19図 S D102土器出土状況,	第46図 S D117断面図(1/20) …………… 54
断面図(1/40) …………… 31	第47図 S D118断面図(1/20),
第20図 S D102出土遺物(1) (1/4) …………… 32	出土遺物(1/4) …………… 54
第21図 S D102出土遺物(2) (1/4) …………… 33	第48図 S D119断面図(1/20),
第22図 S D103土器出土状況,	出土遺物(1/4) …………… 54
断面図(1/40) …………… 35	第49図 S D120土器出土状況(1/10),
第23図 S D102~105出土遺物(1/4) …………… 36	断面図(1/20), 出土遺物(1/4) …… 56
第24図 S D104・105土器出土状況,	第50図 S X101断面図(1/20),
断面図(1/40) …………… 37~38	出土遺物(1/4・1/2) …………… 57
第25図 II・III区弥生土器	第51図 S X102断面図(1/20),
包含層出土遺物(1/4) …………… 39	出土遺物(1/4) …………… 57
第26図 S K101土器出土状況,	第52図 S D121断面図(1/40),
断面図(1/20) …………… 40	出土遺物(1/4) …………… 59
第27図 S K101出土遺物(1/4) …………… 41	第53図 S D122出土遺物(1/4) …………… 59
第28図 S R101断面図(1/40),	第54図 II区包含層出土遺物(1/4) …………… 59
出土遺物(1/4) …………… 43	第55図 II区包含層トレンチ断面図(1/40) …… 60
第29図 VI区弥生土器包含層	第56図 S R102断面図(1) (1/40) …………… 62
土器集中部平・断面図(1/40) …… 44	第57図 IV区ピット・自然河川出土遺物(1)
第30図 VI区弥生土器包含層	(1/4) …………… 63
出土遺物(1) (1/4) …………… 45	第58図 S R102・103・107断面図(1) (1/40)

.....	65	第86図	S B 104~106出土遺物(1/4).....	120	
第59図	S R 102断面図(2)(1/40).....	65	第87図	S X 101出土遺物(1)(1/4).....	122
第60図	IV区自然河川出土遺物(2)(1/4).....	66	第88図	S X 101平・断面図(1/20) ..	123~124
第61図	IV区自然河川出土遺物(3)(1/4・1/2)	67	第89図	S X 101出土遺物(2)(1/4).....	125
.....	67	第90図	S X 101出土遺物(3)(1/4).....	126	
第62図	S R 102・103・107断面図(2)(1/40)	68	第91図	S X 101出土遺物(4)(1/4).....	127
.....	68	第92図	S X 102断面図(1/40),		
第63図	IV区自然河川出土遺物(4)(1/4・1/2)	69	出土遺物(1/4).....	129	
.....	69	第93図	S K 101平・断面図(1/20),		
第64図	S R 104断面図(1/40)	71	出土遺物(1/4).....	130	
第65図	S R 105断面図(1/40)	71	第94図	S D 101平・断面図(1/20).....	131
第66図	S R 106断面図(1/40)	71	第95図	S D 101出土遺物(1/4)	132
第67図	IV区自然河川出土遺物(5)(1/4・1/2)	72	第96図	IV区包含層出土遺物(1)(1/4・1/2)	
.....	72	133	
第68図	III区中世包含層出土遺物(1/4・1/2)	73	第97図	IV区包含層出土遺物(2)(1/4)	134
.....	73	第98図	IV区包含層出土遺物(3)(1/4・1/2)		
第69図	S E 101平・断面図(1)(1/40).....	75	134	
第70図	S E 101平・断面図(2)(1/40),	76	第99図	I区包含層出土遺物(1)(1/4・1/2)	
井戸枿(1/8)	76	136	
第71図	遺構変遷図(1)(1/500).....	79~80	第100図	I区包含層出土遺物(2)(1/4・1/2)	
第72図	遺構変遷図(2)(1/500).....	81~82	137	
第73図	遺構変遷図(3)(1/500).....	83~84	第101図	I区包含層出土遺物(3)(1/4)	138
(本村・横内遺跡)			第102図	S B 107平・断面図(1/80).....	139
第74図	遺跡位置図(1).....	103	第103図	S P 101・102・103平・断面図(1/20),	
第75図	遺跡位置図(2)(1/10,000).....	104	II区ピット出土遺物(1/4).....	140	
第76図	周辺遺跡図(1/50,000)	108	第104図	S B 108平・断面図(1/80).....	141
第77図	遺構配置図(1/200)	111~112	第105図	S A 101平・断面図(1/80).....	141
第78図	調査区割図(1/2,000)	111~112	第106図	S D 102~106断面図(1/40),	
第79図	I区・II区土層図		S D 102出土遺物(1/4)	142	
(左右1/400・天地1/40)	114	第107図	S D 107~109断面図(1/40),		
第80図	III区・IV区土層図		出土遺物(1/4).....	143	
(左右1/400・天地1/40)	115	第108図	S B 109平・断面図(1/80).....	144	
第81図	S B 101・102・103平・断面図(1/80)	117~118	第109図	S B 110平・断面図(1/80).....	145
.....	117~118	第110図	III区その他出土遺物(1/4).....	145	
第82図	S P 100出土遺物(1/4).....	117~118	第111図	II区その他出土遺物(1/4).....	145
第83図	S B 104平・断面図(1/80).....	119	第112図	S X 101出土土器法量分布(1)	149
第84図	S B 105平・断面図(1/80).....	119	第113図	S X 101出土土器法量分布(2)	149
第85図	S B 106平・断面図(1/80).....	120			

表 目 次

第 1 表	八丁地遺跡土器觀察表……………	85	第 4 表	本村・横内遺跡土器觀察表 ……	152
第 2 表	八丁地遺跡石器觀察表 ……	102	第 5 表	本村・横内遺跡石器觀察表 ……	162
第 3 表	S X 101出土土器組成表……………	150			

卷 頭 図 版 目 次

卷頭図版 1 (1)	八丁地遺跡 S D 101出土土器	卷頭図版 2 (1)	本村・横内遺跡 S X 101出土土器 (土師器)
(2)	八丁地遺跡 S K 101出土土器	(2)	本村・横内遺跡 S X 101出土土器 (須恵器)

図版目次

- (八丁地遺跡)
- 図版1 (1) II区(南半)全景(下が北)
(2) III区(北半)全景(左が北)
- 図版2 (1) IV区(北半)全景(下が北)
(2) VI区全景(下が北)
- 図版3 (1) I区全景(東から)
(2) II区(南半)全景(西から)
- 図版4 (1) II区(南半)全景(東から)
(2) II区(北半)全景(西から)
- 図版5 (1) III区(北半)全景(西から)
(2) III区(北半)全景(東から)
- 図版6 (1) III区(北半)全景(東から)
(2) III区(南半)全景(西から)
- 図版7 (1) IV区(北半)全景(東から)
(2) IV区(南半)全景(西から)
- 図版8 (1) VII区全景(西から)
(2) V区全景(西から)
- 図版9 (1) VI区全景(西から)
(2) VI区全景(西から)
- 図版10 (1) V区縄文土器包含層土器出土状況(西から)
(2) S D101土器出土状況(南部)(北東から)
- 図版11 (1) S D101土器出土状況(南西部)(北東から)
(2) S D101土器出土状況(南部)(東から)
- 図版12 (1) S D101土器出土状況(南部)(西から)
(2) S D101土器出土状況(中部)(南東から)
- 図版13 (1) S D101土器出土状況(北部)(北から)
(2) S D102土器出土状況(南端部)(西から)
- 図版14 (1) S D102土器出土状況(南端部)(北から)
(2) S D102・S D103・S D104
(II区合流部付近)土器集中部(西から)
- 図版15 (1) S D102・S D103・S D104(II区合流部
付近)土器集中部(北から)
(2) S D102・S D103・S D104(II区合流部
付近)土器集中部(東から)
- 図版16 (1) S D102(東部)土器集中部(西端)(北から)
(2) S D102(東部)土器集中部(西から2)(北から)
- 図版17 (1) S D102(東部)土器集中部(東から2)(北から)
(2) S D102(東部)土器集中部(東端)(東から)
- 図版18 (1) S D102(東部)土器集中部全景(東から)
(2) S D102(東部)土器集中部全景(西から)
- 図版19 (1) S D103・S D105土器出土状況(北東から)
(2) S D103・S D105土器出土状況(北から)
- 図版20 (1) S K101土層(南から)
(2) S K101土器出土状況(上位)(南から)
- 図版21 (1) S K101土器出土状況(中位)(南から)
(2) S K101土器出土状況(下位)(南から)
- 図版22 (1) S R101土層(南から)
(2) VI区西部包含層土器集中部(東から)
- 図版23 (1) S D106土器出土状況
(2) S P102土器出土状況(東から)
- 図版24 (1) S P104土器出土状況(北東から)
(2) S P107土器出土状況(東から)
- 図版25 (1) S P108土器出土状況(南東から)
(2) S K102土層(南から)
- 図版26 (1) S D115土器出土状況(西から)
(2) S D121土層(南から)
- 図版27 (1) II区南壁(S D121部分)
(2) S R106土層(北から)
- 図版28 (1) S R102土器出土状況(南から)
(2) S R104土器出土状況(北から)
- 図版29 (1) S E101(上部)(東から)
(2) S E101(土師質土器井戸粹除去後)
(西から)
- 図版30 (1) S E101(蓋除去後)(東から)
(2) S E101(完掘)(北から)
- 図版31 (1) V区縄文土器包含層出土遺物
(2) VII区縄文土器包含層出土遺物
- 図版32 S D101出土遺物①
- 図版33 S D101出土遺物②
- 図版34 (1) S D101出土遺物③
(2) S D102出土遺物①
- 図版35 (1) S D102出土遺物②
(2) S D103・S D105出土遺物
- 図版36 (1) II区・III区弥生土器包含層出土遺物
(2) S K101出土遺物
- 図版37 (1) S R101出土遺物
(2) VI区弥生土器包含層出土遺物①
- 図版38 (1) VI区弥生土器包含層出土遺物②
(2) S D106出土遺物
(3) III区ピット出土遺物
(4) S K102出土遺物
- 図版39 (1) S D108出土遺物
(2) S D113出土遺物
(3) S D120出土遺物
(4) S X101出土遺物
(5) S X102出土遺物
(6) II区包含層出土遺物
(7) IV区ピット・自然河川出土遺物①
- 図版40 IV区自然河川出土遺物②
- 図版41 IV区自然河川出土遺物③

- 図版42 IV区自然河川出土遺物④
図版43 IV区自然河川出土遺物⑤
図版44 III区中世包含層出土遺物
図版45 S E 101出土遺物
図版46 出土石器①
図版47 出土石器②・出土銭貨
(本村・横内遺跡)
図版48 (1)調査区全景(北から)
(2)II区全景(南から)
図版49 (1)I区東壁土層(北端付近)(西から)
(2)IV区東壁土層(北端付近)(西から)
図版50 (1)IV区包含層上遺構全景(北から)
(2)IV区包含層上遺構全景(南から)
図版51 (1)S B 101・S B 102柱穴土層(西から)
(2)S B 101・S B 102柱穴土層(北から)
図版52 (1)S B 103柱穴土層(南から)
(2)IV区東壁土層(S B 104柱穴)
(北から16.4m付近)(西から)
図版53 (1)IV区東壁土層(S B 104柱穴)
(北から18.2m付近)(西から)
(2)IV区東壁土層(S B 105柱穴)
(北から26.8m付近)(西から)
図版54 (1)S B 104柱穴土層(西から)
(2)S B 105柱穴土層(東から)
図版55 (1)S X 101土器出土状況(東から)
(2)S X 101土器出土状況(東から)
図版56 (1)S X 101土器出土状況(北から)
(2)S K 101土層(南から)
図版57 (1)S K 101土器出土状況(南から)
(2)S D 101土器出土状況(南から)
図版58 (1)S B 107全景(北から)
(2)S B 107—S P 103土器出土状況(西から)
図版59 (1)S B 107—S P 102柱穴土層(南から)
(2)S B 107—S P 102土器出土状況(東から)
図版60 (1)S B 107—S P 101土器出土状況(南から)
(2)S D 107土層(北から)
図版61 (1)S D 109土層(西から)
(2)S D 108土層(北から)
図版62 (1)I区全景(北から)
(2)作業風景
図版63 (1)S P 100出土遺物
(2)S X 101出土遺物①
図版64 S X 101出土遺物②
図版65 S X 101出土遺物③
図版66 S X 101出土遺物④
図版67 S X 101出土遺物⑤
図版68 (1)S K 101出土遺物
(2)S D 101出土遺物
(3)IV区包含層出土遺物①
図版69 IV区包含層出土遺物②
図版70 I区包含層出土遺物①
図版71 (1)I区包含層出土遺物②
(2)S P 101～S P 103出土遺物
(3)S D 109出土遺物
(4)III区その他出土遺物
(5)II区その他出土遺物

第1章 調査の経緯

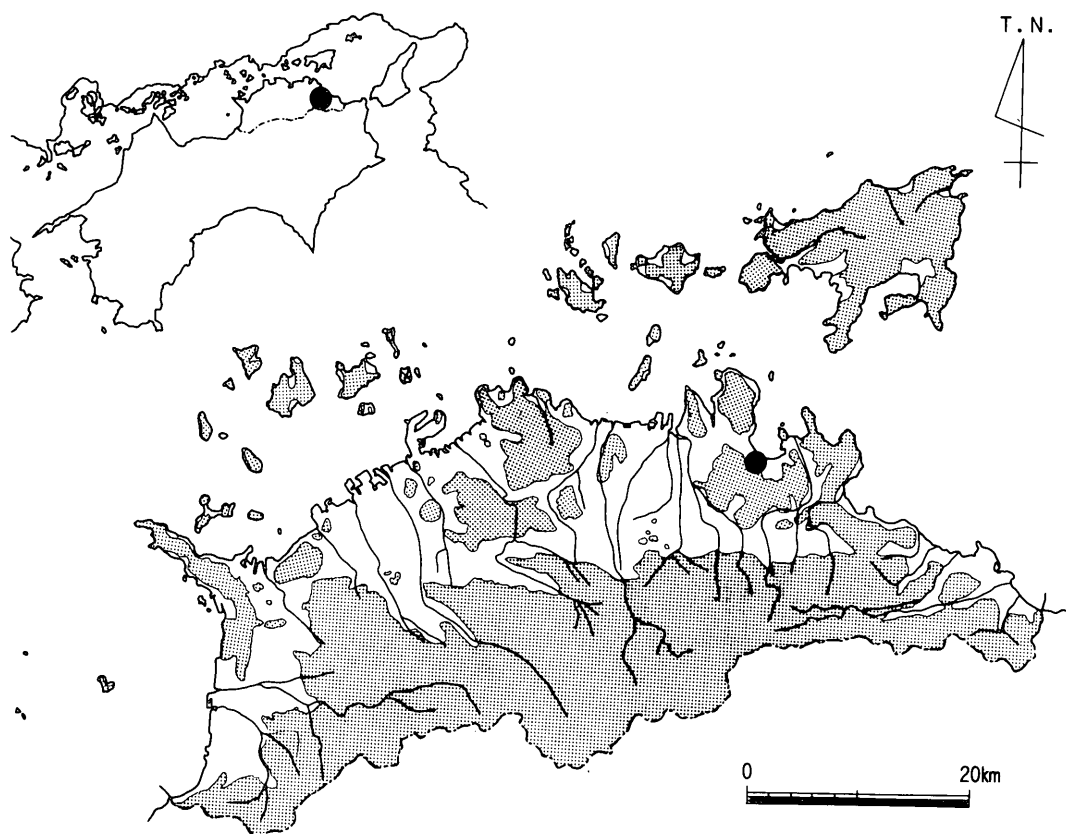
第1節 調査に至る経過

近年、高松市と徳島県を結ぶ幹線道路は国道11号線しかなかったため、交通量の増加に従って慢性的な交通渋滞を引き起こしていた。国道11号線の交通渋滞の緩和は香川県にとって重要な課題であり、そのための1施策として県道高松志度線バイパスの建設が計画された。

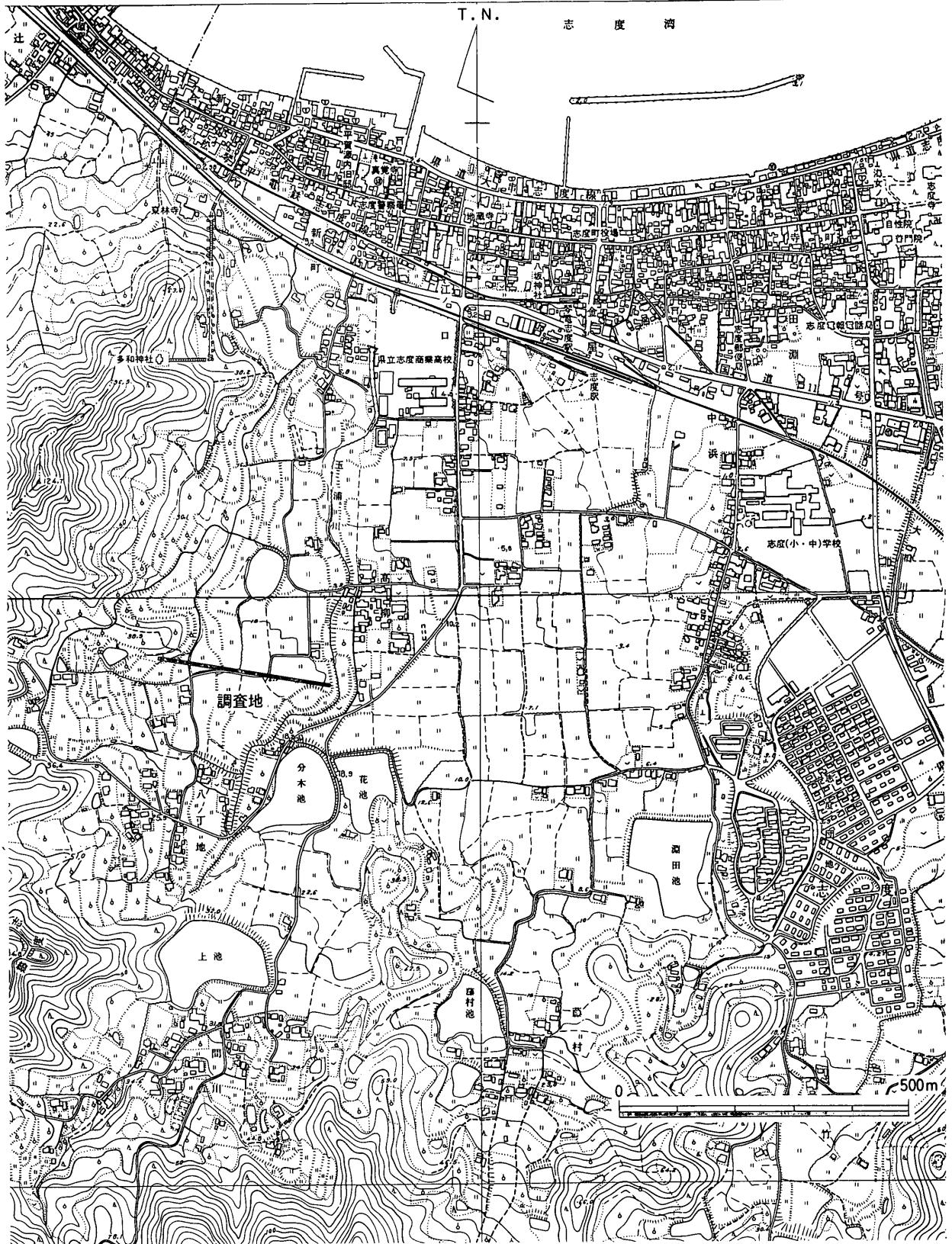
そのことを受けて、平成4年度の高松市内区間に引き続き、平成5年度には志度町区間も事業化されることとなり、県教育委員会は平成5年5月に分布調査を行い、延長200mの水田地帯については試掘調査が必要と判断された。平成5年9月に試掘調査を行ったところほぼ全域で縄文時代から中世の遺物やピット、溝などの遺構が検出され、約4800㎡について事前の保護措置が必要となった。

その結果に基づき事業課である香川県土木部道路建設課、長尾土木事務所、香川県教育委員会文化行政課が協議を行い、平成6年度に事前調査を行い、事前調査は財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託することで合意した。しかし、官民境界の水路・擁壁の構造物の540㎡については平成5年度中に工事を終了させる必要があり、小規模な調査でかつ緊急に対応する必要があったため文化行政課が調査を行った。

平成6年度の調査は財団法人香川県埋蔵文化財調査センターと香川県教育委員会との間で締結された「埋蔵文化財調査契約書」が交わされ、4,500㎡を対象として9月から調査が実施されることになった。しかし、工事を一刻も早く着手する必要が生じたため、調査を早めることになり、平成6年7月から調



第1図 遺跡位置図(1)



第2図 遺跡位置図(2) (1/10,000)

査を実施することになった。調査は工事請負方式で実施した。また、11月には調査が終了したⅠ・Ⅱ区部分について用地を長尾土木事務所側へ引き渡し、工事が着手された。平成6年度中にはⅤ区とⅥ区に挟まれた165㎡については用地の引き渡しが行われず、平成7年度に調査が行われることになった。

平成7年度は財団法人香川県埋蔵文化財調査センターと香川県教育委員会の間で締結した「埋蔵文化財調査契約書」に基づき、平成6年度調査を行えなかった165㎡を対象として7・8月の2ヶ月で直営方式で調査を行った。これをもって八丁地遺跡の調査は終了した。

第2節 調査の経過

発掘調査は平成6年度については平成6年7月～平成7年3月までに4,419㎡を工事請負方式で実施した。これに先立って文化行政課が平成5年度に実施した水路・擁壁部分の調査の際には道路のセンター杭を基準杭として使用したので、基準杭は同じものを使用した。調査区は、西の山側から東の玉浦川までを農道や水田畦畔を境にⅠ区からⅥ区に分けた。しかし、重機の通路の確保のためⅡ区～Ⅳ区については、調査区内に仮設道を作ったため、Ⅱ区～Ⅳ区については南北に分割して調査を行った。調査は平成6年8月にⅡ区南側から着手し、Ⅴ区の調査をもって終了した。平成7年2月20日には現地を撤収した。

平成7年度は平成7年7月から8月にかけて、平成6年度に調査を行えなかった場所をⅦ区として調査を実施した。狭小な調査区であったため、航空測量は行わず、手書きによる平面図を作成した。現地は8月11日をもって撤収した。

発掘調査体制は下記の通りである。

平成6年度

文化行政課

調査

総括	課長	高木 尚
	主幹	小原 克己
	課長補佐	高木 一義
総務	係長	源田 和幸
	主査	星加 宏明
	主事	高倉 秀子
埋蔵文化財	係長	藤好 史郎
	主任技師	國木 健司
	主任技師	森下 英治

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

総括	所長	松本 豊胤
	次長	真鍋 隆幸
総務	参事(土木)	別枝 義昭
	係長(事務)	土井 茂樹(～5.31)
	係長(事務)	前田 和也(6.1～)
	主査	大西 健司
調査	参事	糸目 末夫
	主任文化財専門員	渡部 明夫
	主任技師	中村 昭浩
	主任技師	山元 素子
	調査技術員	福西 由実子

平成7年度

文化行政課

調査

総括	課長	高木 尚 (～10.24)
----	----	------------------

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

総括	所長	大森 忠彦
	次長	真鍋 隆幸

	課長	藤原 章夫 (10.25～)	総務	参事(土木)	別枝 義昭
	課長補佐	高木 一義		係長(事務)	前田 和也
	副主幹	渡部 明夫		主査	大西 健司 (～5.31)
総務	係長	源田 和幸 (～5.31)		主任主事	西川 大 (6.1～)
	係長	山崎 隆 (6.1～)	調査	参事	糸目 末夫
	主査	星加 宏明		主任文化財専門員	廣瀬 常雄
	主事	高倉 秀子		係長	大山 真充
埋蔵文化財	主任技師	森下 英治		文化財専門員	蘆原 秀稔
	技師	塩崎 誠司		主任技師	蔵本 晋司
				調査技術員	門脇 範子

整理作業は平成11年4月1日より開始し、平成11年6月30日に終了した。

整理作業体制は次の通りである。

文化行政課

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

調査

総括	課長	小原 克己	総括	所長	菅原 良弘
	課長補佐	小国 史郎		次長	川原 裕章
	副主幹	廣瀬 常雄	総務	副主幹(事務)	田中 秀文
総務	係長	中村 禎伸		係長	新 一郎 (6.1～)
	主査	三宅 陽子		主査	長尾寿江子 (～5.31)
	主査	松村 崇史		主査	山本 和代 (6.1～)
埋蔵文化財	係長	西村 尋文	整理	主任文化財専門員	大山 真充
	文化財専門員	森 格也		文化財専門員	木下 晴一
	主任技師	塩崎 誠司		文化財専門員	山元 素子
				整理員	岡崎 江伊子
				整理補助員	合田 和子
					前田 好美
				整理作業員	松尾 優子
					池内 妙子
					堀口 知子
					加藤 恵子
					東川 真希子

第2章 立地と環境

第1節 地理的環境

八丁地遺跡は大川郡志度町志度に所在する。志度町は香川県北東部に位置し、瀬戸内海東部、志度湾・小田湾に面する。

志度町は面積のかなりの部分が山塊で占められ、平野部は鴨部川流域流に広がる沖積平野、末周辺や志度湾沿岸に広がる谷底平野がみられる程度である。現在の志度中心地は浜堤および後背湿地に当たる。

八丁地遺跡が立地する谷底平野は東西2km、南北1.5km程度の小規模な平野で、志度湾沿岸で、八丁地、間川、藤村に広がる、玉浦川が形成した平野である。この平野の西側と南側は立石山、雲附山山塊に囲まれ、北側は志度湾に面する。志度湾はかつては現在の海岸線よりも南側、標高3m付近まで入り込んでいたらしい。昭和初期の共同井戸の分布では、いずれも山麓斜面と麓齊面の接点にあるが、これはこれより低い場所だと塩水が入るなど水質が悪くなるためであったらしい。遺跡は南西側に広がる山塊の標高209.8mの山頂から北側へ延びる尾根の東斜面から東へ向けて、玉浦川が形成する谷底平野上、玉浦川が形成した河岸段丘面上に立地する。

調査区の表土剥ぎ前の標高はⅠ区が22.5～20.7m、Ⅱ区が19.5～18.8m、Ⅲ区が18.5～18m、Ⅳ区が17.8～16.6m、Ⅴ区が15.1～14.8m、Ⅵ区上段が14.8～14.6m、中段が13.5m、下段が11.3mであった。Ⅰ区は、丘陵斜面を葡萄畑等に開墾したために削平された斜面上にあり、Ⅳ区とⅤ区の境、Ⅵ区の上段と中段の境、中段と下段の境でそれぞれ段丘崖がみられる。

第2節 歴史的環境 (第3図)

志度町は遺跡の発掘調査があまり及んでいない地域であるが、近年になって高松東道路建設に伴う発掘調査や圃場整備に伴う発掘調査で鴨部川流域の沖積平野で鴨部・川田遺跡、鴨部南谷遺跡、また末で末窯跡群の発掘調査が行われた。

八丁地遺跡の所在する志度湾沿岸平野およびそれらを囲む山塊付近ではほとんど遺跡の様子は知られていない。発掘調査が行われた例はないが、現在まで知られているところでは中世墳墓や近世寺社を除けばおおむね山裾部分に限られるようである。

志度町内において縄文時代の遺跡は知られていない。しかし、鴨部南谷遺跡の調査で自然河川などから縄文時代後期の遺物が出土している。いずれも紛れ込みのものであるが、近在に当該期の遺跡が想定されている。八丁地遺跡からも弥生時代以降の遺構のベースを形成する土層から縄文時代晩期の土器が数点出土した他、遺構中からも紛れ込みと考えられる縄文時代後期～晩期の土器が出土しており、近辺に当該期の遺跡があった可能性は高いと思われる。

志度湾沿岸地域では弥生時代前期～中期の遺跡は知られていないが、鴨部川流域では前述の鴨部川田遺跡で環濠で囲まれた集落の調査が行われている。環濠の内側では夥しい柱穴群を検出し、環濠内からは多量の土器や木製品が出土した。

中期末では東方の丘陵部の天野遺跡がある。天野遺跡は製塩土器がまとまって出土したことで知られる。

弥生時代後期の遺跡としては八丁地遺跡から尾根を越えて西側の、牟礼町に所在する原遺跡、原中村

遺跡がある。原遺跡は弥生時代後期の土器の完形品が多量に出土したことで有名で、後期後半頃の標識遺跡として著名であるが、実態は不明瞭な点が多かった。しかし、近年県道高松志度線改良工事に伴う発掘調査、県立医療短大建設に伴う発掘調査などで、この隣接地区の発掘調査が進み、同じく弥生時代後期後半の土器を多量に含む自然河川や弥生時代後期～古墳時代前期の集落が検出された。

また、実態は不明であるものの、八丁地遺跡から南側の山裾部の間川地区では弥生土器の出土も伝えられており、八丁地遺跡との関連が注目される。

鴨部川流域では鴨部南谷遺跡で弥生時代後期後半から古墳時代前期の集落を検出している。

高松平野と津田湾沿岸の大規模な古墳群が築造される地域に挟まれて、この地域では大規模な古墳群は築造されることはなかった。志度湾沿岸では八丁地遺跡の西側の丘陵裾部に越窓古墳（消滅）、多和神社古墳、南側の丘陵裾部に茶臼山古墳（消滅）が所在していたが、築造時期や内容などはいずれも不明である。

鴨部地区では、平野の東側の山地に田中古墳群・日浦古墳群が、北側では成山古墳群が、西側の山地には五所古墳群・六番古墳群・西山古墳群・坂子古墳群・坂子若宮古墳群が造営されている。これらは詳細は不明であるが、いずれも横穴式石室を持たないので古墳時代前期のものである可能性が高いと考えられる。しかし、現状では前方後円墳と考えられるのは全長30mの坂子1号墳のみでその他は円墳である可能性が高い。

大串半島の東部突端に長蛇ヶ谷遺跡がある。ここからは多量の製塩土器が出土しており、一部の調査によって古墳時代の製塩遺跡であることが確認されている。志度町は中世においても塩作りが行われたことが文献資料にもみえ、近世においても盛んに行われている。八丁地遺跡や天野遺跡でも製塩土器が多く出土しており興味深い。

古代の行政区では志度町志度地区は寒川郡造田郷にあたる。現在の寒川町では南海道が通り、古代寺院なども造営され、集落も知られているのに対して、志度町の特に沿岸部では古代の遺跡は現在のところ知られておらず、やや発展の遅れた地域であったと考えられる。しかし、八丁地遺跡において鎌倉時代の自然河川から7世紀代の土師器・須恵器がかなり混ざって出土しており、近辺に集落があったと考えられ、原中村遺跡（平成6年度県教育委員会調査）の調査では奈良時代の掘立柱建物が検出された。

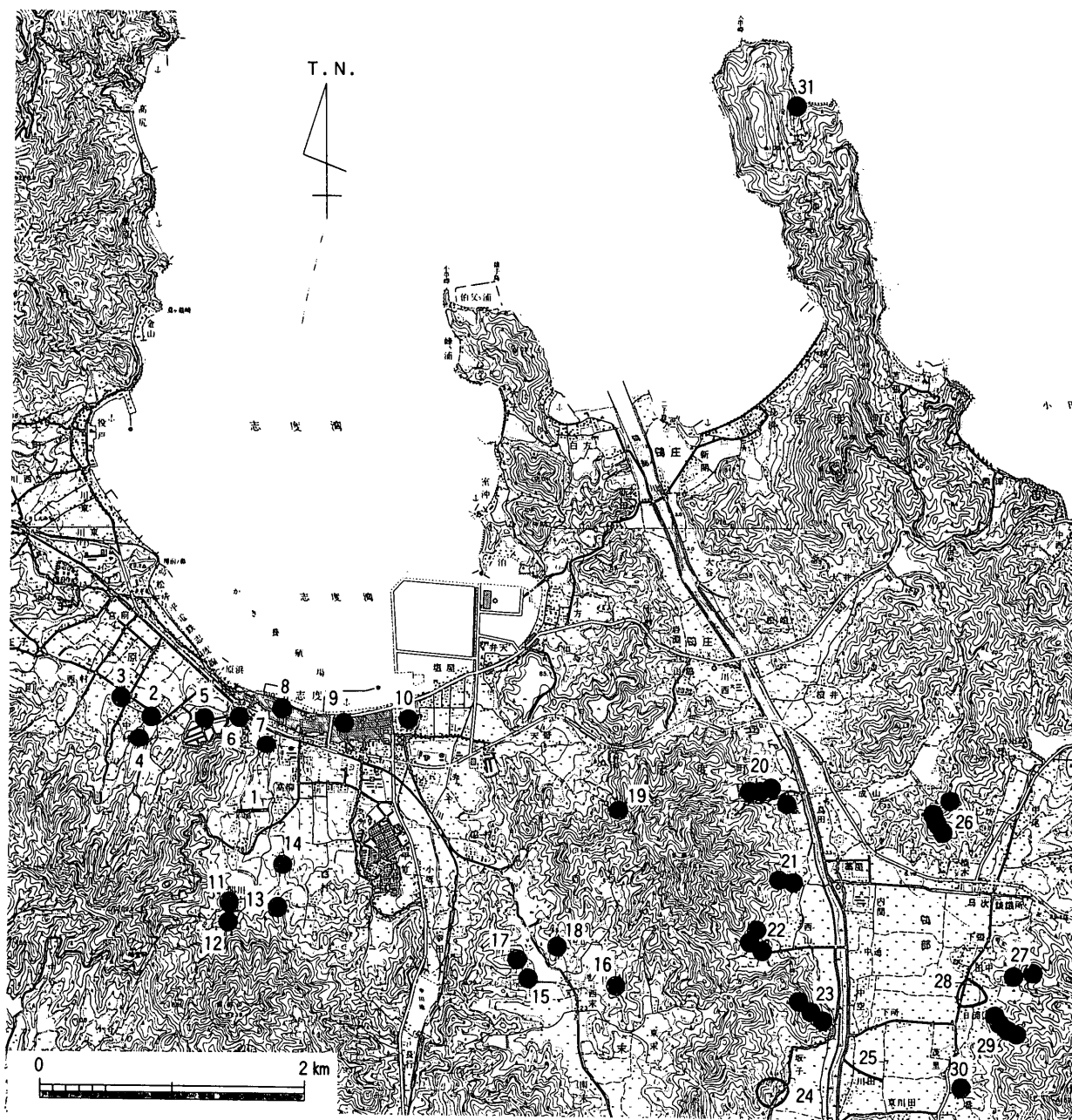
生産遺跡としては、末で前述のように7世紀前半の志度末3号窯が調査されている。

中世以降の遺跡についてもほとんど知られていないが、この頃になると文献資料などに志度の地名が散見されるようになる。

平安時代末期から鎌倉時代にはこの地域は寒川郡志度荘の地域に比定される。志度庄は治承5（1181）年、『玉葉』に記載があるのが初見である。志度庄は後白河皇后建春門院慈子の御願寺である最勝光院領として寄進され領家職として、天台座主慈円が、その没後は跡を継いだ青蓮院門跡が経営に当たった。のちに後醍醐天皇によって東寺へ寄進される際に東寺領になっている。なお、延暦寺への年貢の中に塩十石がみえ、塩の産地であったことがみてとれる。

四国88カ所霊場で知られる志度寺が創建されたのは9世紀代と考えられている。讃岐国は空海がその出身地であることから真言宗がよく発展したが、志度寺においても鎌倉期までは真言宗の道場として知られ、『梁塵秘抄』にも四方の霊験所の一つに志度の道場があげられているほど遠く都にもよく知られたものであった。

室町時代にはいると細川氏の領国の一部となった。当時志度町域は国人寒川氏の所領であり、寒川氏



- | | | | |
|----------------------|----------------|-----------|-------------|
| 1. 八丁地遺跡 | 8. 岡の松遺跡 | 16. 末1号窯跡 | 24. 坂子若宮古墳群 |
| 2. 原中村遺跡 | 9. 志度城館跡 | 17. 末2号窯跡 | 25. 鴨部・川田遺跡 |
| 3. 原中村遺跡
(現路拡幅部分) | 10. 志度寺 | 18. 末3号窯跡 | 26. 成山古墳群 |
| 4. 原遺跡 | 11. 間川遺跡 A | 19. 天野遺跡 | 27. 田中古墳群 |
| 5. 丸山古墳 (消滅) | 12. 間川遺跡 B | 20. 五所古墳群 | 28. 鴨部南谷遺跡 |
| 6. 多和神社 | 13. 間川遺跡 C | 21. 六番古墳群 | 29. 日浦古墳群 |
| 7. 越窓古墳 (消滅) | 14. 茶臼山古墳 (消滅) | 22. 西山古墳群 | 30. 二番遺跡 |
| | 15. 西末古墳 | 23. 坂子古墳群 | 31. 長蛇ヶ谷遺跡 |

第3図 周辺遺跡図 (1/50,000)

は守護代安富氏を通じて細川氏の支配を受けた。しかし、応仁の乱以降守護は弱体化し、志度も戦乱の世に巻き込まれることになる。

瀬戸内海の水運利用において古代には山陽道ルートが利用されたのに対して、中世にはいると商品経済が発達し、内海航路が整備されて北四国沿岸ルートも多く利用されるようになり、松山津・宇多津・塩飽といった湊町が発展した。室町期にはいると物資を集積する港がさらに多く各地に発達した。志度もこのような湊町としても発展を遂げ、文安2～3年(1445)『兵庫北関入船納帳』の記録に湊町としての志度の記載が見える。

志度寺は前述のように鎌倉期までは真言宗の道場として知られていたが、室町期には細川氏の手厚い保護を受けて発展を遂げた。正中年中からは修造の大勧進が行われ、貞治6年(1367)堂舎修復が完成するなど本堂・諸堂をはじめ書院や庭園の築造まで援助が及んだ。

志度は志度寺の門前町としても発展した。志度寺の境内ではしばしば市が立ち賑わいを見せた。文明5年(1473)には細川政国禁制のなかで院内での伯樂市を停止している。

江戸時代には高松藩志度村として生駒氏、松平氏の支配を受けた。この時期には製塩業・砂糖生産・鋳物生産など様々な産業が発達した。また平賀源内の出身地としても有名である。

参考文献 寺戸恒夫「志度町の自然環境」『大学と地域』徳島文理大学 1995

『新編 志度町史』 1986

『香川県史』2中世 1989

「鴨部南谷遺跡発掘調査概報」 志度町教育委員会 1990.3

「原中村遺跡」『県道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査集』

香川県教育委員会 1997.3

第3章 調査の成果

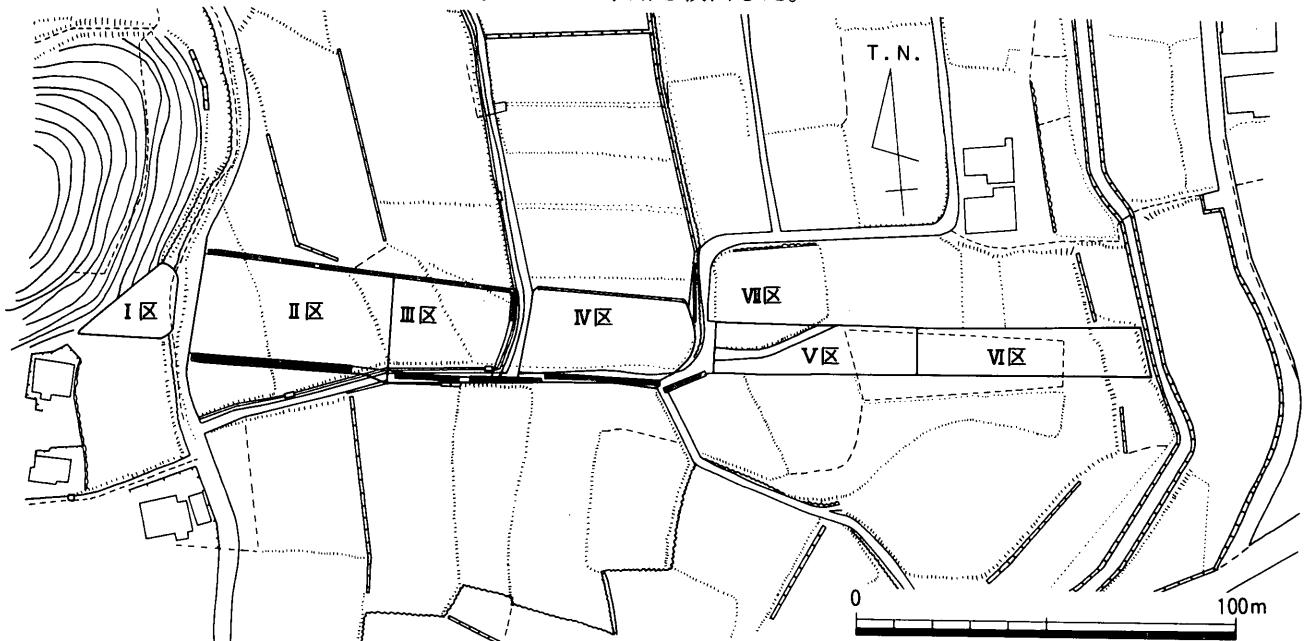
第1節 調査成果の概要 (第4図)

調査地は丘陵斜面部から玉浦川の河岸段丘上を横断する形で立地する。調査区は西側から順にⅠ区からⅥ区まで設定し、平成7年度に送った調査地はⅦ区とした。Ⅰ区が丘陵斜面、Ⅱ・Ⅲ区が3段目の段丘面、Ⅳ区・Ⅶ区・Ⅴ区・Ⅵ区西半が2段目の段丘面、Ⅵ区東半が1段目の段丘面に相当する。

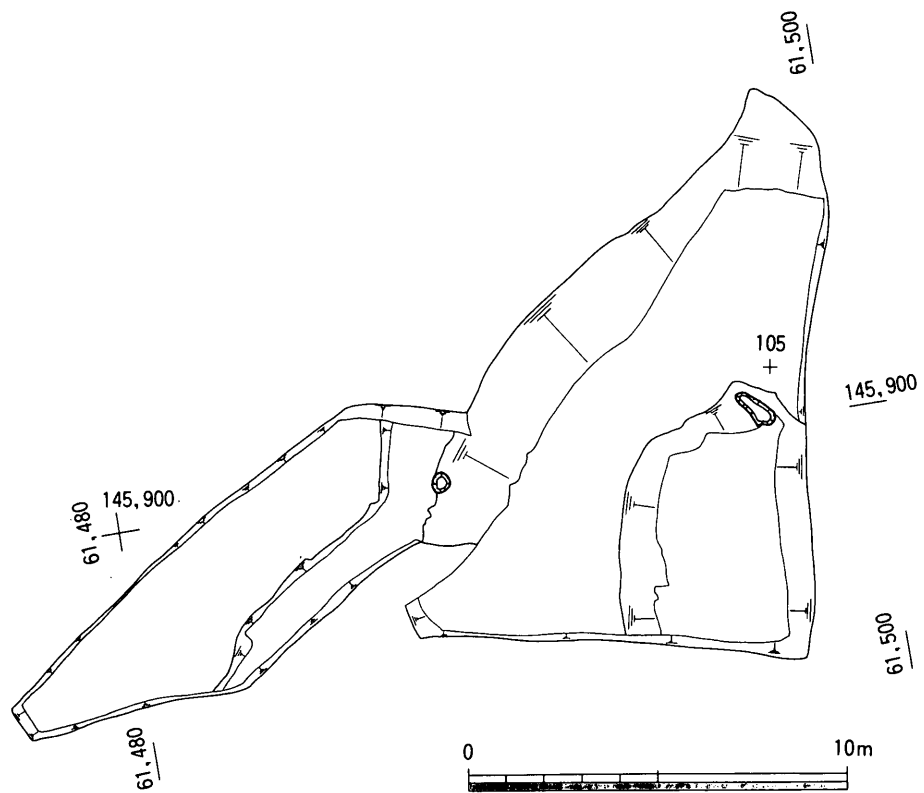
遺構の時期はおおむね縄文時代晩期、弥生時代後期～古墳時代初頭、中世に分けられる。縄文時代晩期については遺構は検出されなかったが、Ⅴ区・Ⅶ区において、弥生時代後期の遺構のベースを形成する砂層中より縄文時代晩期の土器がまとまって出土した。他の調査区からも後出する時代の遺構から当該期の遺物が混入しており、川の上流側あるいは近辺に当該期の集落があった可能性が高いだろう。

弥生時代後期から古墳時代初頭の遺構はⅡ区からⅢ区西半を中心としながらもⅡ区からⅥ区西半までの広い範囲で検出した。遺構を検出した場所はⅡ区の西端の山際部分、Ⅱ区とⅢ区の境の溝が入れ乱れている部分、Ⅴ区東半からⅥ区西半にかけての浅い落ち部分に分かれる。Ⅲ区の古墳時代初頭の土坑を除けば溝・自然河川で、Ⅶ区は自然河川の他は、いずれも遺物量は多いが遺構のラインは不明瞭で、浅い筋状の土器溜まり状の遺構であった。竪穴住居などの居住遺構は検出されなかったが、おそらく近辺に当該期の集落が展開していたのであろう。

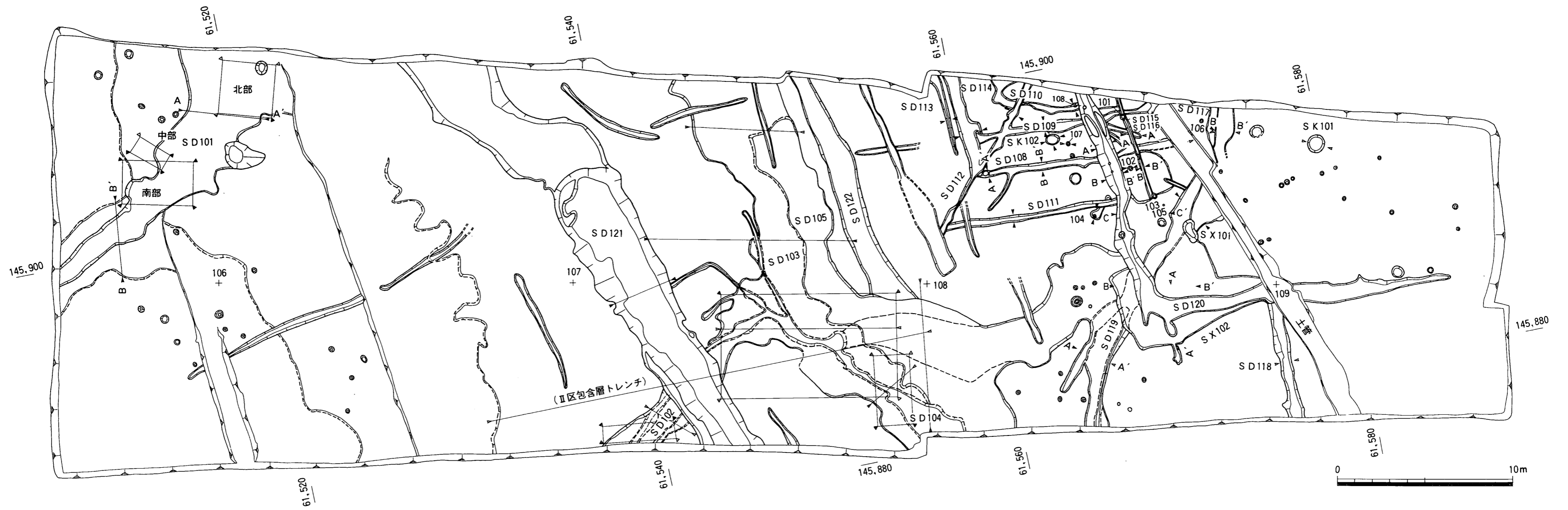
中世の遺構は主に13世紀代の小規模な溝群とそれに付随すると考えられるピット、および自然河川を検出している。小規模な溝群・ピットはⅢ区西半で集中して検出した。溝は調査区の長辺にほぼ平行するかまたは斜行する小規模なもので、溝が直交しないのは地形に制約されたためと思われる。溝付近では土師器杯や小皿の完形品または一部欠損したものを意図的に埋納したと考えられるピットを検出した。何らかの祭祀に使用された可能性があるだろう。東側のⅣ区では自然河川を検出し、弥生時代後半や7世紀代の土器とともに13世紀代の土師器や瓦器があまり磨滅が進んでない状態で多数出土した。Ⅱ区の中央付近では15世紀代の水田境と考えられる水路を検出した。



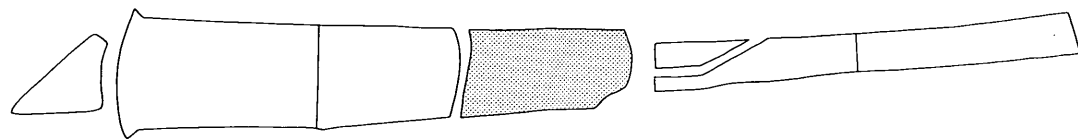
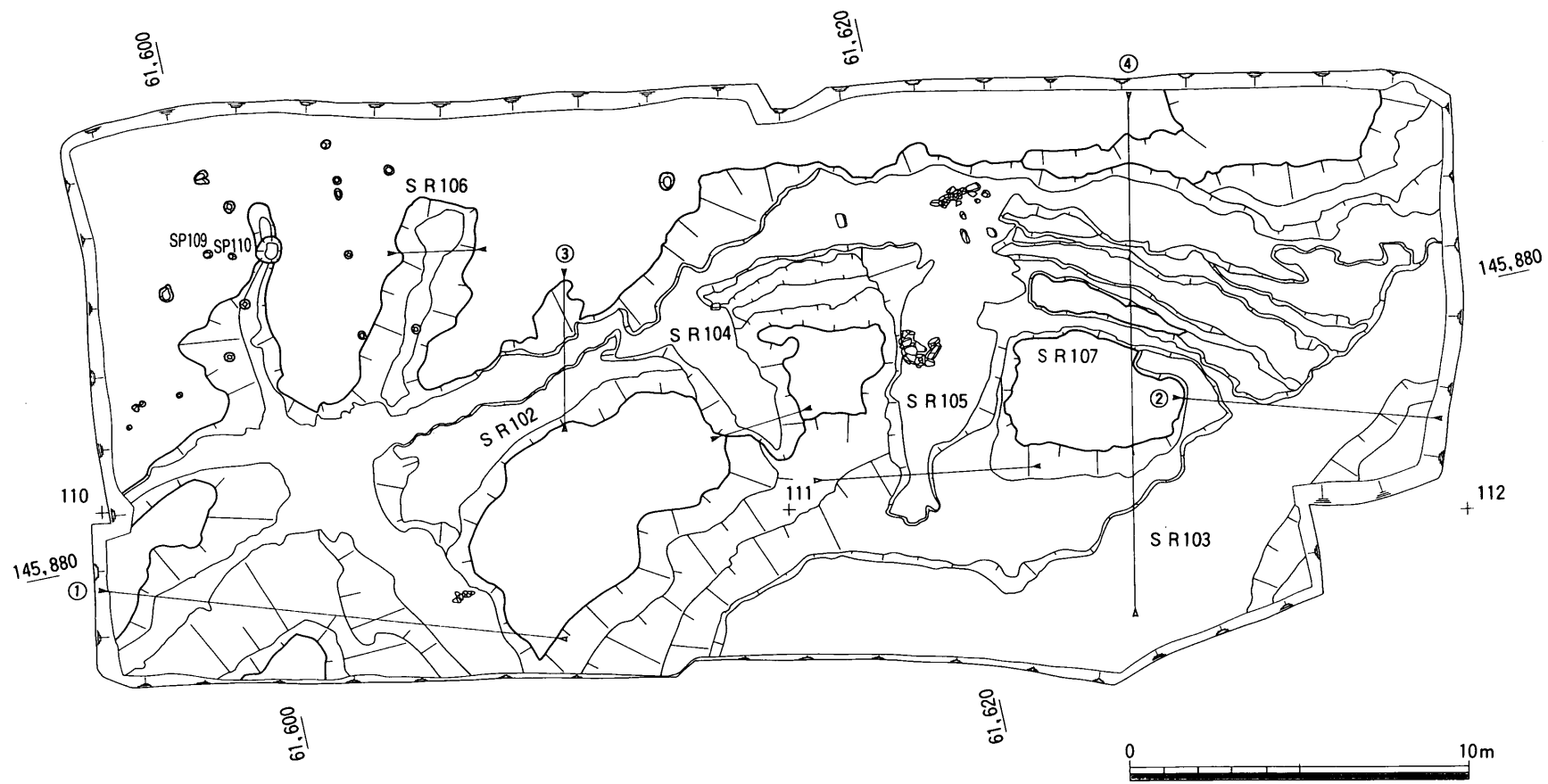
第4図 調査区割図 (1/2,000)



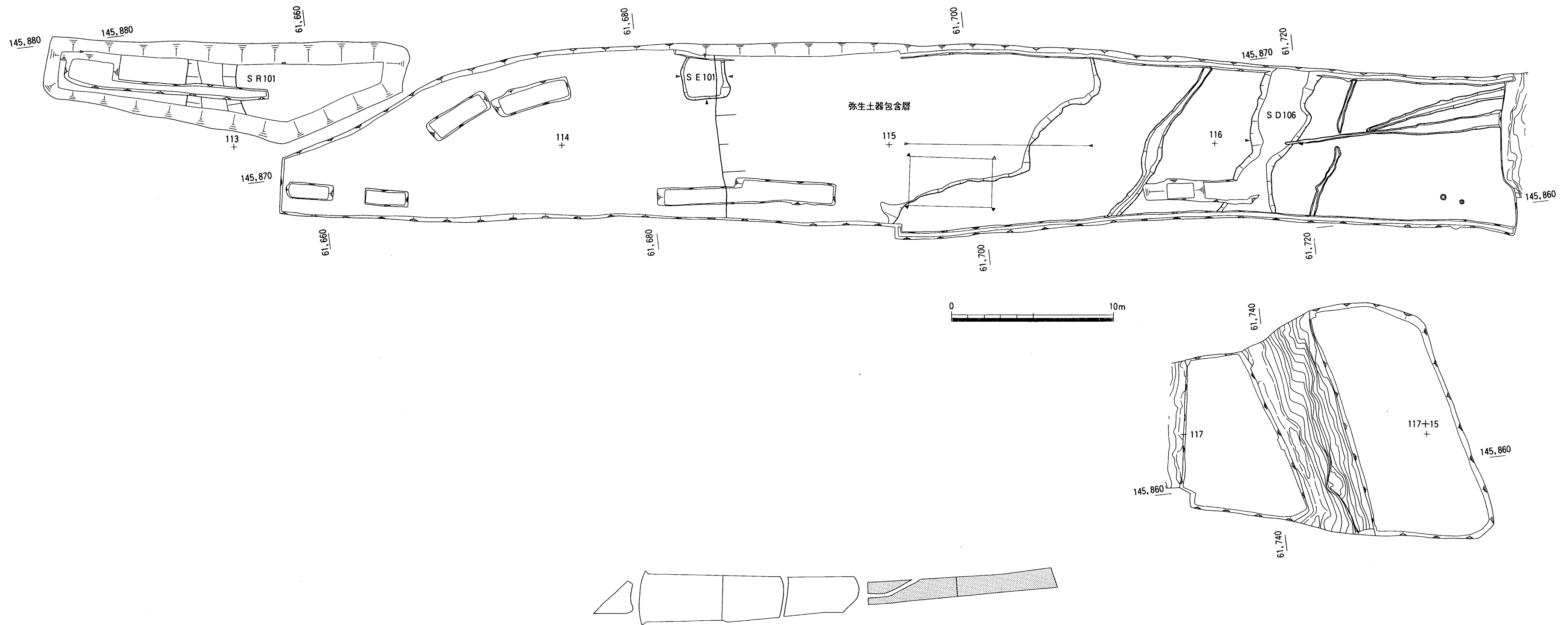
第5図 I区遺構配置図(1/200)



第6図 II・III区遺構配置図(1/200)



第7图 IV区遺構配置図(1/200)



第8図 V~Ⅵ区遺構配置図 (1/200)

第2節 土層序 (第9～11図)

丘陵斜面から玉浦川西岸まで東西に延びる調査区は標高差約12mである。それを大きく分けるとⅠ区－丘陵斜面，Ⅱ～Ⅳ区－玉浦川段丘1面，Ⅶ・Ⅴ・Ⅵ区西半部－段丘2面，Ⅵ区東半部－段丘3面となる。

・Ⅰ区

Ⅰ区は丘陵斜面で、南側の小規模な谷筋との境付近になる。2段に削平して葡萄畑に造成している。上段は耕作土直下は黄褐色砂混粘質土のベースである。下段については耕作土の下部に厚さ60cm程度の近世以降の造成土と考えられる明黄褐色土や明褐色土の堆積がみられ、その下部に茶褐色砂混粘質土のベースがみられた。Ⅰ区では所属時期不明のピットが1基と土器細片がわずかに出土しただけで、生活痕跡は認められなかった。

・Ⅱ～Ⅳ区

Ⅱ区からⅣ区は遺構・遺物とも最も多くみられた地区である。特にⅡ・Ⅲ区は弥生時代後期～古墳時代初頭と13世紀代の遺構群を検出した。Ⅱ区・Ⅲ区はⅠ区の丘陵から下った傾斜変換点であり、緩傾斜地に当たる。東側の地区に比べてやや傾斜が急で、東西の延長約80mのなかで、標高差は1.6m、5枚の水田を造成している。この間では層序はおおむね耕作土・床土－近世遺物包含層（明灰色砂質土層）－中世遺物包含層（灰褐色砂質土層）－弥生土器包含層（暗灰色粘質土層）－黄色・緑色・青色の粘土・粘質土・砂質土層（ベース）であるが、緩傾斜地を削平・造成して水田化しており、場所によって層が厚くなったり、薄くなったり、欠落していたりする。

Ⅱ区は西側の水田面では傾斜地を削平して平地にしており、耕作土・床土直下でベースがみられるが、東へ下がり、水田境東端付近では、削平を免れた弥生時代遺物包含層（暗灰色砂混粘土層）が出現し、厚さ約10cm堆積する。この層は東側の水田へ1段降りたら一度消滅するが、東へ下るに従って再び出現し、最終的にはⅢ区西南部で消滅する。この層はⅡ区東南部からⅢ区西南部にかけてはおおむね弥生時代後期溝群の上面を覆うように全体に10cm程度堆積する。

Ⅱ区東部中央から中世遺物包含層（灰褐色砂質土）が堆積し始める。これはⅡ区東北端付近からⅢ区西北部の中世の小規模溝群の上面では厚さ20cmの堆積がみられ、コンテナ2箱程度の遺物が出土している。

Ⅱ区東側の水田面では耕作土・床土下部に近世遺物包含層である明灰色砂質土層が出現する。この層は東へ下がるに従って厚くなり、特に15世紀の水路（SD121）西側では厚さ約20cmであったものがSD121の東側では厚さ約45cmになる。この層はⅢ区西部の水田の東端付近で消失する。

Ⅲ区東側水田面については近世遺物包含層をはじめ遺物包含層や造成土や包含層の堆積はみられず、耕作土・床土の下部には砂層や砂質土層の堆積がみられるようになり、Ⅲ区東南部はⅣ区の自然河川へ続いていくと考えられる。

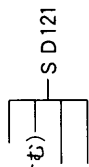
Ⅳ区はやや傾斜が緩くなり、耕作土・床土の下部にはほぼ全面に厚さ約1mにわたって自然河川や湿地を形成していたと考えられる。その下部には緑灰色粘土層などのベースがみられた。

・Ⅶ区・Ⅴ区・Ⅵ区（上段）

Ⅶ区はⅣ区からは現地表面で80cm、耕作土を除去後では120cmの段差があり、1段下がった段丘面を形成する。Ⅶ区は耕作土・床土－褐色系粘質シルト・粘土の互層である中世以前の遺物包含層（厚さ40～70cm）の下部にはⅡ～Ⅳ区でみられたような黄色や緑色の粘土層はみられず、分厚い砂層の堆積

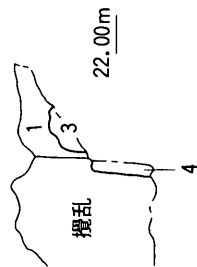
E

1. 耕作土
2. 褐灰色砂質土 (近世遺物包含層)
3. 黄褐色砂粘質土 (地山)
4. 黄茶褐色砂粘質土 (地山)
5. 明褐色砂質土 (地山)
6. 茶褐色砂粘質土 (地山)
7. 褐灰色砂質土 (Mn 含, 地山)
8. 明褐色砂粘質土 (上面に Fe・Mn 集積) (地山)
9. 暗褐色砂粘質土 (弥生土器包含層)
10. 暗褐色砂粘質土
11. 暗褐色砂粘質土 S D 102
12. 明褐色~明褐色砂粘質土
13. 赤茶色粗砂 (Fe・Mn 多く含む)
14. 黒灰色粘土 (水分多量に含む, 木片含む)
15. 暗青灰色砂質土
16. 黒灰色粘土

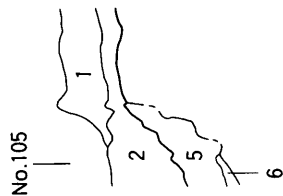


17. 明黄青灰色砂質土 (地山)
18. 褐灰色粘土
19. 白褐色砂
20. 褐灰色粘土混砂質土 (中世遺物包含層)
21. 暗褐色砂粘質土 (11より少し明るい) S D 103
22. 黒灰色砂粘質土 S D 104
23. 褐色砂質土
24. 灰褐色砂質土
25. 茶灰褐色砂質土
26. 明青灰色砂質土
27. 茶褐色粗砂 (Mn 含)
28. 褐灰色砂質土
29. 茶褐色粗砂

W



I 区



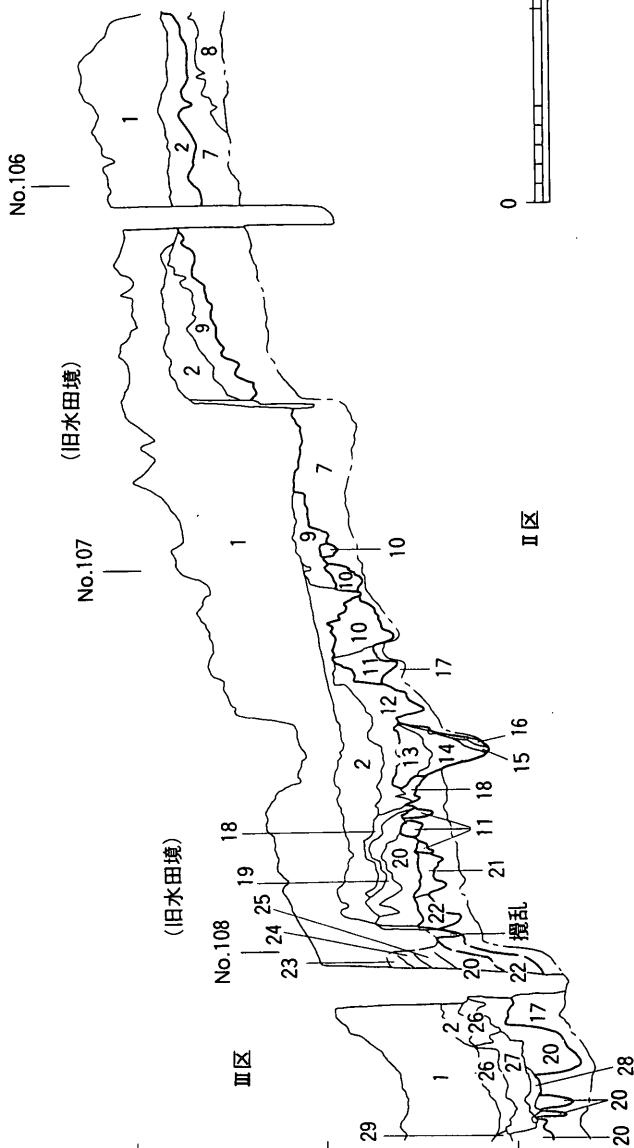
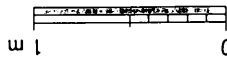
21.00m

20.00m

19.00m

18.00m

17.00m



第9図 I・II・III区土層図 (左右 1/400・天地 1/40)

がみられた。この砂層は2.4m程度掘り下げた。安全上の理由から掘り下げを中止したが、さらに砂層は続いていた。この砂層からはローリングを受けた縄文時代晩期の土器が出土している。V区では耕作土の下部に中世以前の遺物包含層である暗褐色砂・粘土層が、その下部には緑色・青色の粘土・粘質土・砂質土と砂層が互層になって堆積しており、緑色土の下部の砂層中から縄文時代晩期の土器が出土した。V区では遺構は現代の井戸以外は検出されなかったが、Ⅶ区においては縄文時代晩期の遺物包含層である砂層を遺構面とする弥生時代後期の自然河川を検出している。

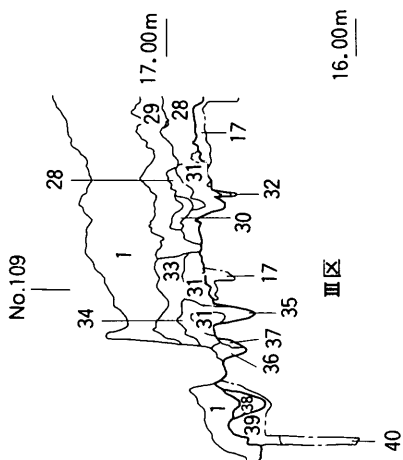
V区の北東部からⅥ区の西部にかけてでは緑灰色粘土層をベースとして弥生時代後期の落ち、その上部には古代～中世遺物包含層がみられる。Ⅶ区を中心として、弥生時代の遺構のベースとする土層より下部には縄文時代晩期の流路が想定される。ただし、V区東半より東側では砂層をはじめ、弥生時代後期のベース面（緑灰色粘土層）より下部は掘り下げていないのでこの流路の砂層がどこまで続くのかは確認していない。Ⅵ区西部では厚さ65cmで弥生時代後期の遺物包含層が堆積する。この層は4層に分かれ、主に第2層から弥生土器が出土した。

段丘第2面のⅦ・Ⅴ・Ⅵ区（上段）では遺構密度は極端に疎らになり、遺物の出土量も減る。特に中世以降は現代の農業用井戸を除いて遺構・遺物はみられなくなる。しかしⅦ区で弥生時代後期の自然河川が、V区東端～Ⅵ区西端で弥生時代後期の土器が集中する落ちがみられ、Ⅵ区では7世紀半ばの溝が確認されており、弥生時代後期にはこの段丘面は形成されていたことがわかる。

・Ⅵ区中・下段

Ⅵ区の東半についてはさらに2段の段丘面がみられる。上段から中段の標高差は約1m、中段と下段の標高差は約2.5mである。中段においては地表面から約1m下部で全て砂層の堆積がみられた。下段においては、地表下約50cmにおいては粗砂層が、それより以下では青灰色シルト層、黒色粘土層の水平堆積がみられた。いずれも旧河道であったと考えられ、明確な地山面は認められなかった。遺構は認められず、遺物は小破片がわずかに出土したのみで人々の生活の痕跡はみられなかった。

18.00m W



15.00m

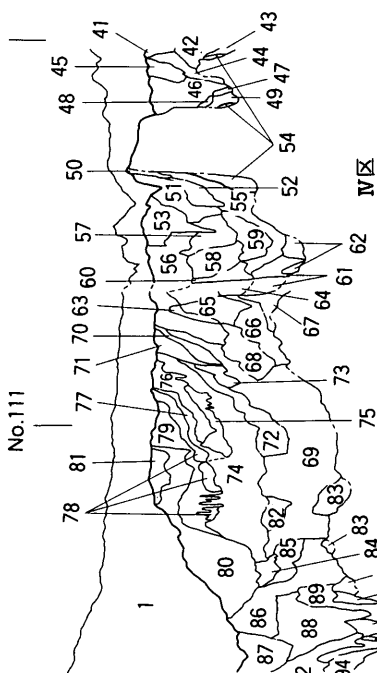
14.00m



E

- 41. 明緑灰色砂質土
- 42. 褐灰色砂+灰色砂
- 43. 暗褐灰色砂質土
- 44. 暗褐灰色粘土
- 45. 灰褐色砂質土
- 46. 灰色粗砂、明灰褐色砂
暗褐灰色粘土ラミナ
- 47. 暗褐灰色粘土
- 48. 暗褐灰色粗砂混砂質土
- 49. 明褐色砂+灰色粗砂
- 50. 明黄褐色粗砂ブロック
- 51. 明灰色粗砂混砂質土
- 52. 明褐灰色砂質土
- 53. 明黄灰色砂混粘質土
- 54. 青灰色粗砂(地山)
- 55. 暗青灰色粗砂混粘質土
- 56. 灰褐色粗砂混粘質土(粗砂混)
- 57. 暗灰色粘土
- 58. 灰色砂混粘土
- 59. 灰色シルト質粘土
- 60. 灰色粗砂混粘質土
(青灰色土ブロック混)
- 61. 暗灰色粗砂混粘土
(明青灰色土ブロック混)
- 62. 暗青灰色粗砂(地山)
- 63. 黄色粘土ブロック
- 64. 黄色粘土ブロック+灰色粘土
- 65. 灰色砂混粘質土
- 66. 暗灰色砂混粘土
- 67. 明青灰色粘土(地山)
- 68. 暗灰色砂混粘土
- 69. 黑色粘土
- 70. 灰褐色砂
- 71. 暗灰色砂質土
- 72. 黒灰色砂混粘土
- 73. 暗青灰色粘土
- 74. 暗灰色粘土
- 75. 明褐色砂
- 76. 灰褐色粗砂
- 77. 灰色粘土
- 78. 緑灰色粗砂
- 79. 灰褐色粗砂
- 80. 明緑灰色粘土

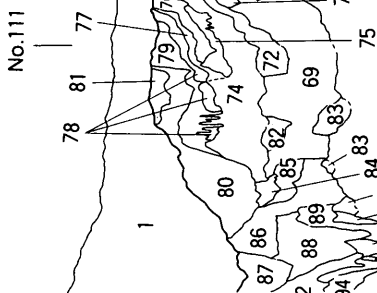
No. 110



20m

0

No. 111



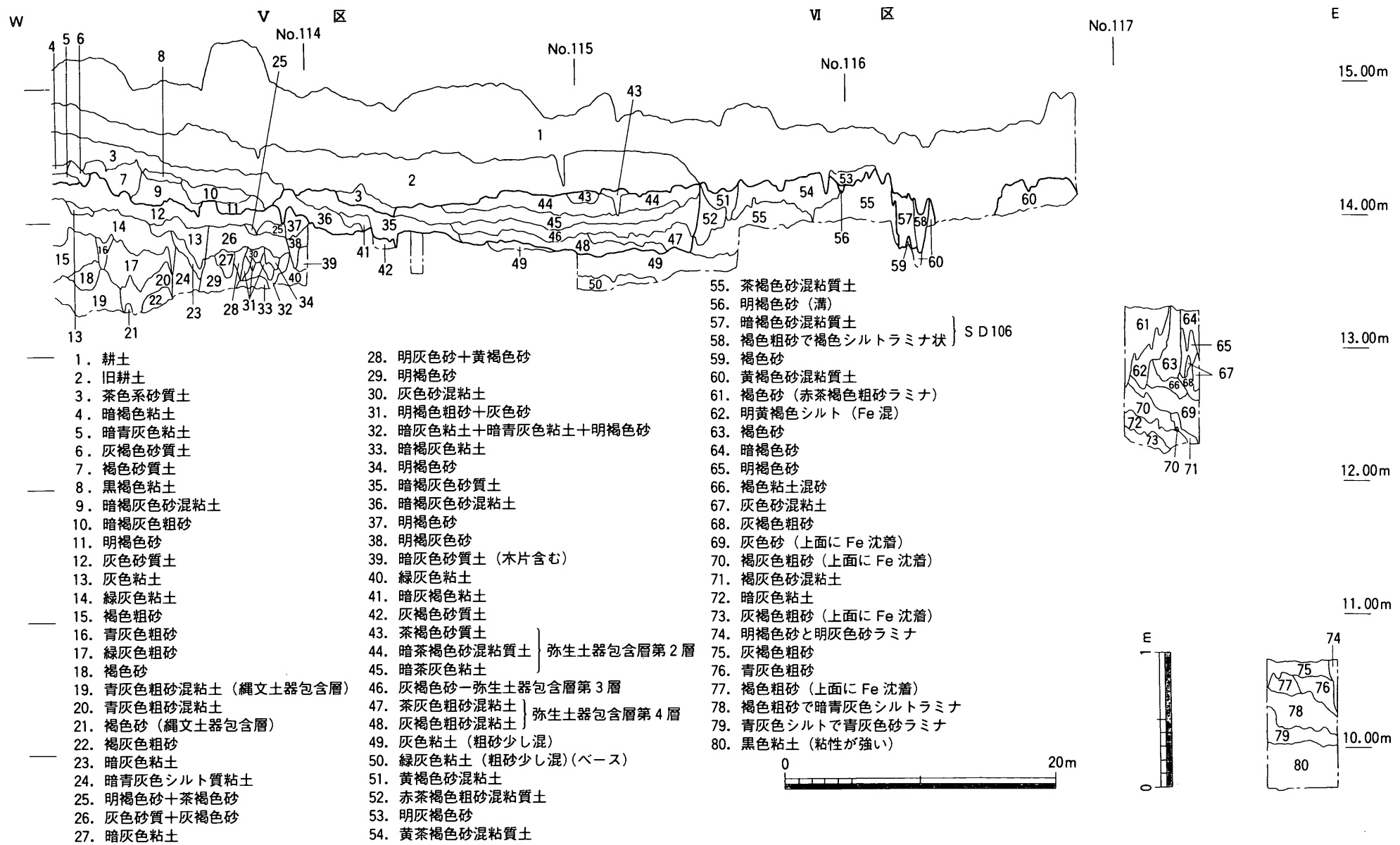
20m

0

- 30. 明灰色砂質土
- 31. 暗褐灰色砂質土
- 32. 褐色粗砂
- 33. 褐色粗砂
- 34. 褐灰色砂質土
- 35. 褐灰色粗砂
- 36. 灰褐色粗砂
- 37. 茶灰色粘質土
- 38. 茶褐色砂
- 39. 褐色砂質土
- 40. 灰色砂混粘質土

- 81. 明茶褐色砂
- 82. 暗灰色砂混粘土+白褐色砂
- 83. 明青灰色砂混粘土(地山)
- 84. 暗青灰色砂混粘土
- 85. 暗灰色砂質土
- 86. 暗灰色砂混粘土
- 87. 暗褐灰色粗砂
- 88. 黒灰色粘土
- 89. 暗灰色粘土(暗灰褐色砂混)
- 90. 暗灰色砂混粘土
- 91. 暗灰色粘土に白褐色ラミナ
- 92. 暗灰色粗砂混粘土
- 93. 暗青灰色砂質土(粗砂多い)
- 94. 暗灰色粘土+明褐色砂(ラミナ)
- 95. 白褐色砂
- 96. 暗青灰色砂質土

第10図 III・IV区土層図 (左右1/400・天地1/40)



第11図 V・VI区遺構配置図 (左右 1/400, 天地 1/40)

第3節 遺構・遺物

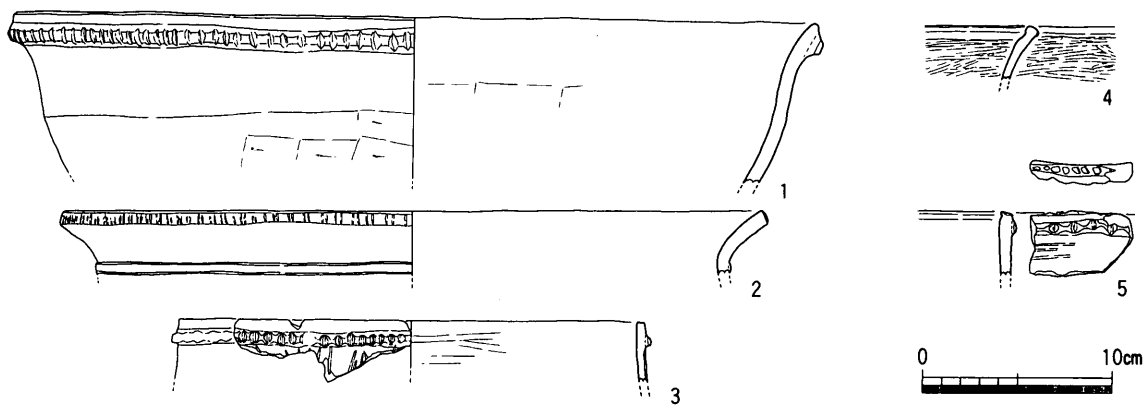
(1) 縄文時代晩期 (第12・13・28図, 図版8・10(1)・22(1)・31)

Ⅶ区・Ⅴ区の一部で検出した包含層から縄文時代後期～晩期の土器が出土した。この包含層はⅦ区では厚さ40～70cmの中世遺物包含層の下部に堆積した、弥生時代後期の自然河川のベースとなる砂層であり、この砂層は厚さ2.4m以上に及ぶ。この間万遍なく磨滅した縄文土器が出土している。Ⅴ区においてはⅦ区で検出した中世包含層の下部に、灰色系の砂質土が厚さ約30cm、緑灰色系粘土層が10～20cm堆積し、その下部に縄文土器が出土した砂層、青灰色系粘土層が堆積する。Ⅶ区で検出した砂層の堆積は、Ⅶ区で厚く、高いレベルから出現し、東へ下るにつれて砂層の上面に緑灰色、青灰色系の土層が堆積するようになる。Ⅴ区の東から1/4程度の場所では中世遺物包含層の下部に1m以上にわたって青灰色、緑灰色系の粘土、粗砂層が堆積し、それ以上掘り進めておらず、砂層の範囲を確認していない。Ⅶ区・Ⅴ区にわたって弥生時代後期の遺構面の下部に縄文時代後期～晩期の規模の大きい自然河川があったと考えられる。当該期の土器は他の遺構および包含層からも紛れ込みの状態出土しており、この近辺の上流に同時期の遺構があったと考えられる。

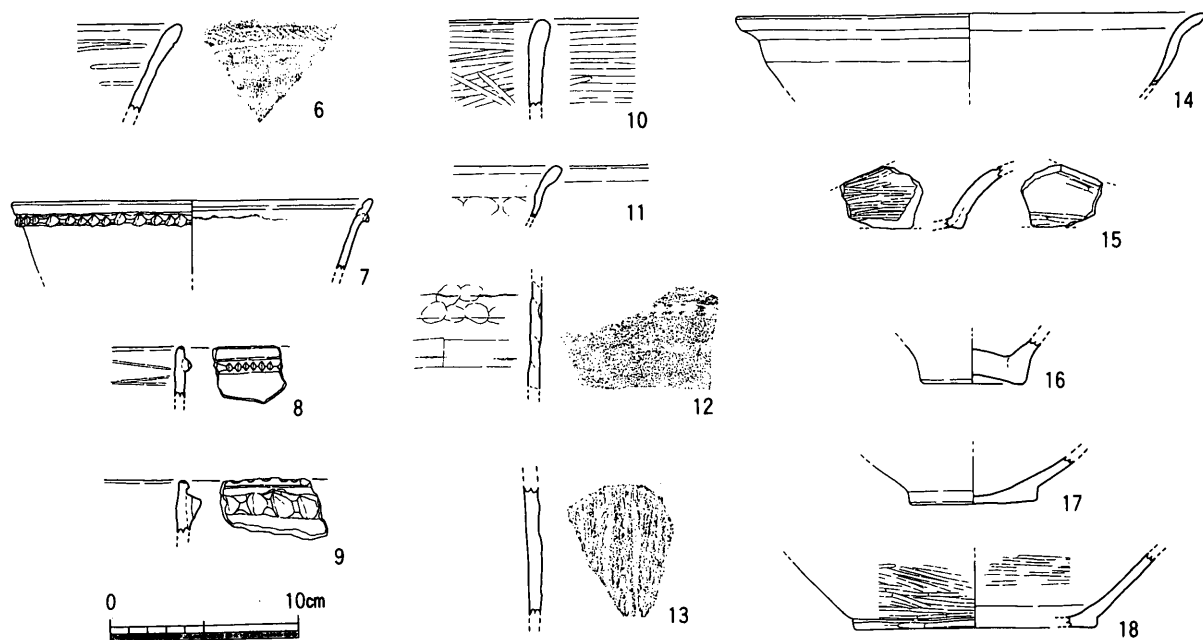
出土した土器は1点縄文時代後期に遡るものがあったが、ほとんどは縄文時代晩期である。器形が明らかなものでは深鉢が8点、その中で刻み目突帯を貼るものが7点、浅鉢が4点である。

1～5はⅤ区から出土した遺物である。1～3・5は縄文土器深鉢。1は口縁部直下に断面台形の突帯を付け、浅いV字型の刺突文を施す。体部中位で屈曲する。2は口縁端部に2個1単位の軽い刻み目を入れ、頸部と体部の境で無文の突帯を貼り付ける。3は口縁端部が四角形で断面台形のV字型の刻み目突帯を貼る。突帯の下部にヘラ描き模様を入れる。5は口縁端部が四角く、端部に刻み目を入れる。口縁部内面に沈線を持つ。外面には断面台形の突帯を付け、V字型の刻み目を入れる。4は浅鉢。内面に沈線を入れ、口縁部は水平である。内外面ともに丁寧に磨く。

6～18はⅦ区から出土した縄文土器である。6～10は深鉢。6は縄文時代後期。外面口縁端部をわずかに肥厚させて文様帯を作り、右下がりの縄文を施す。7～9は刻み目突帯を持つ深鉢。7は口縁端部は丸く仕上げ、内面に沈線を入れる。外面には下向きの断面台形の突帯を貼り、D字型の刻み目を入れる。8は断面が緩い3角形の突帯を貼り付け、浅いV字型の刻み目を入れる。9は口縁端部に刻み目を入れ、外面には断面3角形の刻み目突帯を貼る。突帯は刻み目はD字型、口縁端部は浅いV字型。10は突帯を持たない。口縁端部は丸く仕上げ、内外面にはヘラミガキを施す。小片で傾きにやや難がある。11・14・15は浅鉢。11は口縁端部外面を丸く肥厚させる。15は波状口縁を持ち、体部中位で屈曲し、外



第12図 Ⅴ区縄文土器包含層出土遺物 (1/4)



第13図 VII区縄文土器包含層出土遺物（1/4）

反する。口縁端部内面と外面屈曲部直上に沈線を入れる。小破片であったため傾きにやや難がある。12・13は体部。12は外面に押引文がある。13は縦、斜め方向に貝殻条痕がある。16～18は底部。16は粗製で凹底。17・18は浅鉢または壺の底部。断面に粘土紐の継ぎ目がみられる。18は体部の割れ口がまっすぐに割れており、粘土紐の継ぎ目で割れものと考えられる。

(2) 弥生時代後期～古墳時代初頭

S D 101（第14～18図、図版10(2)・11・12・13(1)・32・33・34(1)）

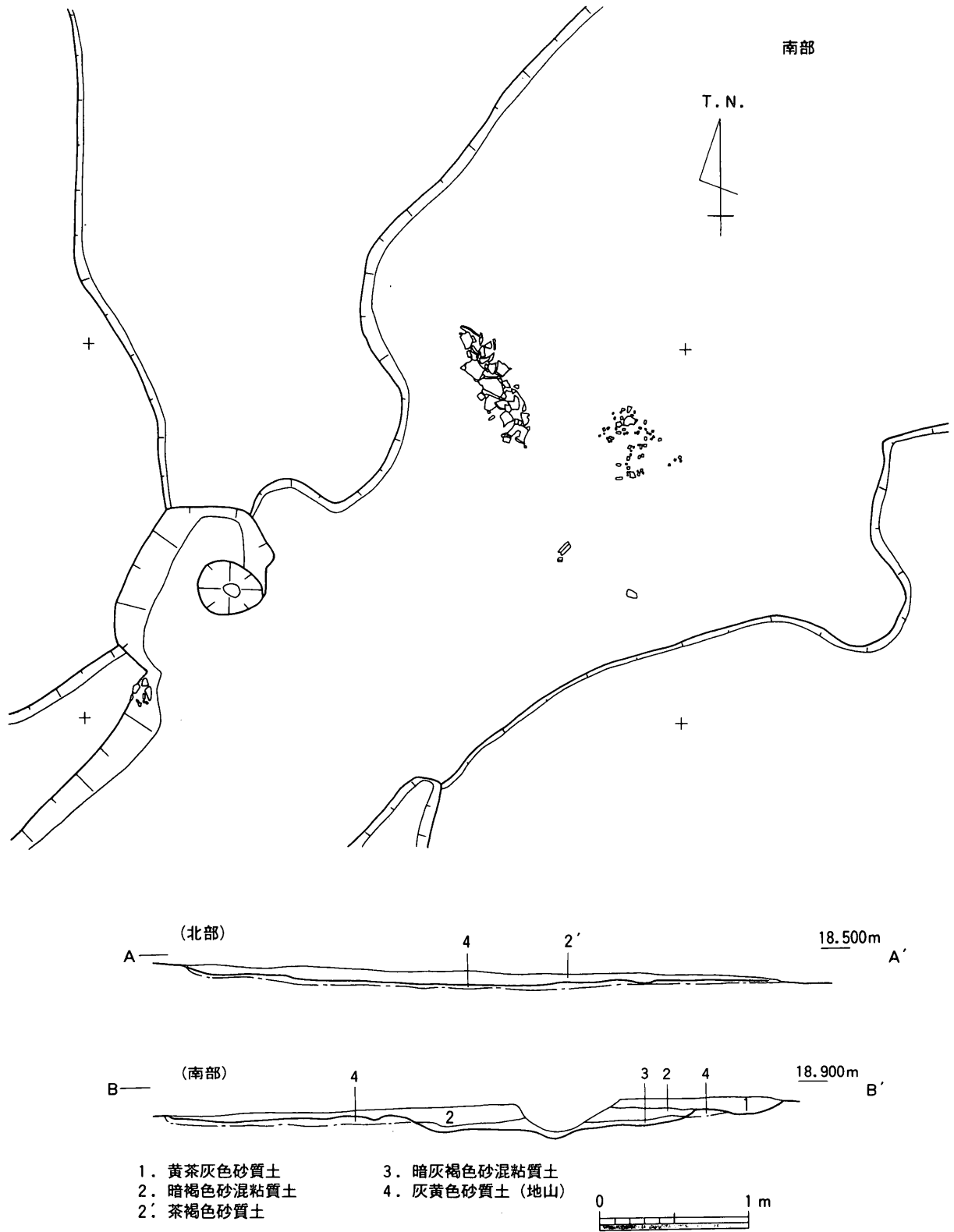
Ⅱ区北西部を円弧状に西側から北側へ走る溝である。規模は西南部分で幅0.7m、深さ0.2m、北部分で幅4.2m、深さ0.1m、埋土は暗褐色砂質土である。断面は皿型、西部と北部の標高差は30cm、遺物の集中部は南西部、中部、北部の3カ所にみられた。

おもにⅡ区で検出した弥生時代後期の溝群の中では遺物の出土量は最も多く、個々の破片も大きく磨滅も少なく、接合率も最も高かったが、溝の規模は広く浅く、調査区北壁の土層断面では上面に堆積している弥生土器を含む包含層とは埋土の上では区別できず、S D 101部分が窪んでいて、溝状に残っただけの状態であった。場所によっては溝の外側まで土器の集中部分が及んでいる場所もあった。この溝は西部に迫る丘陵裾部分の等高線と同方向で、等高線に沿う浅い落ち込み状のものと思われる。

19～48は甕。19は完形に近い。口縁端部は上下にやや拡張し、緩く凹線状に窪む。外面は縦方向に密にヘラミガキを施し、内面は下半はヘラ削り、上半は指押さえ痕を顕著に残す。胎土は粗く、1cm近い砂粒を多く含み、角閃石も少し含む。20は口縁端部をわずかに拡張させ、体部中央付近がやや張る器形である。外面はハケの後縦方向に密にヘラミガキを、内面は上端から粗い斜め方向のヘラ削りを行う。外面のハケ調整は浅く、上端部分の工具のあたっている箇所しか痕跡を残さない。21は平底の底部を持ち、口縁端部は四角くする。外面に縦方向のハケを、内面はハケ調整であるが、同時に器壁を削り込むようで、砂粒の動きが観察できる。22は口縁端部を上方へつまみ上げ、肩部はなで肩気味で体部に至る。外面に縦方向の浅いハケ、内面に横方向の粗いヘラ削りを入れる。23・24は外面に縦方向のハケ、内面はおそらく指ナデで調整する。体部は丸く仕上げる。25・26・33・34は外面をタタキ、またはタタキ後軽く縦方向のハケや板ナデ、内面を指ナデで調整する。34では内面下半に横方向のヘラ削りが観察できる。

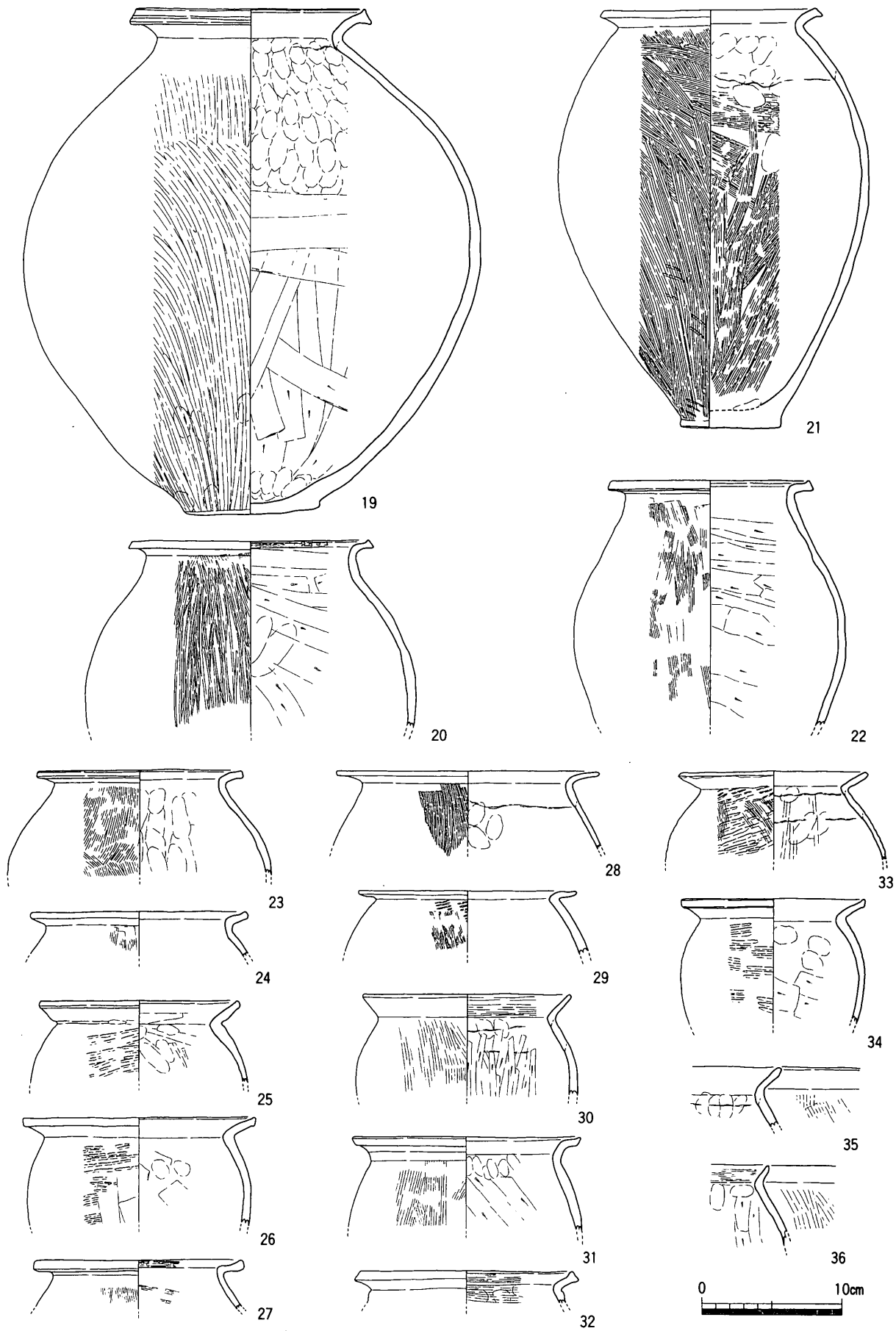


第14図 S D101土器出土状況 (北部・中部) (1/40)

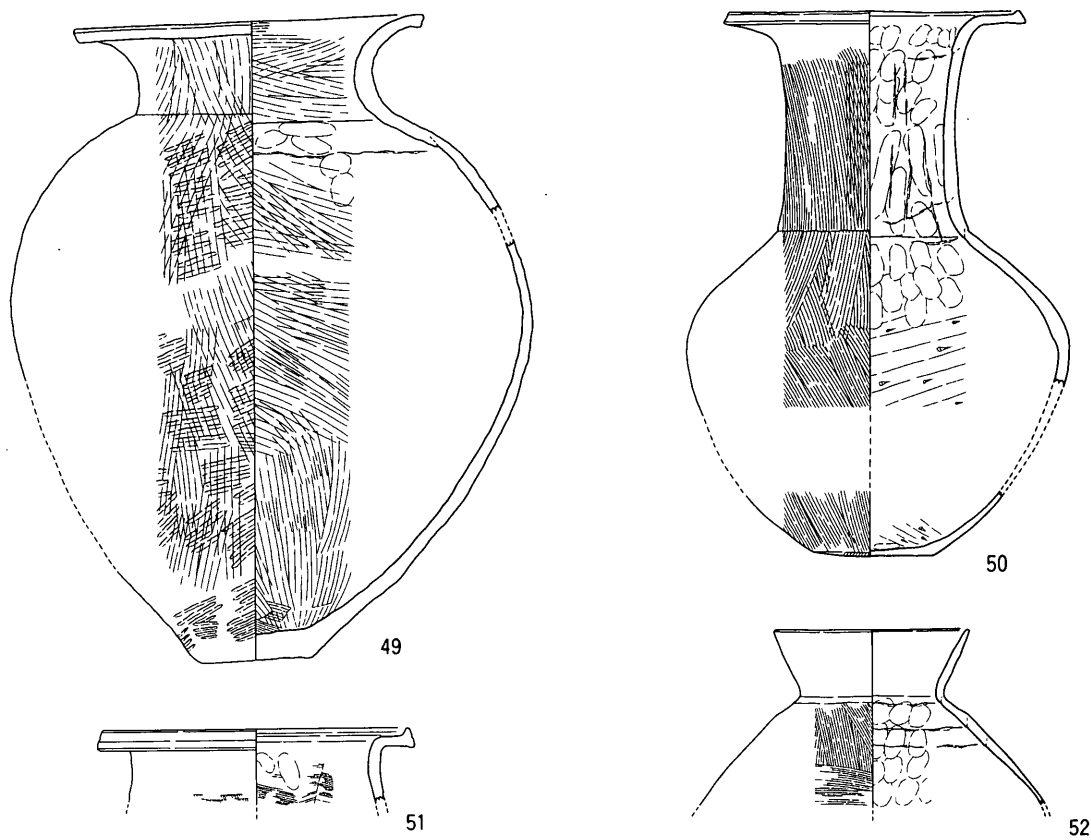
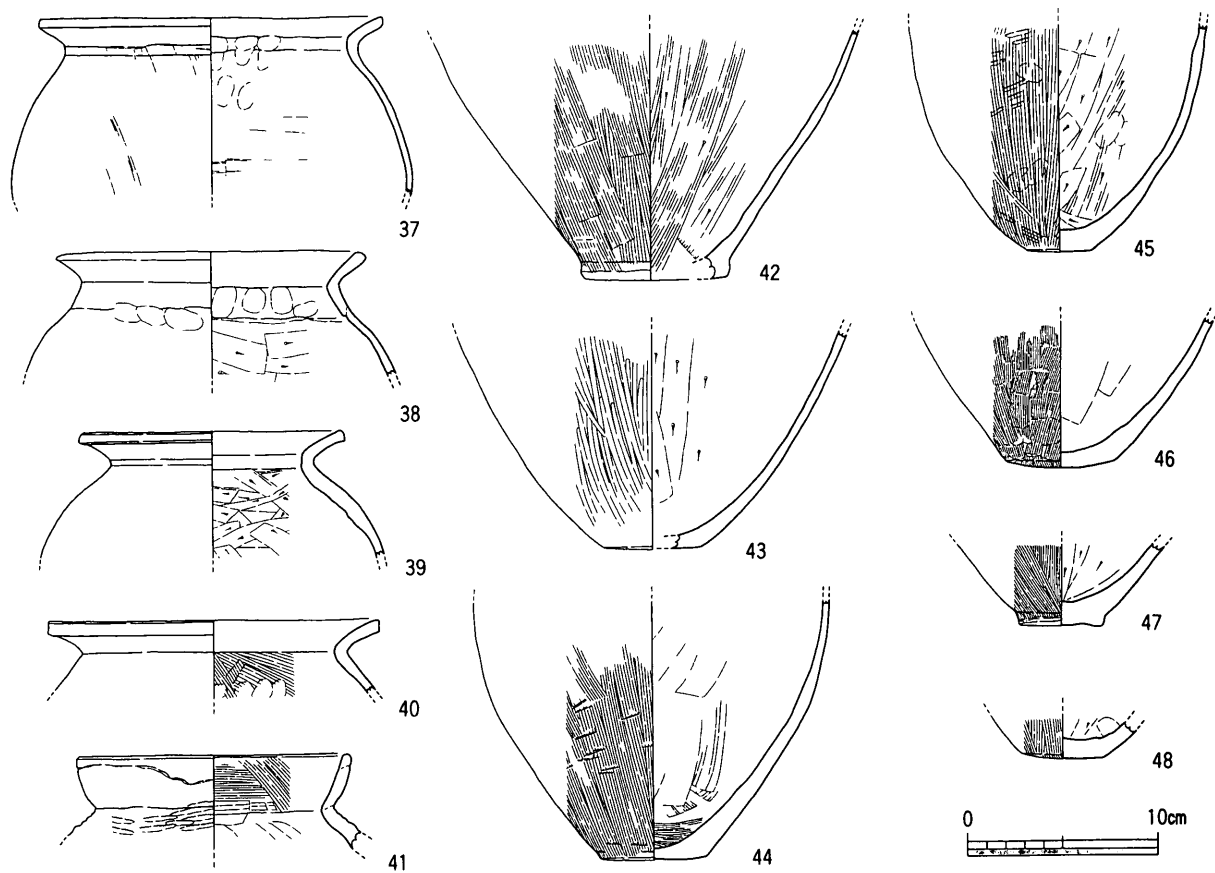


第15図 SD101土器出土状況 (南部), 断面図 (1/40)

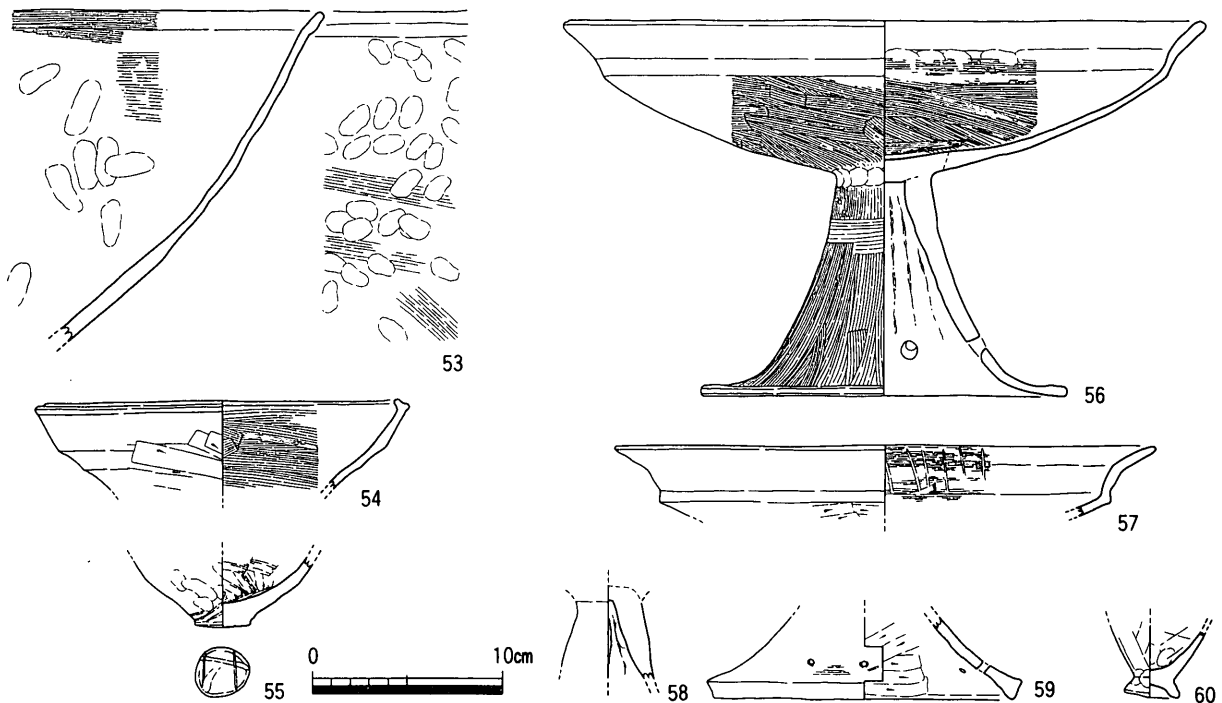
口縁部はくの字に曲がり、球形の体部を持つ。27・32は口縁部を上方へわずかに拡張させ、なで肩気味の肩部になる。内面にヨコハケ、27は外面にタテハケが観察できる。胎土中に角閃石を含む。28は口縁部を強く屈曲させ、体部上半は丸みを持たず、直線的である。外面は縦方向のハケ、内面は指押さえである。31は口縁部の中程で外側へ屈曲し、口縁端部をわずかに上方へ引き上げる。37は体部を薄く仕上



第16图 S D101出土遗物(1) (1/4)



第17图 S D101出土遺物(2) (1/4)



第18図 SD101出土遺物(3) (1/4)

げる。外面に縦方向のハケ，内面は横方向のハケを入れる。外面のハケの痕跡は上端の工具のあたっている箇所で見られるのみで後はほとんどナデ消されている。38は外面の調整は不明瞭であるが，内面は体部上端付近で粘土の継ぎ目がみえ，その下部には横方向のヘラ削りを行う。39も外面は磨滅しているが，内面は横方向の粗いヘラ削りを行う。41は垂直気味に立ち上がる長めの口縁を持ち，体部外面はタタキ，口縁部内面はハケを，体部はヘラ削りを行う。42～48は底部。すべて平底で外面は43が密なヘラミガキを入れている他はおおむね浅めのハケを施し，内面は縦方向のヘラ削り，ヘラ削りの後ナデや浅いハケを施す。甕は全般的に，外面調整は浅めのハケで調整するものが多いが，縦方向のヘラミガキを行うものがいくつかある。また内面には横方向の大きい砂粒が大きく動く粗いヘラ削り調整をするものが目立つ。胎土中に角閃石を含む個体も数点あるが，角閃石の多寡，白色砂粒の大きさなどにやや差がある。

49～52は壺。49はほぼ完形である。内面は浅いハケ調整，外面はタタキの後浅く間隔の広いハケを施す。歪みが大きい。50は長頸壺。外面口縁部以下にハケを，内面は体部中位から下部を粗いヘラケズリする。頸部には絞り目を残す。51は壺の口縁部。口縁端部を上部へつまみ上げ，体部外面に縦方向のハケ，内面に横方向の浅いハケを入れる。胎土中に大きい砂粒を含まない。52は斜め上方へ立ち上がる頸部を持ち，体部は丸いようである。50～52は胎土中に角閃石を含む。

53～55は鉢。53は大型で口縁部はやや歪みがある。口径は42cm程度になると考えられる。口縁部内面にハケを，体部内外面を浅いハケ調整する。54は小型の鉢。形態は高坏脚部に似るが，外面は上部を横ナデした後，非常に粗いヘラケズリを，内面には丁寧なハケ調整を施しており，鉢として図化した。角閃石をわずかに含む。55は鉢の底部。外面にタタキの痕を残し，内面はハケ調整を施す。底部外面にヘラ描きがある。

56～59は高坏。56は内面に浅いハケ，外面にはやや粗いヘラ削りの後，浅いハケ調整を施す。杯部と脚部は円盤充填によって接合されており，脚部には円孔が3カ所残されていた。円孔の残存部分の間隔

は均等ではなく、欠損部を考えればやや間隔のあいた2孔1対のものが2ヶ所に穿たれたと考えられる。57は内面にハケ目のち、縦方向のミガキを疎らに施し、外面にヘラケズリをする。58・59は脚部。59は内面を粗いヘラケズリし、外面は摩滅しているが、わずかにヘラミガキが残る。2孔1対の円孔を3カ所に入れる。56・57は胎土中に角閃石を含む。

60は製塩土器。外面を板ナデ、内面はナデで、胎土中に角閃石を含む。

出土遺物は、胎土は比較的大きい石英を含むものが目立ち、その中には角閃石や金雲母を含むものもある。大きい砂粒を含まず角閃石を含む個体もあるが(51)、それとは区別されるかもしれない。時期は41・52が古墳時代前期まで下るが、その他は弥生時代後期前半～後半であろう。

S D 102 (第19～21・23図, 図版13(2)・14～18・34(2)・35(1))

Ⅱ区中央部南端で検出した溝である。この溝は南西から北東へ向くが、S D 121の東側でS D 103と合流し、その後は溝のラインは不明瞭になるものの、土器の出土状況や埋土から考えればⅢ区西南部でS D 103と交差して北東方向へ向き、Ⅲ区中央部付近で消失する。この溝は平成5年度文化行政課の南側擁壁部分の調査時には2条の平行する溝として報告されており、さらに東側の溝の下部にさらに1条の溝を検出している。これらの溝から、特に東側の溝からは弥生時代後期の土器が多く出土したが、これらは下川津B類土器やそれを模倣したと思われる土器がほとんどを占め、同じ東讃地域の遺跡とは様相が異なることが指摘された⁽¹⁾。

平成6年度の調査では文化行政課調査の西側の溝の延長部は幅75cm、深さ30cmをはかったが、東側の溝の延長部に当たる部分ではわずかに落ちこみがみとめられただけで、西側の溝の埋土とも異なる。S D 102では幅2.7m、深さが西側の筋では31cm、その他では8cm程度、埋土は西側の筋で暗灰褐色砂混じり粘質土、その他は西側の落ちに切られる形で灰褐色粘質土であった。しかし、埋土の土質自体はあまり変わらず、北側で設定した弥生時代の溝群の土層図では同じ埋土で3カ所に溝状の落ちがみられた。S D 102からは土器が集中して出土したが、出土したのは文化行政課で調査を行った東側の溝の延長上に比較的大きな破片が、西側の溝の延長部からはほとんど出土せずにその西岸の浅い落ち部分から細かい土器片が固まって多量に出土した。S D 103とS D 102の交差する部分ではS D 102の流れの延長上に筋状に土器の小破片の集中部がみられた。

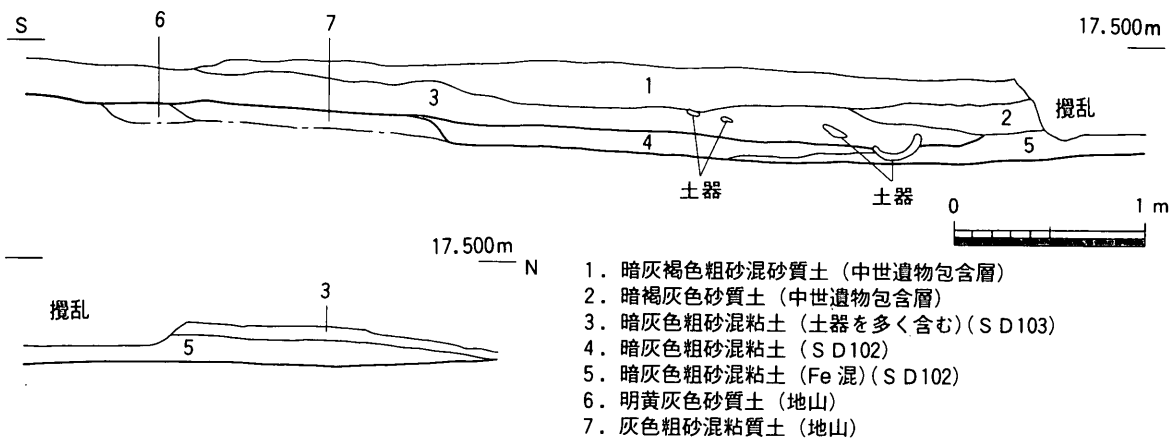
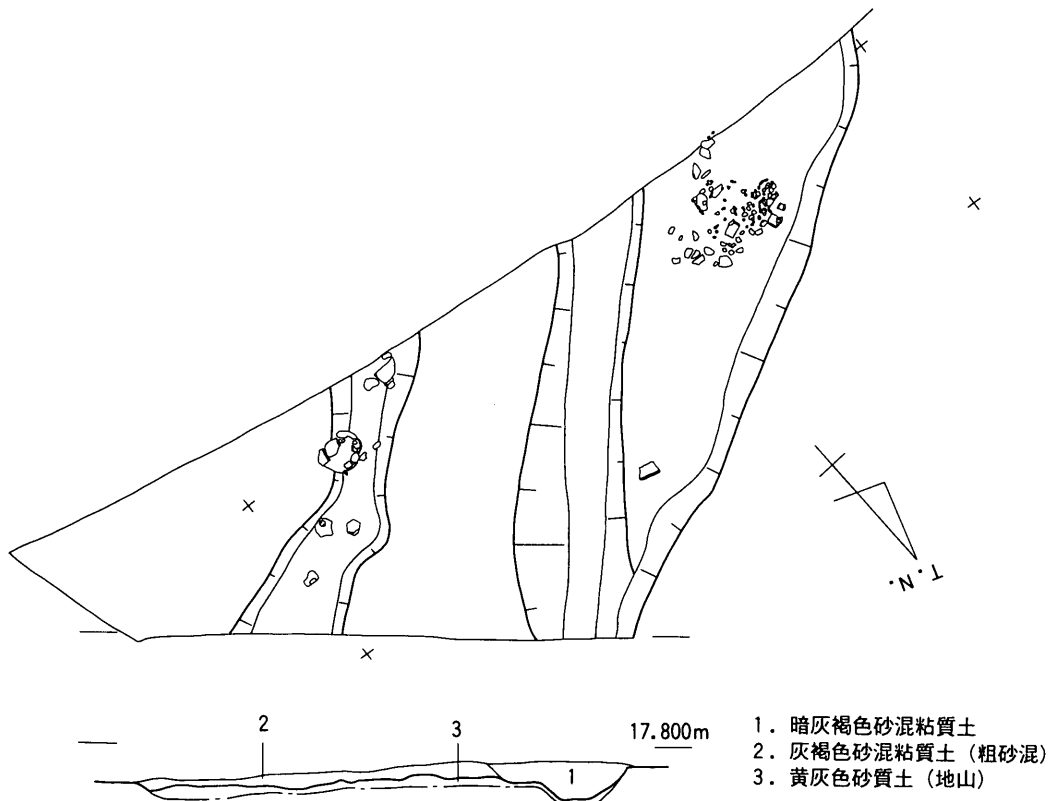
S D 103の東側では幅はおおむね2.5m、深さ10cmとなり、溝の内部に筋状の落ちは認められない。埋土は上層が暗灰色粗砂混粘質土、下層が灰色粗砂混粘質土であるが、北へ下ると上層は消失する。

Ⅲ区中央部付近では最大幅東西で4.3m、深さ10cm、埋土は上層が暗茶褐色砂混粘質土、下層が暗灰色砂混粘土である。埋土中からはコンテナ3箱分の弥生土器が出土している。しかし、磨滅の著しいものや小破片ばかりであった。

溝の内部から、おもにS D 103より西部から弥生土器甕・壺・鉢・高坏・製塩土器などが出土した。

土器は61～82がS D 121より西、83・84がS D 103との合流部付近、85～103はS D 103より東で出土した。3つにわけて図示したが、いずれも同一遺構である。

61～67は甕。61・62・65は外面にタタキのちハケ、内面にヘラ削り後指押さえを行う。いずれも体部上部に粘土紐の継ぎ目を残す。63・64は外面にハケ、内面には指押さえ痕を顕著に残す。体部は薄く仕上げ、64は粘土紐の痕跡を残す。66は体部は丸みを帯びず直線的に落ちる。外面にタタキを行い、内面はヘラ削り後ナデを行う。68～71は底部。丸底に近く、外面はハケを入れるもの(68・69)、タタキの後ハケを入れるもの(70)、タタキのみ残るもの(71)がある。68・69は胎土中に角閃石を含む。72は甕。



第19図 S D 102土器出土状況, 断面図 (1/40)

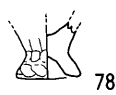
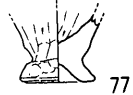
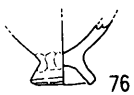
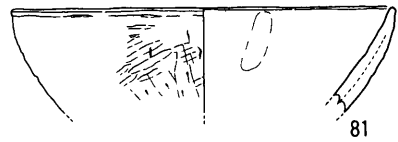
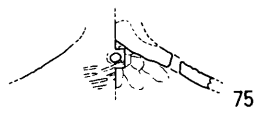
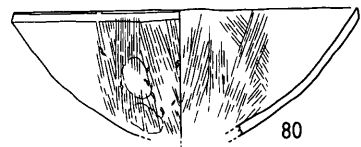
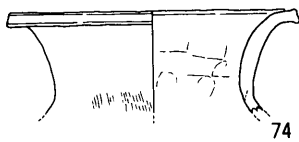
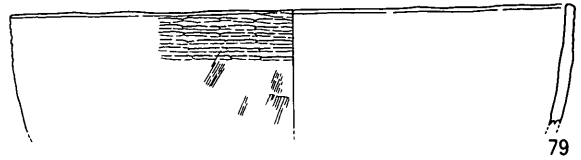
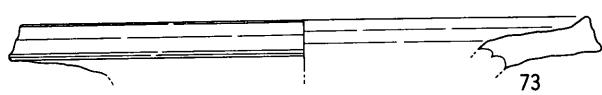
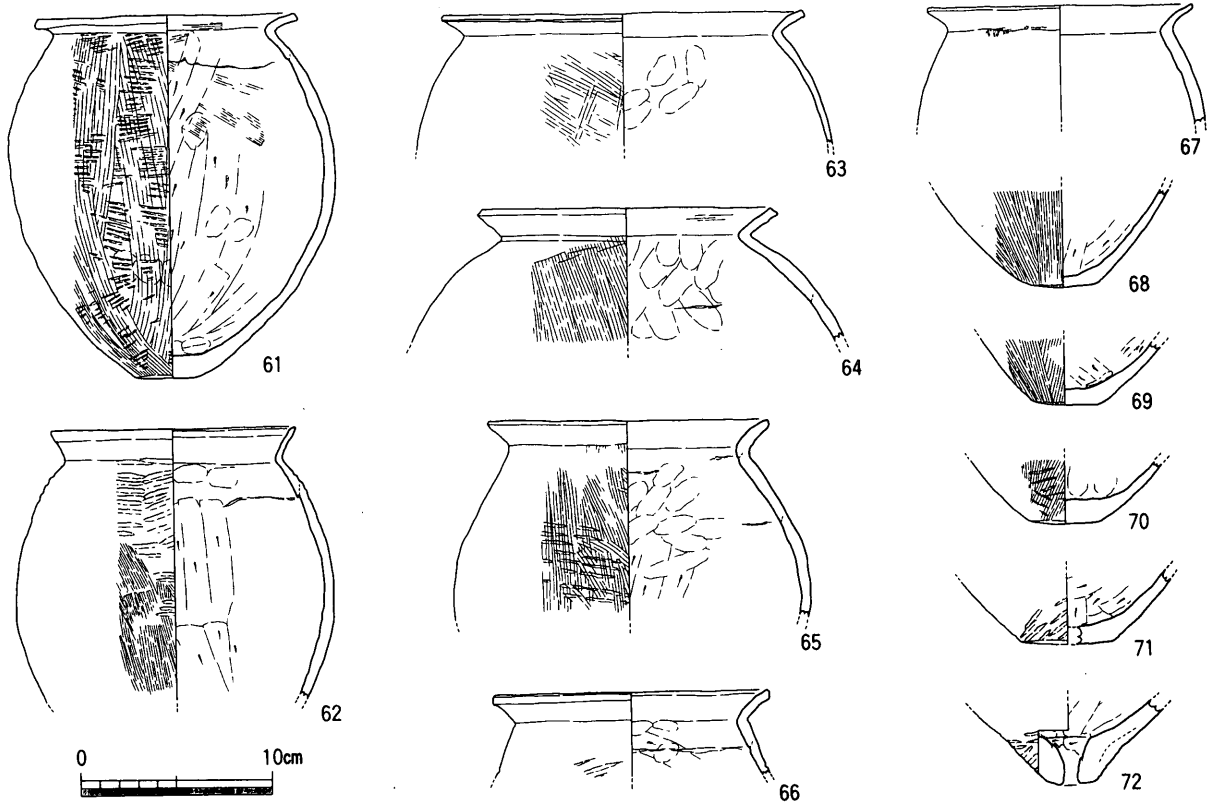
外面にタタキ痕跡を残し, 内面は指押さえの後, 穿孔部分付近のみヘラ削りして仕上げる。底部は粘土を足して厚くしている。

73・74は壺。73は広口壺口縁部。頸部が緩やかに広がり, 上部で大きく開く。口縁端部は上下に拡張する。74は体部にハケ調整を行う。胎土中に角閃石を含む。

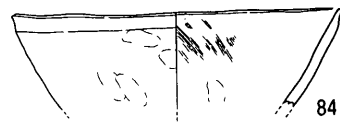
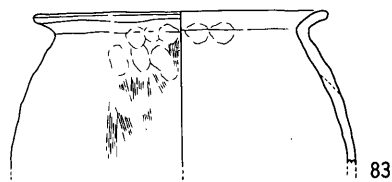
75は台付椀の脚部。穿孔は1カ所残存する。土器の残存状況から穿孔箇所は2カ所と考えられる。

76~78は製塩土器。体部を縦方向のヘラ削りするもの(77・78)と単になでるもの(76)の2種類がある。体部をヘラ削りするものは胎土中に角閃石を多量に含む。76は底部内面にヘラ状工具の痕跡が放射状に残る。体部と脚部の接合を行う際に付いたものか。

79~82は鉢。79は口径28.8cmの大型のもの。口縁部はタタキで成形し, 体部はタテハケ調整をする。80・81は口径17~20cm程度。80は内面を浅いハケ, 外面をハケ目調整し, 外面はハケ目をナデ消してい

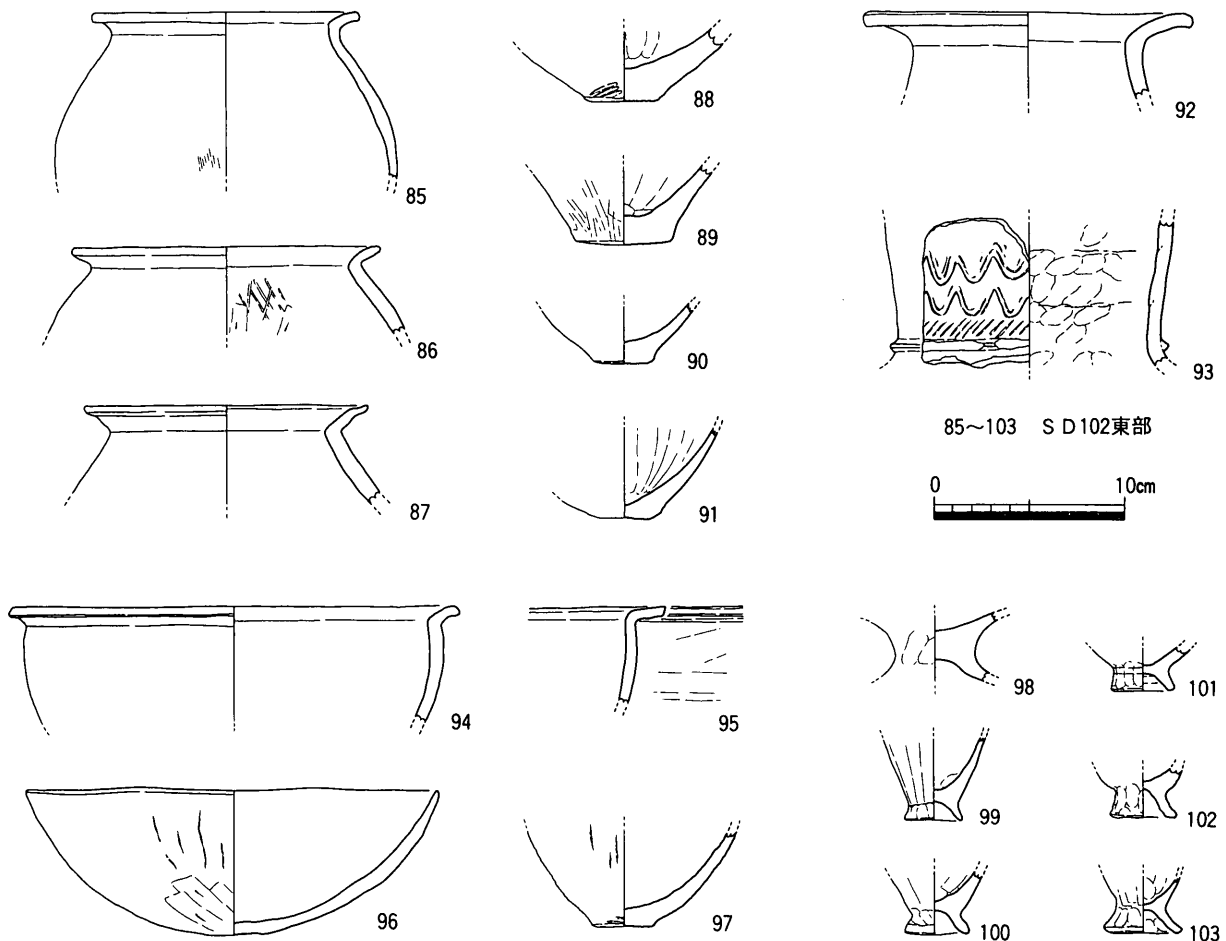


61~82 S D 102西部



83・84 S D 102・S D 103合流部

第20図 S D 102出土遺物(1) (1/4)



第21図 S D 102出土遺物(2) (1/4)

る。外面には成形時の縦方向のクラックが残る。胎土中に角閃石を含む。81はやや厚手で外面にタタキのちヘラ削りを行う。粘土板を外側に足して厚くしている。82は口縁部が緩く屈曲する。

磨滅が著しく調整不明。

83は甕。全体に磨滅が著しいが、外面にハケ目を残し、体部は丸く薄く仕上げる。体部に粘土紐の痕跡を残す。84は鉢。口縁端部は細く、内面はハケ目を残す。胎土中に角閃石を含む。

85~87は甕。いずれも磨滅が著しく、調整はほとんど観察できない。86は内面に縦方向のヘラ削りがある。88~91は底部。88・89は甕または壺の底部。いずれも磨滅が著しく、調整は観察しにくかったが、88は外面にタタキ目を、89はハケ目を残す。90・91はやや小振りで薄作りである。鉢類の底部。

92・93は壺。92は頸部が短く内傾気味に立ち上がり、口縁端部が外側へ開く。93は頸部に波状文、下部に斜線のヘラ描き文様をいれ、頸部と体部の境に断面3角形の突帯を付ける。内面には粘土紐の痕跡を明瞭に残す。

94~98は鉢。94・95は口縁部を外側へきつく屈曲させる。ともに磨滅が著しい。96は椀型。底部外面はヘラケズリし、体部の外側に成形時のクラックを残す。97は鉢の底部か。磨滅が著しい。外面に成形時のクラックが残る。98は脚部。脚付の鉢となると考えられる。99~103は製塩土器。99・100・103は体部をヘラ削りし、胎土中に角閃石を多く含む。101・102は体部は丸く仕上げ、胎土中には角閃石は含まない。101は内面に円形の接合痕跡を残し、103は外面に円形の接合痕跡を残す。

この溝の土器は、全体に磨滅するものや小破片が多く、遺物の残存状況はあまりよくない。時期は弥生時代後期後半を中心とするものであろう。

S D 103・104・105 (第22～24図, 図版14(2)・15・19・35(2))

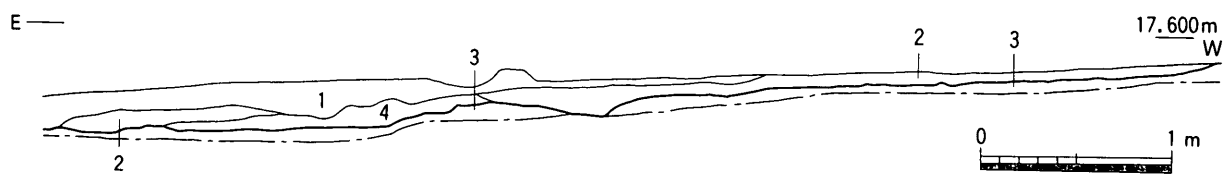
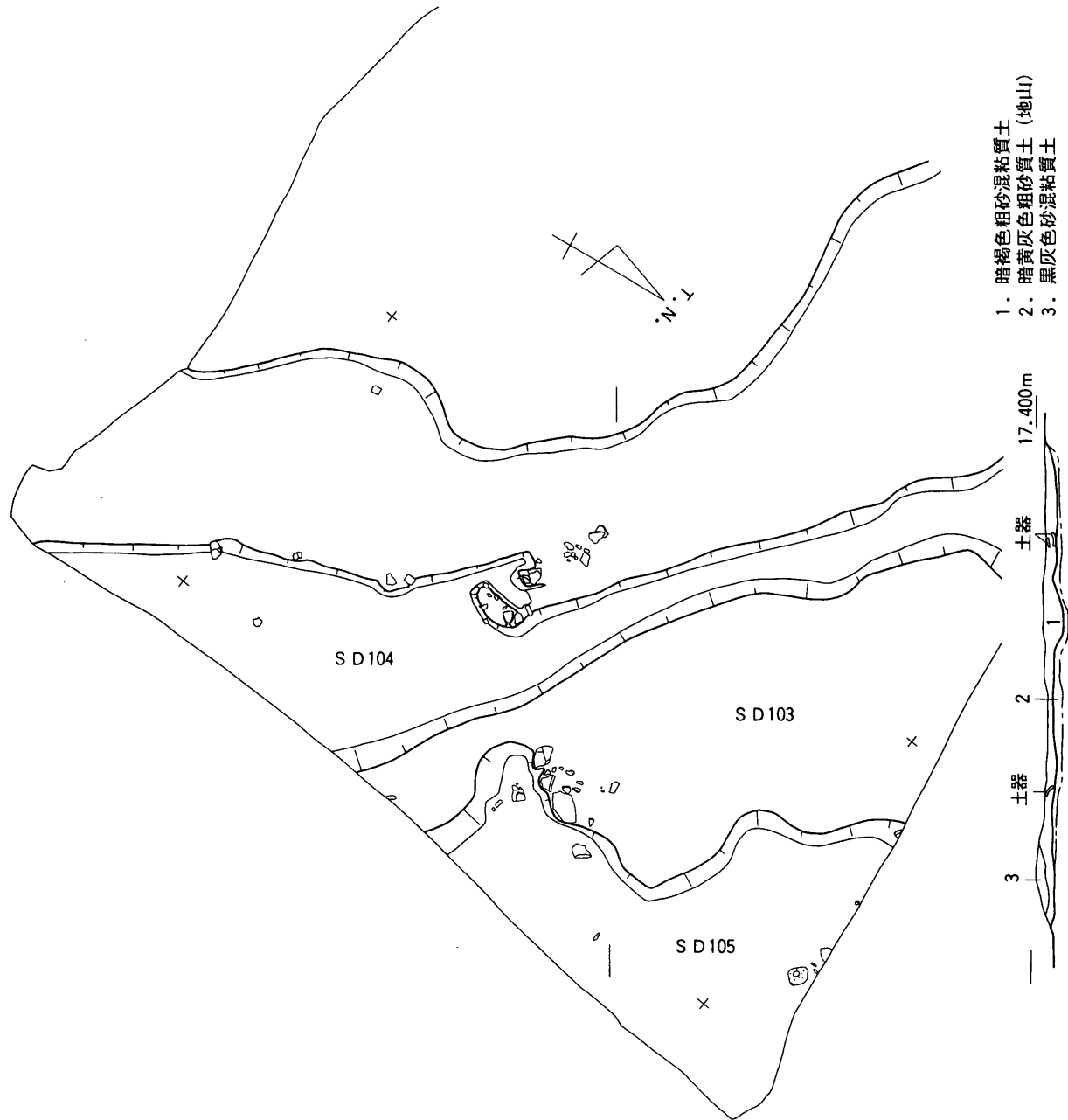
Ⅱ区とⅢ区の境付近で検出した南北方向の幅の広い溝状の浅い落ちである。幅約4m, 深さ約20cm, 埋土は暗褐色灰色砂質土である。Ⅱ区北部では遺構のラインは不明瞭となる。S D 103として検出した溝を掘り下げた後, その下部から小規模の溝状の深い部分(S D 104・S D 105)を検出した。S D 104は幅10cm, 深さ10cm, 埋土は黒灰色砂混粘土, S D 105が幅20cm, 深さ10cm, 埋土は黒灰色砂混粘土である。S D 103南部の浅い部分(S D 104西側, S D 104・105間の浅い部分)で土器がやや集中して出土した。土器が溝の深い部分でなく浅い部分に集中するのはS D 102と同じである。溝の埋土は包含層の埋土と区別がつかないものもあり, また溝の前後関係は平面精査でも土層断面でもはっきりしなかった。S D 102との前後関係については壁面土層により, S D 103の方が新しいが, 埋土はよく似通っている。S D 104は途中でS D 105と合流し, S D 105はⅡ区の北側では不明瞭になり消失する。溝内部からは土器の集中部分を中心にコンテナ3箱分出土した。ほとんどは小破片で磨滅が著しいものであった。この溝の時期はおおむね弥生時代後期後半～終末期と考えられる。

104～112は溝の合流部付近のうちS D 103に相当すると考えられる場所から出土した土器である。104～106は甕。104は外面の磨滅が著しく, 外面の口縁部と体部の境付近にわずかにタタキ痕跡を残す。内面の体部上部に粘土の継ぎ目痕跡を残す。105は外面をタタキで調整し, 口縁部までタタキだしている。体部下半はヘラ削り, 内面はハケ目調整を行う。106は磨滅が著しく調整は不明であるが, 他の個体に比べて胎土は精製されており, 大きい砂粒を含まない。角閃石をやや多く含む。107は底部。108・109は鉢。108は内外面とも横方向の浅いハケで調整する。109は内面下半はヘラケズリ, 上半はハケを施す。外面はなで調整しているが, タタキの痕跡をわずかに残す。やや深めの器形で粘土の継ぎ目痕跡を残す。110は甌。外面はタタキ, 内面は浅いハケを入れる。111は底部に剥離痕跡を残す。112は製塩土器。外面はタタキの後ヘラ削りする。胎土中に角閃石を含む。

113～116はS D 104に相当する場所から出土した土器である。113は鉢。口縁部は外側へ屈曲させ, 全体に磨滅が著しいが, 内外面とも指押さえ痕跡を残す。114は底部。外面はハケ目, 内面はヘラケズリ。115は高坏脚部。胎土は他の個体より精製され, 大きい砂粒を含まない。角閃石をやや多く含む。外面には杯部と脚部の境付近などに粘土の接合痕や継ぎ足し痕が残る, 作りは粗い。116は製塩土器。体部外面は指ナデにより調整する。

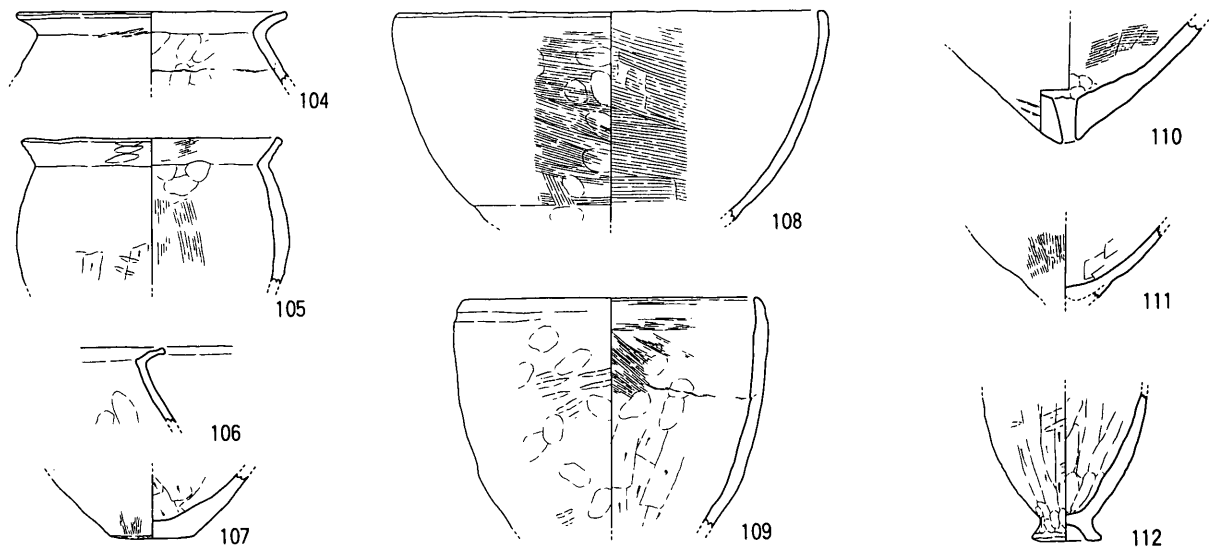
117～129はS D 105に相当する場所から出土した土器である。117～122は甕。120・122は体部にタタキ痕跡を残し, 口縁部まで叩き出して作る。117～119は磨滅が著しいが, 117は外面をハケで, 117・119は内面に指押さえ痕を残す。体部は薄く仕上げる。120・122は外面をタタキ, 内面を指ナデで成形する。122は口縁までタタキ出す。121は磨滅して調整は不明であるが, なで肩気味の肩部で胎土中に大きい砂粒を含まず, 角閃石を含む。123～125は甕の底部。丸底で, 123は体部外面にハケ目, 124・125は外面にタタキ痕跡を残す。126は甌。外面にタタキを残す。穿孔部付近は粘土を足して底を厚くする。127は壺の底部。128は高坏。杯部と脚部の境に円盤充填痕跡が残る。杯部外面下半はヘラ削りをする。胎土は大きい砂粒を含まず, 角閃石を多く含む。129は製塩土器。

130・131はS D 102～105が交差する付近で出土した遺物である。130は製塩土器。体部外面をヘラ削りし, 角閃石を多く含む。脚部が体部にかぶり, 脚の中に体部を入れ込んでいたと思われる。131は縄文土器浅鉢。口縁部は内傾し, 外面に沈線を持つ。縄文時代後期。

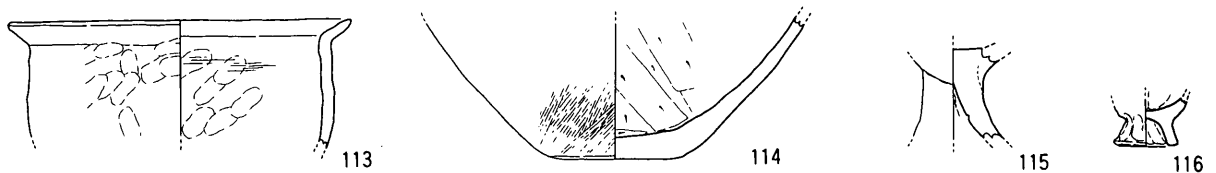


1. 暗灰褐色粗砂混粘土 (中世遺物包含層)
2. 黑灰色粗砂混粘土 (S D 103)
3. 明青灰色粗砂混粘土 (地山)
4. 黑灰色粘土 (S D 105)

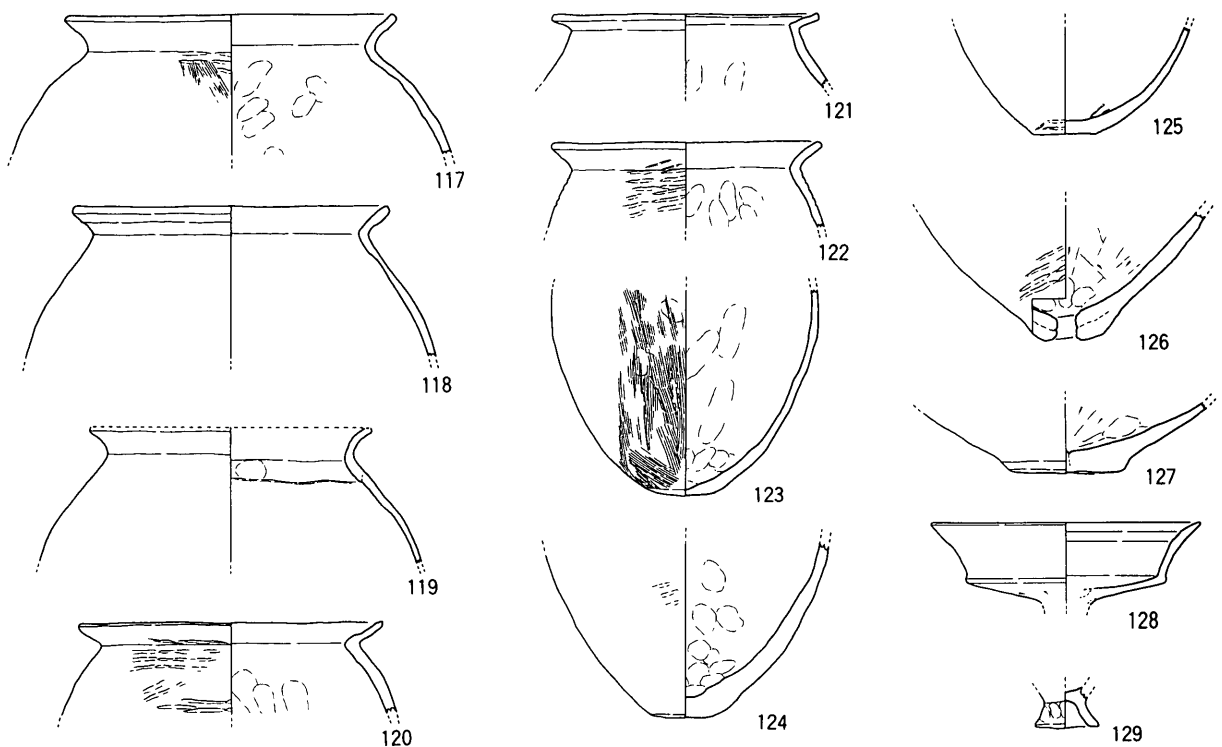
第22圖 S D 103土器出土狀況，断面圖 (1/40)



104~112 S D 103



113~116 S D 104



117~129 S D 105



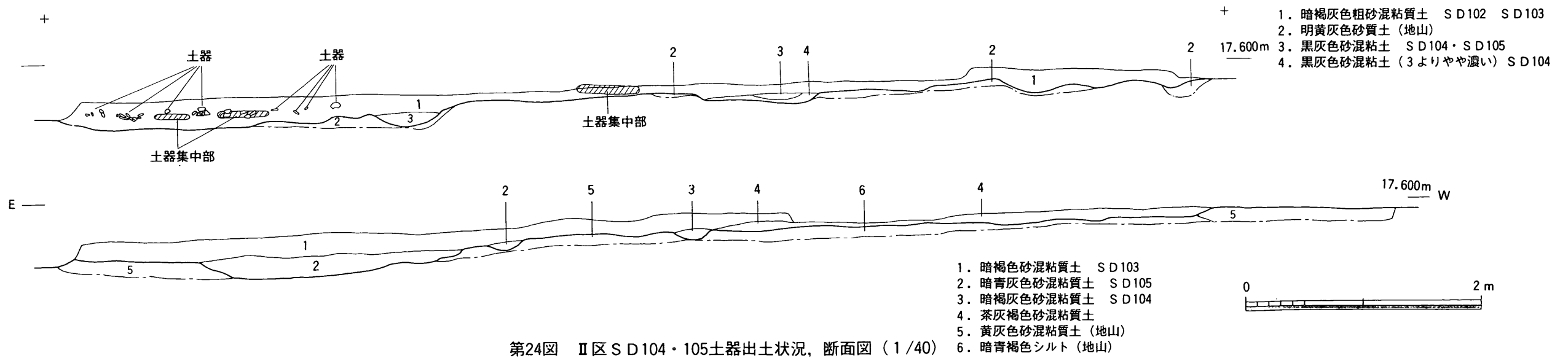
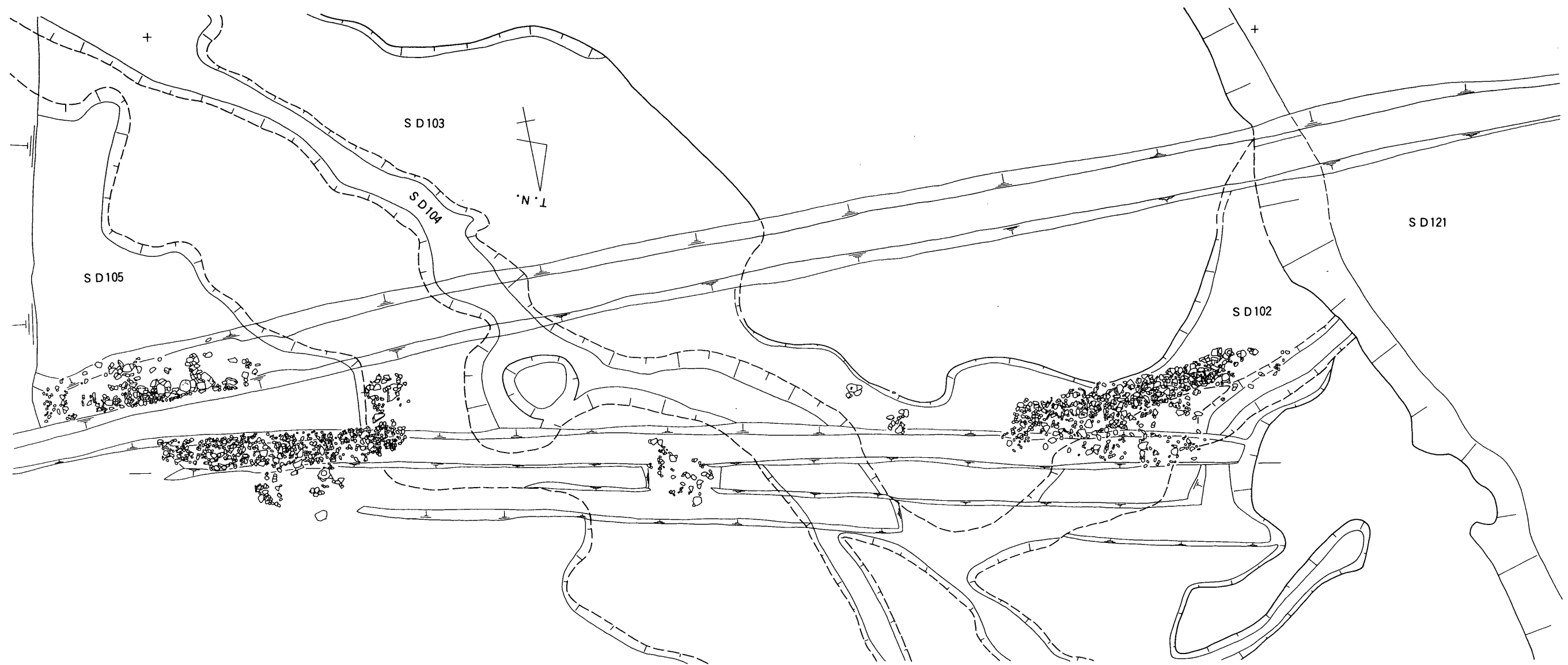
130



131

130・131 S D 102~S D 105合流部

第23図 S D 102~105出土遺物 (1 / 4)

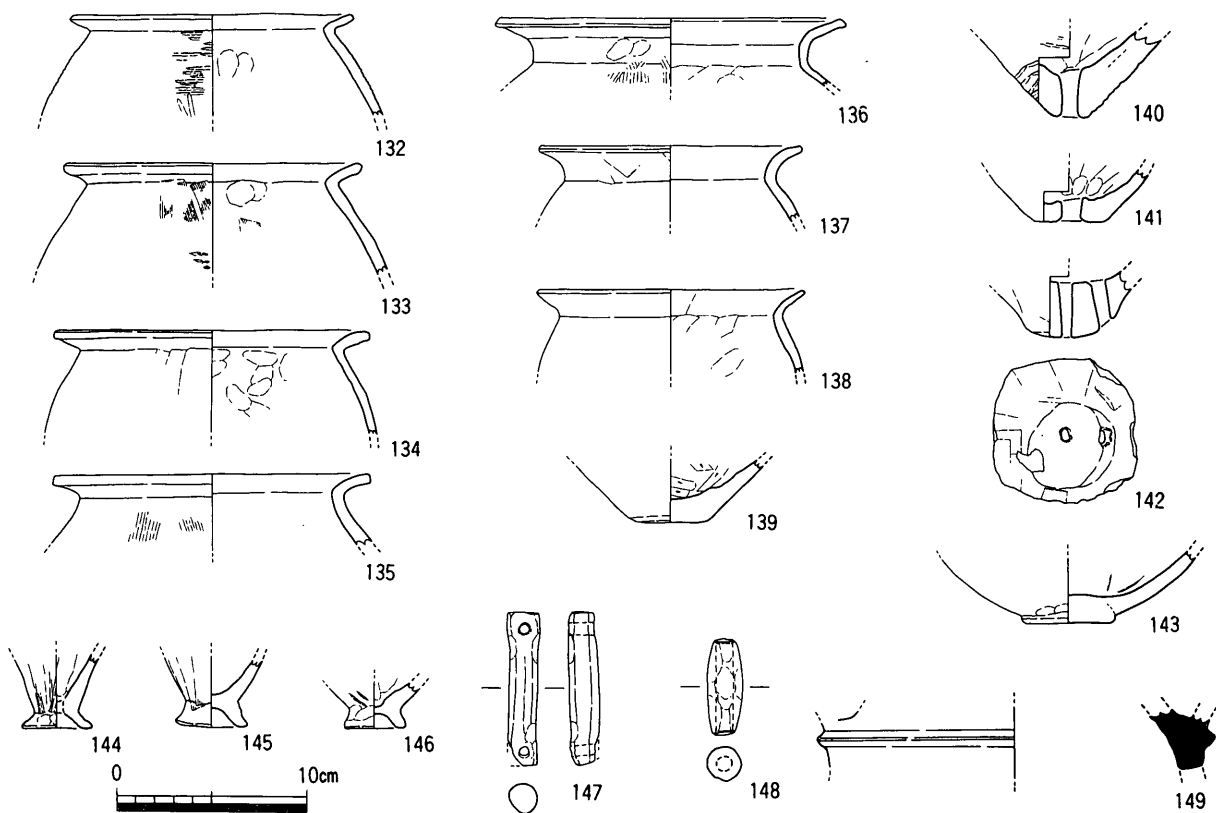


第24図 II区SD104・105土器出土状況, 断面図 (1/40)

II・III区弥生時代包含層（第25・55図，図版36(1)）

II区からIII区西部にかけて弥生時代後期の溝群の上面に堆積していた包含層から出土したものである。埋土は暗褐色砂混粘質土層で，後世の削平を免れた場所で堆積する。厚さは10cm程度で，堆積する範囲は弥生時代後期の溝を検出した場所とほぼラップし，時期もおおむね下部にある溝とあまり変わらないと考えられる。

132～138は甕。132は外面上部にタタキ，下部にヘラミガキを入れる。133～136は外面にハケ目調整，または板ナデを行い，内面にはおおむね指押さえ痕跡を残す。136は口縁部と体部の境にわずかに垂直に立つ頸部のようなものがある。139は底部。内面はヘラ削り，外面は磨滅のため調整は不明である。140～142は甑。140は外面にタタキを入れる。底部は粘土を足して厚くした後穿孔する。141は底部は平底で薄い。142は底部に2孔あける。底部外面に粘土を足して厚くし，板ナデを行う。143は鉢底部。底部はわずかに押しつぶしたようにして作り出す。内面の体部と底部の境付近にはヘラ状工具による圧痕がある。144～146は製塩土器。144・145は外面にヘラ削りを施し，胎土中に角閃石を含む。144は底部が剥がれたような剥離痕を残し，底が抜けた状態になっている。底部は後で充填していると考えられる。146は外面にタタキ目を残す。147は棒状土錘。両端に直径6mm程度の穴をあける。148は管状土錘。149は円面硯。海部がわずかに残る。脚部には長方形の透かしの痕跡が残る。



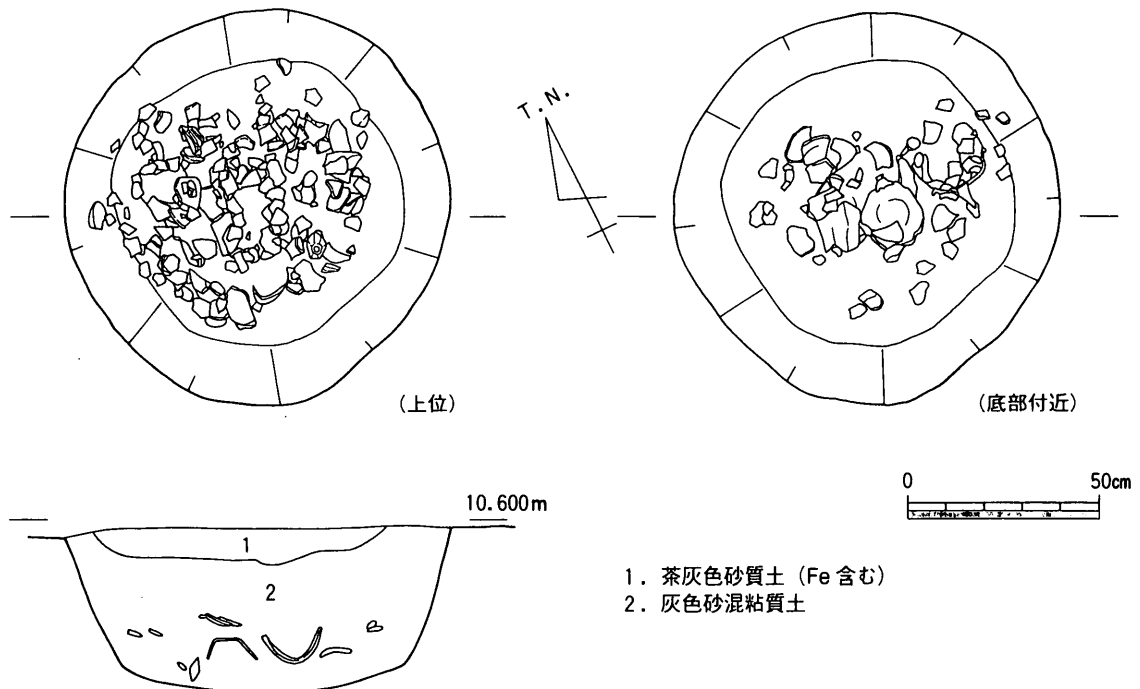
第25図 II・III区弥生土器包含層出土遺物（1/4）

S K 101 第26・27図, 図版20・21・36(2)

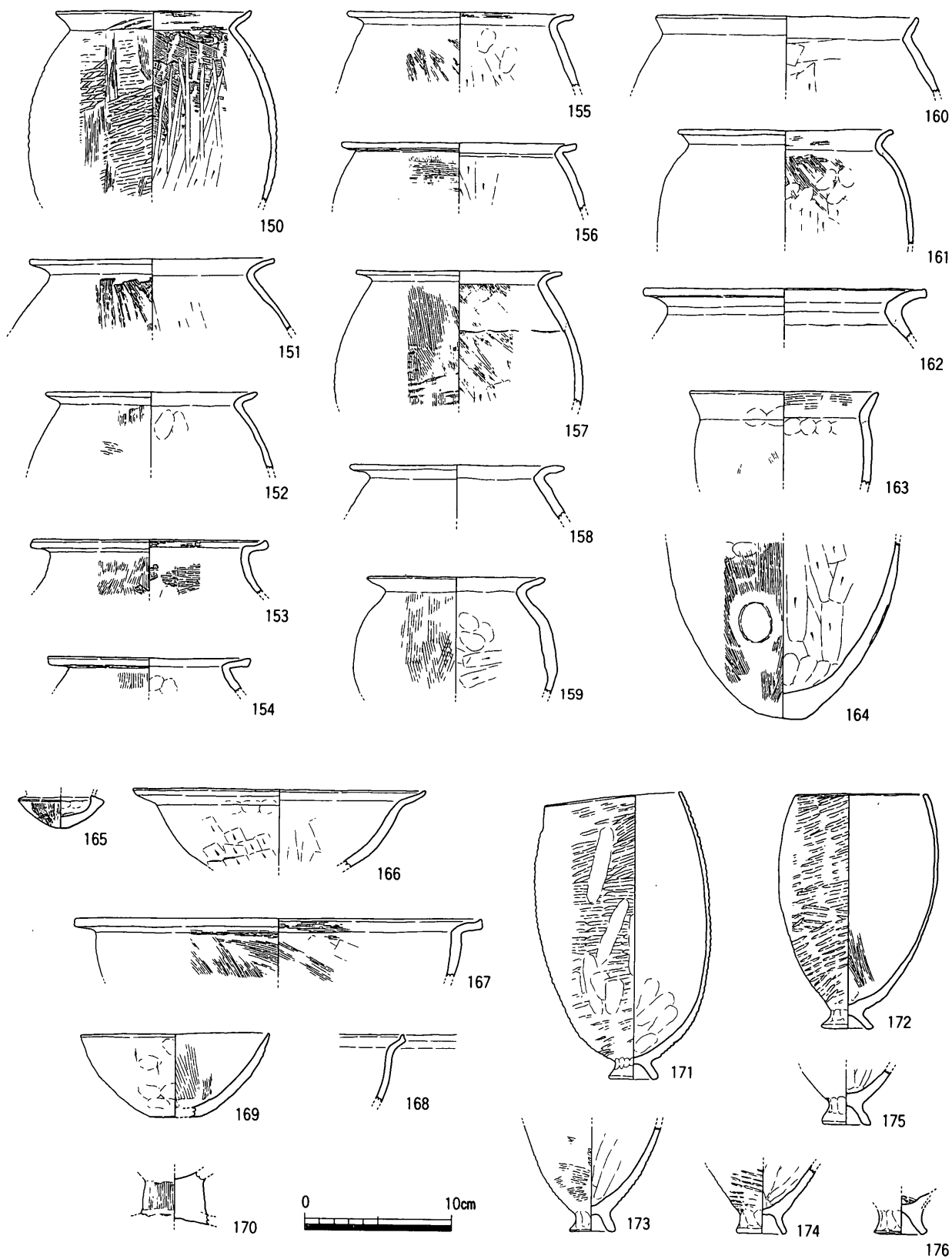
Ⅲ区北東部で検出した土坑である。円形で直径1m, 深さ42cm, 断面形は逆台形で、底は平坦である。埋土は上部に茶灰色砂質土, 中位以下は多量の土器が埋められ, その間に灰色砂混粘質土が堆積していた。この層は土器の廃棄層と考えられる。なかでも製塩土器が多く出土した。土坑からは弥生時代終末期～古墳時代初頭の遺物が出土した。

150～162は甕である。150は外面にタタキ後ハケを行う。口縁部まで叩き出して作る。内面にはハケの後下半をヘラ削り, のち太く彫りのあるヘラミガキを行う。151・152・154～157は外面にハケを施し, 151・155～157は内面に縦方向のヘラ削りを行った後, 上部に指押さえする。短く屈曲する口縁に丸い体部が付く。151は胎土中に角閃石を含む。157は内面上半にはハケを下半にはヘラ削りをする。体部の上部に粘土の接合痕跡を残す。153は口縁端部を上方へつまみ上げ, 体部はなで肩気味である。内外面にハケを施す。胎土中に角閃石を含み, 砂粒をあまり含まない。159はやや小型の甕。粗いハケで, 内面は下半を横方向のヘラ削りする。161は外面は磨滅して調整は不明であるが, 内面上半をハケ目調整, のちに下半をヘラ削りし, 器壁を薄く仕上げている。

163は鉢。体部と口縁部の境に緩い稜を持つ。164は甕の底部。外面はハケ, 内面は底部以外はヘラ削りを行う。体部下部に円形の剥離痕跡がある。165は小型丸底壺。体部はかなり小型化している。外面にハケ調整を行う。胎土中に大きい砂粒を含まず, 砂粒は少ない。角閃石を含む。166～169は鉢。166～168は口縁部が屈曲するもの。166は口径20cm程度で, 口縁部は緩く屈曲し, 端部はわずかに上方へあがる。外面ヘラ削り, 内面に板ナデを施す。167は口径27.7cmで口縁部は鋭く屈曲し, 口縁端部はわずかに上方へ延びる。外面はハケ調整, 内面は浅いハケ調整を行う。168は小破片・磨滅が著しく口径・調整不明。169は椀型で外面には成形時のクラックが残る。内面は浅いハケ調整をする。170は外面にタテ方向のハケを施す。高杯または台付鉢の脚部。171～176は製塩土器。他の溝群から出土したものと違い, 観察できるものはすべて外面調整はタタキで, すべて胎土中に角閃石を含まない。体部内底面に脚部との接合をよくするためか放射状のヘラ状工具痕が残るものが多い。172・176は内面にハケ調整を行



第26図 S K 101土器出土状況, 断面図 (1/20)



第27図 SK101出土遺物(1/4)

う。

遺構の時期は出土遺物より古墳時代初頭と考えられる。

S R 101 (第28図, 図版22(1)・37(1))

Ⅶ区中央付近で検出した南北方向の自然河川である。縄文時代晩期の土器を含む灰色砂層を切り込んでいる。幅2.8m, 深さ0.5m, 断面形はU字状である。方向は検出した範囲ではほぼ真北方向を向き、隣接するⅣ区, Ⅴ区ではみられない。埋土はおおむね2層に分かれる。上層は灰色砂混粘土と浅黄橙色粗砂の互層で、その上位から流木などとともに177・178の土器が出土した。いずれもほとんど磨滅しておらず、完形に近く復元できる。下層は暗灰色砂混粘土で植物遺体を含むものである。遺物は土器の細片がわずかに出土したのみである。

177は鉢。外面上半を指押さえて、下半をヘラ削りで調整する。大きい砂粒を含まず、胎土中に多量の角閃石・金雲母を含む。178は壺。口縁部から底部まで接合することはできなかったが、同一個体と考えられる。球形の体部からほぼ垂直に立ち上がるための頸部を経て口縁部が開く。外面はハケ、内面は上半を指押さえ、下半はヘラ削りを行う。時期は出土遺物より弥生時代後期と考えられる。

Ⅵ区西部弥生土器包含層 (第29～31図, 図版22(2)・37(2)・38(1)・46・47)

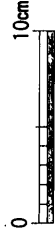
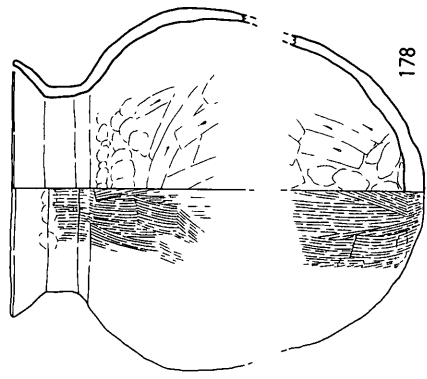
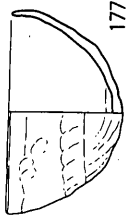
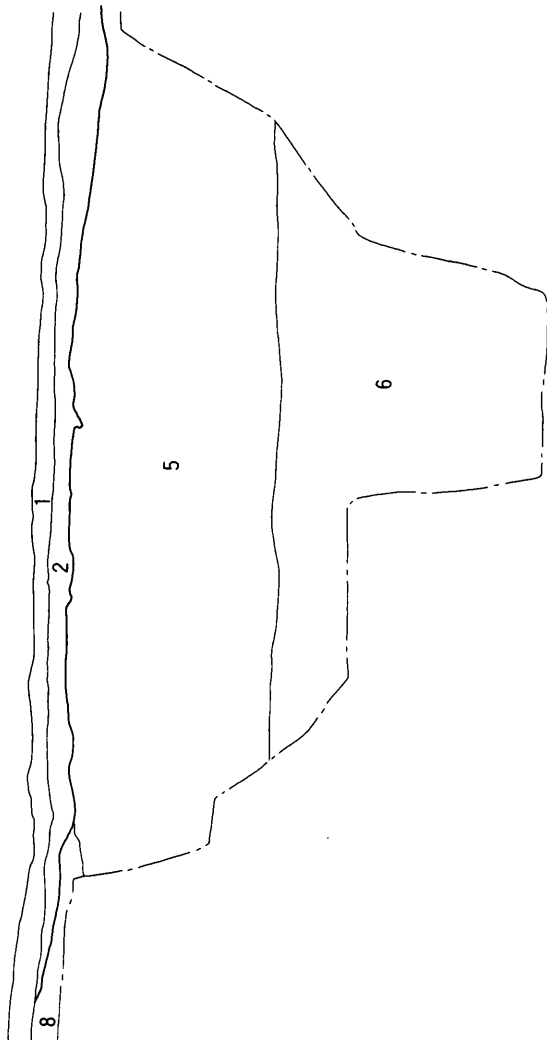
Ⅴ区の中央部からⅥ区西部にかけて広がる。南北は調査区外へ延びるが、幅はおおむね29m, 深さおおむね60cmである。遺物は層ごとに分けて取り上げたが、あまり時期差はないと思われる。遺物は上部から混入したと思われる須恵器が少し出土した他は弥生土器が出土した。時期は弥生時代後期後半である。Ⅴ区東南部からⅥ区西部にかけての包含層の東側縁辺部付近で特に土器が多く出土した。

包含層の埋土は第1層(茶褐色粘質土層), 第2層(暗褐色粘質土層), 第3層(灰褐色砂), 第4層(茶灰色砂混粘土層)に分けて取り上げた。第3層からの出土遺物はほとんどなかった。弥生土器はいずれも磨滅が著しく、調整を十分に観察できるものはなかった。

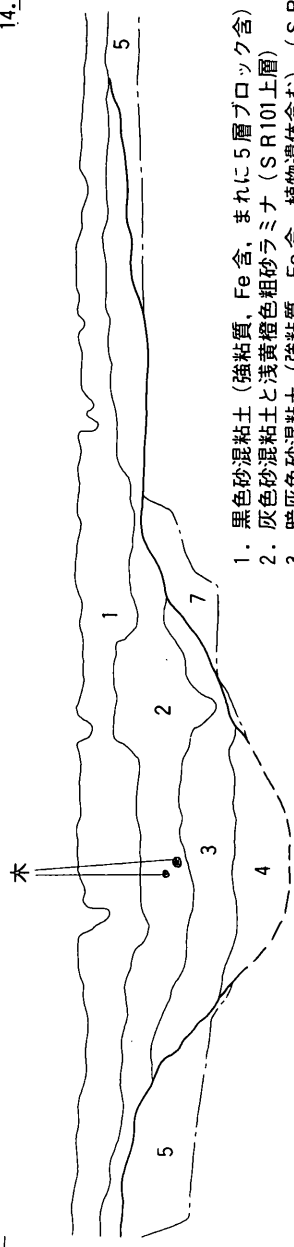
179～182はⅤ区北東部からⅥ区西部に厚さ約10cm堆積していた茶褐色粘質土層(第1層)である。Ⅵ区西部に堆積していた包含層の上部に堆積しており、Ⅵ区を調査した際には重機で掘り下げた。ここからは弥生土器, 須恵器等が出土している。179は製塩土器。外面はヘラケズリで調整し、胎土中に角閃石を含む。180・181は須恵器杯蓋。181は頂部と口縁部の境付近に緩い沈線がある。ともに頂部付近は回転ヘラ削り。182は須恵器杯身。底部は回転ヘラ削り。これらの須恵器は6世紀代である。

183～229は暗褐色粘質土層(第2層)から出土した。土器が一番多く出土した層で、おもに包含層の東側縁辺部に溝状になって出土した。183は縄文土器浅鉢。体部が屈曲するもので割れ口の両端とも粘土紐の端部になる。縄文時代晩期。184～193・195～197は甕。184は口縁部を上部へ拡張させ、沈線を施す。弥生時代中期後半。185～187は肩部がなで肩気味で、口縁端部をわずかに上方へ肥厚させる。弥生時代後期後半頃の下川津B類の甕の形態に似るが、いずれも角閃石は含まず金雲母をかなり含む。あまり大きい砂粒は含まない。185は体部上部の内面に横方向のヘラ削りを行う。188～190は薄く丸い体部からくの字状に口縁部が付く。188・190は外面にタタキが、189は磨滅のためわかりにくいだが、うすくハケがみえる。191・192は小型の甕。191は胎土中に角閃石を多く含む。194は壺。短い頸部で口縁部が開く。195・196の甕はやや長めの口縁部で、口縁端部へ向けて外側へ反る。口縁端部は拡張気味。198～202甕底部。198は外面をタタキ、内面は指押さえで、199は外面をタタキ、内面は板ナデで成形する。200・201は平底の底部。200は体部外面の最下部に顕著に指頭痕を残し、平底を作る。203は甗。やや小型で体部と底部の厚さがあまり変わらず丸底になる。底部に粘土を継ぎ足さない。204～207は壺の口縁

14.800m

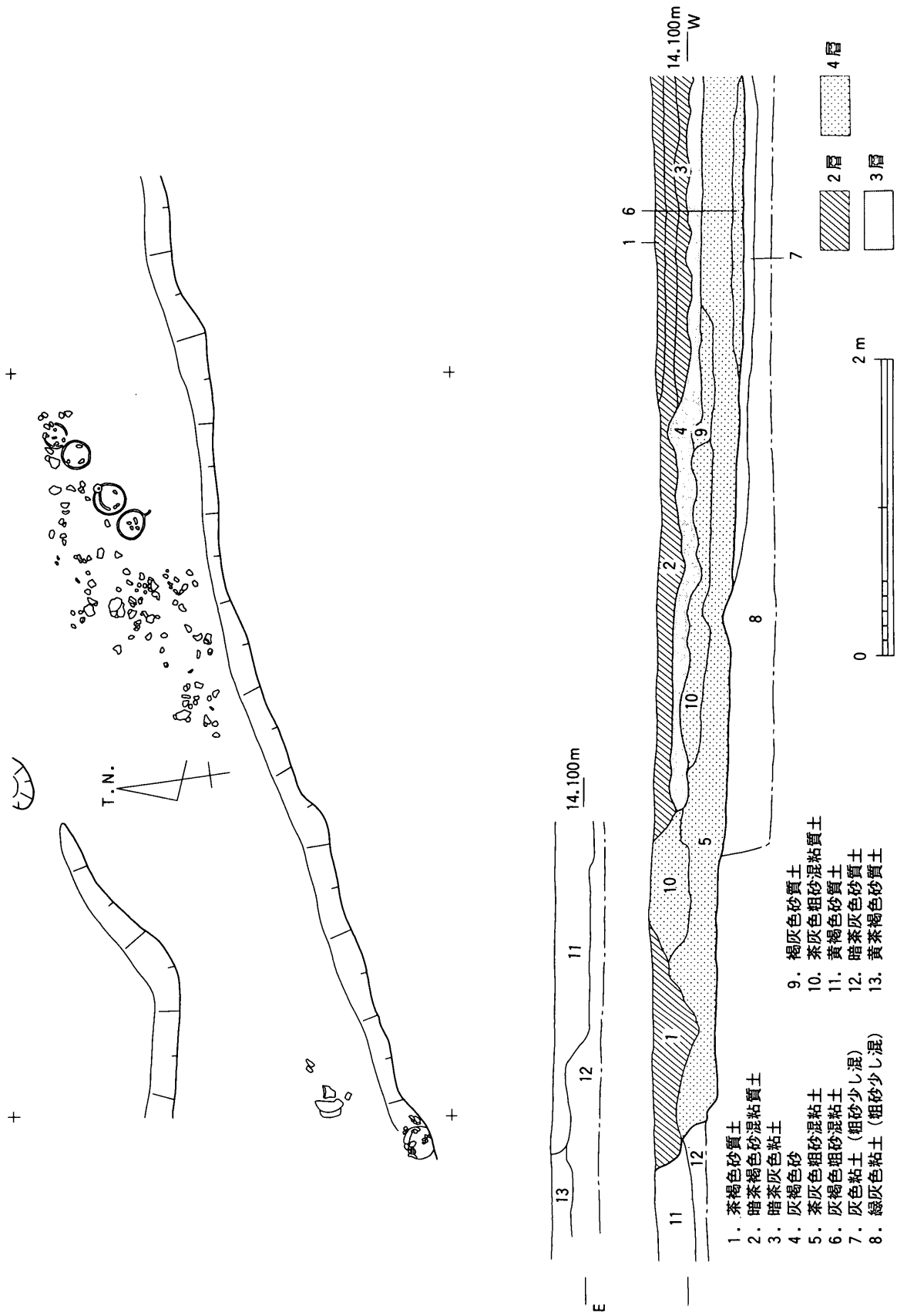


14.800m
E

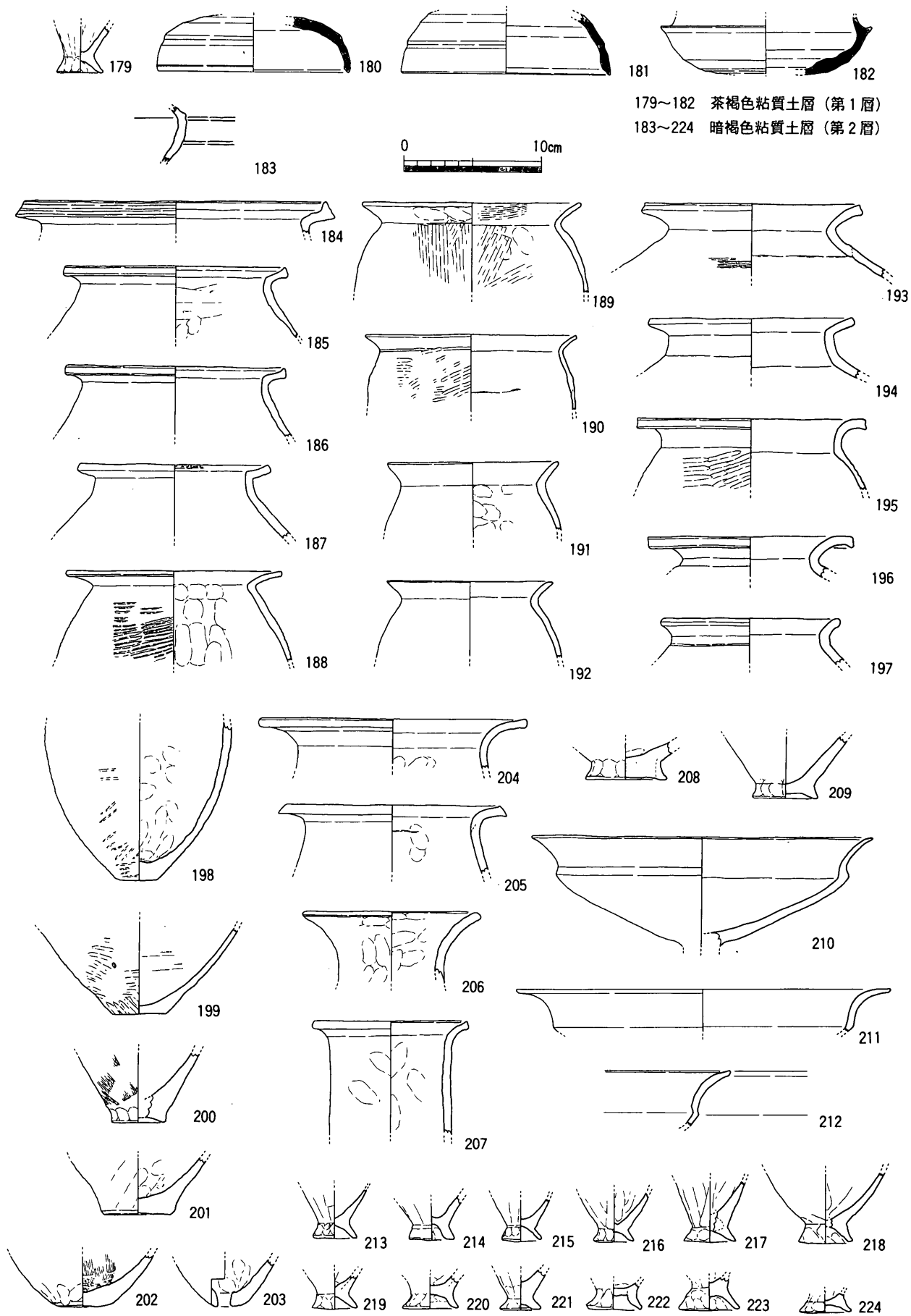


1. 黒色砂混粘土 (強粘質, Fe 含, まれに5層ブロック含)
2. 灰色砂混粘土と浅黄橙色粗砂ラミナ (SR101上層)
3. 暗灰色砂混粘土 (弱粘質, Fe 含, 植物遺体含む) (SR101中層)
4. 3層と5層のラミナ (植物遺体包含層)(SR101下層)
5. 灰色～浅黄色中～粗砂ラミナ (縄文土器包含層)
6. 灰白色～灰色粗砂 (3～5cmの垂円礫含む) 灰色粘土 (植物遺体含む) ラミナ (縄文土器包含層)
7. 青灰色砂混粘土 (Fe, 植物遺体含む)
8. オリーブ灰色, 砂混粘土 (強粘質, Fe 含)

第28図 SR101断面図 (1/40), 出土遺物 (1/4)



第29圖 VI区弥生土器包含層土器集中部平・断面図 (1/40)

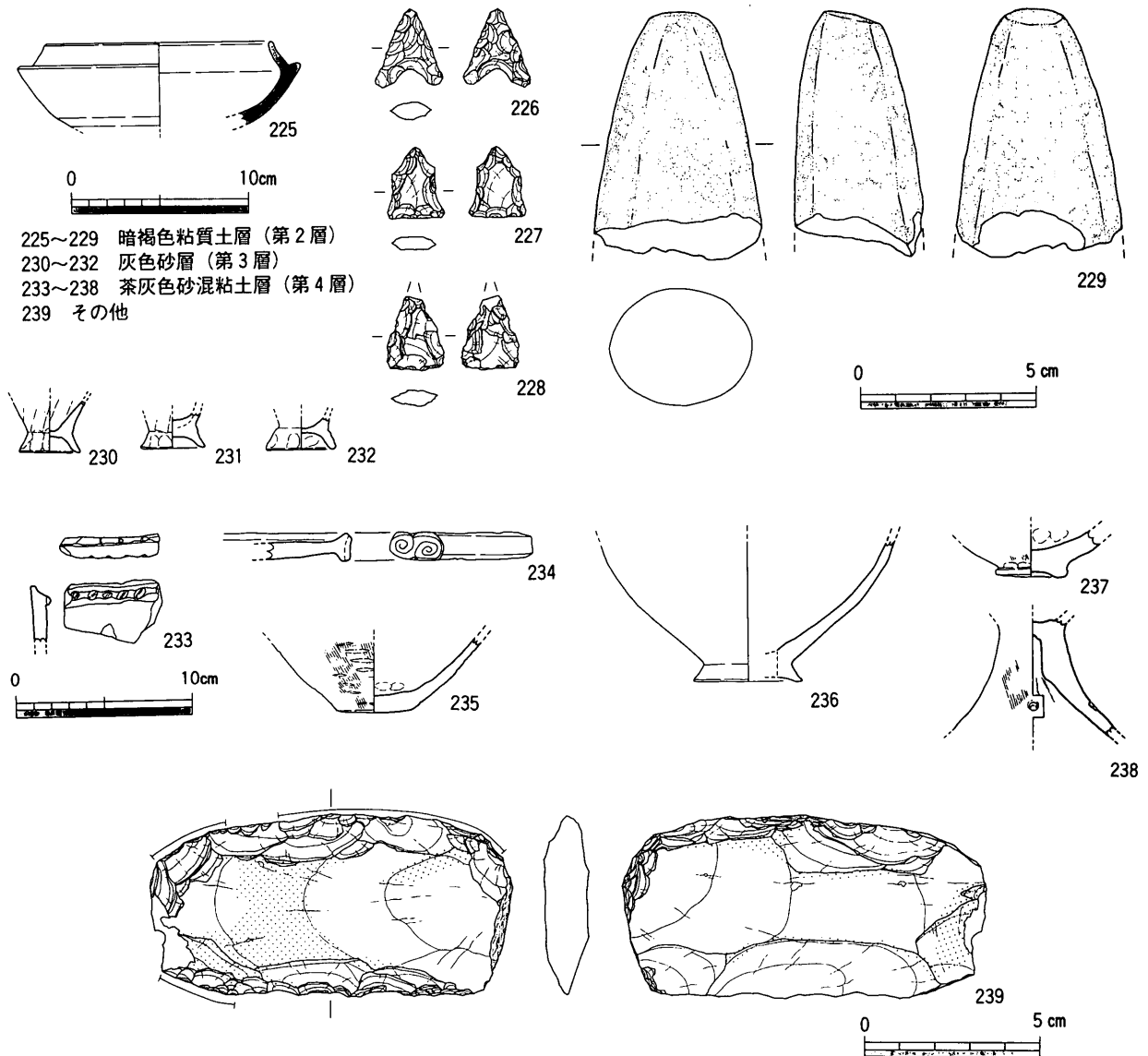


第30图 VI区弥生土器包含層出土遺物(1) (1/4)

部。204・205は広口壺である。205は口縁端部をわずかに上方へ広げている。207は頸部内面に指頭痕を顕著に残す。208・209は鉢の底部。体部と底部の境に強力な指押さえを施し、明確な稜を作る。208は底部に更に粘土を足して横へ広げている。210～212は高坏。いずれも砂粒をあまり含まない。211は胎土中に角閃石を含む。213～224は製塩土器。218以外は体部にヘラケズリを施し胎土中に角閃石を多く含む。218は外面にタタキを残す。他の製塩土器に比べて大型品である。217では脚部と体部の境の断面から、底部に粘土を充填して作っている様子が観察できる。219からは体部から底部が剥離する様子が観察できる。225は須恵器杯身。紛れ込みと思われる。底部は回転ヘラ削りである。226～228は石鏃。すべてサヌカイト製。226は凹基式、227・228は平基式。229は太型蛤刃石斧。結晶片岩製。上部は平らに成形し、下部は欠損する。

230～232は灰色砂層（第3層）出土遺物。230～232は製塩土器でいずれも体部をヘラ削りし、角閃石を含む。

233～238は茶灰色砂混粘土層（第4層）である。233は縄文土器深鉢。晩期。口縁端部にD字の刻み目を入れ、体部外面に突帯を貼り、刻み目を入れる。234は壺の口縁部。口縁端部に渦巻き状の円形浮



第31図 VI区弥生土器包含層出土遺物(2) (1/4・1/2)

文を貼る。235は甕の底部。大きい砂粒を含まず、胎土中に角閃石・金雲母を多く含む。236・237は鉢の底部。238は高坏脚部。脚の上部のすぼまったところは直径6mm程度に直線的に孔があげられている。外面には1カ所穿孔を行った痕跡があるが、不完全で内面まで穿孔が達していない。

239はV区側溝掘削中に出土した。層位は不明。石庖丁。サヌカイト製。

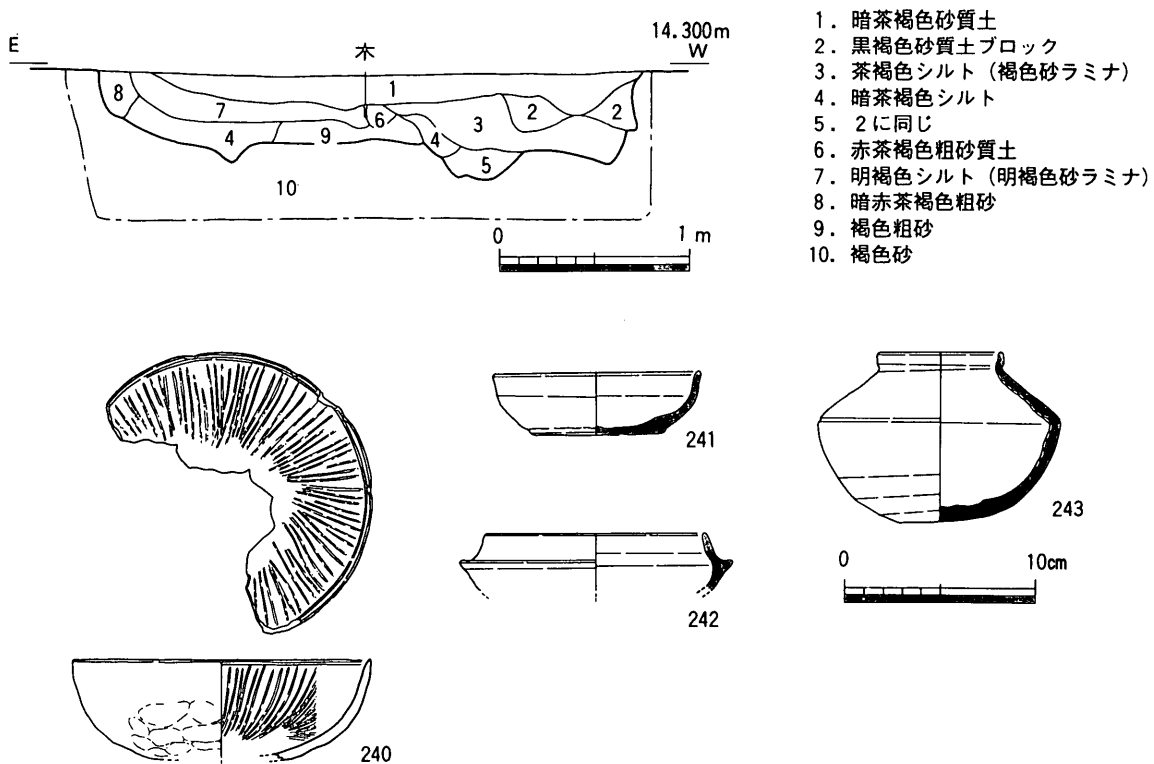
(1) 國木健司「八丁地遺跡」『香川県埋蔵文化財発掘調査報告』1994.3

(4) 古代

S D 106 (第32図, 図版23(1)・38(2))

VI区ほぼ中央部で検出した南北方向の溝である。埋土の中位以下には砂層が多くみられ、流れが速かったことを窺わせる。幅2.9m, 深さ55cm, 溝底部は水の浸食を受けたと思われる, 凹凸がある。埋土中からは土師器杯, 須恵器杯・壺などが出土した。7世紀中葉頃と考えられる。

240は土師器杯。外面口縁部に横ナデ, 体部に指押さえ痕を残し, 内面は放射状の暗文を入れる。241は返りを持たない杯。底部はヘラ切り後なでている。242は返りを持つ杯身である。やや時期が遡り, 6世紀中葉～後半。243は壺。短い頸部に肩の張る体部を持つ。肩部に稜を持ち, そこに沈線を入れる。体部下半には回転ヘラ削りを施す。



第32図 S D 106断面図 (1/40), 出土遺物 (1/4)

(5) 鎌倉・室町時代

当該期の遺構はⅡ区で溝2条，Ⅲ区西半で小規模溝群とそれに伴うと考えられるピット群，Ⅳ区で自然河川群を検出した。

S P 101 (第33図，図版38(3))

S D 115の掘り下げ後検出したピットである。S D 109とS D 115の交わった場所で検出した。直径30cm，深さ45cmの円形である。ピット中からは5/8程度残存する土師器杯が出土した。

244は土師器杯。ヘラ切りにより底部を切り離し，ナデを行う。内外面は回転ナデを行う。

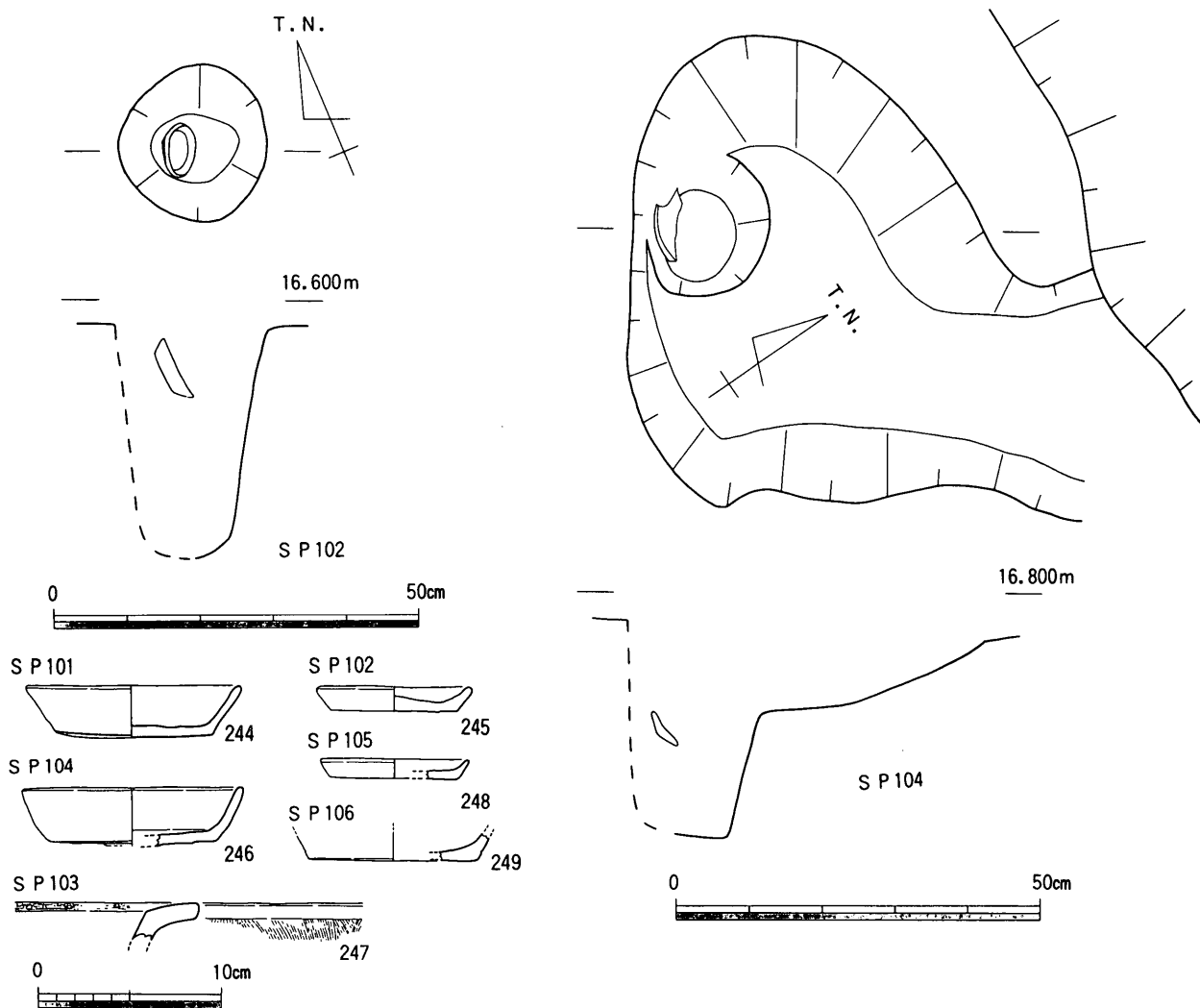
S P 102 (第33図，図版23(2)・38(3))

S D 108，S D 111，S D 115，S D 120に囲まれた位置で検出した。直径20cm，深さ32cmの円形で，埋土は灰色砂混粘質土である。ピットの上部から，東側に上面を向けて斜めに傾いた状態で土師器小皿が完形で出土した。

245は土師器小皿。ヘラ切りにより底部を切り離し，やや厚めの作りで内面中央付近は盛り上がる。

S P 103 (第33図)

S D 115とS X 101の交点付近で検出したピットである。直径30cm，深さ21cmの円形で，埋土は灰色粘質土で締まりが悪い。ピット中からは土師器土鍋の小破片が出土した。



第33図 Ⅲ区ピット平・断面図 (1/10)，出土遺物 (1/4)

247は土師器土鍋の口縁部。体部外面から口縁部内面にかけてハケ調整を行う。

S P 104 (第33図, 図版24(1))

S D 111の南側0.5mの位置で検出した。深さ10cm程度の浅い落ちを掘り下げた後、その西端付近で検出したピットである。直径20cm, 深さ30cmの円形で、埋土は灰色粘質土である。ピット中からはピットのほぼ上端で杯の内面を溝の方に向けて斜めに傾けた状態で土師器杯の破片が出土した。

246は土師器杯。底部外面にヘラ切り痕を残し、内外面に回転ナデを行う。

S P 105 (第33図)

S X 101の掘り下げ後に検出したピットである。直径20cm, 深さ40cmの円形で、埋土は灰色粘質土で締まりが悪い。ピット内から土師器小皿の小片が出土した。

248は土師器小皿。やや薄手の作りで、底部外面にヘラ切り痕を残す。

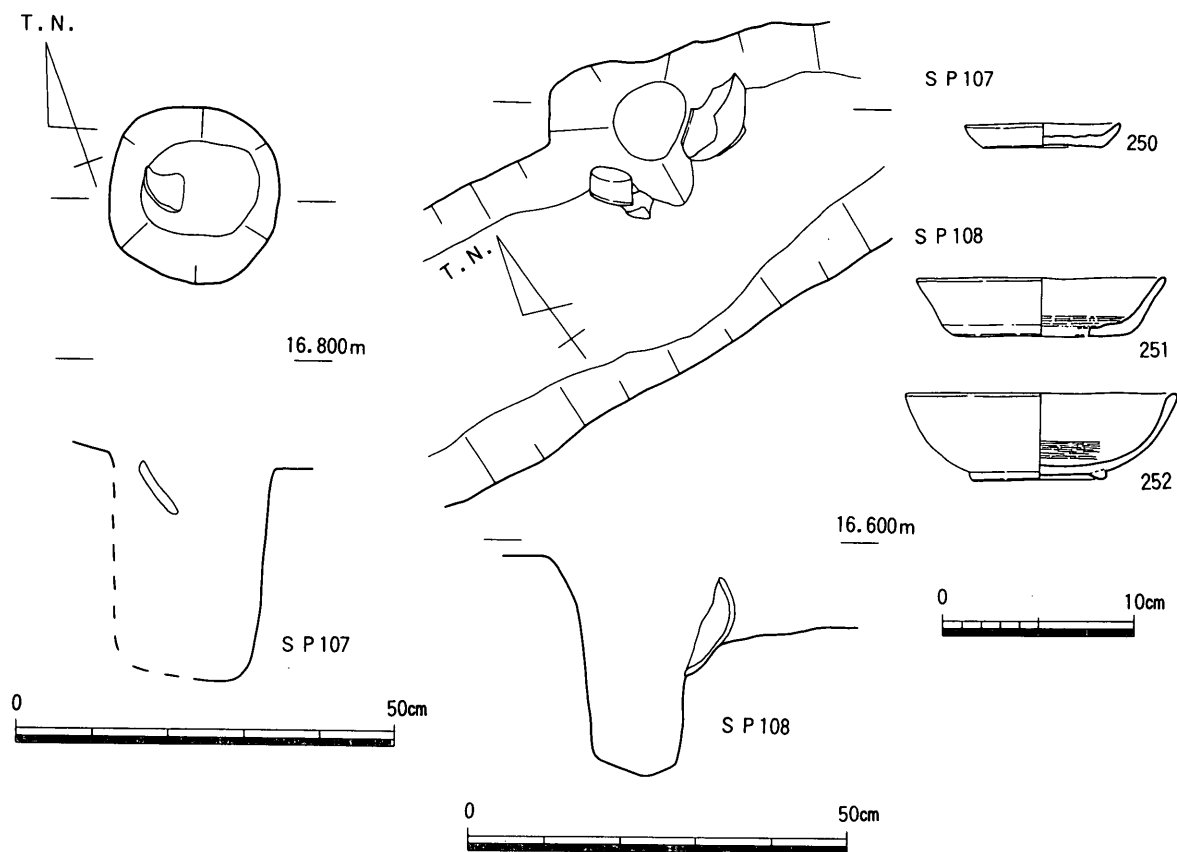
S P 106 (第33図)

S D 117の東肩付近で検出したピットである。直径30cm, 深さ20cmの円形である。ピット内からは土師器杯の小破片が出土した。

249は土師器杯の底部。

S P 107 (第34図, 図版24(2)・38(3))

S D 108・S D 109・S D 112・S D 120に囲まれた位置で、S K 102の東側に接して検出したピットである。直径22cm, 深さ28cmの円形で、埋土は灰色粘質土で締まりが悪い。ピット内からは土師器小皿が上面を東へ向けて、傾いた状態で出土した。



第34図 S P 107・108平・断面図 (1/10), 出土遺物 (1/4)

250は土師器小皿。底部はヘラ切り痕を残し、やや厚手で、底部内面に明瞭に回転ナデによる凹凸を残す。

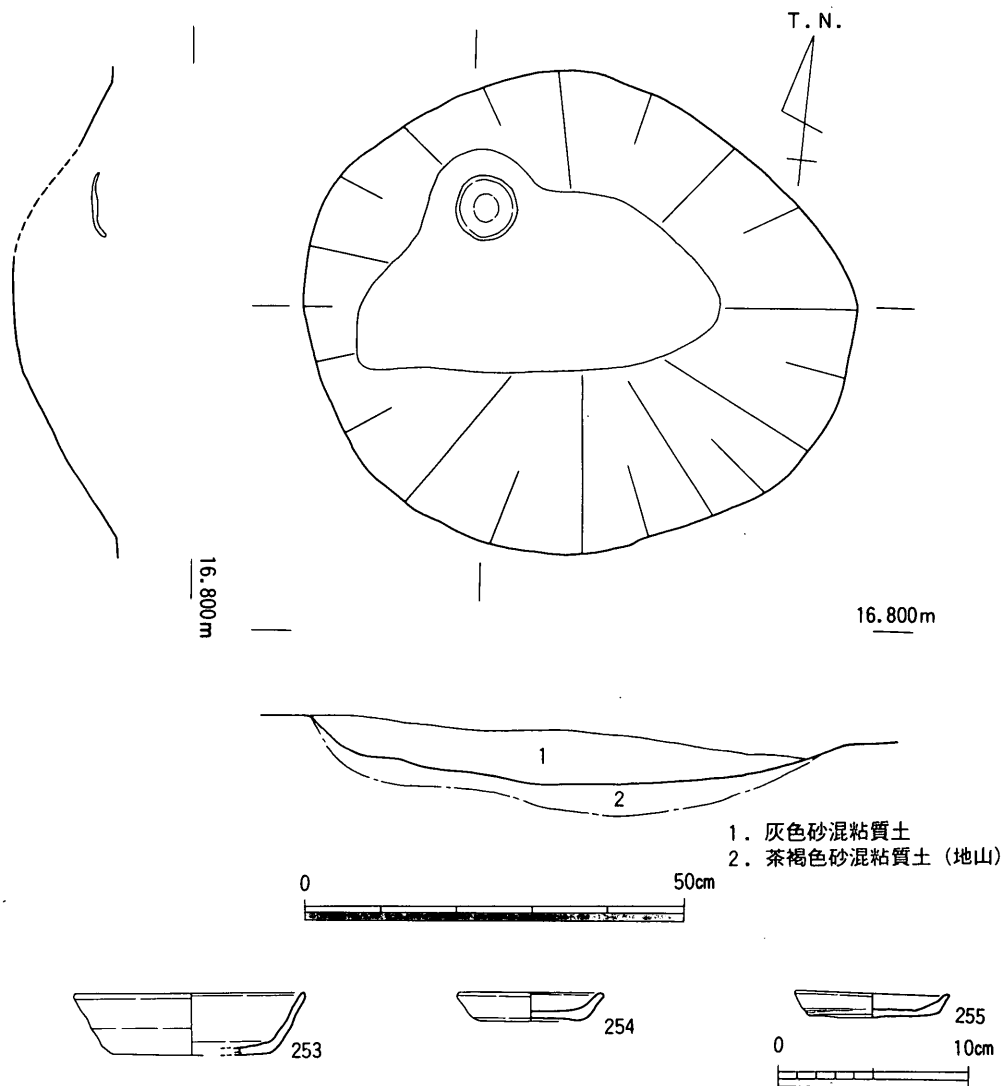
S P 108 (第34図, 図版25(1)・38(3))

S D 110の掘り下げ後に検出したピットである。S D 120との交点付近である。直径40cm, 深さ56cmの円形で、埋土は灰色砂質土である。ピット内部からはほぼ垂直の状態、ほぼ北を向いて土師器碗が、北東を向いて土師器杯が出土した。

251は土師器杯。焼成は悪い。底部にヘラ切り痕を残し、内外面に回転ナデを行う。口縁部内面に重ね焼き痕跡を残す。252は土師器碗。焼成が悪く、磨滅が著しい。口縁端部はやや肥厚し、内面の底部と体部の境付近にハケ調整を行う。251と252は胎土や色調、焼成状況がよく似通っている。

S K 102 (第35図, 図版25(2)・38(4))

Ⅲ区北西部S D 109の中央南側で接して検出した遺構である。楕円形で長径72cm, 短径62cm, 深さ6cmで断面形は浅い皿状、埋土は灰色砂混粘質土の単層である。土坑の上面からはほぼ水平の状態を上向きに完形の土師器小皿が出土した他、土師器杯・小皿(完形)が出土した。



第35図 S K 102平・断面図(1/10), 出土遺物(1/4)

253は土師器杯。内外面とも回転ナデで底部外面に板ナデ痕を残す。254・255は土師器小皿。254はやや厚手。底部はヘラ切りののちナデで調整している。255はやや薄手の作りで底部外面に板圧痕を残し、底部と体部の境にヘラ切り時の粘土のしわを残す。

S D 108 (第36・37図, 図版39(1))

Ⅲ区西部, S D 109に1.8m南側に平行して走る溝である。幅40cm, 深さ9cm, 埋土は茶褐色砂混粘質土で, S D 109・112と同じである。この溝はS D 112・114交点付近で途切れてしまう。また, この地点から1.8m東でS D 112に平行して南方向へ幅25cm, 深さ4cmの溝が分岐するが, 南へ2.5mで途切れる。この2条の溝の前後関係はない。S D 108は埋土や切り合い関係から, S D 114より古くS D 112と同時併存だったことがわかり, S D 112へつながって終わっていたと考えられる。この両者の交点のS D 108側でピット状の直径40cm, 深さ25cmの落ち込みがあり, その南肩で土師器小皿が上向きで, 完形で出土した。ピットと溝の前後関係は不明であるが, 溝に関連する遺構であると思われる。S D 120の東側では溝のラインも不明瞭になり, 土管の西側1.2m付近ではS D 108の南側でS X 101が広がり, 溝のラインは明確にならなかった。S D 108はS X 101で終わると考えられる。埋土中からは他には土師器杯・甕口縁部, 須恵器高台付杯などが出土した。

256は土師器小皿。ピット状の落ち込みから出土したものである。やや薄手, 底部はヘラ切り痕, 板圧痕がみられる。257は土師器碗の底部。S D 108とそこから南へ分岐する小規模な溝との交点付近で出土した。磨滅が著しい。

S D 109 (第38図)

Ⅲ区西部北側で検出した東西方向の溝である。幅46cm, 深さ17cm, 埋土は茶褐色砂混粘質土で, S D 108・112と同じである。この溝はS D 112, 114付近までは溝のラインはしっかりしているが, それより西では段々浅くなり, Ⅲ区西端付近で消失する。また土管付近で北の調査区外へ出る。溝の埋土よりS D 108・112は同時併存と考えられる。埋土中からは弥生土器, 土師器の細片が出土した。

258は弥生土器壺の口縁部。

S D 110 (第39図)

Ⅲ区北西隅を東から北へ途中で屈曲して抜ける溝である。幅35cm, 深さ6cm, 埋土は茶褐色砂質土である。S D 110のS D 120交点付近でS D 110の下部からS P 108を検出した。

埋土中からは土器の細片がわずかに出土しただけである。

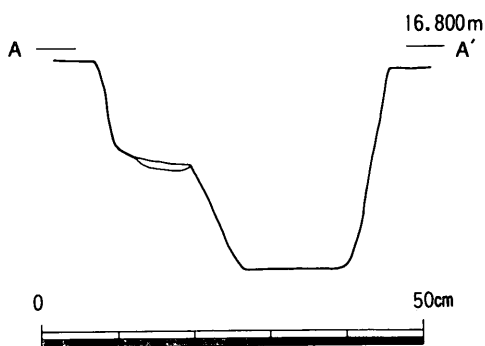
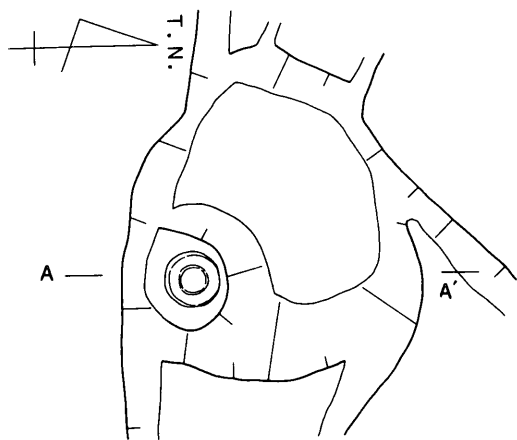
S D 111 (第40図)

Ⅲ区西側S D 108の南側へ2.4mの位置で平行して走る溝である。幅35cm, 深さ4cm, 埋土は茶褐色砂混粘質土である。S D 113・S D 120に切られ, S R 120の東側でS X 101と判別がつかなくなる。西側は発掘調査の際にはS D 112に切られるように見えたが, 切り合っている部分が少なく, 埋土の類似性から同時併存の可能性もあろう。S D 120の西側約1mで, 東西30~60cm, 南北1.5m, 深さ4cmの茶褐色砂質土の浅い落ち込みを切り込む。その浅い落ちの下部からS P 104を検出した。埋土中からは土師器小皿, 瓦器碗の他土器細片が出土した。

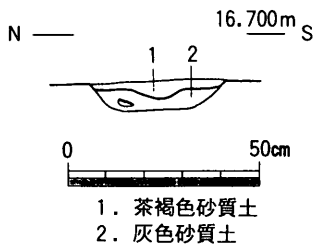
259は土師器小皿。厚めの作りである。

S D 112 (第41図)

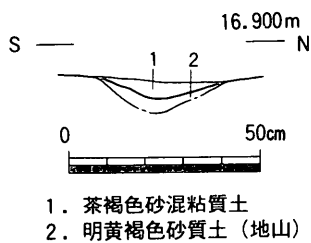
Ⅲ区西端付近で検出した南北方向の溝である。地形の傾斜にあわせて方向を北で大きく東へ振っている。幅45cm, 深さ14cm, 埋土は茶褐色粘質土でS D 108・109と同じである。調査区西端で後世の落ちに



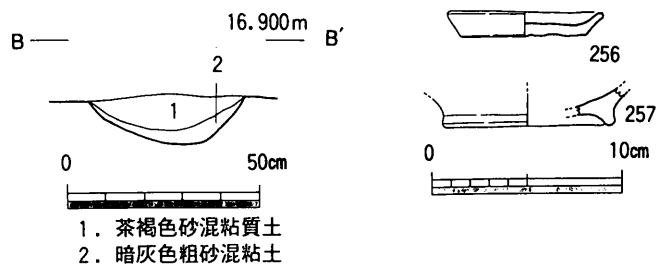
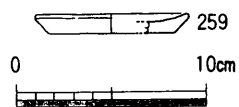
第36图 SD108平·断面图 (1/10)



第39图 SD110断面图 (1/20)

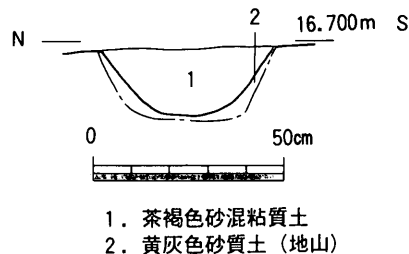


- 1. 茶褐色砂混粘质土
- 2. 明黄褐色砂质土 (地山)

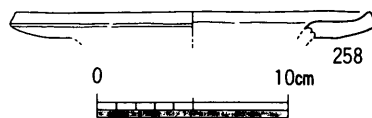


- 1. 茶褐色砂混粘质土
- 2. 暗灰色粗砂混粘质土

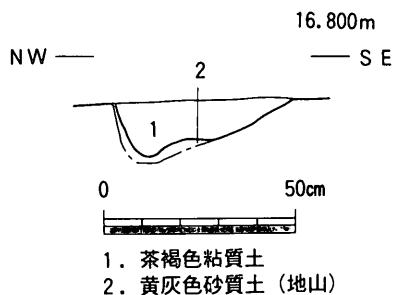
第37图 SD108断面图 (1/20), 出土遗物 (1/4)



- 1. 茶褐色砂混粘质土
- 2. 黄灰色砂质土 (地山)

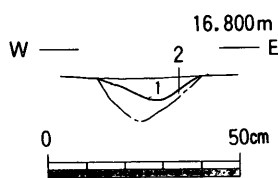


第38图 SD109断面图 (1/20), 出土遗物 (1/4)

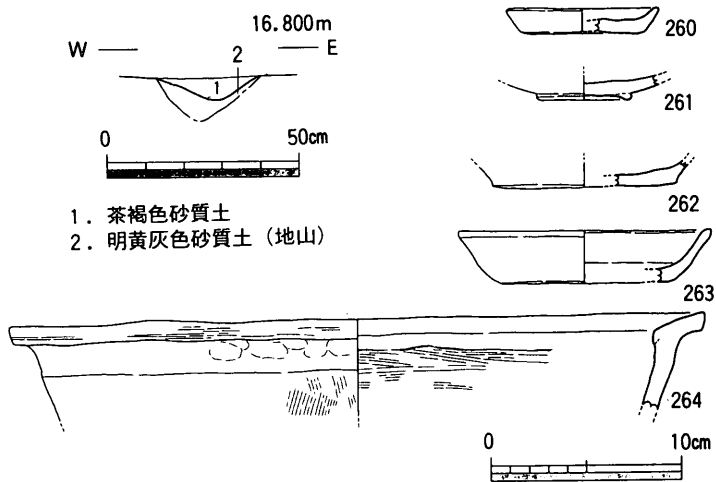


- 1. 茶褐色粘质土
- 2. 黄灰色砂质土 (地山)

第41图 SD112断面图 (1/20)



- 1. 茶褐色砂质土
- 2. 明黄灰色砂质土 (地山)



第40图 SD111断面图 (1/20), 出土遗物 (1/4) 第42图 SD113断面图 (1/20), 出土遗物 (1/4)

切られ、その北側は不明である。S D110を切り、S D108, S D109と交差する。

埋土中からは土師器または弥生土器の細片、サヌカイト片が出土した。

S D 113 (第42図, 図版39(2))

Ⅲ区西端で検出した南北方向の溝である。この溝の方向はS D112とは異なり現在の地割と同じである。途中で一度途切れてしまうものの、南方で再び出現し、S D111を切る。幅26cm, 深さ6cm, 埋土は茶褐色砂質土でS D114の埋土と同じである。溝からは土師器杯・甕, 弥生土器細片が出土した。

260は土師器小皿。厚手の作りで底部はヘラ切り痕を残す。261は土師器碗底部。退化した貼り付け高台を付ける。262は土師器杯の底部。底部にヘラ切り痕, 板圧痕を残す。263は土師器杯。口縁部。264は土師器土鍋。内外面をハケ調整し, 口縁部内面を横ナデ, 外面の口縁部と体部の境付近を指押さえして, 口縁部を作り出す。

S D 114 (第43図)

Ⅲ区西端, S D113の東80cmの位置で検出した溝である。幅85cm, 深さ13cm, 埋土は上層がS D113と同じ, 下層は灰色砂質土である。

この溝はⅢ区の中央付近で一度消失するが, 南部で延長部と考えられる溝が延びる。

S D114からはごく小破片の土器がわずかに出土しただけであった。

S D 115 (第44図, 図版26(1))

Ⅲ区中央付近で検出した南北方向の溝である。方向はS D113・114・120と同じで現在の地割の方向である。幅22cm, 深さ4cm, 埋土は灰色砂質土である。S X101が広がる付近で消失する。S D115の中央付近, S D116と交差する付近の溝の肩部で, 土師器小皿が浮いた状態で上向けで完形で出土した。埋土中からは他には土器細片しか出土しなかった。

265は土師器小皿。底部にヘラ切り痕, 板圧痕を残す。

S D 116 (第45図, 図版46)

Ⅲ区北西部で検出した小規模な溝である。S D120とS D109が交差する付近から南東方向へ約2m延びるが, S D115の東側で途切れる。S D120, S D115に切られる。幅30cm, 深さ4cm, 断面は浅い皿状で, 埋土は茶褐色砂混粘質土である。S D116の南側をほぼ並行して同様の溝が走り, S D108で消滅する。S D116からは判別のつかない土器の小破片がわずかと石鏃が1点出土しただけである。

266は石鏃。サヌカイト製で凹基式。

S D 117 (第46図)

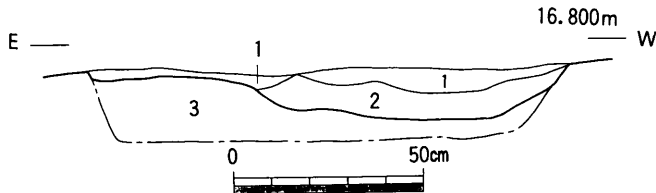
Ⅲ区中央付近北端部でわずかに検出した溝である。方向はS D120, S D115等とほぼ同じで, 幅78cm, 深さ15cm, 埋土は暗灰色砂質土である。途中で土管による破壊を受け, その後の延長部は不明である。

溝の埋土からは土師器, 須恵器の小破片の他瓦器碗が出土した。

S D 118 (第47図)

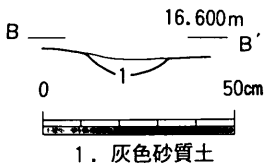
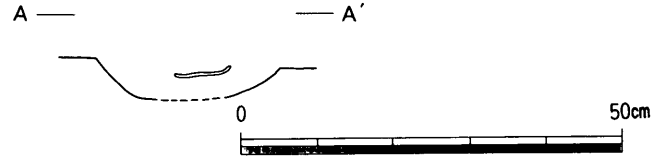
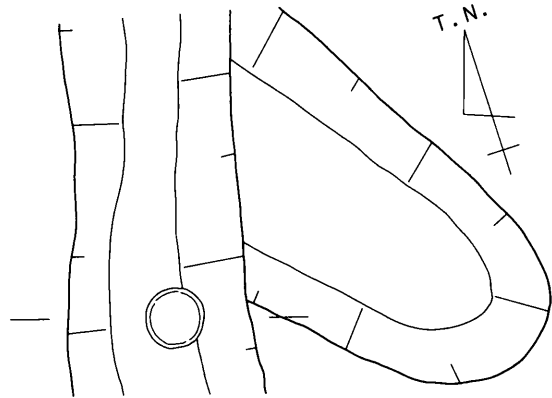
Ⅲ区南部中央付近で検出した南北方向の溝である。幅64cm, 深さ20cmで断面形状はやや凹凸がある。埋土は灰色砂質土でS D120に類似し, S D120が分岐するものである可能性がある。埋土中からは製塩土器, 土師器土鍋, サヌカイト片が出土した。

267は製塩土器。体部外面を板ナデし, 胎土中に角閃石を含む。268は土師器土鍋。内面に横方向のハケを施し, 外面は指押さえで成形する。

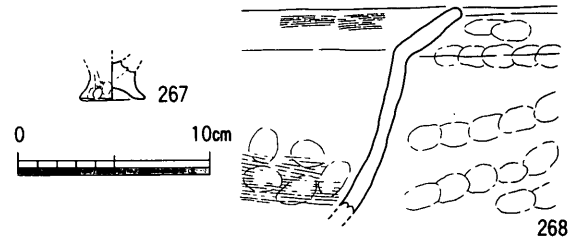


1. 茶褐色砂質土
2. 灰色砂質土
3. 明黄灰色砂質土 (地山)

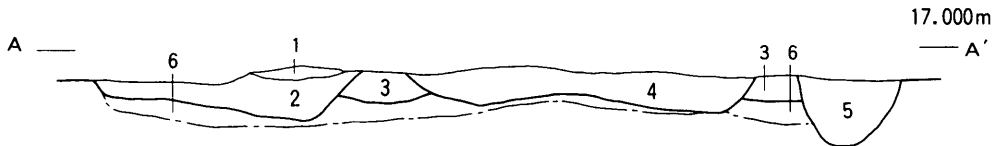
第43図 SD114断面図 (1/20)



第44図 SD115平・断面図 (1/10), 断面図 (1/20), 出土遺物 (1/4)



第47図 SD118断面図 (1/20), 出土遺物 (1/4)

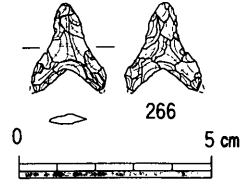


1. 暗灰色粗砂混粘土
2. 暗灰色粗砂混粘質土 (Fe 混)
3. 灰色砂混粘質土
4. 暗灰色粗砂混粘質土
5. 暗灰色粗砂混粘質土
6. 黄灰色粗砂混粘質土 (地山)

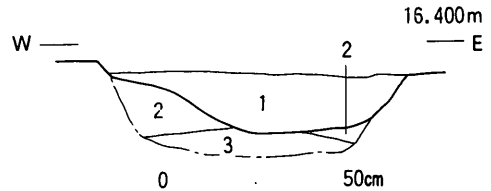


1. 暗灰色砂混粘質土

第48図 SD119断面図 (1/20), 出土遺物 (1/4)

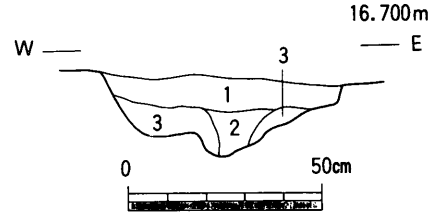


第45図 SD116出土遺物 (1/2)

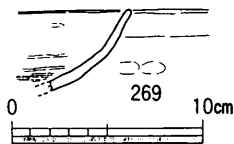
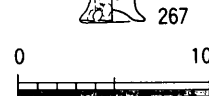


1. 暗灰色砂質土 (2の土が混)
2. 黄灰色砂質土 (地山)
3. 青灰色砂混粘質土 (地山)

第46図 SD117断面図 (1/20)



1. 灰色砂質土 (粘質土混)
2. 灰色砂質土 (Fe 少し)
3. 明灰色粗砂混粘質土 (Fe 少し)



S D 119 (第48図)

Ⅲ区中央付近を南西から北東方向に走る溝である。北側で幅95cm, 断面形は浅い皿状で, 1カ所わずかに幅20cmで窪んでいるところがある。深さは浅い部分で7cm, 深い部分で11cm, 埋土は暗灰色砂混粘質土である。溝の中央付近からS D 120と交差する付近では溝の周囲に深さ5cm程度の明褐色砂質土層の堆積(S X 101・102)が広がり, 溝のラインはやや不明瞭になる。S D 119はS X 101を切り, S D 120に切られる。S D 120の南側では幅が広がり, 幅212cm, 深さ12cm, 溝の断面では3カ所に落ちがみられる。出土遺物量は少なく, S D 120の北側では弥生土器の小破片などが出土したのみであるが, 溝の南部では瓦器椀, 土師器杯などが出土した。13世紀頃のものと考えられる。

269は瓦器椀。小破片であるが, 内面に暗文を施し, 外面を指押さえて成形する。

S D 120 (第49図, 図版39(3))

Ⅲ区中央部付近で検出した溝である。北部ではおおむね現在の地割に沿う南北方向を向く。中央部付近ではS X 101, S X 102により溝のラインは不明瞭になるが, このあたりで方向を東へ変える。しかし, S D 118の埋土がS D 120に類似し, ここで分岐して南と東へ分かれ, S D 118へ続く可能性もある。溝の規模は北部で幅90cm, 深さ17cm, 埋土は3層に分けられ, 断面形は浅い鉢形, 屈曲部付近では幅170cm, 深さ35cmである。溝の底には杭が一本残されていた。断面からS D 120はS X 102より古く, S D 119より新しい。埋土中からは土師器土釜脚部・小皿・杯・甕, 瓦器椀, 青磁, 亀山焼甕など, この付近で検出した中世溝群の中では一番多くの出土遺物があった。

270~277はS D 120のうちS X 101の北側の部分で出土した。S X 101等からの紛れ込みのない部分である。270・271は土師器小皿。270は薄手, 271は厚手。272~274は土師器杯。273はやや薄手で, 口縁端部は外反する。274はやや厚手で, 口縁端部は丸く収める。275は瓦器椀。内面に横方向の暗文を入れ, 体部外面は指押さえする。和泉型。276は土師器土鍋。内面を横方向のハケ・板ナデ, 外面を粗いタテ方向のハケと指押えで調整する。277は土師器土釜脚部。内面はハケを入れる。

278~282はS D 120とS X 101が重なる場所で, S D 120のラインが不明瞭になる付近から出土した土器である。S X 101部分も一緒に掘り下げた場所もあるので, S X 101の遺物が紛れ込んでいる可能性がある。278は土師器小皿。やや厚手で体部は内湾する。279~281は土師器杯。279は体部をやや内湾させながら立ち上がる。282は土師器土鍋。内面を横方向のハケのち板ナデ, 外面を指押さえのち縦方向のハケで仕上げる。

溝の時期は13世紀代と考えられる。

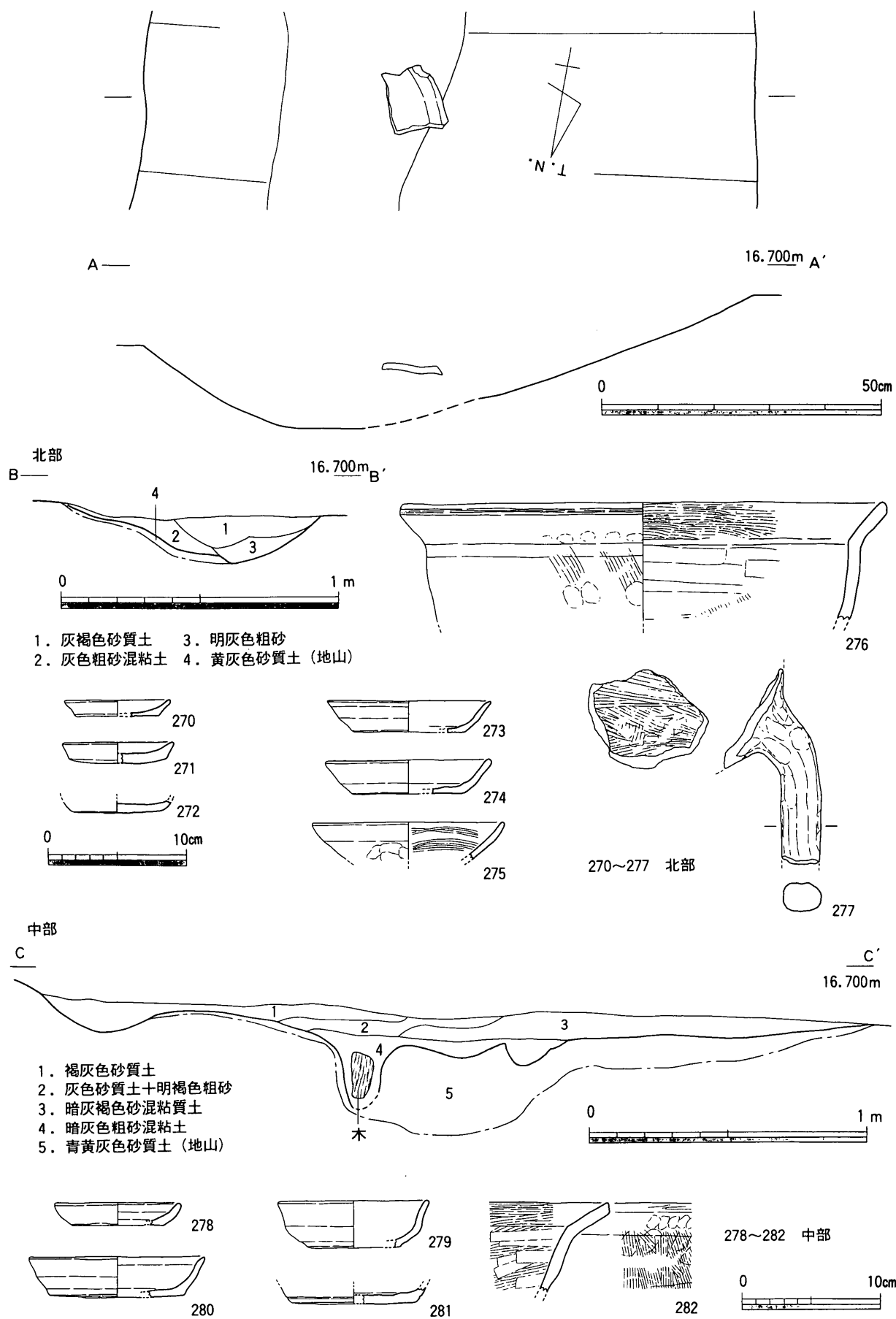
S X 101 (第50図, 図版39(4)・46)

S D 120とS D 119が交差する部分の北側一帯に広がる汚れた土である。深さは5cm程度, 埋土は明褐色砂質土である。遺構検出時には不明瞭であったが, 断面観察によればS D 119により切られている。掘り下げ後には凹凸が顕著に残った。埋土中からは土師器小皿, 土師器杯, 亀山焼甕などが出土した。

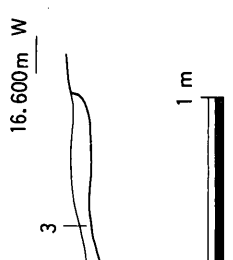
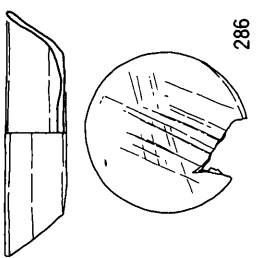
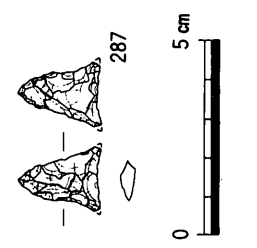
283~285は土師器小皿。283・285はやや薄手。284は厚手で体部と底部の境に粘土のしわがよる。286は土師器杯。器壁は薄く作り, 底部には板圧痕を顕著に残す。287は石鏃。基部の両端がわずかに欠損している。サヌカイト製で凹基式。

S X 102 (第51図, 図版39(5))

Ⅲ区中央部付近で検出した。S D 120屈曲部付近に広がる不定形の落ちである。深さ12cm程度, 埋土はおおむね褐灰色粗砂混粘質土である。掘り下げ後は凹凸が顕著に残った。断面によればS D 120の上



第49图 SD120土器出土状况 (1/10), 断面图 (1/20), 出土遗物 (1/4)

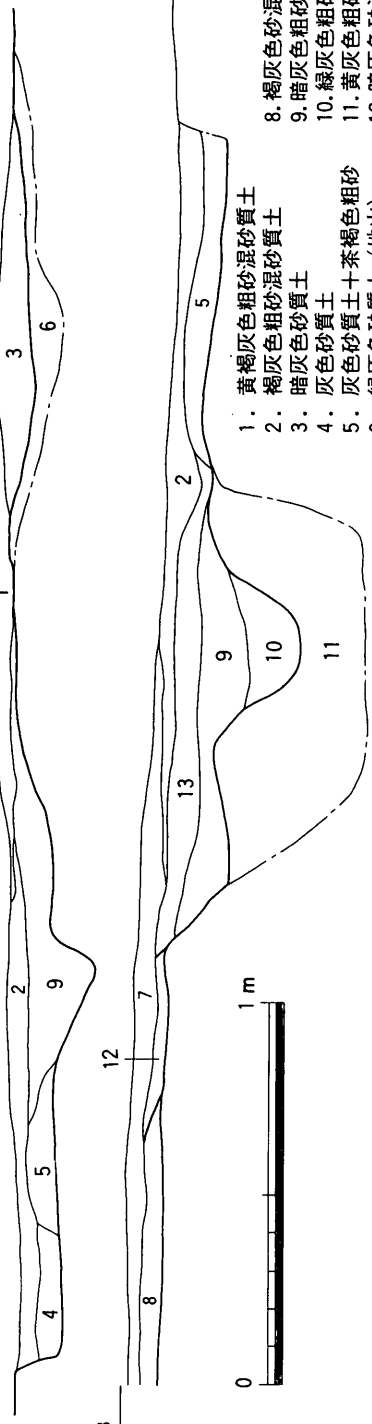


1. 暗灰色砂混粘土 (S D119)
2. 明灰色砂 (S D119)
3. 明褐色砂質土 (S X101)
4. 明青灰色砂質土 (地山)

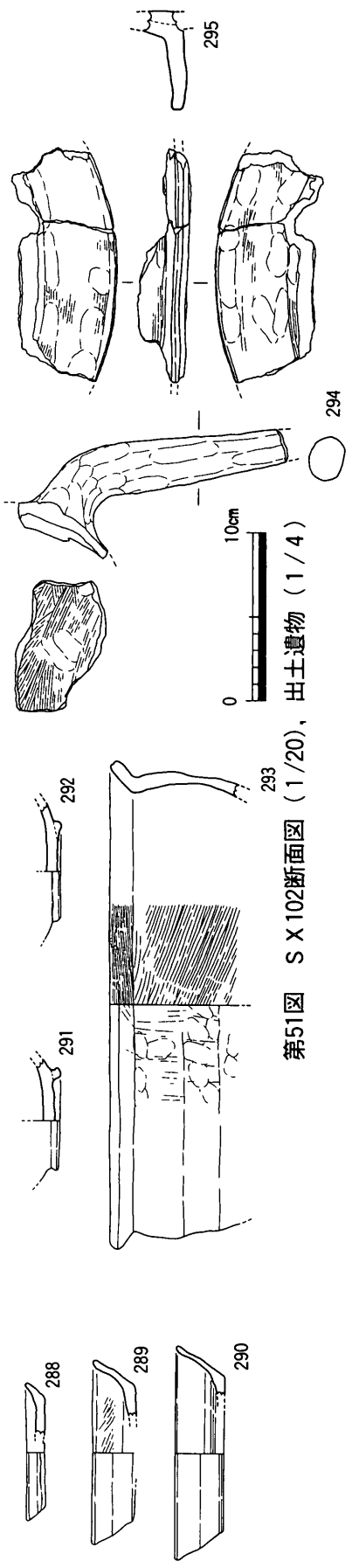
第50図 S X101断面図 (1/20), 出土遺物 (1/4・1/2)

16.800m A'

16.800m B'



1. 黄褐色粗砂混砂質土
2. 褐灰色粗砂混砂質土
3. 暗灰色粗砂質土
4. 灰色砂質土
5. 灰色砂質土 + 茶褐色粗砂
6. 緑灰色砂質土 (地山)
7. 明褐色砂質土
8. 褐灰色砂混粘土 (Fe混)
9. 暗灰色粗砂混粘土 (SD120)
10. 緑灰色粗砂混砂質土 (SD120)
11. 黄灰色粗砂混砂質土 (地山)
12. 暗灰色砂混粘土 (S D119)
13. 褐色砂 + 緑灰色シルト



第51図 S X102断面図 (1/20), 出土遺物 (1/4)

面に堆積している。S D120が埋没した後に湿地帯になったものであろう。

288は土師器小皿。やや厚く作る。289・290は土師器杯。289は体部がやや内湾しながら立ち上がり、内面に斜め方向のハケ目を施す。291は黒色土器A碗。磨滅が著しく内面調整は不明。292は土師器碗。退化した高台がつく。293は土師器土釜又は土鍋。内面は横方向のハケ目を密に入れ、外面は指押さえで成形し、粗い縦方向のハケで調整する。294は土師器土釜脚部。内面にハケを入れる。295は土師器甕。S D121 (第52図, 図版26(2)・27(1))

Ⅱ区のほぼ中間を南から北へ流れる溝である。この場所は調査区の北側と南側の水田は用地境になっており、調査前はここでは一枚の水田であったが、中世後半頃まではこの場所で水田の境があったと考えられる。この溝の西側と東側では遺構面のレベル差が10cm程度あり、そのことを傍証すると考えられる。溝の西肩は山側である西側から一度に埋まったような砂層やラミナー状の堆積がみられる。溝の規模は北側で幅4.1m, 深さ66cm, 南側で幅3.2m, 深さ45cmである。溝の南部からは自然木が数多く出土した。

出土遺物には8～9世紀前後の須恵器蓋, 把手, 黒色土器, 13～15世紀の東播系・備前焼播鉢, 土師器小皿, 土釜脚部, 瓦器碗, 瓦質土器甕や風化したサヌカイト片, 縄文土器片が1点あった。

296は土師器小皿。底部はヘラ切りで、底部は厚い。297は土師器碗底部。磨滅が著しく、高台は作りが雑で蛇の目高台状を呈す。298は土師器土釜。鏝を持たず、内面にヨコハケ、外面に指押さえ痕を顕著に残す。299は土師器土鍋。体部外面は指押さえ、内面には板ナデを行う。300は亀山焼甕の口縁部。外面に格子タタキの痕跡を残す。301～303は備前焼播鉢。301は備前焼V期に相当する。わずかに卸目が残る。302・303は備前焼Ⅳ期に相当する。304は土釜の脚部。

出土遺物はいろいろな時期にわたるが、溝の時期はおおむね14世紀後半～15世紀頃と考えられる。

S D122 (第53・55図)

Ⅱ区の東端付近で検出した南から北に流れる溝である。調査前までの水田の境とほぼ同位置である。埋土中からは須恵器, 土師器碗・土釜脚, 瓦器碗などが出土している。溝の埋土中からは近世遺物は出土しておらず、断面観察では溝は近世遺物包含層である灰色砂層の下面から切り込まれる。幅195cm, 深さ25cm, 埋土は灰褐色砂混粘土である。

305・306は土師器小皿。307は黒色土器A碗。内面調整は磨滅のため不明。308は土師器土鍋。内面には横方向のハケを密に入れ、体部外面は指押さえ後粗い縦方向のハケを入れる。309は管状土錘。

出土遺物から溝の時期は13世紀代と考えられる。

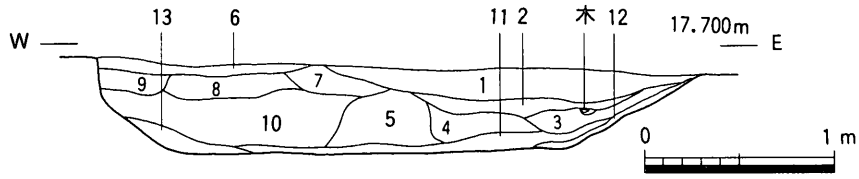
Ⅱ区包含層出土遺物 (第54・55図, 図版39(6))

Ⅱ区でS D122の上面に堆積する包含層から出土した土器である。埋土は灰色砂質土で上面に鉄分が沈着し、厚さは約10cmである。この層は近世遺物包含層に相当する。

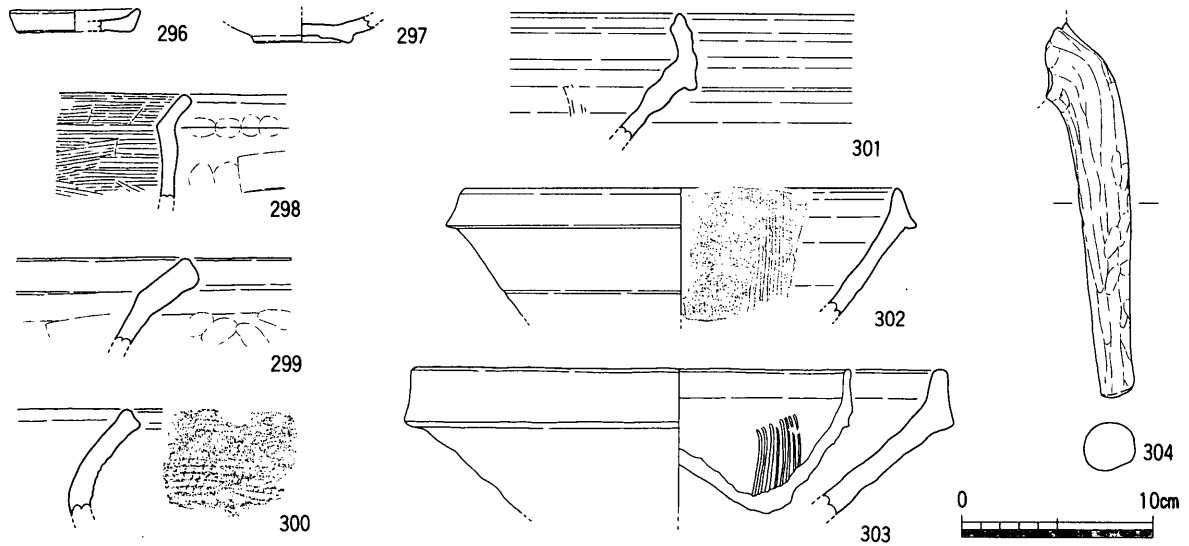
310は縄文土器深鉢。内外面を密にヘラミガキし、口縁部外面に縄文帯をつくり、右下がりの縄文を施す。縄文時代後期。311・312は製塩土器。312は体部をヘラ削りし、胎土中に角閃石を含む。313は瓦器小皿。内面調整は不明。底部外面には指頭痕を顕著に残す。314は土師器杯。315は備前焼播鉢。備前焼V期と考えられる。

Ⅳ区自然河川等

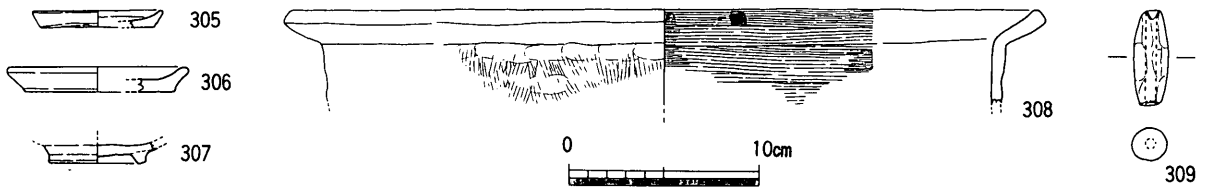
Ⅳ区のほぼ全域で検出された自然河川及び湿地群である。土器の出土量は多く、全般に比較的磨滅が少なく破片も大きい。また、少し離れた場所や遺構間での接合もある。弥生時代後期の土器から13世紀代の土器まで遺構の層位と関係なく出土するが、おおむね弥生時代後期, 7～8世紀と13世紀代の土器が



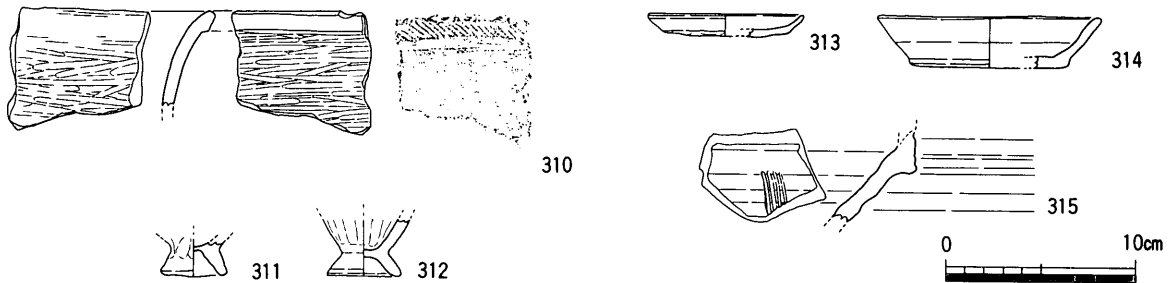
1. 黒茶褐色砂混粘土 (木くずを含む層 非常に粘性が強い)
2. 暗褐色砂 (ラミナ状)
3. 黒褐色砂混粘土 (木くず含む)
4. 暗青灰色砂質土 (非常にしまっている)
5. 暗青灰色砂混粘土
6. 暗褐色粗砂粘質土
7. 暗青灰色砂混粘土
8. 暗灰色砂質土
9. 暗青灰色粘質土混砂質土
10. 褐色粘質土混砂質土 (部分的に黄味・青味を帯びる)
11. 黒灰色粘土
12. 青灰色砂質土
13. 黄褐色砂質土



第52図 S D121断面図 (1/40), 出土遺物 (1/4)

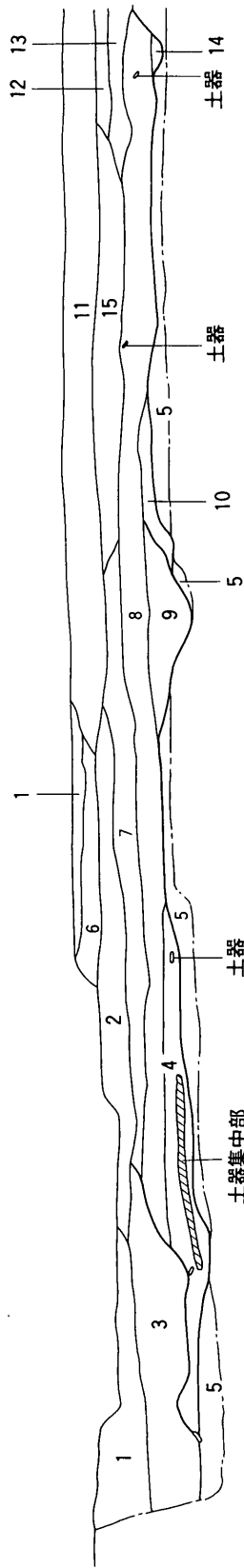


第53図 S D122出土遺物 (1/4)

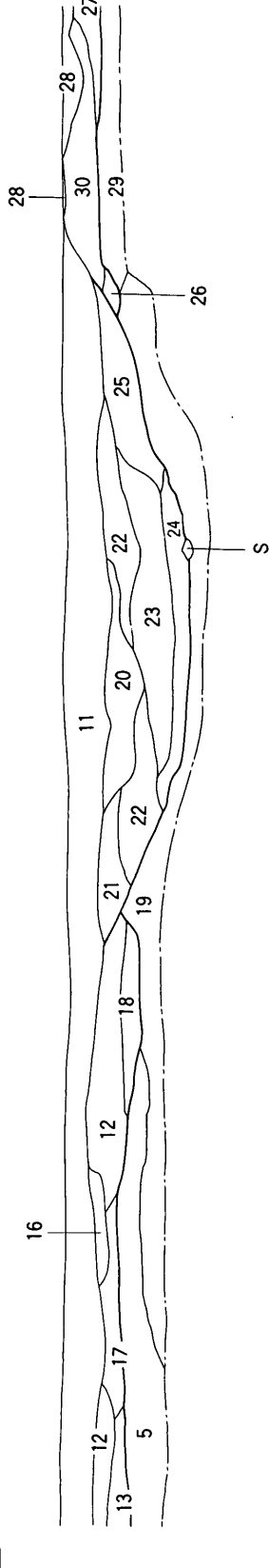


第54図 II区包含層出土遺物 (1/4)

18. 200m



18. 200m



18. 200m W



- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1. 灰褐色砂 | 16. 褐色砂質土 |
| 2. 灰褐色砂質土 (上面にFe沈着) (近世遺物包含層) | 17. 暗灰褐色粘土混砂質土 (中世遺物包含層) |
| 3. 灰褐色砂混粘土 SD122 | 18. 灰褐色砂質土 (地山) |
| 4. 黒褐色砂混粘土 SD102 | 19. 黄灰色砂質土 (上面にFe沈着, 粘性が非常に強い) |
| 5. 明黄青灰色砂質土 (地山) | 20. 灰褐色砂質土 |
| 6. 茶灰色砂質土 | 21. 暗灰褐色砂混粘土 |
| 7. 灰褐色砂質土 (やや暗い) (中世遺物包含層) | 22. 暗青灰色砂質土 (粘性が非常に強い) |
| 8. 暗灰色砂混粘土 (弥生土器包含層) | 23. 暗青灰色砂混粘土 (粘砂ラミナ状) |
| 9. 黒褐色砂混粘土 SD104 | 24. 灰褐色砂質土 (細砂ラミナ状) |
| 10. 暗灰褐色シルト質土 (砂層が少し混る) SD104 | 25. 灰褐色砂混粘土 (弥生土器包含層) |
| 11. 明褐色砂質土 (近世遺物包含層) | 26. 灰褐色砂混粘土 (弥生土器包含層) |
| 12. 灰褐色砂質土 (中世遺物包含層) | 27. 茶灰色砂質土 |
| 13. 灰褐色砂質土 (中世遺物包含層) | 28. 明灰色砂質土 |
| 14. 暗灰色粗砂混粘土 | 29. 黄灰色粗砂質土 (地山) |
| 15. 灰褐色砂質土 (中世遺物包含層) | 30. 灰褐色粗砂 |

第55図 II区包含層トレンチ断面図 (1/40)

多い。Ⅵ区では7世紀代の溝を検出しており、これとの関連が注目される。八丁地遺跡の上流や近辺に当該期の集落があり、比較的短期間に破壊を受け、埋没したものと思われる。

自然河川は西方向から東方向へ向くものを1条検出した。そしてⅣ区東南部の広い範囲で黒色粘土の堆積層がみられた。Ⅳ区の広い範囲が湿地状であったと考えられる。

S P 109 (第57図, 図版39(7))

Ⅳ区北西部, S R 106の西側で検出した円形のピットである。直径24cm, 深さ32cm, 埋土は灰褐色砂混粘質土である。ピット中からは土師器小皿, 青磁椀が出土した。

316は土師器小皿。薄手で、やや器高が高く、体部はやや外反する。317は青磁椀。釉はオリーブ色で、内面に草花文を片彫りする。

S P 110 (第57図, 図版39(7))

Ⅳ区北西部, S R 106の西側で検出した円形のピットである。直径31cm, 深さ35cm, 埋土は茶褐色砂混粘質土である。埋土中からは土師器小皿が完形で出土した。

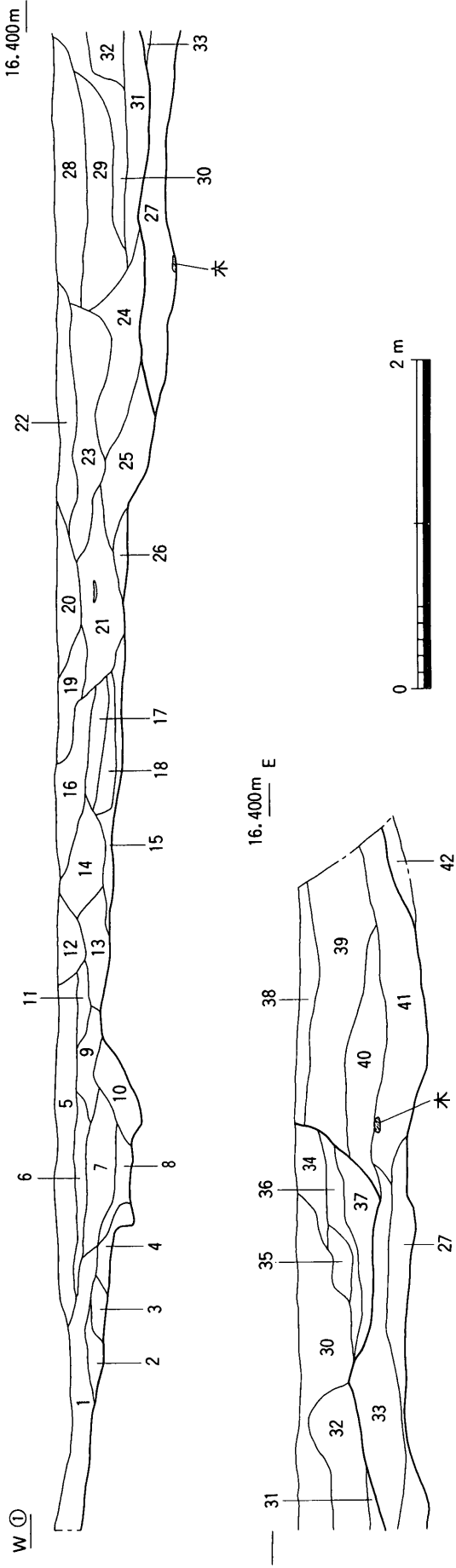
318は土師器小皿。厚手で、底部内面は盛り上がり、内面の底部と体部の境に指頭痕を明瞭に残す。作りが雑。

S R 102 (第56～61図, 図版28(1)・39(7)・40・41・46)

Ⅳ区西から東へ抜ける自然河川である。幅5.8m, 深さはおおむね0.8mである。S R 102は他の黒色粘土を主体とする湿地状遺構 S R 103・104・105を切っている。埋土中の間間で多量の土砂が流入しており、かなり急激に流れてきた様子が窺える。砂層は東へいくほど厚い。またS R 102内でS R 102を切るような砂層の筋が幾筋かみられた。

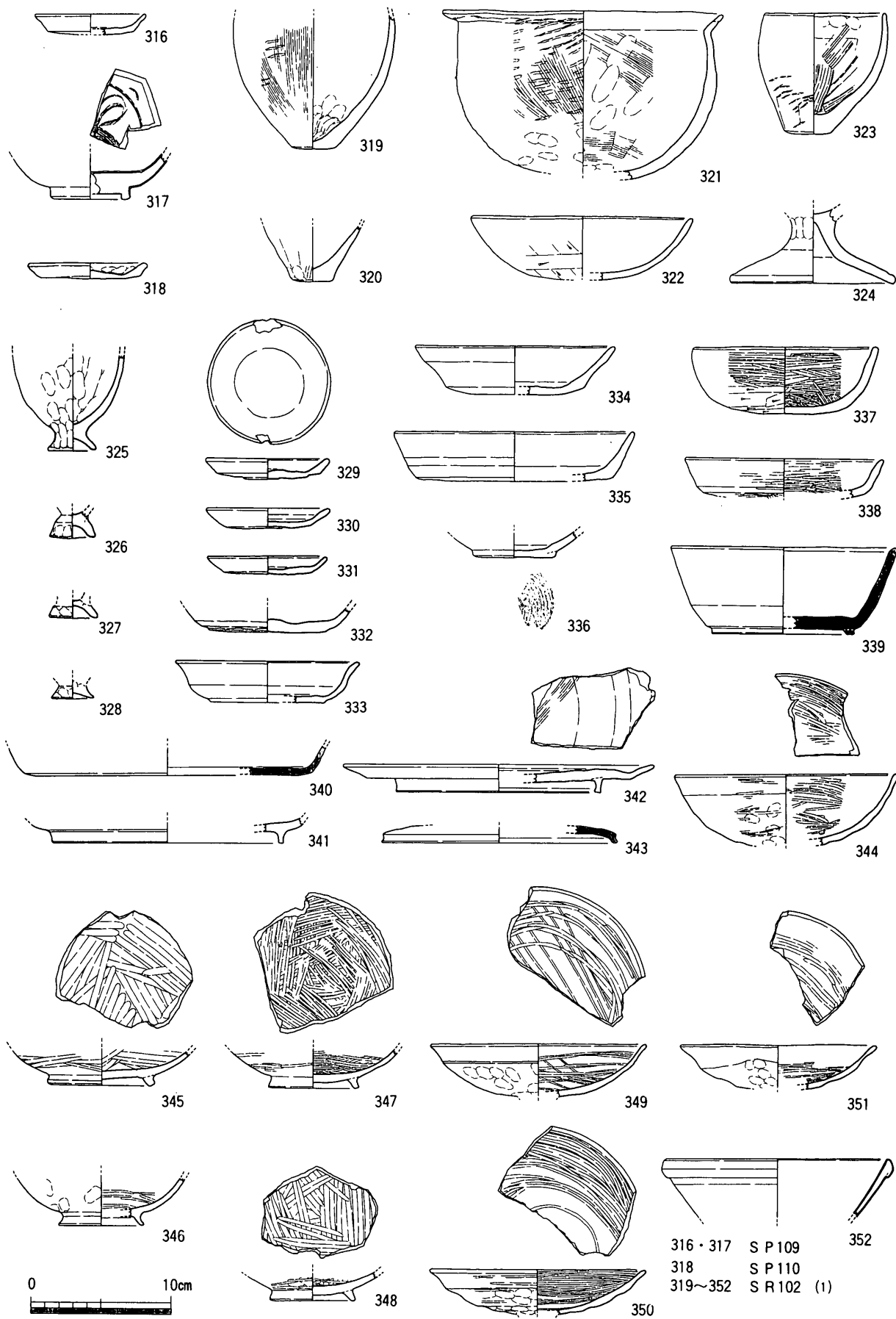
埋土中からは弥生土器, 土師器杯・蓋・竈・小皿, 須恵器杯・蓋・甕, 黒色土器A, 瓦器椀・皿などが数多く出土した。おおむね弥生時代後期, 7～8世紀代, 12～13世紀代のものに分かれるようである。

319～328は弥生土器。319・320は底部。319は底部内面の指押さえの場所に爪形文状の圧痕を残す。321～323は鉢。321は口縁部まで叩き出して成形する。外面はタタキ後ハケ, 内面は浅いハケで調整する。323は小型の深めの鉢。歪みがある。324は高坏脚部。325～328は製塩土器。325は体部を指押さえで成形する。326～328は脚部のみ。胎土に角閃石を含み、体部はヘラケズリするものと考えられる。いずれも脚部と底部の間に剥離痕を残し、脚部と底部は別粘土であったと考えられる。脚の中に後で底部となる粘土を入れ込んだのであろう。329～331は土師器小皿。329はほぼ完形であるが、中心を通る直線上の口縁端部2カ所が少しずつ欠けていた。故意に打ち欠いた可能性があろう。332～337は土師器杯。336は出土した土師器杯の中で唯一糸切りにより切り離しを行っている。337は体部内外面を丁寧な横方向のヘラミガキ, 底部内面を一方向のヘラミガキ, 内面の底部と体部の境を斜め方向のヘラミガキを行っている。底部外面は手持ちヘラケズリを行う。337は他の杯より遡り, 7世紀の遺物。338は黒色土器皿。内面にヘラミガキを密に施し, 燻す。外面は粗くヘラミガキし, 燻さない。339は須恵器高台付杯。340は須恵器皿。341・342土師器高台付皿。342は高台を皿の内側へ貼り付け, 内面に浅いハケメを入れる。343は須恵器蓋。344～346は土師器椀。344は内面にヘラミガキを密に入れ, 外面にも指押さえで成形した後, 口縁端部は強い横ナデをし, ヘラミガキを施す。345はヘラミガキは粗い。347・348は黒色土器A。内面のみ燻し, 内面に密にヘラミガキを施す。外面にもやや粗めのヘラミガキを入れる。349～351は瓦器椀。器形はいずれも浅く, 内面体部に横方向のヘラミガキ, 見込みには円形または縦方向のヘラミガキを入れる。いずれも和泉型。13世紀。352は白磁椀。玉縁状の口縁を持つ。353は須恵器長



- | | |
|----------------------------------|------------------------------------|
| 1. 灰色砂質土 (粗砂・粘質土混, 地山ブロック混) | 22. 暗灰色砂質土 |
| 2. 灰色砂質土 | 23. 灰色粗砂混砂質土 (Fe混) |
| 3. 青灰色砂質土 | 24. 暗灰色粗砂混砂質土 (25より少し明るい青灰色砂がラミナ状) |
| 4. 明灰色砂質土 | 25. 暗灰色粘土混砂質土 |
| 5. 緑灰色粗砂混砂質土 | 26. 青灰色粗砂混砂質土 |
| 6. 灰色粗砂混砂質土 (Fe少し含む) | 27. 暗灰色粘土 |
| 7. 灰色シルト+灰色粗砂+白褐色粗砂 | 28. 暗褐色粗砂混砂質土 |
| 8. 暗灰色砂混粘土 (水分多い) | 29. 明灰色粘土混砂質土 (Fe混) |
| 9. 暗灰色粗砂混粘土 | 30. 暗灰色粘土 (水分多い) |
| 10. 暗灰色粗砂混粘土+白褐色砂+青灰色砂 | 31. 暗青灰色粗砂混粘土 |
| 11. 灰色粗砂 (Fe混) | 32. 褐色粘質土混砂質土 (黄色土ブロック混) |
| 12. 褐色粗砂 (川砂) | 33. 暗灰色シルト+青灰色粘質土ブロック混 |
| 13. 緑灰色粘土混粗砂 (黄色土ブロック混, 上面にFe沈着) | 34. 茶褐色粘土 |
| 14. 暗灰色粘土+褐色砂+茶褐色砂 | 35. 暗褐色粘土 |
| 15. 黄緑灰色粘土混粗砂 | 36. 暗褐色粘土 |
| 16. 灰色砂質土 | 37. 灰色粗砂混粘土 (黄色土ブロック混) |
| 17. 暗灰色粗砂混砂質土 | 38. 明褐色粗砂混砂質土 |
| 18. 暗灰色シルト+褐色砂ラミナ | 39. 黄褐色砂混粘土 |
| 19. 灰色砂質土 (16より砂粗い) | 40. 明褐色粘土混砂質土+黄褐色粘質土ブロック |
| 20. 明緑灰色砂 | 41. 暗灰色粘土混砂質土 |
| 21. 暗灰色粘土+褐色砂ラミナ | 42. 青灰色粘土混砂質土 (地山) |

第56図 S R102断面図(1) (1/40)



316・317 S P 109
 318 S P 110
 319~352 S R 102 (1)

第57図 IV区ピット・自然河川出土遺物(1) (1/4)

頸壺。頸部の1/2程度に自然釉が付着する。354は鉢底部。焼成は悪く、下半にヘラ削りを施す。355～358は土師器甕。355・356は口縁端部は四角く収める。358は指押さえ痕跡を明瞭に残し、内外面ともやや粗めのハケを施す。359は土師器竈。上側の受け部が残存する。

360～374はS R 102とS R 103の合流部付近の出土遺物である。360は須恵器杯。底部外面に糸切り痕がある。361は土師器杯。S R 103のものと接合関係にある。362は須恵器杯。363は須恵器皿。外面に火襷が残る。364は土師器椀。体部は厚め。S R 103と接合関係にある。365は須恵器杯蓋。頂部にヘラ切り痕を残す。366・367は須恵器長頸壺。366は体部と頸部の境に凸線が巡る。頸部に自然釉がかかる。367はS R 103と接合関係にある。体部に自然釉がかかる。体部上端には頸部を差し込むためにあけた穴の痕跡があった。368は土師器甕。369・370は土師器竈。369は外面はハケや板ナデをいろいろな方向から雑然と行い、内面も2方向から斜め方向のハケ調整を行う。断面からは本体に薄い粘土板を4枚重ねて鏝を付けた様子が観察できる。370は鏝のみ残る。371は丸瓦。焼成は須恵質でやや不良、内面に当て布の継ぎ目痕跡を残し、外面は横方向のヘラケズリで調整する。372は管状土錘。373・374は石鏃。いずれもサヌカイト製で凹基式。

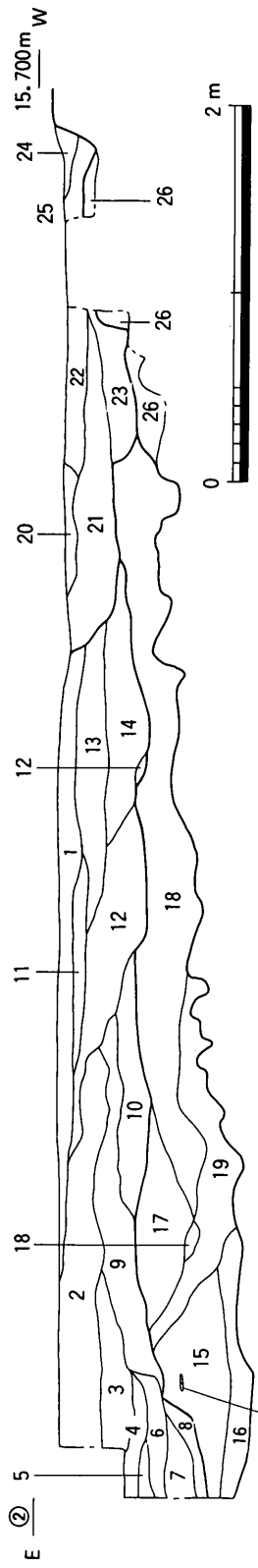
出土土器は弥生時代後期後半のもの、7～8世紀のもの、12～13世紀のものが混在しており、層位ごとに時期が異なるものではない。これらの土器は上流にあったと考えられる遺物を一度に押し流したものと考えられる。自然河川の時期は13世紀と考えられる。

S R 103 (第58・61～63図, 図版41・42・46・47)

IV区の南西部から北東部で検出した湿地帯である。IV区東壁の中央部付近で調査区外へ延びる。幅は調査区外へ延びるため不明、深さは0.7mである。埋土はおおむね暗灰色・暗灰褐色・黒灰色の粘土・砂混粘土・粗砂混粘土などで砂層やラミナ状の堆積はほとんどみられない。長期間湿地状を呈していたと考えられる。黒色粘土の堆積の切り合いも畦断面から確認され、何度か掘り直しがあったようにもみえる。

埋土中からはIV区北部分では弥生土器製塩土器、土師器高台付皿、須恵器杯・甕、IV区南部分からは弥生土器製塩土器、土師器杯・椀・小皿、須恵器蓋・壺・甕、瓦器椀、瓦質土器甕、青磁など多数出土した。S R 102と同様層位ごとにまとまる様子は見られず、様々な時期のものが混在していた。弥生土器もわずかにみられるものの、おおむね7～8世紀頃と13世紀代の遺物が出土するようである。遺物はIV区南から多く出土した。

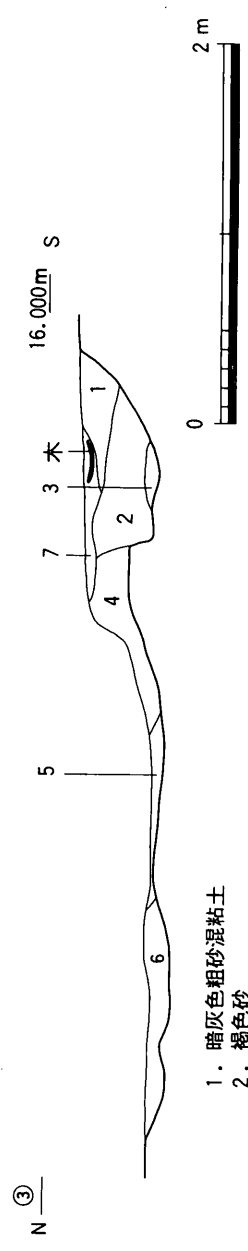
375～381は土師器小皿。厚手のものと薄手のものがあるが、おおむね口径が8cm程度で底部は380のみ糸切りで、他はヘラ切りである。377はヘラ切りの際に盛り上がった中心部を板ナデで消そうとしているが、作業が粗くきれいに盛り上がった粘土をとれていない。379は外面の底部と体部と境にヘラ切りの際に粘土が盛り上がっている。381は内外面に煤が付着し、底部外面にハケ目がある。382～386は瓦器小皿。いずれも内面に直線状、円弧状、螺旋状の暗文を施し、底部外面には指頭痕を残す。383・384はきれいに燻されず、383は内面が、384は大半が薄い灰色を呈している。胎土はいずれも精製されている。384・385は底部外面中央付近に円弧状の重ね焼き痕跡が残る。焼成の際は土器を裏返してピラミッド状にしたと思われる。387～393・395・396は土師器杯。387は磨滅が著しいが、外面を手持ちヘラケズリし、口縁端部は丸く仕上げ、端部内面に沈線が入る。7世紀代。389～392・395は体部に回転ナデの際の凹凸を明瞭に残す。396は非常に焼成がよく、須恵器に近い。13世紀代。394は須恵器杯。やや内湾して立ち上がる。7世紀代。397は須恵器高台付杯。体部下半は丸みを帯び、底部外面はヘラ削り



- 1. 褐灰色砂質土 (粘土少し混)
- 2. 暗褐灰色砂質土
- 3. 明褐色砂+灰褐色シルト
- 4. 茶褐色粗砂
- 5. 明褐色細砂
- 6. 褐色粗砂
- 7. 灰褐色粗砂
- 8. 茶褐色砂
- 9. 暗灰色砂質土 (Fe少し含む)
- 10. 褐色粗砂+褐灰色粘土 (ラミナ状)
- 11. 茶褐色粗砂
- 12. 灰褐色粘土+茶褐色粗砂+褐色粗砂 (褐色砂がラミナ状)
- 13. 黒褐色粗砂混粘土 (粗砂多い)
- 14. 黒灰色粗砂混粘土

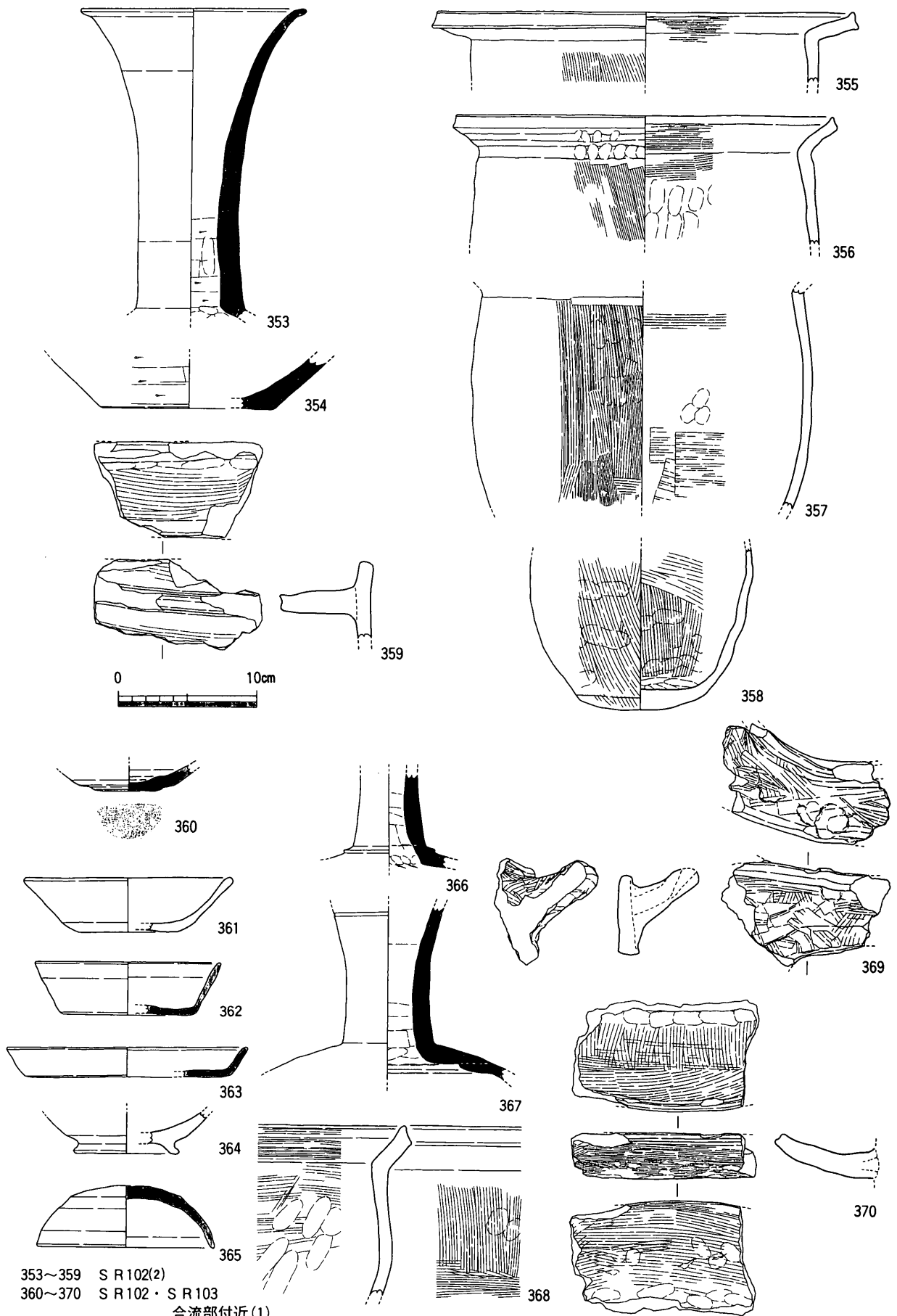
- 15. 暗灰色粗砂質土 (地山ブロック少し含む)
- 16. 黒色粘土 (粘性が非常に強い)
- 17. 暗灰色粘土混砂質土
- 18. 黒色粘土 (茶褐色砂がラミナ状に少し混)
- 19. 黒灰色粗砂
- 20. 暗灰褐色砂質土 (粘土混)
- 21. 灰褐色砂質土
- 22. 茶褐色粗砂
- 23. 灰褐色粘土+明褐色砂ラミナ
- 24. 暗青灰色砂混粘土
- 25. 暗青灰色粘土混砂質土
- 26. 明緑灰色砂質土 (地山)

第58図 S R 102・103・107断面図 (1/40)



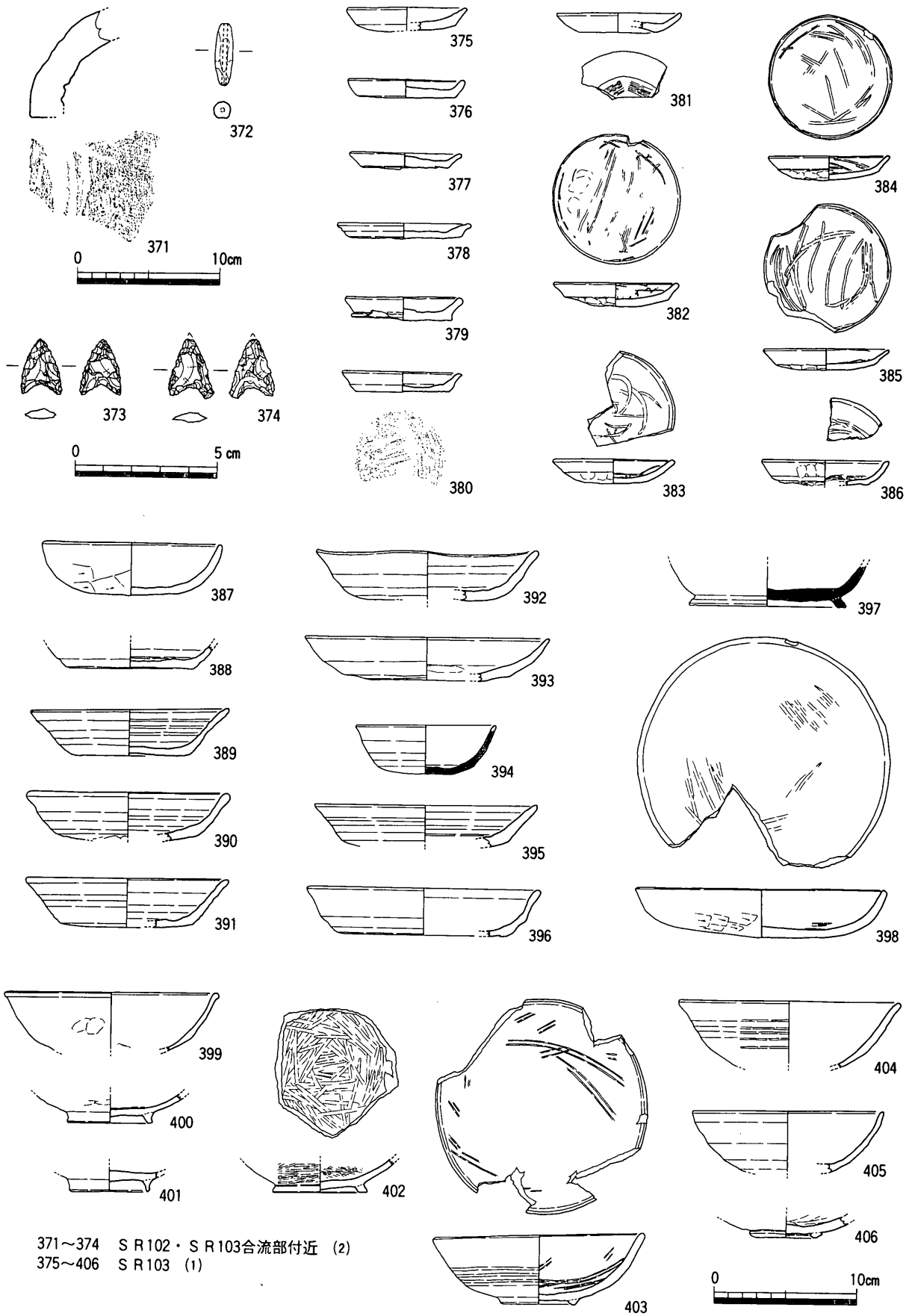
- 1. 暗灰色粗砂混粘土
- 2. 褐色砂
- 3. 暗褐灰色砂質土
- 4. 暗灰色砂混粘土
- 5. 褐色粗砂
- 6. 灰色粘土
- 7. 暗褐色シルト (木片混)

第59図 S R 102断面図(2) (1/40)



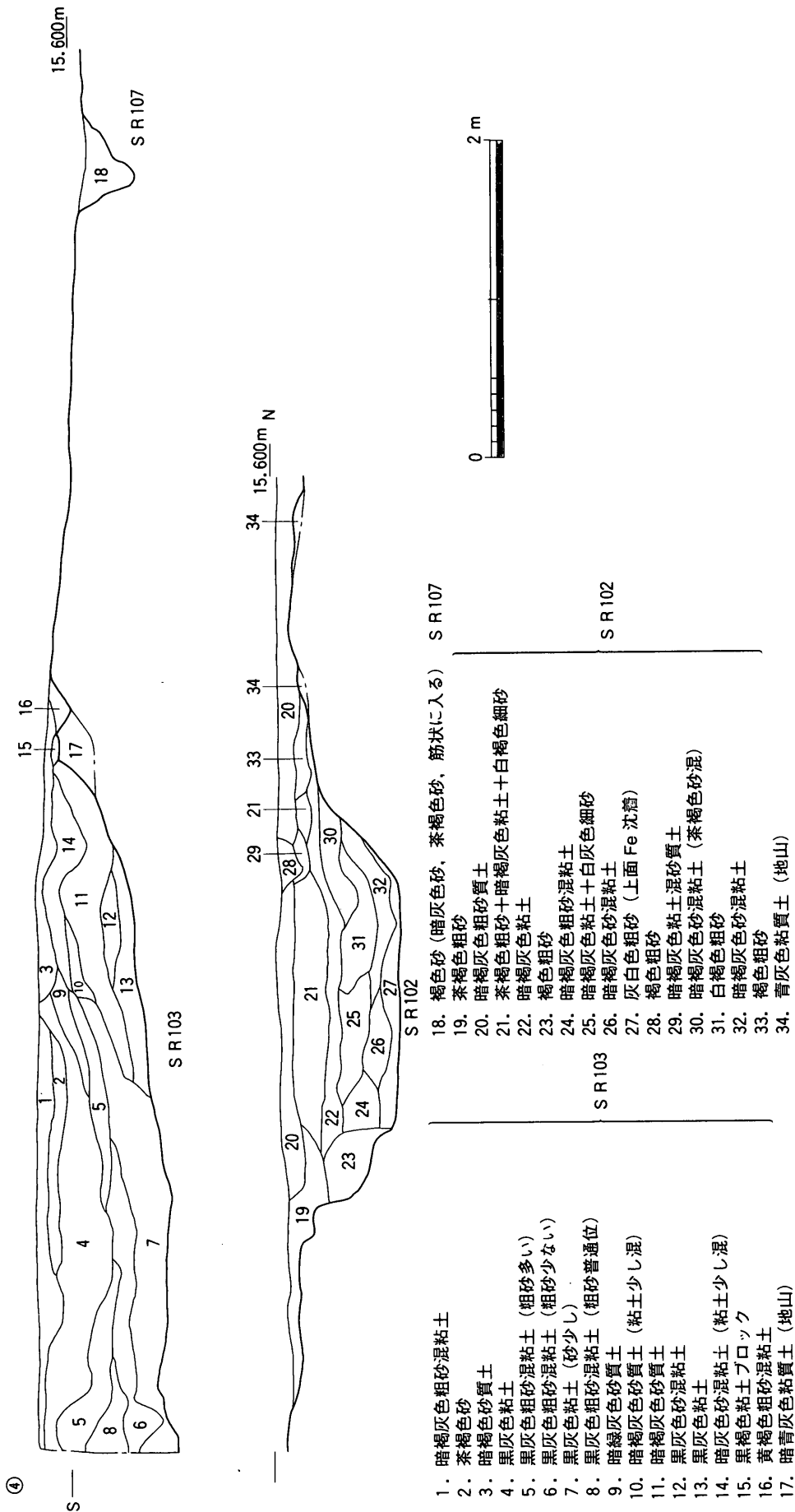
353~359 S R 102(2)
 360~370 S R 102・S R 103
 合流部付近(1)

第60図 IV区自然河川出土遺物(2) (1/4)

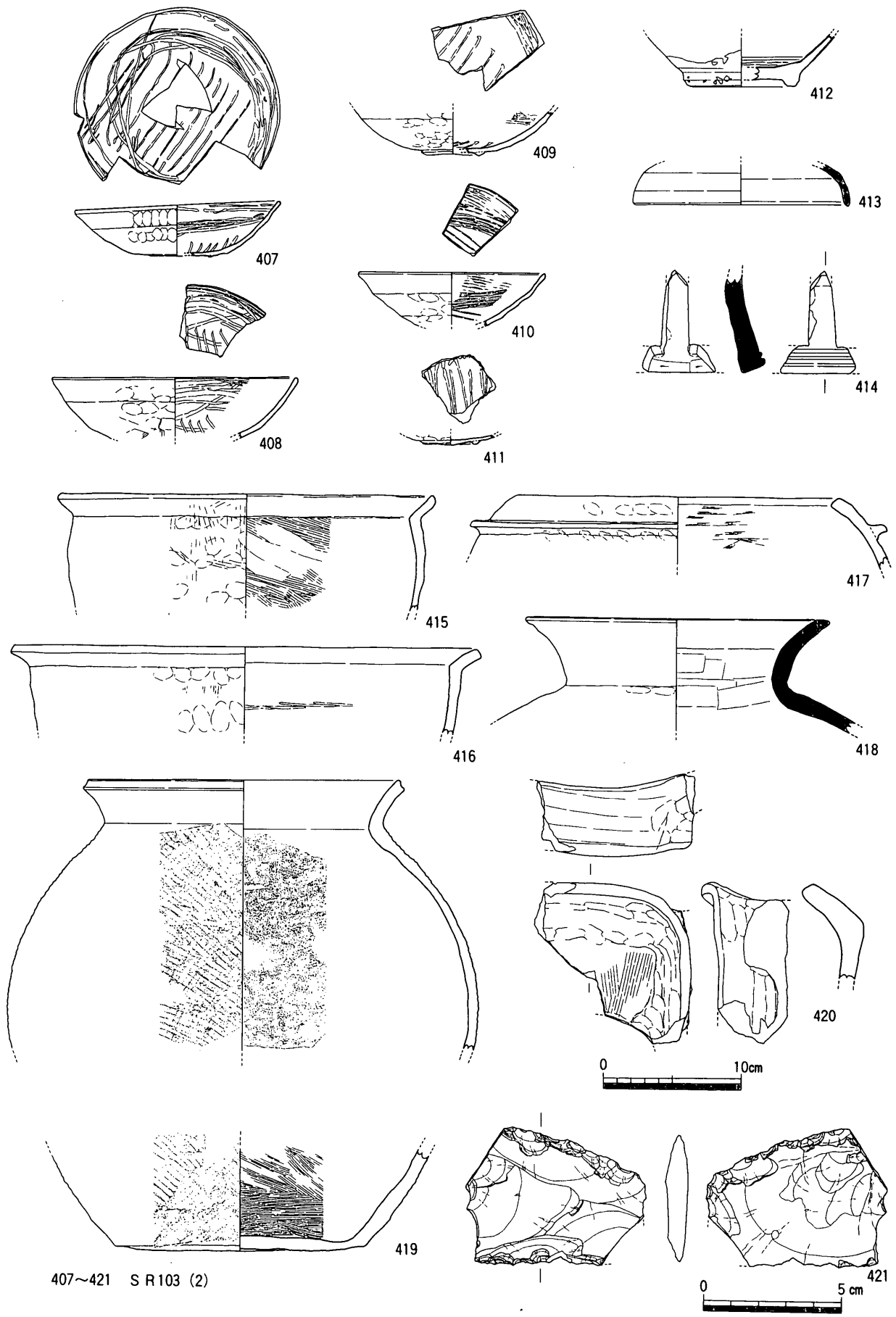


371~374 S R 102 · S R 103合流部付近 (2)
 375~406 S R 103 (1)

第61图 IV区自然河川出土遺物(3) (1/4·1/2)



第62図 S R 102・103・107断面図(2) (1/40)



407~421 S R 103 (2)

第63图 IV区自然河川出土遺物(4) (1/4・1/2)

する。8世紀後半。398は土師器皿。387と同時期で外面底部から体部下半にヘラケズリし、内面に粗い暗文を残す。口縁端部は丸く仕上げる。7世紀。399～401は土師器碗。399は薄く仕上げ、口縁端部を外へ丸くする。400は底部内面に重ね焼き痕跡を残す。402は黒色土器A碗。内面のみ燻し、内外面にヘラミガキを密に入れる。403～406は瓦質土器碗。403は内面にヘラミガキ、403・404は外面に粗い回転ヘラミガキを入れる。405は口縁端部外面に重ね焼き痕を残す。407～411は瓦器碗。外面口縁端部の横ナデは不十分で指頭痕を残す。器高は浅く、ヘラミガキも雑で409は高台が小さく形骸化している。412は白磁碗底部。高台の上部まで施釉し、見込み部分は蛇の目状に無釉の部分がある。413は須恵器杯蓋。414は円面硯の脚部。長方形の透かしが残存する。415～416は土師器土鍋。415は内外面にハケ目を施し、外面には明瞭に指頭痕を残す。外面に煤が付着。416は体部内面に中位に横方向にへら状工具痕を残す。417は瓦器土釜。口縁部は内傾させ、退化した鏝を持つ。鏝の下面には棒状の工具で突き刺したような痕跡がある。418は須恵器甕。419は亀山焼甕。外面は格子タタキ、内面は体部上部から中位までは浅い青海波文の当て具痕、下位は青海波文をハケ目調整で消している。420は土師器竈。鏝下の外面にハケを残す他はあまり調整痕がない。鏝の上部は立ち上がりがなく、そのまま煮沸容器を置くようになっている。421はスクレイパー。サヌカイト製。

S R 103からは古代・中世の土器が大半を占め、弥生土器は小破片がわずかに出土しただけであった。
S R 104 (第64・67図, 図版28(2)・42・43)

S R 102とS R 103の間に位置する湿地である。埋土はS R 105に似て、最下層に木片などが集中する自然木層があり、暗灰色砂混粘土層が堆積する。幅2.3m、深さ0.56m、延長約4mである。ここもS R 105と同様滞水状態が長く続いたと考えられる。最上層に褐色土系の土層が堆積する。

S R 104からは土錘、土師器杯、須恵器甕・蓋・高坏・高台付杯、黒色土器A碗、白磁碗などが出土した。

422は縄文土器深鉢。調整は磨滅のため不明である。423は管状土錘。やや大型のもので外面に指頭痕を残す。424は土師器蓋。内面に浅いハケを残す。425は須恵器蓋。返りと摘みの付くもので、返りの部分と口縁端部が同じ高さになる。426は須恵器甕。427は須恵器高坏。

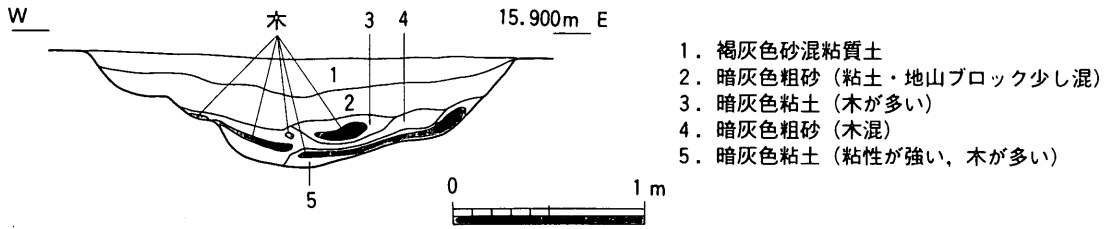
S R 105 (第65・67図, 図版43)

S R 102・103の間の東側の湿地である。断面からS R 103を切っていることがわかる。幅3.4m、深さ0.66m、延長約6m、流路のほぼ中央部西よりに石が固まっていた。埋土は一部砂が混じるものの、暗灰色・黒色砂混粘土で占められ、上層に木片などの自然流木が多く出土した。流れはほとんどなく、滞水状態であったと考えられる。S R 105からは弥生土器甕他小片、土師器杯、須恵器杯蓋・甕、瓦器皿、瓦質土器甕などが出土した。

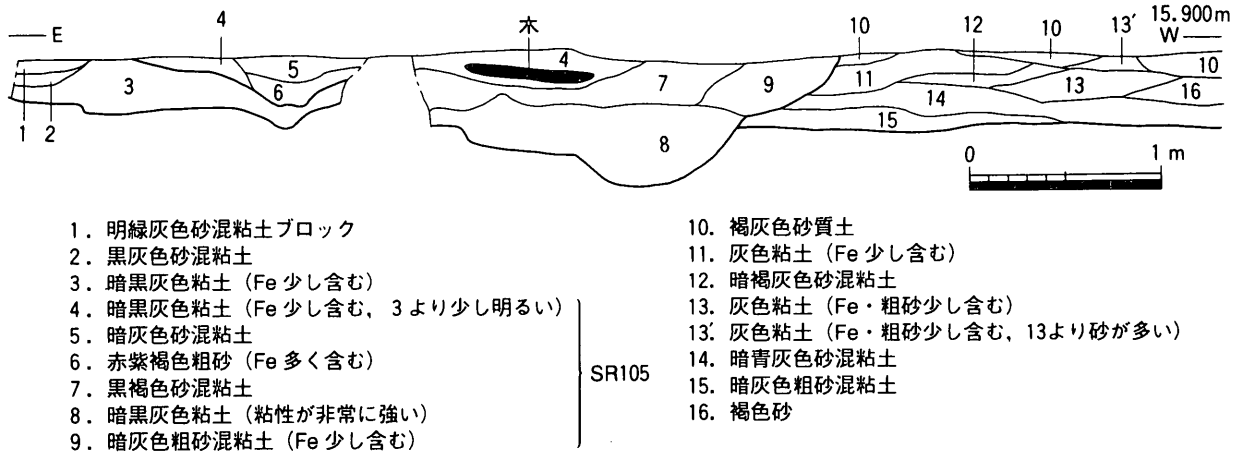
428は弥生土器甕。外面は口縁端部までタタキ目を残し、内面はハケ目調整を行う。429は瓦器小皿。内面に粗い暗文を施す。外面の指押さえはほとんどナデ消されている。430～432は土師器杯。430・431は体部には回転ナデの際の凹凸を明瞭に残す。432は底部内面にやや不規則な放射状の暗文を施す。口縁端部外面に緩い沈線を入れる。7世紀。433は瓦器碗。器高は浅くなる。内面に暗文を施す。外面の調整は磨滅のため不明。428・432以外は13世紀のもの。

S R 106 (第66・67図, 図版27(2)・43・47)

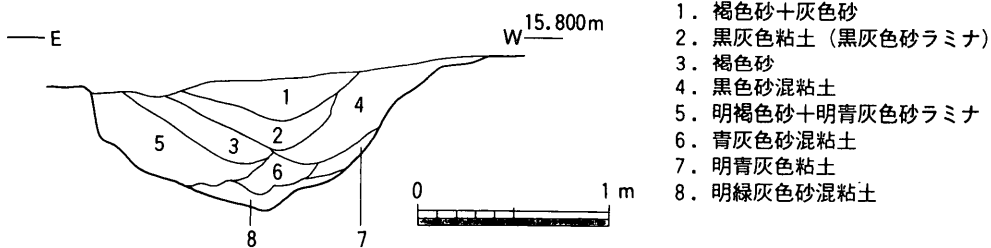
IV区西部を南北方向へ延びる遺構である。幅2.1m、深さ0.72m、延長6.5mである。おおむね2度の流れがあり、下層は砂層の堆積が厚く、流れが激しかったことが窺える。上層のうちの下部は黒色粘土



第64図 S R 104断面図 (1/40)



第65図 S R 105断面図 (1/40)



第66図 S R 106断面図 (1/40)

が堆積し、滞水状態であったことが窺えるが、最上層は砂層で覆われ、最終的には一度に埋まったと思われる。S R 106からは弥生土器甕、土師器杯、須恵器蓋などが出土した。

434は縄文土器深鉢。口縁部外面は肥厚させ、その下部に横方向の密なヘラミガキ、その下部に右上がりの縄文を施す。縄文時代後期。435は須恵器蓋。壺に伴うもの。436はナイフ形石器。サヌカイトで風化が非常に進む。

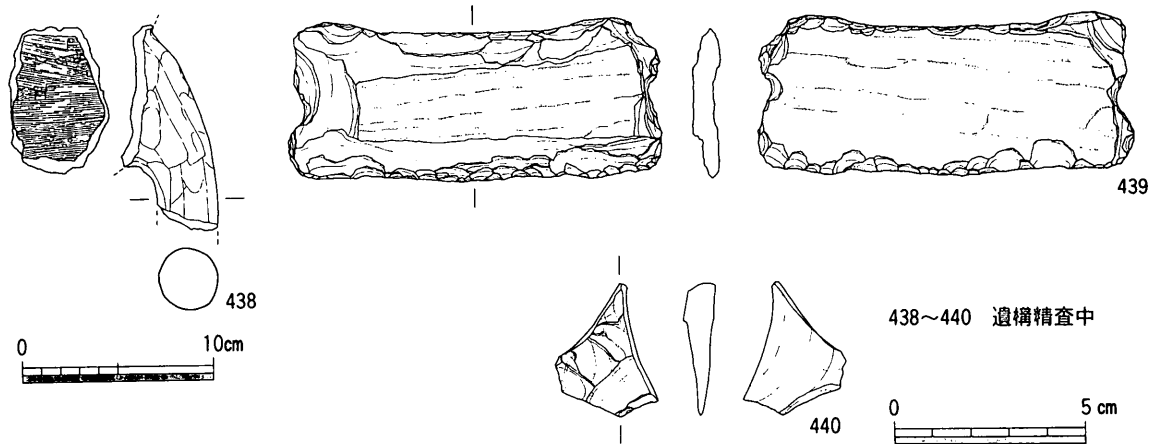
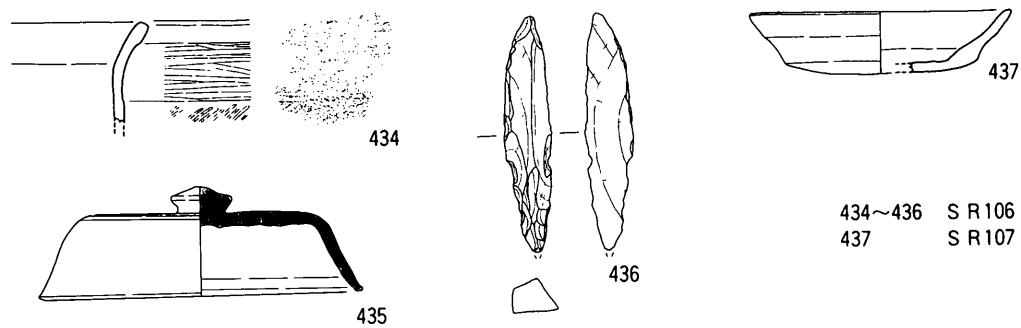
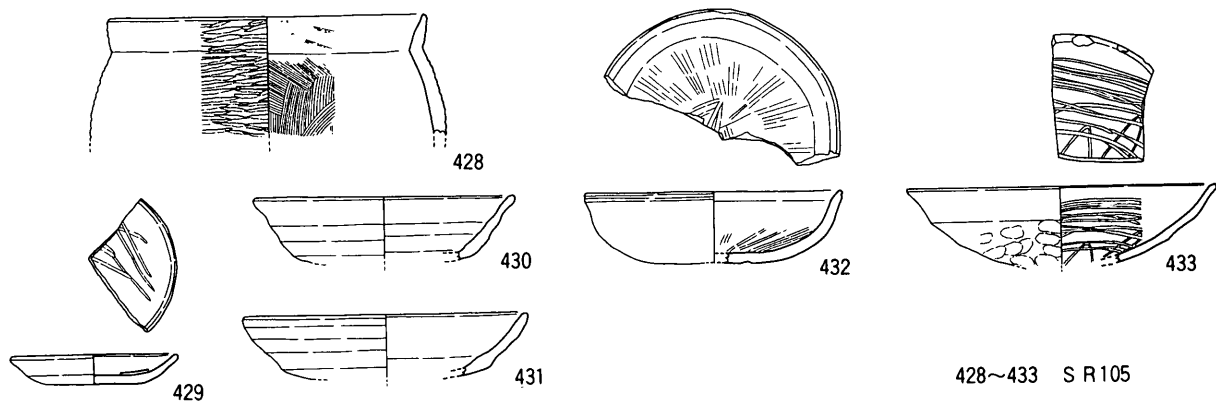
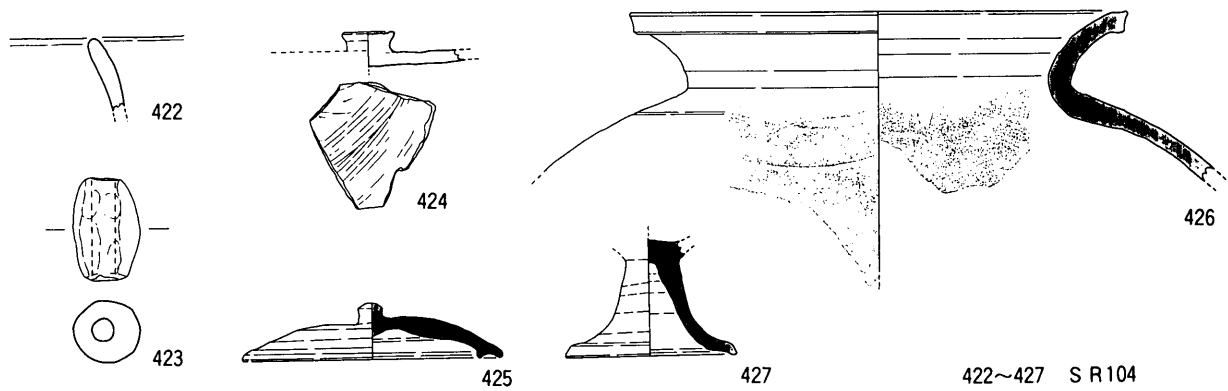
S R 107 (第58・62・67図 図版43)

S R 102の東部で、S R 102の南側に少しはずれて流れたと考えられる砂層である。基本的にはS R 102と同一遺構である。検出長6.5m、幅56cm、深さ32cmで埋土は褐色砂で暗灰色砂、茶褐色砂がラミナ状に入る。埋土中からは土師器、須恵器、黒色土器、瓦器などが出土した。

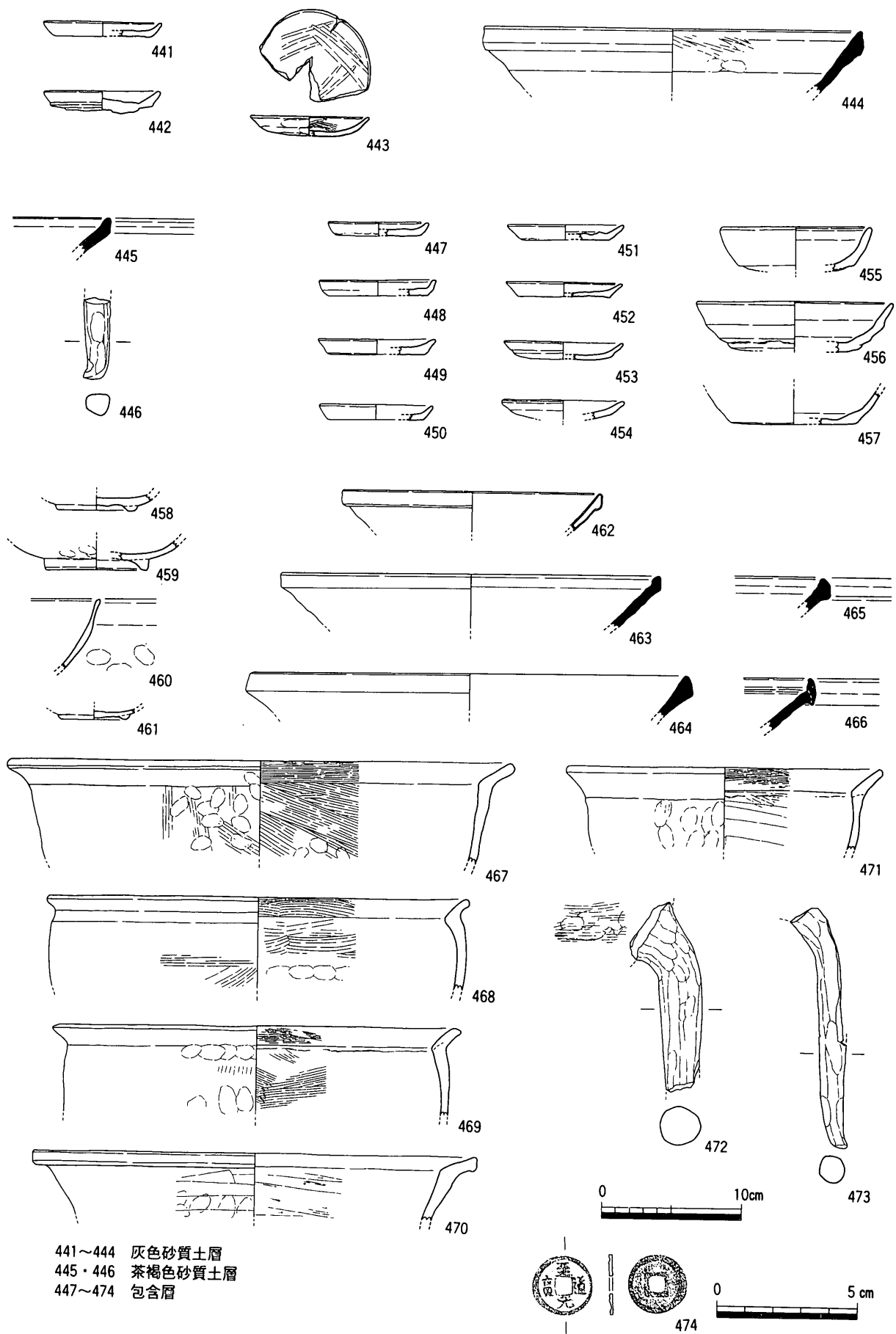
437は土師器杯。

その他 (第67図 図版43・47)

438~440はIV区遺構精査中に出土したものである。438は瓦質土器土釜脚部。内外面をいぶし、内面はハケで調整を行う。439は石庖丁。結晶片岩製。440はスクレイパー。サヌカイト製。



第67図 IV区自然河川出土遺物(5) (1/4・1/2)



441~444 灰色砂質土層
445·446 茶褐色砂質土層
447~474 包含層

第68圖 Ⅲ区中世包含層出土遺物 (1/4·1/2)

Ⅲ区中世包含層（灰色砂質土・茶褐色砂質土）（第68図，図版44・47）

Ⅲ区西南部から北部にかけて北東方向へ堆積する包含層である。中世小規模溝群の上面に堆積する。埋土は上層・茶褐色砂質土（厚さ10cm），下層・灰色砂質土（厚さ12cm）に分けられるが，掘り下げは一部を除き両者を分けずに行った。層ごとの時期差はほとんどないと考えられる。

441～444は灰色砂質土層から出土した遺物である。

441・442は土師器小皿。口径はおおむね8cm前後で，底部はいずれもヘラ切りである。442はヘラ切りの際に底部外面中心付近の粘土が大きく盛り上がり，それを後で板状工具で雑に掻き取っている。443は瓦器小皿。内外面を燻し，断面まで黒色化は及ばない。全般に磨滅が著しく，器面は光沢をなくし，暗文もあまり残らない。外面の口縁部以下は指頭痕はほとんど残らないが，指押さえ調整の痕跡を残す。444は東播系捏鉢。口縁部には重ね焼き痕跡はみられない。

445・446は茶褐色砂質土層から出土した遺物である。445は東播系捏鉢。口縁部に重ね焼き痕跡がみられる。446は土釜脚部。小型で先端を少し折り曲げる。

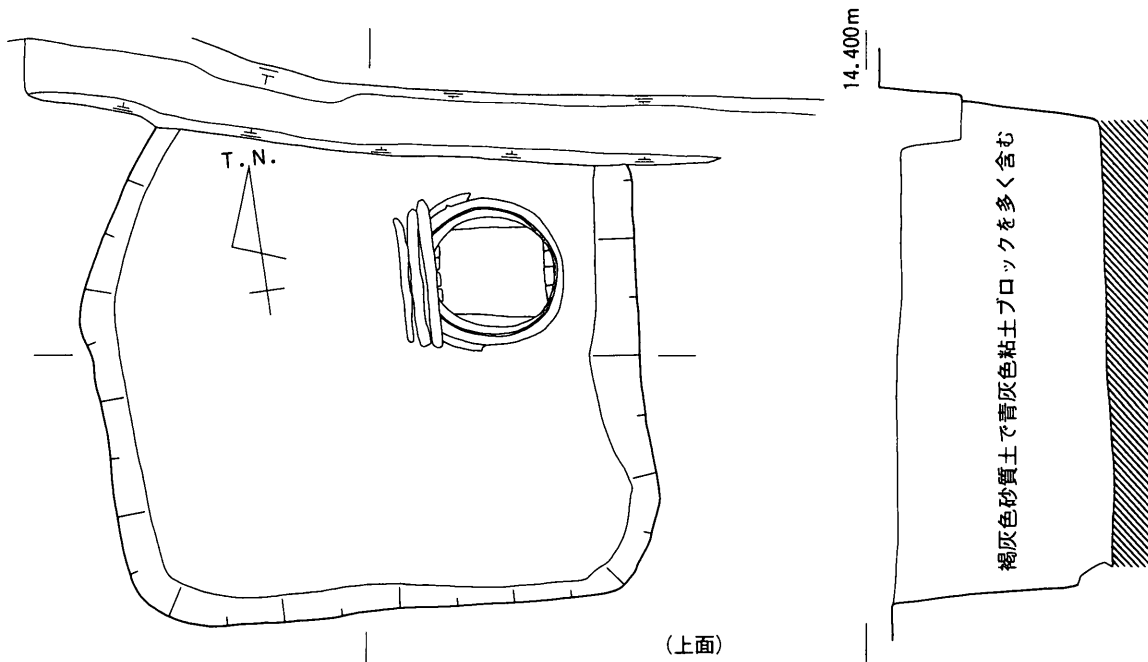
447～474は両者をまとめて掘り下げた際に出土した遺物である。447～452は土師器小皿。底部は全てヘラ切りである。453・454は瓦器小皿。いずれも磨滅が著しく，調整は観察できない。453は内面は灰白色を呈している。454は全体に暗灰色を呈するが，土器に光沢がなく，他の瓦器皿より器壁も厚い。しかし黒色化が内面まで及ばず，成形技法が瓦器と同じであり，瓦器とした。455～457は土師器杯。458・459は土師器碗。460・461は瓦器碗。460は磨滅が著しく調整は観察できなかった。461は高台の接合部に円弧状の刻みを入れ，接合面積を増やしている。462は白磁碗口縁部。玉縁がつく。463～466は東播系捏鉢。464・465は口縁部外面に重ね焼きの痕跡を残す。467～471は土師器土鍋または土釜。いずれも内面に横方向のハケ又は板ナデを行い，外面は指押さえで成形の後縦方向のハケ，又は横方向のハケで調整する。472・473は土師器土釜脚部。473は先端をわずかに折り曲げている。474は北宋銭。「至道元寶」で995年初鑄。

(6) 現代

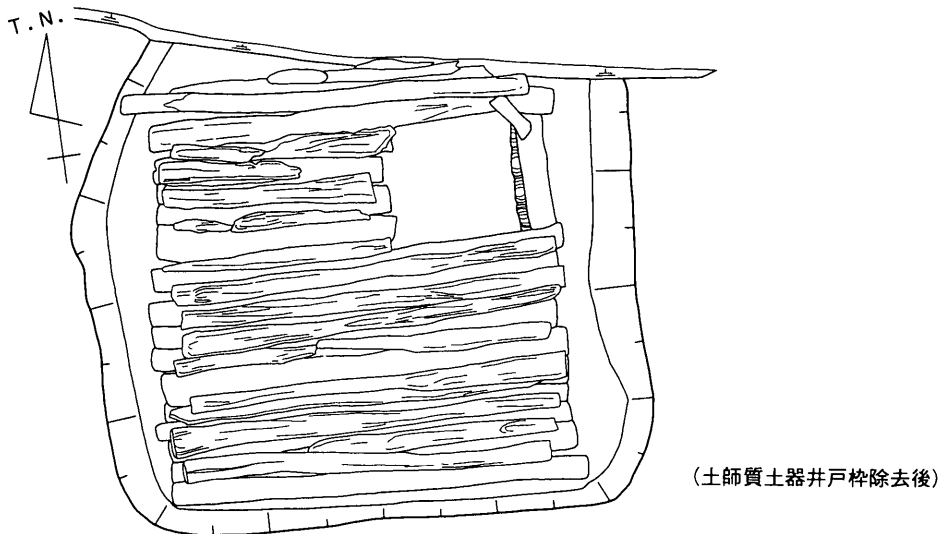
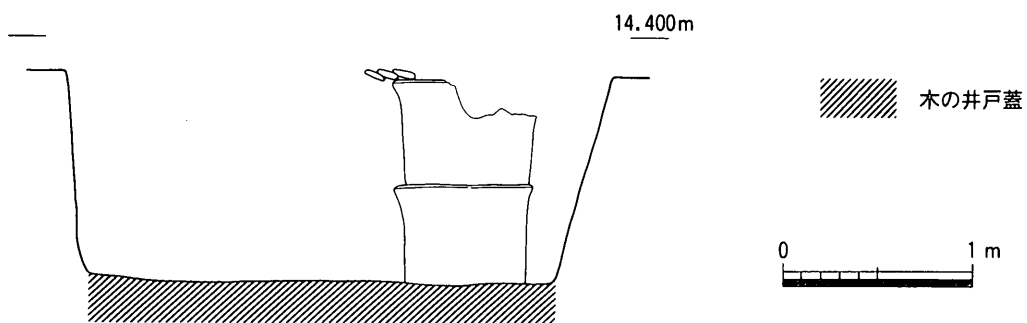
S E 101（第69・70図，図版29・30・45）

V区の中央北部で検出した井戸である。一辺約2.5mのほぼ正方形である。下段が木組みの正方形，上段は木組みの井戸を四分割したうちの北東側1/4の部分で土師質土器の井戸枠を2段重ねる。下段の木枠の井戸は長さ約2m，幅10～20cm，厚さ3cm程度の板を縦に並べており，下から60cm，120cmの部分に横方向に直径20cm程度の丸太をおいて，支えにしている。井戸枠の最上部に東西方向の横方向に直径20cmの丸太を乗せている。そしてこの木の井戸枠は同様の板で蓋をしており，その上をさらに薄い木の皮を板状にして蓋をし，土師質土器の井戸枠を乗せる部分のみをあけている。埋土は木の蓋より下の部分は下部はヘドロ状の粘土，上部は水が溜まっており，土の堆積はなかった。蓋より上部は褐灰色砂質土で青灰色粘土ブロックを多く含む土で人為的に埋めたと考えられる。井戸の内部からは陶器の土管，井戸枠とは別個体の土師質土器甕の破片が出土した他はほとんどなにも出土しなかった。ご近所に在住する70代らしき婦人が幼い頃には農業用の井戸として使用していたそうである。

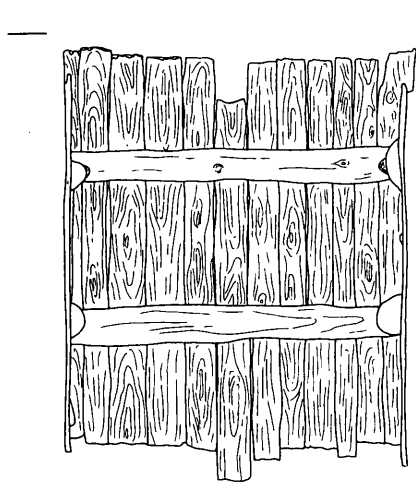
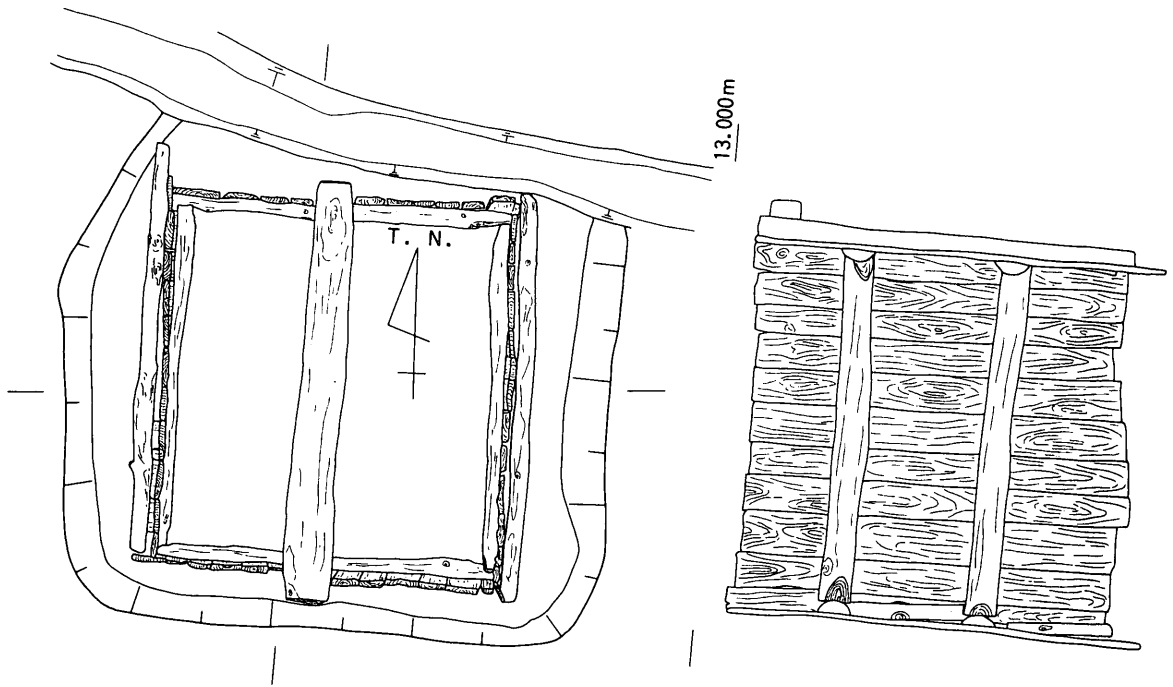
475は土師質土器井戸枠。これは上段に使用されていたものであるが，2個体とも同一規格のもとに作られたと考えられる。直径75.6cm，高さが62cmで，底部はない。口縁端部は内外に肥厚させ，内面に約15cmごとに粘土紐の痕跡を残す。外面には横方向の板ナデを，内面には中段付近に斜め方向のハケ目を，上端付近を除く全体に指頭痕を残す。



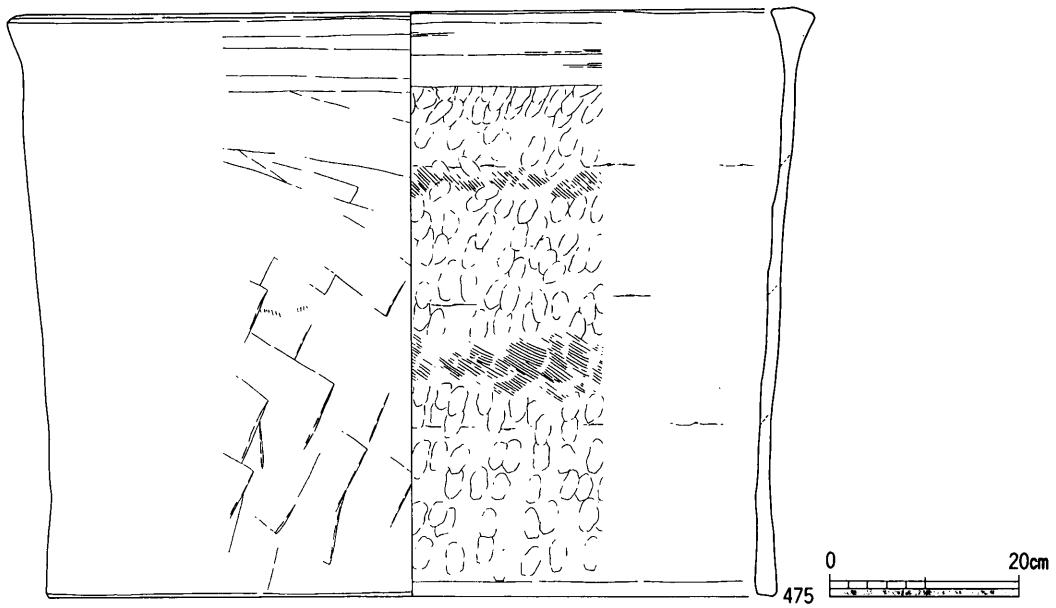
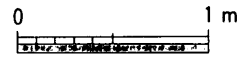
(上面)



第69図 S E 101平・断面図(1) (1/40)



(木の蓋除去後)



第70図 SE101平・断面図(2) (1/40), 井戸枠 (1/8)

第4章 まとめ

遺構の変遷 (第71～73図)

(1) 縄文時代晩期

明確な遺構はないが、中位の段丘面に位置するV区・VII区で縄文時代後期～晩期の遺物を含む包含層が広がる。VII区では中世遺物包含層の下部で弥生時代後期の自然河川のベースとなる砂層から、V区ではVII区より低い位置で、砂層、青灰色粗砂混粘土層から出土している。厚さ2.4m以上で、砂層はVII区で厚く、V区では砂層の上面に緑灰色・青灰色系の粘土層や粗砂層が堆積していた。VII区からV区にかけて当該期の規模の大きい流路となるものであろう。また、後世の遺構や包含層からも、当該期の遺物が出土しており、近辺に当該期の集落があったと考えられる。

(2) 弥生時代後期～古墳時代初頭

住居址は検出されなかったが、II区・III区・VII区・VI区で当該期の溝・自然河川・土坑などを検出した。また、IV区の自然河川からは古代、中世の土器に混じって当該期の遺物が多く出土した。溝・自然河川・落ちの方向はSD105が南から北へ向かう以外は、おおむね南西から北東へ向く。溝はいずれも幅が広く浅く明確な遺構というよりは浅い落ち込み状になっている。土器は弥生時代後期前半の土器を含み、若干他の溝より先行すると考えられるSD101出土のものがやや大きい破片で、磨滅も少なかった。この溝は西方に広がる緩い尾根の裾部に当たり、この尾根の上方からの流れ込みと思われる。弥生時代後期後半の他の溝については破片も細かいものが多く、磨滅や剥離しているものが多く、やや離れた場所からの流れ込みであろう。遺跡の南西側に集落の存在が考えられよう。III区東部では古墳時代初頭の廃棄土坑を1基検出した。

平成5年度に文化行政課が隣接地の調査を行った際、弥生時代後期の溝から土器がまとまって出土した。そして土器の胎土の分析の結果、甕は約1/3が、他の器種は全てが下川津B類土器であるとの指摘があった。今回の調査ではその溝の延長部(SD102)を始め弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構から土器がまとまって出土している。それらの土器で、製塩土器を除外して器種のわかるものの胎土を観察したところ、SD102では角閃石を含むものは甕で1/5程度であった。他の器種については個体数が少ないので全体を明らかにするのは難しいが、高坏が2点中2点に角閃石を含んでいた他は胎土中に角閃石を含む個体の割合はあまり甕と変わらないと思われる。SD102に若干先行するSD101では甕で1/4程度、全体では1/3弱程度に角閃石が含まれ、SD102と同時期またはそれに続く時期のVI区包含層、SK101では全体で1/6～1/7程度と角閃石を含む個体の割合が減少する。抽出点数が少なく全体を反映し切れていない恐れは多分にあるが、角閃石を含む個体は今回の調査では前回の調査ほど比率は多くなく、また弥生時代後期前半に対して後期後半以降はやや比率を下げる傾向にあることがいえよう。しかし角閃石を含む胎土にも角閃石の多寡や石英などの砂粒の大小・多寡にも差異があり、これらの区別ができるのかどうかは明らかにできなかった。また、これらの遺構から製塩土器が数多く出土した。それらは大まかに (1)体部をナデで調整し、胎土中に角閃石を含まないもの (2)体部をヘラ削り、板ナデで調整し、胎土中に多量の角閃石を含むもの (3)体部をタタキ調整し、胎土中に角閃石を含まないもの に分けることができる。このうち(2)はSD101で1(/1)点、SD102～105で6(/12)点、VI区

包含層で15(16)点出土し、他の器種に比べてかなり高率で角閃石を含む個体が出土している。なお、S K 101は6点中(3)が4点、(1)が1点、(1)または(3)が1点であり、時期が下ると角閃石を含む個体が消え、外面をタキ調整するものにとって代わることがわかる。また、(2)については、土器の剥離痕や断面観察から底部を粘土で充填して作っていたことがわかる。

志度湾の海岸線は現在より内側へ入っていたといわれる。志度町内には弥生時代中期の天野遺跡、古墳時代前・後期の長蛇ヶ谷遺跡などの製塩土器が出土する遺跡も知られ、関連が注目される。

(3) 古代

Ⅵ区で南西から北東へ流れる溝S D 106を検出した。ここからはおおむね7世紀中葉頃の暗文のある土師器杯、須恵器杯・壺が出土した。その他、Ⅳ区自然河川や湿地帯からも7～8世紀の土師器杯・皿、須恵器蓋などが数点出土している。調査地内では集落は見つからなかったが、遺跡の近辺や上流側や近辺に当該期の集落があった可能性がある。

(4) 鎌倉・室町時代

中世の遺構は13世紀を中心とする遺構群と14世紀後半～15世紀を中心とする遺構群に分かれる。

13世紀を中心とする遺構群はⅡ区東端からⅢ区の西半とⅣ区に広がる。住居址は検出されなかったが、Ⅲ区西部では周辺地割りや傾斜に規制された小規模な溝群と完形やそれに近い土器を意図的に埋めたと考えられるピットを溝の周辺で検出した。これらは水田等の耕作に伴うものと思われ、土器を埋納するピットはそれに伴うものと考えられる。Ⅲ区西部の溝群は北向きの溝がほぼ真北方向のものと北東方向のもの2方向に分かれる。遺構の切り合い関係により両者は時期差があり、北東方向の溝が古い。ほぼ東方向へ向く溝は前者と同時期であると考えられる。遺構の切り合い関係からおおむね

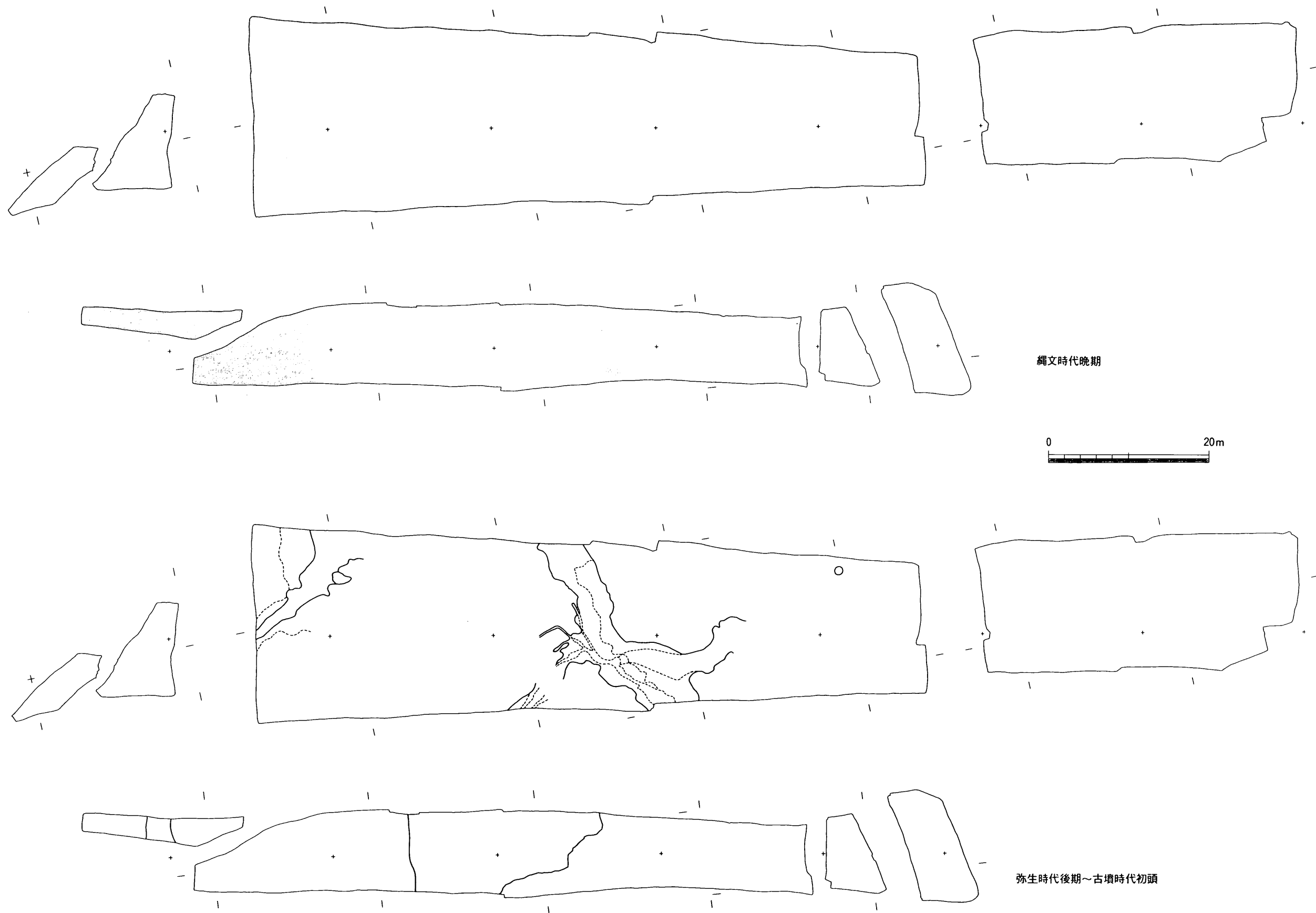
S D 110, S P 108 (土師器杯・碗埋納) → S D 108・109・111・112, S X 101, S P 104・107, S K 102 (土師器小皿埋納) → S D 119 → S D 113・114・115 (土師器小皿埋納?)・118・120・122 → S X 102 と考えられる。

Ⅳ区全域では湿地帯及び自然河川を検出した。Ⅳ区南西から北東にかけての広い範囲で黒色粘土の堆積層がみられ、自然河川からは様々な時期の土器が出土しているが、出土遺物からおそらく最終的には13世紀代に埋没したと考えられる。

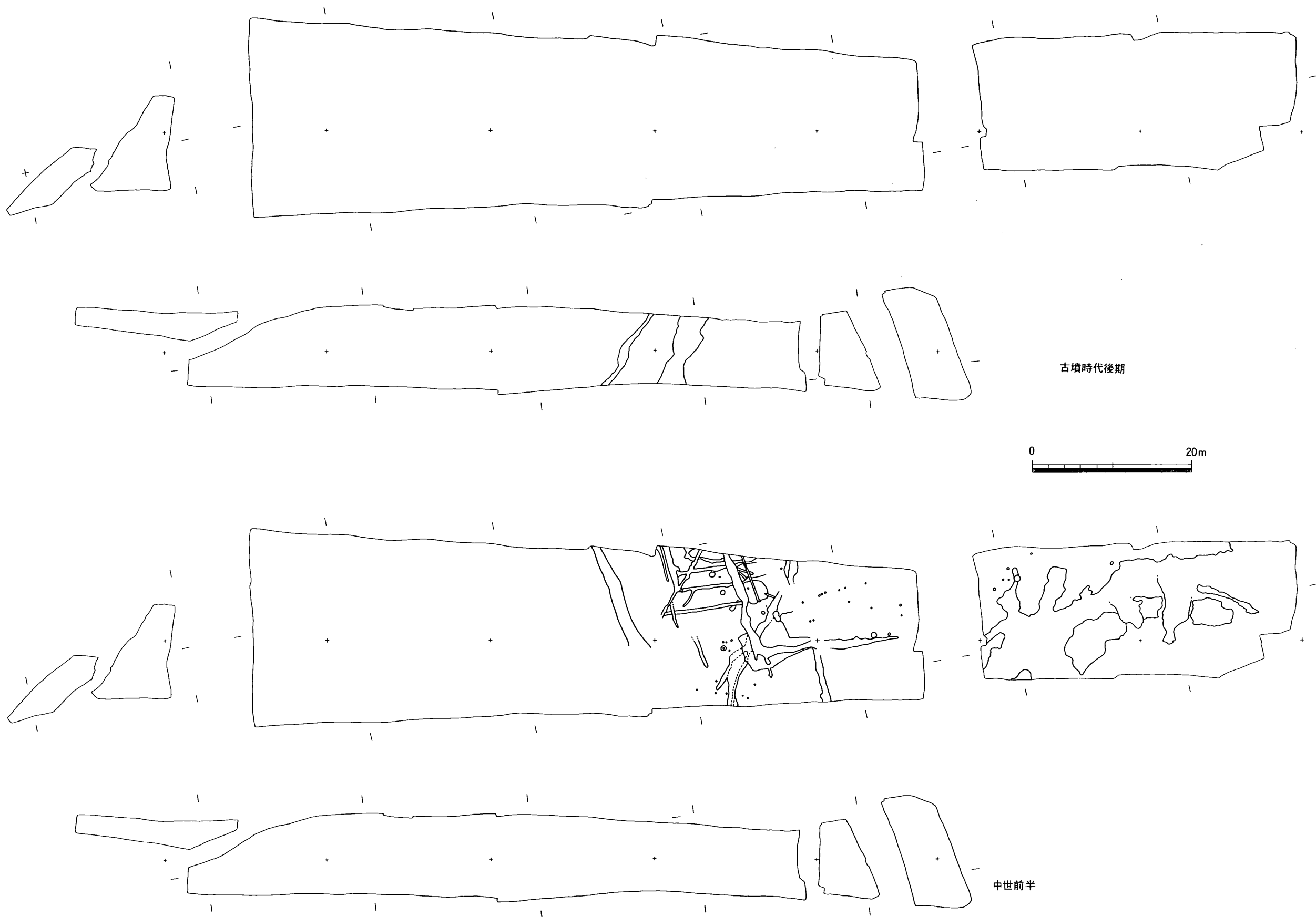
14世紀後半から15世紀としては、Ⅱ区中部で検出したS D 121があげられる。水田耕作に関連する溝と考えられる。13世紀代の溝群と比べ、規模が大きい。この頃にはほぼ現在のものに近い地割になっていたと考えられる。

(5) 現代

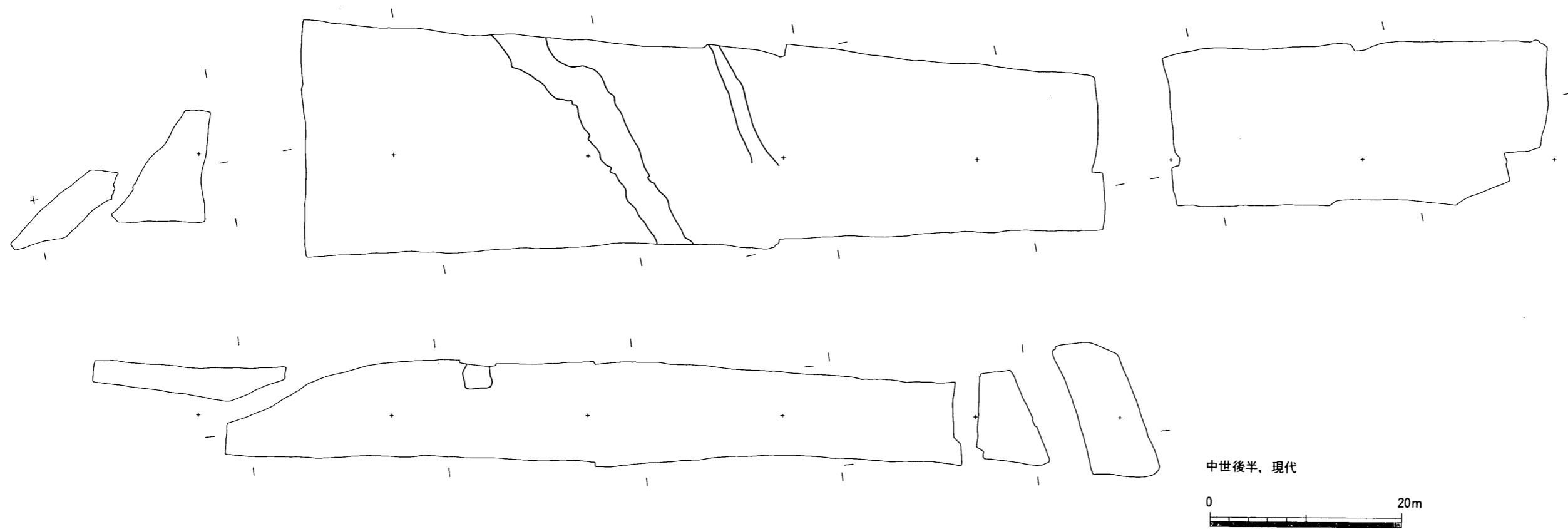
Ⅴ区で農業用の井戸を1基検出した。1920年頃までは使用されていたらしいが、調査時には埋め立てられていた。



第71図 遺構変遷図(1) (1/500)



第72図 遺構変遷図(2) (1/500)



第73図 遺構変遷図(3) (1/500)

第1表 八丁地遺跡 土器観察表

構図No.	団版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色調	胎土	残存量	備考
1	31	V区 縄文土器包含層	縄 深鉢	41.8cm			(外)刻み目凸帯,ヘラ削り後ナデ (内)横ナデ,横ナデ	普通	10Y R6/4 にぶい黄橙	0.1~4mm	口縁2/8	
2	31	V区 縄文土器包含層	縄 深鉢	36.4cm			(外)刻み目凸帯,ヘラ削り後ナデ (内)横ナデ	普通	10Y R7/3 にぶい黄橙	0.1~3mm 多量	口縁1/8	
3	31	V区 縄文土器包含層	縄 深鉢	24.6cm			(外)刻み目凸帯,ヘラ削り後ナデ (内)ヘラミミガキ	普通	2.5Y 4/1 黄灰	0.1~1mm 多量	破片	
4		V区 縄文土器包含層	縄 浅鉢				(外)ヘラミミガキ (内)ヘラミミガキ	普通	2.5Y 3/1 黒褐	0.1~2mm	破片	
5	31	V区 縄文土器包含層	縄 深鉢				(外)刻み目凸帯,横ナデ (内)沈線	普通	10Y R6/2 灰黄褐	0.1~1mm 多量	破片	
6	31	Ⅵ区 縄文土器包含層	縄 深鉢				(外)右下がりが粗文,沈線,横ナデ (内)ヘラミミガキ	良	5Y 3/1 オリーブ黒	0.1~3mm 多量	破片	
7	31	Ⅵ区 縄文土器包含層	縄 深鉢	18.8cm			(外)刻み目凸帯,横ナデ (内)沈線,横ナデ	良	5Y 3/1 オリーブ黒	0.1~2mm	破片	
8	31	Ⅵ区 縄文土器包含層	縄 深鉢				(外)磨滅,刻み目凸帯 (内)ヘラミミガキ	良	10Y R6/6 明黄褐	0.1~2mm 金雲母	破片	
9	31	Ⅵ区 縄文土器包含層	縄 深鉢				(外)刻み目凸帯,横ナデ (内)磨滅	良	2.5Y 5/2 暗灰黄	0.1~5mm 多量	破片	
10		Ⅵ区 縄文土器包含層	縄 深鉢				(外)ナデ,ヘラミミガキ (内)ナデ,ヘラミミガキ	普通	(外)2.5Y 7/2 灰白 (内)5Y 3/1 オリーブ黒	0.1~3.5mm 多量 金雲母・角閃石	破片	
11		Ⅵ区 縄文土器包含層	縄 浅鉢				(外)磨滅 (内)磨滅,指おさえ	普通	10Y R5/2 灰黄褐	0.1~4mm 多量 金雲母・角閃石	破片	
12		Ⅵ区 縄文土器包含層	縄 体部				(外)指引文 (内)指おさえ後板ナデ	普通	10Y R6/2 灰黄褐	0.1~2mm 金雲母	破片	
13		Ⅵ区 縄文土器包含層	縄 体部				(外)タテ,ナメ方向の貝殻条痕 (内)ナデ	良	(外)2.5Y 5/2 暗灰黄 (内)N2/ 黒	0.1~3mm 多量	破片	
14		Ⅵ区 縄文土器包含層	縄 浅鉢	24.6cm			(外)磨滅 (内)磨滅	やや不良	2.5Y 5/3 黄褐	0.1~5mm	口縁1/8	
15		Ⅵ区 縄文土器包含層	縄 浅鉢				(外)磨滅,ヘラミミガキ,沈線 (内)ヘラミミガキ,沈線	普通	(外)2.5Y 4/2 暗灰黄 (内)7.5Y R5/4 にぶい褐	0.1~1mm	破片	
16		Ⅵ区 縄文土器包含層	縄 底部		5.2cm		(外)磨滅 (内)磨滅	良	(外)7.5Y R5/4 にぶい褐 (内)5Y 5/1 灰	0.1~5mm 多量	底部完存	
17		Ⅵ区 縄文土器包含層	縄 底部		6.6cm		(外)磨滅 (内)磨滅	良	(外)2.5Y 5/2 暗灰黄 (内)10Y R5/4 にぶい黄褐	0.1~3mm 多量	底部5/8	
18		Ⅵ区 縄文土器包含層	縄 底部		12.8cm		(外)磨滅,ヘラミミガキ (内)ヘラミミガキ	普通	(外)5Y 3/1 オリーブ黒 (内)10Y R5/2 灰黄褐	0.1~0.5mm	1/8	
19	32	SD101	弥 甕	16.5cm	35.6cm	9.8cm	(外)横ナデ,ヘラミミガキ,ヘラ削り後指ナデ (内)横ナデ,指おさえ,ヘラ削り後指ナデ,指おさえ	普通	7.5Y R6/6 橙	0.1~9mm 多量 金雲母・角閃石	ほぼ完存	
20	32	SD101	弥 甕	16.9cm			(外)横ナデ,タテハケ後ヘラ削り後指ナデ (内)ヨコハケ,ヨコハケからナメヘラ削り後指ナデ	普通	7.5Y R5/4 にぶい褐	0.1~5mm 多量 角閃石	2/8	
21	32	SD101	弥 甕	15.0cm	29.9cm	7.2cm	(外)横ナデ,タテハケ後指ナデ (内)横ナデ,タテハケ後指ナデ	普通	10Y R5/3 にぶい黄褐	0.1~4mm 多量	ほぼ完存	
22		SD101	弥 甕	14.0cm			(外)横ナデ,浅いタテハケ (内)横ナデ,ヨコヘラ削り	普通	10Y R4/3 にぶい黄褐	0.1~5mm 多量	口縁4/8	
23		SD101	弥 甕	14.3cm			(外)横ナデ,タテハケ (内)刻線,指ナデ	普通	5Y R5/8 明赤褐	0.1~2mm やや多い	口縁1/8	
24		SD101	弥 甕	15.3cm			(外)横ナデ,タテハケ,磨滅 (内)横ナデ,磨滅	普通	5Y R7/6 橙	0.1~3mm 金雲母	口縁1/8	
25		SD101	弥 甕	13.9cm			(外)横ナデ,タテハケ (内)板ナデ,板ナデ後指ナデ	普通	(外)2.5Y 5/2 暗灰黄 (内)5Y 3/1 オリーブ黒	0.1~3mm 金雲母	1/8	
26		SD101	弥 甕	16.4cm			(外)横ナデ,タテハケ後指ナデ (内)横ナデ,指おさえ,板ナデ	普通	(外)10Y R6/3 にぶい黄橙 (内)N3/ 暗灰	0.1~8mm	口縁2/8	

挿入No	図版No	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色	調	胎土	残存量	備考
27		SD101	弥 甕	14.6cm			(外)横ナデ, タテハケ (内)ヨコハケ, ナデ	普通	5Y R5/8 明赤褐		0.1~4mm 金雲母, 角閃石	口縁2/8	
28		SD101	弥 甕	18.8cm			(外)横ナデ, タテハケ (内)横ナデ, 指おさえ	普通	7.5Y R4/3 褐		0.1~3mm 金雲母	口縁1/8	
29		SD101	弥 甕	15.6cm			(外)横ナデ, タタキ後タテハケ (内)横ナデ, 摩滅	普通	5Y R7/8 橙		0.1~5mm	口縁1/8	
30	32	SD101	弥 甕	14.7cm			(外)タテハケ (内)ヨコハケ, 指ナデ後タテヘラ削り	普通	5Y R5/4 にぶい赤褐		0.1~3mm	口縁3/8	
31		SD101	弥 甕	16.2cm			(外)横ナデ, 摩滅, タテハケ (内)横ナデ, 指おさえ後ナデ, タテヘラ削り	普通	10Y R7/6 明黄褐		0.1~2mm 金雲母	口縁1/8	
32		SD101	弥 甕	15.2cm			(外)横ナデ (内)ヨコハケ後ナデ	普通	7.5Y R5/4 にぶい褐		0.1~2mm 角閃石	口縁2/8	
33	32	SD101	弥 甕	13.1cm			(外)横ナデ, タタキ後タテハケ (内)横ナデ, 板ナデ後指ナデ	普通	5Y R5/6 明赤褐		0.1~2mm 金雲母	口縁完存	
34		SD101	弥 甕	13.0cm			(外)横ナデ, タタキ後ナデ (内)横ナデ, 指おさえ後ナデ	普通	7.5Y R5/3 にぶい褐		0.1~3mm 金雲母	口縁1/8	
35		SD101	弥 甕				(外)横ナデ, タテハケ後ナデ (内)横ナデ, 指おさえ, ヨコヘラ削り	普通	5Y R6/6 橙		0.1~4mm 金雲母	破片	
36		SD101	弥 甕				(外)横ナデ, タテハケ (内)ヨコハケ, 指おさえ, タテヘラ削り	普通	5Y R6/6 橙		0.1~3mm	破片	
37	32	SD101	弥 甕	17.9cm			(外)横ナデ, タタキ後タテハケ (内)横ナデ, 指おさえ, 板ナデ後ナデ	普通	7.5Y R6/6 橙		0.1~5mm 金雲母	口縁2/8	
38	32	SD101	弥 甕	15.1cm			(外)横ナデ, 指おさえ後ナデ (内)横ナデ, 指おさえ後ナデ, ヨコヘラ削り	普通	10Y R5/3 にぶい黄褐		0.1~5mm 多量	口縁完存	
39		SD101	弥 甕	13.3cm			(外)横ナデ, 摩滅 (内)横ナデ, ヨコヘラ削り	普通	10Y R6/4 にぶい黄褐		0.1~4mm 多量	口縁4/8	
40		SD101	弥 甕	17.3cm			(外)横ナデ (内)横ナデ, ナメハケ後指おさえ	普通	10Y R6/4 にぶい黄褐		0.1~2mm 金雲母, 角閃石	口縁1/8	
41		SD101	土 甕	14.2cm			(外)ナデ, タタキ (内)ナデ, ヨコハケ, 板ナデ	普通	7.5Y R4/4 褐		0.1~3mm	口縁1/8	
42	33	SD101	弥 底部		7.3cm		(外)タテハケ (内)ヘラ削り後タテハケ	普通	10Y R6/4 にぶい黄褐		0.1~3mm 多量 角閃石少し	2/8	
43		SD101	弥 底部		5.0cm		(外)ヘラミガキ, 摩滅 (内)タテヘラ削り, ナデ	普通	5Y R5/6 明赤褐		0.1~3mm 金雲母	底部3/8	
44	33	SD101	弥 底部		5.6cm		(外)剥離, タテハケ (内)板ナデ後ナデ	普通	2.5Y R6/4 にぶい褐		0.1~5mm やや多い 金雲母	底部完存	
45		SD101	弥 底部		3.2cm		(外)タタキ後タテハケ (内)タテヘラ削り後ナデ	普通	(外)10Y R4/3 にぶい黄褐 (内)7.5Y R4/4 褐		0.1~4mm 多量	4/8	
46		SD101	弥 底部		5.7cm		(外)タテハケ, 指おさえ (内)板ナデ	普通	(外)5Y R5/6 明赤褐 (内)7.5Y R5/6 明赤褐		0.1~5mm やや多い 金雲母, 角閃石	底部完存	
47		SD101	弥 底部		4.4cm		(外)タテハケ, 摩滅, ナデ (内)ヘラ削り後ナデ	普通	10Y R5/3 にぶい黄褐		0.1~3.5mm やや多い 金雲母, 角閃石	底部完存	
48		SD101	弥 底部		4.3cm		(外)タテハケ (内)ヘラ削り, 指おさえ	普通	7.5Y R7/3 にぶい褐		0.1~3mm	底部完存	
49	33	SD101	弥 甕	18.2cm			(外)横ナデ, 剥離, タテハケ, タタキ後タテハケ (内)剥離, ヨコハケ, 指おさえ後ヨコヘラ削り	普通	5Y R5/6 明赤褐		0.1~5mm	4/8	
50	33	SD101	弥 甕	15.0cm			(外)タテハケ, 摩滅, ナデ (内)指おさえ, 指ナデ, ヨコヘラ削り	普通	(外)7.5Y R5/4 にぶい褐 (内)2.5Y R6/3 にぶい黄		0.1~4mm やや多い 金雲母少ない, 角閃石	6/8	
51		SD101	弥 甕	15.9cm			(外)横ナデ, タテハケ (内)横ナデ, ヨコハケ後ナデ	普通	7.5Y R6/4 にぶい褐		0.1~1mm 少量 金雲母, 角閃石	口縁1/8	
52	33	SD101	弥 甕	10.2cm			(外)横ナデ, タテハケ後ヨコハケ (内)横ナデ, 指おさえ後ナデ	普通	7.5Y R7/4 にぶい褐		0.1~3.5mm 金雲母, 角閃石	口縁2/8	
53	33	SD101	弥 鉢				(外)剥離, ヨコハケ後指おさえ (内)剥離, ヨコハケ後指おさえ	普通	5Y R6/8 橙		0.1~5mm 多量 金雲母	口縁1/8	
54	33	SD101	弥 鉢	18.6cm			(外)横ナデ, 板削り (内)ナデ, ヨコハケ	普通	5Y R4/6 赤褐		0.1~1mm 角閃石少ない	口縁2/8	

挿入No.	図版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色	調	胎土	残存量	備考
55		SD101	弥鉢			2.8cm	(外)タタキ後指ナデ (内)浅いハケ	普通	7.5Y R6/6 橙		0.1~2mm 金雲母	底部完存	
56	34-(1)	SD101	弥高杯	33.0cm	19.5cm	19.0cm	(外)横ナデ、タテハケ後コハケ、指おさえ、円周3ヶ所 (内)横ナデ、ヨコハケ後ヘラミガキ、ナデ、しほり目	普通	5Y R6/6 橙		0.1~6mm 多量 金雲母、角閃石	4/8	
57		SD101	弥高杯	28.3cm			(外)剥離、横ナデ、ヨコヘラ削り (内)ヨコハケ後ヘラミガキ、ヨコハケ後ナデ	普通	10Y R6/6 明黄褐		0.1~3mm やや多い 金雲母、角閃石	破片	
58		SD101	弥高杯				(外)磨減、しほり目、指おさえ (内)磨減、横ナデ	普通	(外)5Y R5/6 明赤褐 (内)10Y R6/6 明黄褐		0.1~3mm 多量	破片	
59		SD101	弥高杯			15.8cm	(外)ヘラミガキ、磨減、横ナデ (内)ヨコヘラ削り	普通	5Y R6/8 橙		0.1~5mm やや多い 金雲母	脚部4/8	
60	34-(1)	SD101	弥製埴土器			2.8cm	(外)板ナデ、指おさえ (内)ヘラ削り、指おさえ	普通	10Y R5/4 にぶい黄褐		0.1~0.5mm やや多い 角閃石	底部完存	
61	34-(2)	SD102西部	弥製	13.5cm	18.6cm	2.8cm	(外)横ナデ、指おさえ、タタキ後タテハケ (内)ハケ?タテハケ削り後ナメハケ、タテヘラ削り後ナデ	普通	5Y R6/6 橙		0.1~5mm やや多い 金雲母	ほぼ完存	
62	34-(2)	SD102西部	弥製	12.6cm			(外)横ナデ、タタキ後タテハケ (内)横ナデ、指おさえ、タテヘラ削り	普通	7.5Y 6/4 にぶい橙		0.1~4mm	4/8	
63		SD102西部	弥製	18.7cm			(外)磨減、ナメハケ (内)磨減、磨減、指ナデ	普通	2.5Y R5/8 明赤褐		0.1~3mm	破片	
64	34-(2)	SD102西部	弥製	15.1cm			(外)横ナデ、タテハケ (内)ヨコハケ後ナデ、指おさえ	普通	7.5Y R6/4 にぶい橙		0.1~6mm やや多い 金雲母、角閃石	口縁3/8	
65	34-(2)	SD102西部	弥製	14.4cm			(外)横ナデ、タタキ後タテハケ (内)横ナデ、指ナデ、タテヘラ削り後ナデ	普通	(外)7.5Y R6/6 橙 (内)10Y R7/4 にぶい黄橙		0.1~4mm やや多い 金雲母	口縁5/8	
66		SD102西部	弥製	14.2cm			(外)横ナデ、タタキ (内)ナメハケ削り後ナデ、横ナデ	普通	7.5Y R6/6 橙		0.1~3mm 金雲母少ない	口縁1/8	
67		SD102西部	弥製	13.8cm			(外)横ナデ、タテハケ、磨減 (内)ナデ、磨減	普通	2.5Y R5/8 明赤褐		0.1~5mm やや多い	口縁2/8	
68		SD102西部	弥底部			3.5cm	(外)タテハケ (内)ヘラ削り、磨減	普通	7.5Y R6/4 にぶい橙		0.1~4mm 金雲母、角閃石	底部6/8	
69		SD102西部	弥底部			3.4cm	(外)タテハケ (内)ヘラ削り、指おさえ	普通	(外)7.5Y R5/3 にぶい褐 (内)7.5Y R6/4 にぶい橙		0.1~3mm 角閃石	底部完存	
70		SD102西部	弥底部			3.8cm	(外)タタキ後タテハケ、板目直 (内)指おさえ、ナデ	普通	(外)2.5Y R5/8 明赤褐 (内)7.5Y R6/4 にぶい橙		0.1~5mm	底部完存	
71		SD102西部	弥底部			4.9cm	(外)タタキ後ナデ (内)ヘラ削り	普通	10Y R6/3 にぶい黄橙		0.1~2.5mm	底部2/8	
72		SD102西部	弥瓶			2.6cm	(外)タタキ後ナデ (内)指ナデ	普通	7.5Y R6/6 橙		0.1~5mm やや多い	底部完存	
73		SD102西部	弥壺	29.6cm			(外)横ナデ (内)磨減	普通	7.5Y R6/4 にぶい橙		0.1~2mm 金雲母	破片	
74	34-(2)	SD102西部	弥鉢	15.0cm			(外)横ナデ、タテハケ後ナデ (内)横ナデ、指おさえ、板ナデ	普通	7.5Y R6/4 にぶい橙		0.1~3mm 金雲母少し、角閃石	口縁2/8	
75		SD102西部	弥脚部				(外)タタキ後ナデ (内)指ナデ	普通	5Y R6/6 橙		0.1~3mm 金雲母少し	破片	穿孔1ヶ所
76	34-(2)	SD102西部	弥製埴土器			3.3cm	(外)指おさえ (内)指おさえ	普通	7.5Y R6/6 橙		0.1~4mm	底部3/8	
77	34-(2)	SD102西部	弥製埴土器			3.9cm	(外)タテヘラ削り後ナデ、指おさえ (内)タテヘラ削り	普通	7.5Y R6/4 にぶい橙		0.1~1.5mm 角閃石多い	底部完存	
78		SD102西部	弥製埴土器			3.6cm	(外)タテヘラ削り後指おさえ (内)指おさえ	普通	7.5Y R7/4 にぶい橙		0.1~1mm 角閃石	底部4/8	
79	34-(2)	SD102西部	弥鉢	28.8cm			(外)タタキ後タテハケ、磨減 (内)ナデ、磨減	普通	7.5Y R6/4 にぶい橙		0.1~4mm やや多い	口縁2/8	
80		SD102西部	弥鉢	17.8cm			(外)タテハケ後横ナデ、指おさえ、しほり (内)タテハケ	普通	5Y R6/6 橙		0.1~4mm やや多い 角閃石	口縁1/8	
81		SD102西部	弥鉢	19.6cm			(外)タタキ後ナデ (内)ナデ	普通	5Y R6/6 橙		0.1~2.5mm 金雲母	破片	
82		SD102西部	弥鉢				(外)磨減、磨減、板ナデ後ナデ? (内)磨減	普通	2.5Y R6/8 橙		0.1~3mm やや多い	破片	

種	圖版No.	出	土	位	置	器	種	口	徑	器	高	底	徑	調	整	成	色	調	胎	土	量	存	量	考
83		SD102・SD103	合	流	部	弥	甕	15.2cm						(外)指ナデ、指おさえ、磨滅、タテハケ (内)磨滅	タテハケ	普通	5YR5/6 明赤褐		0.1~5mm	やや多い	口縁2/8			
84		SD102・SD103	合	流	部	弥	鉢	16.9cm						(外)磨滅・ナメハケ? (内)磨滅		普通	5YR6/8 橙		0.1~3mm 金雲母、角閃石	やや多い	口縁2/8			
85		SD102	東	部		弥	甕	13.6cm						(外)指ナデ、磨滅、タテハケ (内)磨滅		普通	(外)10YR6/6 明黄褐 (内)7.5YR5/6 明褐		0.1~4mm	やや多量	口縁1/8			
86		SD102	東	部		弥	甕	16.0cm						(外)指ナデ、磨滅 (内)磨滅		普通	10YR5/4 にぶい、黄褐		0.1~6mm	金雲母多	口縁1/8			
87		SD102	東	部		弥	甕	14.8cm						(外)磨滅 (内)磨滅		不良	2.5Y7/3 浅黄		0.1~6mm	やや多い	口縁1/8			
88		SD102	東	部		弥	底部		3.9cm					(外)タタキ、磨滅 (内)指おさえ後ナデ		普通	7.5YR8/4 浅黄橙		0.1~4mm 多量 金雲母少し	多量	底部完存			
89		SD102	東	部		弥	底部		4.9cm					(外)磨滅・タテハケ? (内)剥離・ナデ?		普通	5YR7/6 橙		0.1~2mm	やや多い	底部ほぼ完存			
90		SD102	東	部		弥	底部		3.1cm					(外)磨滅・ナデ、磨滅 (内)磨滅		普通	(外)10YR4/4 褐 (内)5Y3/1 オリーブ黒		0.1~4mm 多量	多量	底部完存			
91		SD102	東	部		弥	鉢底部		3.8cm					(外)ナデ、ヘラ削り (内)ナデ		普通	10YR5/4 にぶい、黄褐		0.1~5mm 金雲母少し	多量	底部完存			
92		SD102	東	部		弥	壺		16.6cm					(外)指ナデ、磨滅 (内)指ナデ、磨滅		普通	10YR7/4 にぶい、黄橙		0.1~4mm		口縁2/8			
93	35-(1)	SD102	東	部		弥	壺							(外)波状文、貼付凸帯 (内)指ナデ		普通	10YR6/3 にぶい、黄橙		0.1~4mm		1/8			
94		SD102	東	部		弥	鉢		23.2cm					(外)指ナデ、磨滅 (内)指ナデ、磨滅		普通	10YR7/4 にぶい、黄橙		0.1~3mm		口縁1/8			
95		SD102	東	部		弥	鉢							(外)指ナデ、板ナデ、磨滅 (内)磨滅		普通	7.5YR6/6 橙		0.1~2.5mm	多量	破片			
96	35-(1)	SD102	東	部		弥	鉢		21.5cm		7.7cm			(外)磨滅、ヘラ削り、しわ (内)剥離		普通	10YR6/4 にぶい、黄橙		0.1~5mm	多量	6/8			
97		SD102	東	部		弥	鉢		3.0cm					(外)指おさえ、板ナデ (内)磨滅、指おさえ		普通	(外)2.5Y6/3 にぶい、黄 (内)7.5YR6/6 橙		0.1~5mm	多量	底部完存			
98		SD102	東	部		弥	鉢							(外)剥離 (内)剥離		普通	2.5YR5/6 明赤褐		0.1~3mm		接合部完存			
99		SD102	東	部		弥	製		2.9cm					(外)指おさえ、板ナデ (内)磨滅、指おさえ		普通	(外)10YR5/4 にぶい、黄褐 (内)5YR5/6 明赤褐		0.1~3mm 角閃石		底部ほぼ完存			
100		SD102	東	部		弥	製		3.5cm					(外)ヘラ削り、指おさえ (内)板ナデ		普通	2.5YR5/4 にぶい、赤褐		0.1~3mm 角閃石		底部7/8			
101		SD102	東	部		弥	製		3.2cm					(外)指おさえ、磨滅、ナデ (内)磨滅		普通	2.5Y6/3 にぶい、黄		0.1~3.5mm	多量	底部完存			
102		SD102	東	部		弥	製		3.3cm					(外)指おさえ (内)指ナデ		普通	7.5YR5/4 にぶい、褐		0.1~4mm 金雲母	少量	底部完存			
103		SD102	東	部		弥	製		4.1cm					(外)ヘラ削り、指おさえ (内)指ナデ		普通	2.5Y6/4 にぶい、黄		0.1~2mm 角閃石		底部ほぼ完存			
104		SD103				弥	甕		14.0cm					(外)剥離・タタキか? (内)ナデ、剥離・指ナデ		普通	5YR5/6 明赤褐		0.1~3mm		口縁1/8			
105		SD103				弥	甕		13.2cm					(外)タタキ後ナデ、タタキ後タテヘラ削り (内)指おさえ後タテハケ		普通	7.5YR6/6 橙		0.1~5mm		口縁1/8			
106		SD103				弥	甕							(外)指ナデ、剥離 (内)剥離、指ナデ		普通	10YR7/6 明黄褐		0.1~1mm 少量 角閃石、やや多い		破片			
107		SD103				弥	底部		4.3cm					(外)磨滅、タテハケ (内)ヘラ削り		普通	(外)2.5YR5/6 明赤褐 (内)7.5YR6/6 橙		0.1~3mm 金雲母	やや多い	底部完存			
108		SD103				弥	鉢		20.2cm					(外)ナデ、ヨコハケ後指おさえ (内)ナデ、ヨコハケ		普通	7.5YR6/6 橙		0.1~6mm		破片			
109		SD103				弥	鉢		15.1cm					(外)タタキ後指ナデ (内)ヨコハケ後ナデ、タテヘラ削り後指ナデ		普通	5YR6/6 橙		0.1~5mm	やや多い	2/8			
110	35-(2)	SD103				弥	甕		1.1cm					(外)タタキ後ナデ (内)ヨコハケ、指おさえ		普通	7.5YR6/3 にぶい、褐		0.1~4mm	やや多い	底部完存			

種目No.	団版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色	調	胎	土	残存量	備考
111		SD103	鉢				(外)タテハケ (内)板ナデ後ナデ	普通	7.5Y R7/6 橙	橙	0.1~5mm	やや多い	接合部完存	
112	35-(2)	SD103	鉢 製埋土器		5.6cm		(外)タタキ後タテヘラ削り (内)指ナデ	普通	7.5Y R6/6 橙	橙	0.1~3mm 角四石		底部完存	
113		SD104	鉢	17.7cm			(外)ナデ、摩滅、指おさえ (内)摩滅、ヨコハケ後指おさえ	普通	10Y R6/4 にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.1~4mm	やや多い	破片	
114		SD104	鉢 底部		7.2cm		(外)タテハケ、摩滅 (内)ヘラ削り、摩滅	普通	(外)10Y R6/4 にぶい黄橙 (内)10Y R7/2 にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.1~6.5mm	多量	底部4/8	
115		SD104	鉢 高杯				(外)指ナデ (内)指ナデ	普通	10Y R7/4 にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.1~1mm 少量 角四石や多い		接合部完存	
116		SD104	鉢 製埋土器		3.4cm		(外)指おさえ (内)指ナデ	普通	7.5Y R6/4 にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.1~5mm 金雲母		底部完存	
117		SD105	鉢 壺	16.8cm			(外)剥離、剥離・タテハケ? (内)剥離、剥離・指ナデ	普通	(外)2.5Y R6/8 橙 (内)5Y3/1 オリーブ黒	橙	0.1~5mm 金雲母、角四石少し		口縁1/8	
118		SD105	鉢	16.4cm			(外)横ナデ、摩滅 (内)摩滅、剥離	普通	(外)2.5Y R6/8 橙 (内)5Y3/1 オリーブ黒	橙	0.1~4mm	やや多い	2/8	
119	35-(2)	SD105	鉢 壺	14.6cm			(外)剥離、指おさえ (内)剥離、指おさえ	普通	2.5Y R6/8 橙	橙	0.1~4mm 金雲母		口縁4/8	
120		SD105	鉢 壺	15.6cm			(外)摩滅、タタキ (内)剥離、指ナデ	普通	2.5Y R6/6 橙	橙	0.1~4mm		口縁2/8	
121		SD105	鉢 壺	13.8cm			(外)摩滅 (内)横ナデ、摩滅、指おさえ	普通	7.5Y R6/6 橙	橙	0.1~1.5mm 金雲母、角四石		口縁1/8	
122		SD105	鉢 壺	13.8cm			(外)タタキ (内)摩滅、摩滅・指ナデ	普通	(外)7.5Y R7/3 にぶい黄橙 (内)7.5Y R5/6 明褐	にぶい黄橙	0.1~2.5mm 金雲母、角四石	やや多い	口縁1/8	
123	35-(2)	SD105	鉢 壺	3.6cm		3.6cm	(外)指ナデ後タテハケ (内)摩滅、指ナデ	普通	10Y R7/3 にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.1~3mm		底部完存	
124	35-(2)	SD105	鉢 壺	3.3cm		3.3cm	(外)タタキ、摩滅 (内)指おさえ後ナデ	普通	(外)10R5/8赤 (内)2.5Y6/2 灰黄	灰黄	0.1~7mm	多量	底部完存	
125		SD105	鉢 壺	3.4cm		3.4cm	(外)摩滅、タタキ (内)摩滅、板状工具の痕	普通	10Y R6/4 にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.1~3.5mm	多量	底部完存	
126	35-(2)	SD105	鉢 壺	3.2cm		3.2cm	(外)摩滅、タタキ (内)摩滅、板ナデ、指おさえ	普通	10Y R5/4 にぶい黄褐	にぶい黄褐	0.1~4mm	多量	底部完存	
127		SD105	鉢 底部	6.0cm		6.0cm	(外)摩滅 (内)ヘラ削り後ナデ、ナデ	普通	2.5Y7/3 浅黄	浅黄	0.1~6mm	多量	底部完存	
128	35-(2)	SD105	鉢 高杯	13.8cm			(外)摩滅、摩滅・ヘラ削り? (内)摩滅	普通	10Y R6/3 にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.1~1mm やや多い 金雲母、角四石多い		2/8	
129		SD105	鉢 製埋土器		3.4cm		(外)指おさえ (内)指おさえ	普通	5Y3/1 オリーブ黒	オリーブ黒	0.1~3mm		底部完存	
130		SD102~SD105合流部	鉢 製埋土器		3.7cm		(外)タテヘラ削り、指おさえ (内)指おさえ	普通	10Y R6/4 にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.1~3mm 角四石		底部完存	
131		SD102~SD105合流部	縄 浅鉢	18.0cm			(外)横ナデ (内)横ナデ	普通	10Y R4/1 褐灰	褐灰	0.1~2mm		口縁1/8	
132		II・III区 弥生土器包含層	鉢 壺	14.6cm			(外)横ナデ、タタキ、摩滅、ヘラミガキ (内)横ナデ、指おさえ後ナデ	普通	7.5Y R6/4 にぶい黄橙	にぶい黄橙	0.1~0.3mm		口縁1/8	
133		II・III区 弥生土器包含層	鉢 壺	15.3cm			(外)横ナデ、タタキ後タテハケ、摩滅 (内)横ナデ、指おさえ、タテハケ、摩滅	普通	5Y R7/8 橙	橙	0.1~5mm 金雲母		口縁1/8	
134		II・III区 弥生土器包含層	鉢 壺	16.6cm			(外)横ナデ、タテハケ (内)ナデ	普通	7.5Y R6/6 橙	橙	0.1~5mm		口縁1/8	
135		II・III区 弥生土器包含層	鉢 壺	16.0cm			(外)剥離、剥離・タテハケ? (内)剥離、剥離・指ナデ	普通	2.5Y R4/8 赤褐	赤褐	0.1~3mm	やや多い	口縁1/8	
136		II・III区 弥生土器包含層	鉢 壺	17.7cm			(外)横ナデ、指おさえ、タテハケ (内)剥離、剥離・板ナデ?	普通	5Y R7/6 橙	橙	0.1~2mm		口縁1/8	
137		II・III区 弥生土器包含層	鉢 壺	13.7cm			(外)横ナデ、板ナデ後横ナデ、ナデ (内)摩滅、剥離	普通	2.5Y R6/6 橙	橙	0.1~2.5mm		口縁1/8	
138		II・III区 弥生土器包含層	鉢 壺	13.9cm			(外)剥離 (内)剥離・板ナデ?、剥離・板ナデ後ナデ	普通	7.5Y R7/6 橙	橙	0.1~1.5mm		口縁1/8	

標図No.	団版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色	調	胎土	残存量	備考
139		Ⅱ・Ⅲ区 弥生土器包含層	弥 底部			3.8cm	(外)ナデ (内)ヘラ削り	普通	10Y R8/3 浅黄橙		0.1~5mm 金雲母少し	底部完存	
140	36-(1)	Ⅱ・Ⅲ区 弥生土器包含層	弥 甌			1.9cm	(外)タタキ後ナデ (内)指ナデ	普通	7.5Y R6/6 橙		0.1~2mm	底部完存	
141		Ⅱ・Ⅲ区 弥生土器包含層	弥 甌			3.7cm	(外)摩滅 (内)板ナデ	普通	10Y R7/4 にぶい黄橙		0.1~4mm	底部完存	
142	36-(1)	Ⅱ・Ⅲ区 弥生土器包含層	弥 甌			3.5cm	(外)板ナデ (内)摩滅・剥離	普通	10Y R7/3 にぶい黄橙		0.1~5.5mm 金雲母	底部完存	穿孔2ヶ所
143		Ⅱ・Ⅲ区 弥生土器包含層	弥 鉢			4.4cm	(外)ナデ, 指おさえ (内)ナデ(板ナデ圧痕あり)	普通	7.5Y R7/6 橙		0.1~1mm 少塵 角閃石	底部4/8	
144		Ⅱ・Ⅲ区 弥生土器包含層	弥 製埴土器			3.5cm	(外)摩滅・ハケ?, 指ナデ (内)指ナデ	普通	10Y R6/4 にぶい黄橙		0.1~4mm 金雲母, 角閃石	底部ほぼ完存	
145		Ⅱ・Ⅲ区 弥生土器包含層	弥 製埴土器			3.8cm	(外)ハケ, 摩滅 (内)指ナデ	普通	2.5Y 4/3 オリーブ褐		0.1~3mm	底部4/8	
146		Ⅱ・Ⅲ区 弥生土器包含層	弥 製埴土器			3.1cm	(外)摩滅・タタキ? 指おさえ (内)指ナデ	普通	5Y R7/6 橙		0.1~4mm	ほぼ完存	
147	36-(1)	Ⅱ・Ⅲ区 弥生土器包含層	弥 棒状土埴	現存長 8.0cm	最大幅 1.7cm	最大厚 1.6cm	(外)指おさえ (内)指おさえ	普通	10Y R6/6 明黄褐		0.1~4mm	ほぼ完存	
148	36-(1)	Ⅱ・Ⅲ区 弥生土器包含層	弥 管状土埴	現存長 5.0cm	最大幅 1.9cm	最大厚 0.5cm	(外)指ナデ (内)ナデ	普通	5Y R5/6 明赤褐		0.1~1.5mm	完存	
149		Ⅱ・Ⅲ区 弥生土器包含層	須 円面皿				(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	N7/ 灰白		0.1~2mm	破片	透かし痕 1ヶ所あり
150	36-(2)	S K101	弥 甌	13.0cm			(外)タタキ後タテハケ (内)指ナデ後ハケ後ヘラヘラ削り	普通	10Y R6/3 にぶい黄橙		0.1~3mm 金雲母	口縁5/8	
151		S K101	弥 甌	16.6cm			(外)指ナデ, タテハケ (内)ヘラ削り, 摩滅	普通	10Y R6/3 にぶい黄橙		0.1~3mm 金雲母, 角閃石	口縁1/8	
152		S K101	弥 甌	14.0cm			(外)横ナデ, 摩滅, タタキ後タテハケ (内)横ナデ, 指ナデ	普通	10Y R6/4 にぶい黄橙		0.1~3mm やや少ない	口縁1/8	
153		S K101	弥 甌	15.8cm			(外)横ナデ, タテハケ (内)ヨコハケ, ヨコハケ後指ナデ?	普通	(外)2.5Y 6/3 にぶい黄 (内)5Y 4/1 灰		0.1~3mm 少塵 金雲母, 角閃石	口縁1/8	
154		S K101	弥 甌	13.7cm			(外)剥離, タテハケ (内)剥離, 指おさえ	普通	7.5Y R5/4 にぶい褐		0.1~1mm	口縁1/8	
155		S K101	弥 甌	15.3cm			(外)横ナデ, 摩滅, タテハケ (内)剥離, ヨコハケ, 摩滅, タテヘラ削り後指ナデ	普通	10Y R5/4 にぶい黄褐		0.1~3mm 金雲母	1/8	
156		S K101	弥 甌	16.0cm			(外)横ナデ, タテハケ後ヨコハケ, 摩滅 (内)横ナデ, ヘラ削り, 摩滅	普通	10Y R5/4 にぶい黄褐		0.1~3.5mm やや多い	口縁1/8	
157		S K101	弥 甌	13.9cm			(外)横ナデ, タテハケ, タタキ後タテハケ (内)横ナデ, 指おさえ後指ナデ後指ナデ	普通	7.5Y R6/4 にぶい橙		0.1~6.5mm やや多い	口縁1/8	
158		S K101	弥 甌	13.6cm			(外)摩滅 (内)摩滅	普通	10Y R5/4 にぶい黄褐		0.1~7mm	口縁1/8	
159		S K101	弥 甌	11.9cm			(外)横ナデ, 剥離, タテハケ (内)横ナデ, 剥離, 指おさえ, ヨコヘラ削り	普通	10Y R5/3 にぶい黄褐		0.1~3mm	1/8	
160		S K101	弥 甌	17.5cm			(外)剥離 (内)剥離, ヘラ削り?	普通	7.5Y R4/4 褐		0.1~5mm 金雲母	口縁1/8	
161		S K101	弥 甌	14.4cm			(外)横ナデ, 摩滅, ナデ? (内)ヨコハケ? タテヘラ削り後指ナデ後指ナデ	普通	10Y R6/3 にぶい黄橙		0.1~3mm 金雲母, 角閃石少し	1/8	
162		S K101	弥 甌	18.9cm			(外)横ナデ, 指おさえ, ハケ (内)ヨコハケ, 指おさえ後ナデ	普通	(外)10Y R6/4 にぶい黄橙 (内)2.5Y 5/3 黄褐		0.1~5.5mm やや多い	口縁1/8	
163		S K101	弥 鉢	12.6cm			(外)タテハケ後指おさえ, タテハケ後ナデ (内)タテヘラ削り, 指おさえ後ナデ	普通	(外)7.5Y R6/4 にぶい橙 (内)10Y R6/3 にぶい黄橙		0.1~3mm	口縁1/8	
164	36-(2)	S K101	弥 底部			3.6cm	(外)横ナデ, 指おさえ, ハケ (内)ナデ, タテハケ後ナデ	普通	2.5Y 7/2 灰黄		0.1~5mm 多量	底部完存	
165	36-(2)	S K101	弥 小型丸底甌			0.8cm	(外)横ナデ, タテハケ後ナデ (内)ナデ, 指おさえ後ナデ	普通	10Y R6/2 灰黄褐		0.1~2.5mm 角閃石	底部完存	
166	36-(2)	S K101	弥 鉢	19.8cm			(外)横ナデ, 指おさえ, タテヘラ削り (内)横ナデ, 板ナデ	普通	7.5Y R5/4 にぶい褐		0.1~3mm 金雲母	口縁1/8	

種No.	図版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色調	胎土	残存量	備考
167		S K 101	弥鉢	27.7cm			(外)ヨコからナメハケ (内)摩滅・ヨコからナメハケ	普通	(外)7.5Y R5/4 にぶい褐 (内)2.5Y 4/2 暗灰黄	0.1~2mm 金雲母少し	口縁1/8	
168		S K 101	弥鉢				(外)横ナデ, 摩滅 (内)横ナデ, ナデ	普通	(外)10Y R6/6 明黄褐 (内)N3/ 灰	0.1~4mm やや多い	破片	
169		S K 101	弥鉢	12.8cm	5.6cm	3.4cm	(外)ナデ (内)タテハケ	普通	(外)7.5Y R6/4 にぶい橙 (内)10Y R6/3 にぶい黄橙	0.1~4mm 金雲母少し	2/8	
170		S K 101	弥脚部				(外)タテハケ (内)ナデ, 指ナデ	普通	7.5Y R6/4 にぶい橙	0.1~3mm	接合部3/8	
171	36-(2)	S K 101	弥製埴土器	9.5cm	19.5cm	3.3cm	(外)タタキ後指ナデ (内)ナデ, 指ナデ	普通	10Y R5/4 にぶい黄褐	0.1~3mm 金雲母	ほぼ完存	
172	36-(2)	S K 101	弥製埴土器	8.5cm	16.0cm	2.6cm	(外)タタキ後ナデ (内)ナデ, 摩滅・タテハケ?	普通	(外)2.5Y 6/3 にぶい黄 (内)10Y R6/4 にぶい黄橙	0.1~5mm やや多い	5/8	
173	36-(2)	S K 101	弥製埴土器			3.1cm	(外)タタキ後ナデ, 指おさえ (内)指ナデ	普通	10Y R6/3 にぶい黄橙	0.1~0.3mm 金雲母	底部ほぼ完存	
174	36-(2)	S K 101	弥製埴土器			3.2cm	(外)タタキ, 指おさえ (内)指ナデ, 剥離	普通	7.5Y R4/4 褐	0.1~3mm 多量	底部ほぼ完存	
175	36-(2)	S K 101	弥製埴土器			3.0cm	(外)摩滅, 指おさえ, ナデ (内)指ナデ	普通	10Y R6/4 にぶい黄橙	0.1~6mm	底部完存	
176		S K 101	弥製埴土器			3.5cm	(外)指ナデ (内)ハケ? 指ナデ	普通	7.5Y R6/3 にぶい褐	0.1~1.5mm	底部完存	
177	37-(1)	S R 101	弥鉢	10.4cm	5.9cm		(外)指おさえ, ヘラ削り (内)ナデ, 指おさえ	良	(外)10Y R5/2 灰黄褐 (内)10Y R6/2 灰黄褐	0.1~3mm 金雲母, 角閃石	6/8	
178	37-(1)	S R 101	弥器	12.9cm		2.0cm	(外)指おさえ後タテハケ (内)指ナデ, 指おさえ, ヘラ削り	普通	(外)10Y R6/3 にぶい黄橙 (内)10Y R6/2 灰黄褐	0.1~6mm	体部以下4/8	
179		VI区 弥生土器包含層 茶褐色粘質土層(第1層)	弥製埴土器			3.2cm	(外)ヘラ削り, 指おさえ (内)板ナデ	普通	10Y R6/3 にぶい黄橙	0.1~3mm 角閃石	底部ほぼ完存	
180		VI区 弥生土器包含層 茶褐色粘質土層(第1層)	須杯蓋	13.8cm			(外)回転ナデ, 回転ヘラ削り (内)回転ナデ	普通	(外)5B G5/1 青灰 (内)10Y 6/1 灰	0.1~3mm	口縁1/8	
181		VI区 弥生土器包含層 茶褐色粘質土層(第1層)	須杯蓋	15.1cm			(外)回転ナデ, 回転ヘラ削り (内)回転ナデ	やや不良	N7/ 灰白	0.1~2mm 少量	破片	
182		VI区 弥生土器包含層 茶褐色粘質土層(第1層)	須杯身				(外)回転ナデ, ヘラ削り (内)回転ナデ	やや良	N5/ 灰	0.1~1.5mm	2/8	
183	37-(2)	VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	繩浅鉢				(外)剥離 (内)剥離	普通	2.5Y R4/2 暗灰黄	0.1~3mm 角閃石	破片	
184		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥器	21.8cm			(外)摩滅 (内)摩滅	普通	7.5Y R5/6 明褐	0.1~3mm 金雲母	口縁1/8	
185		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥器	15.9cm			(外)横ナデ, ヨコヘラ削り後指ナデ (内)剥離	普通	10Y R7/6 明黄褐	0.1~2mm 金雲母	口縁1/8	
186		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥器	15.8cm			(外)横ナデ, 摩滅 (内)剥離	普通	10Y R6/4 にぶい黄橙	0.1~2mm 金雲母	口縁2/8	
187		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥器	13.6cm			(外)摩滅 (内)ヨコハケ, 摩滅, 剥離	普通	7.5Y R6/6 橙	0.1~3mm 金雲母	口縁1/8	
188		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥器	15.4cm			(外)横ナデ, タタキ後ナデ, タタキ (内)横ナデ, 指おさえ	普通	10Y R7/4 にぶい黄橙	0.1~6mm やや多い	頸部1/8	
189		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥器	16.0cm			(外)指おさえ, タタキ (内)摩滅, ヨコハケ, 指おさえ後ハケ	普通	10Y R7/4 にぶい黄橙	0.1~5mm	口縁1/8	
190		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥器	15.4cm			(外)剥離, タタキ (内)剥離	普通	7.5Y R6/6 橙	0.1~2mm	口縁1/8	
191		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥器	12.4cm			(外)横ナデ, 剥離 (内)横ナデ, 剥離, 指おさえ	普通	5Y R5/6 明赤褐	0.1~3mm 角閃石多い	口縁4/8	
192		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥器	12.0cm			(外)剥離 (内)剥離	普通	2.5Y R4/6 赤褐	0.1~0.5mm 金雲母	口縁1/8	
193		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥器	17.6cm			(外)摩滅, タタキ (内)摩滅	普通	7.5Y R5/6 明褐	0.1~7mm 多量 金雲母少し	口縁1/8	
194		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥並	14.8cm			(外)剥離 (内)剥離	普通	10Y R6/6 明黄褐	0.1~2mm 金雲母	口縁2/8	

種目No.	図版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色調	胎土	残存量	備考
195	37-(2)	VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 甕	16.7cm			(外)剥離・横ナデ, タタキ (内)剥離	普通	10Y R6/4 にぶい黄橙	0.1~3mm	口縁3/8	
196		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 甕	14.8cm			(外)剥離 (内)剥離	普通	5Y R4/6 赤褐	0.1~2mm	口縁1/8	
197		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 甕	12.6cm			(外)横ナデ, 摩滅 (内)摩滅	普通	7.5Y R7/6 橙	0.1~6mm	口縁1/8	
198	37-(2)	VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 甕		3.0cm		(外)剥離, タタキ (内)剥離, 板ナデ後指ナデ?	普通	(外)10Y R4/4 褐 (内)2.5Y 4/2 暗灰	0.1~5mm 多量 金雲母少し	底部完存	
199		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 底部		4.0cm		(外)剥離, タタキ (内)板ナデ	普通	10Y R8/3 浅黄橙	0.1~1mm 金雲母少し	4/8	米圧痕アリ?
200		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 底部		4.0cm		(外)剥離, タテハケ (内)指おさえ	普通	(外)2.5Y R5/4 にぶい赤褐 (内)10Y R7/4 にぶい黄橙	0.1~2mm	1/8	
201		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 底部		4.9cm		(外)摩滅, 板ナデ? (内)摩滅, トラ削り後指ナデ	普通	(外)10Y R6/3 にぶい黄橙 (内)7.5Y R6/6 橙	0.1~5mm やや多い	底部完存	
202		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 底部		2.7cm		(外)摩滅, 指おさえ (内)ハケ	普通	7.5Y R6/8 橙	0.1~3mm 少量 金雲母, 角閃石少ない	底部完存	
203		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 甕		1.9cm		(外)剥離, 指おさえ	普通	10Y R5/4 にぶい黄褐	0.1~3mm 少量 金雲母少し	底部完存	
204		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 甕	19.4cm			(外)横ナデ, 摩滅 (内)剥離, 指おさえ	普通	5Y R7/6 橙	0.1~1mm	口縁1/8	
205		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 甕	15.4cm			(外)横ナデ, 摩滅 (内)剥離, 指おさえ	普通	10Y R7/4 にぶい黄橙	0.1~6mm やや多い	破片	
206		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 甕	12.4cm			(外)剥離, 指おさえ (内)剥離, 指おさえ	普通	5Y R6/8 橙	0.1~6mm やや多い	口縁2/8	
207		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 甕	11.0cm			(外)剥離, 指おさえ (内)剥離, 指おさえ	普通	10Y R4/4 褐	0.1~3mm 金雲母	口縁1/8	
208		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 鉢		5.9cm		(外)指ナデ (内)指ナデ	普通	7.5Y R4/2 灰褐	0.1~2mm	底部3/8	
209		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 鉢		4.6cm		(外)摩滅, 指おさえ・ナデ (内)剥離	普通	7.5Y R7/6 橙	0.1~5mm 多量 金雲母, 角閃石少し	底部5/8	
210	37-(2)	VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 高杯	25.0cm			(外)剥離 (内)剥離	普通	7.5Y R6/6 橙	0.1~2mm 少量 金雲母	口縁2/8	
211		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 高杯	26.9cm			(外)剥離 (内)剥離	普通	10Y R5/3 にぶい黄橙	0.1~2mm 少量 角閃石	口縁1/8	
212		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 高杯				(外)剥離 (内)剥離	普通	5Y R6/8 橙	0.1~0.5mm 少量	破片	
213		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 製埴土器		3.2cm		(外)剥離, 板ナデ, 指おさえ (内)剥離	普通	10Y R5/4 にぶい黄褐	0.1~2mm 角閃石	底部完存	
214		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 製埴土器		3.2cm		(外)剥離, 指おさえ (内)剥離, 指おさえ	普通	7.5Y R6/6 橙	0.1~2mm 角閃石	底部完存	
215		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 製埴土器		2.9cm		(外)剥離, 板ナデ, 指おさえ (内)指ナデ	普通	10Y R6/3 にぶい黄橙	0.1~1mm 角閃石	底部完存	
216		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 製埴土器		2.9cm		(外)摩滅, 板ナデ, 指おさえ (内)指ナデ	普通	7.5Y R6/6 橙	0.1~3mm 金雲母, 角閃石	底部完存	
217	37-(2)	VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 製埴土器		3.8cm		(外)板ナデ, 指おさえ (内)指ナデ, 粘土充てん	普通	7.5Y R5/4 にぶい褐	0.1~1mm 角閃石	底部1/8	
218	37-(2)	VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 製埴土器		3.8cm		(外)剥離, タタキ, 剥離, 指おさえ (内)剥離, 指ナデ	普通	7.5Y R5/6 明褐	0.1~2mm 多量	底部2/8	
219		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 製埴土器		3.2cm		(外)剥離, 指おさえ (内)剥離, 指ナデ	普通	7.5Y R5/6 明褐	0.1~1mm 角閃石	底部完存	
220		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 製埴土器		4.0cm		(外)剥離, 指おさえ (内)剥離, 指ナデ	普通	5Y R5/6 明赤褐	0.1~2mm 角閃石	底部6/8	
221		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 製埴土器		2.6cm		(外)板ナデ, 指おさえ (内)ナデ	普通	5Y R6/8 橙	0.1~2mm 角閃石	底部6/8	
222		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 製埴土器		3.8cm		(外)指ナデ (内)指ナデ	普通	7.5Y R6/6 橙	0.1~1mm 少量 角閃石	底部完存	

標本No.	回版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色調	胎土	残存量	備考
223		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 製埴土器		4.3cm		(外) 版ナデ, 指おさえ (内) 指ナデ?	普通	(外) 7.5Y R5/6 明褐 (内) 2.5Y 3/1 黒褐	0.1~1mm 金雲母, 角閃石	底部完存	
224		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	弥 製埴土器		3.6cm		(外) 指ナデ, 指おさえ (内) 指ナデ	普通	10Y R5/4 にぶい黄褐	0.1~1mm 金雲母, 角閃石	底部完存	
225		VI区 弥生土器包含層 暗褐色粘質土層(第2層)	須 杯身	12.6cm			(外) 回転ナデ, ナデ, 回転ヘラ削り (内) 回転ナデ, ナデ	普通	N6/ 灰	0.1~2mm 少量	口縁1/8	
230		VI区 弥生土器包含層 灰色砂層(第3層)	弥 製埴土器		3.4cm		(外) 版ナデ (内) 版ナデ	普通	(外) 7.5Y R6/6 橙 (内) 2.5Y 3/1 黒褐	0.1~3mm 金雲母, 角閃石	底部完存	
231		VI区 弥生土器包含層 灰色砂層(第3層)	弥 製埴土器		3.5cm		(外) 版ナデ (内) 版ナデ	普通	5Y R6/4 にぶい橙	0.1~2mm 角閃石	底部完存	
232		VI区 弥生土器包含層 灰色砂層(第3層)	弥 製埴土器		3.8cm		(外) 指おさえ (内) 指ナデ	普通	5Y R5/6 明赤褐	0.1~1mm 少量 金雲母, 角閃石	底部完存	
233	38-(1)	VI区 弥生土器包含層 茶灰色砂混粘土層(第4層)	繩 深鉢				(外) 剥み目凸帯, 摩滅 (内) 摩滅	普通	10Y R7/3 にぶい黄橙	0.1~1mm 多量	破片	
234		VI区 弥生土器包含層 茶灰色砂混粘土層(第4層)	弥 壺				(外) ナデ, 凹形浮文 (内) ナデ	普通	10Y R6/4 にぶい黄橙	0.1~5mm 角閃石	口縁破片	
235		VI区 弥生土器包含層 茶灰色砂混粘土層(第4層)	弥 底部		4.3cm		(外) タテハケ後タタキ (内) 指おさえ後ナデ	普通	10Y R4/2 灰黄褐	0.1~2mm 少量 金雲母, 角閃石や多い	底部完存	
236		VI区 弥生土器包含層 茶灰色砂混粘土層(第4層)	弥 鉢		6.2cm		(外) 剥離 (内) 剥離	普通	7.5Y R5/6 明褐	0.1~3mm 金雲母少し	底部2/8	
237		VI区 弥生土器包含層 茶灰色砂混粘土層(第4層)	弥 鉢		4.0cm		(外) 指おさえ後タテハケ, 摩滅 (内) 指おさえ	普通	7.5Y R5/4 にぶい褐	0.1~4mm 多量 金雲母	底部完存	
238		VI区 弥生土器包含層 茶灰色砂混粘土層(第4層)	弥 高杯				(外) 剥離, タテハケ (内) しほり目	普通	7.5Y R5/4 にぶい褐	0.1~5mm 多量	3/8	
240	38-(2)	S D106	土 杯	15.6cm			(外) 剥離, 指おさえ後ナデ (内) 横ナデ後暗文	普通	5Y R6/6 橙	0.1~2mm	4/8	
241	38-(2)	S D106	須 杯	10.8cm	3.2cm	7.0cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内) 回転ナデ	普通	2.5Y 7/1 灰白	0.1~2mm	6/8	
242		S D106	須 杯身	11.5cm			(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	普通	7.5Y 6/1 灰	0.1~0.3mm	口縁1/8	
243	38-(2)	S D106	須 壺	6.4cm	8.8cm	4.5cm	(外) 回転ナデ, 回転ヘラ削り (内) 回転ナデ	やや良	N7/ 灰白	0.1~3mm	完存	
244	38-(3)	S P101	土 杯	11.6cm	2.9cm	8.5cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内) 回転ナデ	普通	10Y R8/2 灰白	0.1~3mm	5/8	
245	38-(3)	S P102	土 小皿	8.2cm	1.4cm	6.9cm	(外) 回転ナデ後ナデ, ヘラ切り (内) 回転ナデ後ナデ	普通	10Y R8/2 灰白	0.1~0.3mm	完存	
246		S P104	土 杯	11.6cm	3.1cm	9.0cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り (内) 回転ナデ	普通	10Y R8/2 灰白	0.1~2mm	2/8	
247		S P103	土 土鍋				(外) 横ナデ, タテハケ後横ナデ (内) ヨコハケ, ナデ	普通	5Y R7/4 にぶい橙	0.1~5mm 多量	破片	
248		S P105	土 小皿	8.1cm	1.1cm	7.0cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り (内) 回転ナデ	普通	10Y R8/2 灰白	0.1~1mm	1/8	
249		S P106	土 杯		9.3cm	9.3cm	(外) 回転ナデ, 摩滅 (内) 回転ナデ, 摩滅	やや不良	7.5Y R8/2 灰白	0.1~3mm	底部2/8	
250	38-(3)	S P107	土 小皿	8.3cm	1.3cm	6.2cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り (内) 回転ナデ	普通	10Y R8/2 灰白	0.1~3mm	3/8	
251	38-(3)	S P108	土 杯	12.9cm	2.1cm	9.3cm	(外) ナデ, ヘラ切り後ナデ (内) ナデ	不良	(外) 2.5Y R7/4 淡赤橙 (内) 10Y R8/1 灰白	0.1~3mm	口縁1/8	
252	38-(3)	S P108	土 碗	14.0cm	4.5cm	6.1cm	(外) 剥離 (内) 剥離, ヨコハケ	普通	2.5Y R7/4 淡赤橙	0.1~3mm	4/8	
253	38-(4)	S K102	土 杯	12.0cm	3.2cm	8.4cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内) 回転ナデ	普通	10Y R8/2 灰白	0.1~2mm	2/8	
254	38-(4)	S K102	土 小皿	7.4cm	1.4cm	5.3cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内) 回転ナデ	普通	10Y R8/2 灰白	0.1~3mm	完存	
255	38-(4)	S K102	土 小皿	8.0cm	1.4cm	6.4cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り, 縦圧痕 (内) 回転ナデ後ナデ	普通	10Y R8/2 灰白	0.1~3mm	完存	

構圖No.	図版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色	調	胎	土	残存量	備考
256	39-(1)	SD108	土 小皿	8.0cm	1.2cm	6.5cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り,板圧痕 (内)回転ナデ	普通	2.5Y8/2 灰白		0.1~3mm		完存	
257		SD108	土 椀			8.6cm	(外)ナデ (内)摩滅	普通	7.5YR7/4 にぶい橙		0.1~3mm		底部2/8	
258		SD109	弥 壺	18.6cm			(外)摩滅 (内)摩滅	普通	7.5YR5/6 明褐		0.1~5mm		破片	
259		SD111	土 小皿	8.0cm	1.0cm	6.8cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	7.5YR4/4 褐		0.1~2mm		1/8	
260		SD113	土 小皿	7.9cm	1.3cm	6.5cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	(外)7.5YR6/4 にぶい橙 (内)10YR5/1 褐灰		0.1~1mm		底部1/8	
261		SD113	土 椀		4.7cm	4.7cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	普通	2.5Y8/2 灰白		0.1~3mm		底部1/8	
262		SD113	土 杯		9.1cm	9.1cm	(外)額ナデ,板圧痕 (内)額ナデ	普通	10YR5/1 褐灰		0.1~2mm		底部1/8	
263		SD113	土 杯	13.2cm	2.8cm	8.7cm	(外)回転ナデ,摩滅 (内)回転ナデ	普通	10YR8/2 灰白		0.1~2.5mm	やや多い	1/8	
264	39-(2)	SD113	土 土鍋	36.4cm			(外)指おさえ,タテハケ後ナデ (内)額ナデ,ヨコハケ後ナデ	普通	(外)10YR4/2 灰黄褐 (内)7.5YR8/3 浅黄橙		0.1~6mm		口縁1/8	
265		SD115	土 小皿	8.2cm	1.3cm	6.2cm	(外)額ナデ,ヘラ切り・板圧痕 (内)額ナデ	普通	10YR7/4 にぶい黄橙		0.1~3mm	やや多い	完存	
267		SD118	弥 製埴土器		3.3cm	3.3cm	(外)ヘラ切り・摩滅・指おさえ (内)摩滅	普通	5YR5/4 にぶい赤褐		0.1~2mm 角閃石		底部完存	
268		SD118	土 土鍋				(外)額ナデ,指おさえ後ナデ (内)ヨコハケ,指おさえ後ヨコハケ	普通	7.5YR5/6 明褐		0.1~3mm		破片	
269		SD119	瓦器 椀				(外)額ナデ,ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	N4/ 灰		0.1~1mm	少量	破片	
270		SD120(北部)	土 小皿	7.5cm	1.1cm	3.0cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	(外)7.5YR7/4 にぶい橙 (内)10YR8/3 浅黄橙		0.1~1mm		2/8	
271		SD120(北部)	土 小皿	7.9cm	1.5cm	7.1cm	(外)額ナデ,ヘラ切り,摩滅 (内)回転ナデ	普通	2.5Y8/2 灰白		0.1~2mm		口縁1/8	
272		SD120(北部)	土 杯		6.9cm	6.9cm	(外)回転ナデ,ヘラ削り後ナデ (内)回転ナデ,摩滅	普通	2.5Y7/2 灰黄		0.5~3mm		底部3/8	
273		SD120(北部)	土 杯	11.8cm	2.2cm	7.8cm	(外)回転ナデ,ヘラ削り後ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)10YR7/2 にぶい黄橙 (内)2.5Y8/2 灰白		0.5~3mm		2/8	
274		SD120(北部)	土 杯	11.7cm	2.4cm	8.1cm	(外)回転ナデ,ヘラ削り (内)回転ナデ	普通	2.5Y8/2 灰白		0.1~2mm		口縁1/8	
275		SD120(北部)	瓦器 椀	13.7cm			(外)額ナデ,指おさえ (内)略文	普通	(外)N4/ (内)2.5Y3/3 暗オリーブ褐		0.1~1mm		破片	
276		SD120(北部)	土 土鍋	34.2cm			(外)指おさえ後ナデ,タテハケ後指おさえ,沈線2条 (内)ヨコハケ,板ナデ後ハケ	普通	10YR7/2 にぶい黄橙		0.1~3mm		破片	
277		SD120(北部)	土 土釜				(外)指ナデ (内)ハケ後指ナデ	普通	10YR6/2 灰黄褐		0.1~2mm		底部5/8	
278		SD120(中部)	土 小皿	8.8cm	1.6cm	6.5cm	(外)回転ナデ,ヘラ削り (内)回転ナデ	普通	2.5Y8/2 灰白		0.1~3mm		1/8	
279		SD120(中部)	土 杯	10.7cm	3.3cm	6.7cm	(外)回転ナデ後指ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)10YR8/2 灰白 (内)2.5Y8/2 灰白		0.1~1mm		1/8	
280	39-(3)	SD120(中部)	土 杯	12.5cm	2.9cm	9.7cm	(外)回転ナデ,ヘラ削り後板ナデ (内)回転ナデ	普通	10YR8/1 灰白		0.1~5.5mm	多量	2/8	
281		SD120(中部)	土 杯			9.0cm	(外)回転ナデ,ヘラ削り後板ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)10YR6/2 灰黄褐 (内)10YR5/2 灰黄褐		0.1~3mm		底部2/8	
282		SD120(中部)	土 土鍋				(外)指おさえ後タテハケ後ナデ,指おさえ (内)ヨコハケ後ナデ,ヨコハケ	普通	2.5Y6/2 灰黄		0.1~1mm		破片	
283		SX101	土 小皿	7.1cm	0.9cm	5.6cm	(外)回転ナデ,ヘラ削り (内)回転ナデ	普通	10YR8/2 灰白		0.1~1mm	少量	1/8	
284		SX101	土 小皿	7.7cm	1.6cm	6.3cm	(外)回転ナデ,ヘラ削り後ナデ (内)回転ナデ	やや不良	7.5YR4/1 褐灰		0.1~1mm	少量	1/8	

標図No.	回版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色	調	胎土	残存量	備考
285		S X 101	土 小皿	8.0cm	1.1cm	7.0cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	10Y R7/3 浅黄		0.1~3mm 少量	2/8	
286	39-(4)	S X 101	土 杯	12.7cm	3.2cm	8.3cm	(外)回転ナデ、回転ヘラ切り後板ナデ (内)回転ナデ	普通	10Y R7/2 にぶい黄橙		0.1~4mm	7/8	
288		S X 102	土 小皿	8.3cm	1.1cm	6.5cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	普通	2.5Y 8/2 灰白		0.1~2.5mm	2/8	
289		S X 102	土 杯	10.8cm		8.2cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り後ナデ (内)ナナメハケ、ナナメハケ後ナデ	普通	2.5Y 8/2 灰白		0.1~2mm	2/8	
290		S X 102	土 杯	12.6cm	2.9cm	9.4cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	普通	2.5Y 8/2 灰白		0.1~3mm	1/8	
291		S X 102	黒A 碗			6.0cm	(外)回転ナデ (内)磨減	普通	(外)2.5Y 8/1 灰白 (内)N3/ 暗灰		0.1~1mm 金雲母	底部完存	
292		S X 102	土 碗			5.8cm	(外)ナデ、貼り付け高台 (内)ナデ	普通	10Y R8/3 浅黄橙		0.1~3mm	底部4/8	
293	39-(5)	S X 102	土 土鍋	28.4cm			(外)タテハケ後指おさえ (内)ヨコハケ	普通	2.5Y 4/2 暗灰黄		0.1~4mm	口縁2/8	
294		S X 102	土 土釜				(外)指ナデ (内)ヨコハケ後指ナデ	普通	10Y R4/2 灰黄緑		0.1~5mm	脚部6/8	
295		S X 102	土 甕				(外)ヨコハケ後ナデ (内)ナデ	普通	(外)10Y R4/2 灰黄緑 (内)10Y R6/4 にぶい黄橙		0.1~5mm	破片	
296		S D 121	土 小皿	6.7cm	1.2cm	6.0cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	(外)2.5Y R7/6 橙 (内)10Y R8/3 浅黄橙		0.1~1mm	1/8	
297		S D 121	土 碗			4.9cm	(外)ナデ、横ナデ (内)ナデ	普通	(外)5Y R7/4 にぶい橙 (内)2.5Y 4/1 黄灰		0.2~4mm	底部完存	
298		S D 121	土 土鍋				(外)指おさえ、板ナデ (内)ヨコハケ	普通	(外)2.5Y R6/6 橙 (内)10Y R7/6 明黄緑		0.1~3mm	口縁破片	
299		S D 121	土 土鍋				(外)横ナデ、指ナデ (内)板ナデ後ナデ	普通	10Y R8/2 灰白		0.3~3mm	破片	
300		S D 121	瓦質 甕				(外)格子タタキ後横ナデ (内)横ナデ	普通	N4/ 灰		0.1~3mm	破片	亀山焼
301		S D 121	陶 摺鉢				(外)回転ナデ、回転ナデ後ナデ (内)回転ナデ、回転ナデ、おろし目	やや良	(外)N6/ 灰 (内)5Y R7/8 橙		0.1~7mm 少量	破片	備前焼
302		S D 121	陶 摺鉢	22.7cm			(外)回転ナデ後横ナデ、回転ナデ (内)回転ナデ、おろし目	普通	(外)7.5Y R5/2 灰褐 (内)10Y R7/1 灰白		1~0.2mm	破片	備前焼
303		S D 121	陶 摺鉢	27.7cm			(外)回転ナデ (内)回転ナデ後おろし目	やや良	(外)10R5/6 赤 (内)10R4/8 赤		0.3~9mm 少量	1/8	備前焼
304		S D 121	土 土釜				(外)指ナデ (内)	普通	5Y R7/4 にぶい橙		0.1~1.5mm	脚部完存	
305		S D 122	土 小皿	6.7cm	0.9cm	6.0cm	(外)磨減 (内)磨減	普通	7.5Y R7/8 黄橙		0.1~2mm やや多い	1/8	
306		S D 122	土 小皿	9.4cm	1.8cm	8.0cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	10Y R8/2 灰白		0.1~1mm	1/8	
307		S D 122	黒A 碗			5.1cm	(外)ナデ (内)磨減	普通	(外)10Y R8/8 黄橙 (内)2.5Y 4/1 黄灰		0.1~1mm 少量	底部完存	
308		S D 122	土 土鍋	39.2cm			(外)磨ナデ、指おさえ後タテハケ (内)ヨコハケ	普通	2.5Y R6/8 橙		0.1~5mm	口縁1/8	
309		S D 122	弥 土罐	現存長 5.0cm	最大幅 1.8cm	最大厚 0.7cm	(外)指おさえ (内)不明	普通	10Y R6/4 にぶい黄橙		0.1~5mm	完存	
310	39-(6)	Ⅱ区 包含層	縄 深鉢				(外)右がかり縄文、ヘラミガキ (内)ヘラミガキ	普通	7.5Y R5/6 明橙		0.1~1mm	破片	
311		Ⅱ区 包含層	弥 製埴土器			3.0cm	(外)指おさえ (内)指おさえ	普通	(外)2.5Y 3/1 暗赤灰 (内)10Y R7/6 明黄緑		0.1~1mm	底部完存	
312		Ⅱ区 包含層	弥 製埴土器			3.8cm	(外)指ナデ、横ナデ、ナデ (内)指おさえ	普通	脚台うら 2.5Y 3/1 暗赤灰 その他 10Y R6/4 にぶい黄橙		0.1~2mm 須内石	底部完存	
313		Ⅱ区 包含層	瓦器 小皿	8.1cm			(外)横ナデ、指おさえ後ナデ (内)横ナデ	普通	N6/ 灰		0.1~1mm	2/8	

挿入No.	図版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色	調	胎	土	残存量	備考
314		Ⅱ区 包含層	土杯	11.7cm	2.7cm	8.3cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り(?)後ナデ (内)回転ナデ	普通	10Y R8/2 灰白		0.1~4mm	やや多い	1/8	
315		Ⅱ区 包含層	陶 指鉢				(外)回転ナデ,おろし目 (内)回転ナデ	普通	口縁部 N7/ 灰白 その他 10Y R6/6 明黄褐		0.1~1mm		破片	備前焼
316	39-(7)	SP109	土 小皿	7.6cm	1.5cm	6.2cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)2.5Y 6/2 灰黄 (内)2.5Y 3/1 黒褐		0.1~1.5mm 金雲母		底部2/8	
317		SP109	青磁 碗			5.8cm	(外)施軸,削り出し高台 (内)施軸	良好	(軸)2.5G Y7/1 明オリーブ灰 (地)N8/ 灰白		緻密		底部2/8	
318	39-(7)	SP110	土 小皿	8.1cm	1.1cm	7.2cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り,板目痕 (内)指おさえ,回転ナデ	普通	10Y R8/4 浅黄褐		0.1~5mm		完存	
319	39-(7)	SR102	弥 甕			3.1cm	(外)タタキ後タテハケ (内)ナデ,指おさえ後ナデ	普通	10Y R7/4 にぶい黄褐		0.1~3.5mm 角閃石少し	多量	底部完存	
320		SR102	弥 底部			2.9cm	(外)タタキ後板ナデ,指おさえ (内)ナデ	普通	5Y R6/6 橙		0.1~3mm 金雲母		底部完存	
321	40	SR102	弥 鉢	19.9cm			(外)タタキ後ナデ,タタキ後ナメハケ,摩滅 (内)剥離,摩滅,ナメハケ後指ナデ	普通	10Y R6/2 灰黄褐		0.1~7mm	多量	7/8	
322		SR102	弥 鉢	15.6cm	4.5cm		(外)剥離,板削り (内)剥離	普通	7.5Y R7/6 橙		0.1~3mm 角閃石少し		1/8	
323	39-(7)	SR102	弥 鉢	8.5cm	8.6cm	3.3cm	(外)タタキ後板ナデ (内)指おさえ,板ナデ後タテハケ	普通	10Y R6/3 にぶい黄褐		0.1~4mm	やや多い	底部完存	
324		SR102	弥 高杯			11.6cm	(外)指おさえ,ナデ (内)ナデ,摩滅	普通	10Y R6/3 にぶい黄褐		0.1~4mm 角閃石		底部4/8	
325		SR102	弥 製塩土器			3.1cm	(外)指おさえ後ナデ,ナデ (内)指おさえ,指ナデ	普通	10Y R6/3 にぶい黄褐		0.1~5mm	多量	底部完存	
326		SR102	弥 製塩土器			3.3cm	(外)指おさえ (内)指おさえ	普通	5Y R6/4 にぶい橙		0.1~2mm 角閃石		底部完存	
327		SR102	弥 製塩土器			3.4cm	(外)剥離,指おさえ (内)剥離	普通	7.5Y R5/6 明褐		0.1~1mm 角閃石		底部完存	
328		SR102	弥 製塩土器			3.0cm	(外)指おさえ (内)剥離	普通	5Y R6/6 橙		0.1~4mm 角閃石		底部完存	
329	40	SR102	土 小皿	8.7cm	1.5cm	7.5cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	10Y R6/3 にぶい黄褐		0.1~5mm		ほぼ完存	
330	40	SR102	土 小皿	8.8cm	1.4cm	6.0cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り後板目痕 (内)回転ナデ	普通	5Y R7/4 にぶい橙		0.1~0.5mm 角閃石少し		6/8	
331		SR102	土 小皿	8.5cm	1.2cm	6.3cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り,板目痕 (内)回転ナデ後ナデ	普通	2.5Y 8/1 灰白		0.1~2.5mm	少量	3/8	
332		SR102	土 杯			8.4cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	(外)10Y R5/2 灰黄褐 (内)2.5Y 3/1 黒褐		0.1~3mm		底部2/8	
333		SR102	土 杯	13.0cm	3.1cm	8.0cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	10Y R8/2 灰白		0.1~1mm	少量	1/8	
334		SR102	土 杯	14.0cm	3.5cm	6.0cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	普通	10Y R8/2 灰白		0.1~2mm		口縁1/8	
335		SR102	土 杯	16.9cm	3.5cm	14.1cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り,板目痕 (内)回転ナデ	普通	7.5Y R8/8 黄褐		0.1~2.5mm		1/8	
336		SR102	土 杯			5.4cm	(外)回転ナデ,糸切り (内)回転ナデ	普通	N6/ 灰		0.1~2mm		底部2/8	
337	40	SR102	土 杯	12.9cm	4.7cm	7.6cm	(外)ヘラ削り,ヘラミガキ (内)ヘラミガキ	普通	底部・口縁部 7.5Y 3/1 黒褐 その他 10Y R7/2 にぶい黄褐		0.1~3mm		7/8	
338	40	SR102	黒A 皿	13.9cm		11.4cm	(外)ヘラミガキ (内)ヘラミガキ	普通	(外)10Y R7/2 にぶい黄褐 (内)N3/ 暗灰		0.1~3mm		1/8	
339	40	SR102	須 高台付杯	15.9cm	6.2cm	10.2cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	普通	N5/ 灰		0.1~1mm	少量	3/8	
340		SR102	須 皿			20.4cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ,火髷	やや不良	N7/ 灰白		0.1~2mm		破片	
341		SR102	土 高台付皿			16.4cm	(外)摩滅 (内)摩滅	普通	10Y R7/3 にぶい黄褐		0.1~1mm	少量	底部1/8	

種目No.	図版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	修整	焼成	色	調	胎土	残存量	備考
342	40	S R 102	土 高台付皿	21.7cm	2.0cm	14.5cm	(外) 回転ナデ、ヘラ削り後ナデ (内) 回転ナデ後ハケ	(外) 回転ナデ、ヘラ削り後ナデ (内) 回転ナデ後ハケ	普通	2.5Y8/2 灰白		0.1~0.3mm 少量	破片	
343		S R 102	須 蓋	17.0cm			(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	不良	5Y8/1 灰白		0.1~1mm	1/8	
344		S R 102	土 碗	15.1cm			(外) 指おさえ後ヘラミガキ・横ナデ (内) ヘラミガキ	(外) 指おさえ後ヘラミガキ・横ナデ (内) ヘラミガキ	普通	2.5Y8/1 灰白 5Y5/1~5Y3/1~7.5YR7/4 灰~オリーブ黒~にぶい橙		0.1~0.2mm 少量	1/8	
345	40	S R 102	土 碗			7.7cm	(外) ナデ、ヘラミガキ (内) ナデ、ヘラミガキ	(外) ナデ、ヘラミガキ (内) ナデ、ヘラミガキ	普通	5Y5/1~5Y3/1~7.5YR7/4 灰~オリーブ黒~にぶい橙		0.1~1mm 金雲母	底部4/8	
346		S R 102	土 碗			6.1cm	(外) 指おさえ、ナデ (内) ヘラミガキ	(外) 指おさえ、ナデ (内) ヘラミガキ	普通	10Y R 8/1 灰白		0.1~1mm 少量	底部1/8	
347		S R 102	黒A 碗			6.5cm	(外) ナデ後ヘラミガキ、回転ナデ (内) ヘラミガキ	(外) ナデ後ヘラミガキ、回転ナデ (内) ヘラミガキ	普通	(外) 10Y R 8/3 浅黄橙 (内) N3/ 暗灰		0.1~1mm 少量	底部完存	
348		S R 102	黒A 碗			6.2cm	(外) 回転ナデ、指おさえ後ヘラミガキ、ヘラ削り、板目痕 (内) ヘラミガキ	(外) 回転ナデ、指おさえ後ヘラミガキ、ヘラ削り、板目痕 (内) ヘラミガキ	普通	(外) 10Y R 7/3 にぶい黄橙 (内) N2/ 黒		0.1~4mm 少量	底部7/8	
349		S R 102	瓦器 碗	15.2cm			(外) 横ナデ、指おさえ後ナデ (内) ナデ後暗文	(外) 横ナデ、指おさえ後ナデ (内) ナデ後暗文	普通	N3/ 暗灰		0.1~4mm 少量	4/8	
350		S R 102	瓦器 碗	15.2cm			(外) 指おさえ後ヘラミガキ (内) 暗文	(外) 指おさえ後ヘラミガキ (内) 暗文	やや不良	5Y8/1 灰白(一部N5/灰)		0.1~0.3mm 少量	2/8	
351		S R 102	瓦器 碗	13.8cm			(外) 横ナデ、指おさえ (内) 横ナデ、暗文	(外) 横ナデ、指おさえ (内) 横ナデ、暗文	普通	N3/ 暗灰		精良	1/8	
352		S R 102	白磁 碗	15.9cm			(外) 施釉 (内) 施釉	(外) 施釉 (内) 施釉	普通	(生) 10Y8/1 灰白 (釉) 7.5Y7/2 灰白		緻密	口縁1/8	
353	40	S R 102	須 長頸壺	15.8cm			(外) 回転ナデ、自然釉 (内) 回転ナデ、指おさえ後ヘラ削り	(外) 回転ナデ、自然釉 (内) 回転ナデ、指おさえ後ヘラ削り	良	7.5Y7/1 灰白		0.1~1mm やや多い	頸部完存	
354		S R 102	須 底部			12.4cm	(外) 板削り (内) 磨減	(外) 板削り (内) 磨減	不良	N8/ 灰白		0.1~2mm	底部4/8	
355		S R 102	土 甕	30.0cm			(外) 横ナデ、磨減、タテハケ (内) ヨコハケ後ナデ	(外) 横ナデ、磨減、タテハケ (内) ヨコハケ後ナデ	普通	10Y R 6/2 灰黄褐		0.1~3mm 角閃石	口縁1/8	
356		S R 102	土 甕	27.2cm			(外) 指おさえ後ナデ、剥離、タテハケ (内) 横ナデ、ヨコハケ後ナデ、ヨコハケ後指おさえ	(外) 指おさえ後ナデ、剥離、タテハケ (内) 横ナデ、ヨコハケ後ナデ、ヨコハケ後指おさえ	普通	2.5Y6/2 灰黄		0.1~1mm やや多い	口縁1/8	
357		S R 102	土 甕				(外) 指おさえ後タテハケ、ナデ (内) ヨコハケ後ナデ、指おさえ	(外) 指おさえ後タテハケ、ナデ (内) ヨコハケ後ナデ、指おさえ	普通	(外) 7.5Y R 6/4 にぶい橙 (内) 2.5Y6/4 にぶい橙		0.1~5mm やや多い	体部2/8	
358	40	S R 102	土 甕			9.3cm	(外) 指ナデ後タテハケ (内) 指ナデ後タテハケ後ヨコハケ、指ナデ	(外) 指ナデ後タテハケ (内) 指ナデ後タテハケ後ヨコハケ、指ナデ	普通	2.5Y6/2 灰黄		0.1~3mm 多量	底部完存	
359		S R 102	土 甕				(外) 横ナデ、ヨコハケ、ヨコハケ後ナデ (内) 磨減	(外) 横ナデ、ヨコハケ、ヨコハケ後ナデ (内) 磨減	普通	7.5Y R 7/4 にぶい橙		0.1~4mm	破片	
360		S R 102・S R 103合流部付近	須 杯			4.8cm	(外) 回転ナデ、糸切り (内) 回転ナデ	(外) 回転ナデ、糸切り (内) 回転ナデ	やや良	N6/ 灰		0.1~5mm	底部4/8	
361		S R 102・S R 103合流部付近	土 杯	14.7cm	3.9cm	7.0cm	(外) 回転ナデ、ヘラ削り後ナデ (内) 回転ナデ	(外) 回転ナデ、ヘラ削り後ナデ (内) 回転ナデ	普通	5Y R 8/4 淡橙		0.1~0.2mm	1/8	
362		S R 102・S R 103合流部付近	須 杯	13.2cm	4.0cm	9.8cm	(外) 回転ナデ、ヘラ削り後ヘラ削り (内) 回転ナデ	(外) 回転ナデ、ヘラ削り後ヘラ削り (内) 回転ナデ	やや不良	(外) 2.5Y5/1 黄灰 (内) 5GY5/1 オリーブ灰		0.1~1.5mm	底部3/8	
363		S R 102・S R 103合流部付近	須 皿	17.2cm	2.2cm	13.6cm	(外) 回転ナデ、ヘラ削り後ナデ (内) 回転ナデ、ナデ	(外) 回転ナデ、ヘラ削り後ナデ (内) 回転ナデ、ナデ	やや不良	10Y7/1 灰白 外面に火タスキ		0.1~2mm	1/8	
364		S R 102・S R 103合流部付近	土 碗			7.4cm	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	普通	7.5Y R 7/6 橙		0.1~4mm 少量	2/8	
365	41	S R 102・S R 103合流部付近	須 杯蓋	12.7cm	4.4cm		(外) ヘラ削り後回転ナデ (内) 回転ナデ	(外) ヘラ削り後回転ナデ (内) 回転ナデ	不良	(外) N8/ 灰白 (内) N5/ 灰		0.1~1mm 角閃石	3/8	
366		S R 102・S R 103合流部付近	須 長頸壺				(外) 指おさえ後板ナデ、しほり目 (内) 指おさえ後板ナデ、板ナデ	(外) 指おさえ後板ナデ、しほり目 (内) 指おさえ後板ナデ、板ナデ	やや良	(外) 10Y6/1 灰 (内) N7/ 灰白		0.1~2mm 少量	頸部2/8	
367	41	S R 102・S R 103合流部付近	須 長頸壺				(外) 回転ナデ、自然釉 (内) 回転ナデ、板ナデ	(外) 回転ナデ、自然釉 (内) 回転ナデ、板ナデ	良	10Y7/1 灰白		0.1~1mm	頸部6/8	
368		S R 102・S R 103合流部付近	土 甕				(外) 指ナデ後タテハケ (内) ハケ、指ナデ後ヨコハケ	(外) 指ナデ後タテハケ (内) ハケ、指ナデ後ヨコハケ	普通	(外) 7.5Y R 7/4 にぶい橙 (内) 5Y R 6/3 にぶい橙		0.1~5mm	破片	
369		S R 102・S R 103合流部付近	土 甕				(外) ナデ、ヨコハケ後ナデ、板ナデ後ナデ、板ナデ (内) ナメハケ	(外) ナデ、ヨコハケ後ナデ、板ナデ後ナデ、板ナデ (内) ナメハケ	普通	(外) 7.5Y R 7/4 にぶい橙 (内) 10Y R 3/1 黒褐		0.1~6mm	破片	

棟図No.	図版No.	出土位置	器種	口径	器高	口径	調整	調整	焼成	色	調	胎土	残存量	備考
370		SR102・SR103合流部付近	土甕				(外)ヨコハケ、指ナデ (内)不明		普通	10Y R7/4	にぶい黄橙	0.1~1.5mm	多量	破片
371		SR102・SR103合流部付近	須恵質 丸瓦		厚 2.3cm 最大幅 0.5cm		(外)ヨコハケ、指ナデ (内)不明		やや不良	7.5Y8/1	灰白	0.1~1mm	少量	破片
372	41	SR102・SR103合流部付近	弥 管状土埴	現存長 4.3cm	1.3cm		(外)指ナデ (内)不明		普通	5Y R7/8	橙	0.1~1mm	完存	
375		SR103	土 小皿	8.2cm	5.1cm		(外)回転ナデ、ヘラ切り後板ナデ (内)回転ナデ		普通	10Y R8/4	浅黄橙	0.1~4mm	6/8	
376		SR103	土 小皿	8.0cm	1.3cm		(外)回転ナデ、ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ、ナデ		普通	2.5Y7/2	灰黄	0.1~3mm	2/8	
377		SR103	土 小皿	7.5cm	1.0cm		(外)回転ナデ、ヘラ切り (内)回転ナデ		普通	10Y R8/2	灰白	0.1~3mm	5/8	
378		SR103	土 小皿	9.1cm	1.1cm		(外)回転ナデ、ヘラ切り後板目圧痕 (内)回転ナデ		普通	2.5Y8/1	灰白	0.1~2mm	少量	7/8
379	41	SR103	土 小皿	8.0cm	1.1cm		(外)回転ナデ、ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ		普通	7.5Y8/1	灰白	0.1~5mm	7/8	
380	41	SR103	土 小皿	8.2cm	1.5cm		(外)回転ナデ、糸切り後板目圧痕 (内)回転ナデ		普通	10Y R8/3	浅黄橙	0.1~6mm	6/8	
381		SR103	土 小皿	8.8cm	1.3cm		(外)回転ナデ、ハケ (内)回転ナデ		普通	5Y R7/1	明褐灰	0.1~2mm 角閃石	1/8	
382	41	SR103	瓦器 小皿	8.7cm	1.7cm		(外)横ナデ、指おさえ・ナデ (内)暗文、磨滅		普通	N2/ 黒		0.1~1mm	少量	ほぼ完存
383		SR103	瓦器 小皿	8.2cm	1.7cm		(外)横ナデ、指おさえ後ナデ (内)横ナデ、暗文		普通	(外)N5/ 灰 (内)10Y7/1	灰白	0.1~3mm	少量	口縁2/8
384		SR103	瓦器 小皿	8.4cm	1.6cm		(外)横ナデ、指おさえ後ナデ (内)横ナデ、暗文		普通	7.5Y7/1	灰白	0.1~2mm	完存	
385	41	SR103	瓦器 小皿	8.8cm	1.5cm		(外)横ナデ、指おさえ後ナデ (内)横ナデ後暗文		やや良	N5/ 灰	底部重ね焼痕跡	0.1~1mm	少量	7/8
386		SR103	瓦器 小皿	8.9cm			(外)指おさえ後横ナデ (内)横ナデ後暗文		普通	N4/ 灰		0.1~0.5mm	少量	1/8
387	41	SR103	土 杯	12.3cm	3.7cm		(外)横ナデ、ヘラ削り後ナデ (内)回転ナデ、磨滅		普通	7.5Y R7/6	橙	0.1~3mm		ほぼ完存
388		SR103	土 杯		8.9cm		(外)回転ナデ、ヘラ削り後板目圧痕 (内)回転ナデ		普通	10Y R7/2	にぶい黄橙	0.1~1mm	底部4/8	
389	41	SR103	土 杯	13.7cm	3.2cm		(外)ヘラ削り後ナデ、回転ナデ (内)回転ナデ		普通	(外)5Y2/1 黒 (内)10Y R8/3	浅黄橙	0.1~1mm	4/8	
390	41	SR103	土 杯	13.9cm	9.9cm		(外)回転ナデ、ヘラ削り後板ナデ (内)回転ナデ		普通	2.5Y8/2	灰白	0.1~3.5mm	やや多 い	2/8
391		SR103	土 杯	14.1cm	3.5cm		(外)回転ナデ、ヘラ削り後板目痕 (内)回転ナデ		普通	10Y R8/2	灰白	0.1~2mm	2/8	
392	41	SR103	土 杯	15.3cm	4.0cm		(外)回転ナデ、ヘラ削り (内)回転ナデ		普通	2.5Y7/3	浅黄	0.1~2mm	口縁4/8	
393		SR103	土 杯	17.0cm	3.2cm		(外)回転ナデ、ヘラ削り (内)回転ナデ		やや不良	10R6/6	赤橙	0.1~4mm	口縁1/8	
394	41	SR103	須 杯	9.7cm	3.4cm		(外)回転ナデ、ヘラ削り (内)回転ナデ		不良	10Y R8/1	灰白	0.1~2mm	3/8	
395		SR103	土 杯	15.5cm	1.7cm		(外)回転ナデ (内)回転ナデ		普通	10Y R5/1	褐灰	0.1~0.5mm	少量	口縁2/8
396		SR103	土 杯	16.1cm	3.3cm		(外)回転ナデ、ヘラ削り (内)回転ナデ		やや不良	5Y8/1	灰白	0.1~3mm	やや多い	2/8
397		SR103	須 高台付杯		11.0cm		(外)横ナデ、ヘラ削り後ヘラ削り (内)回転ナデ		普通	7.5Y7/1	灰白	0.1~0.5mm	底部2/8	
398	41	SR103	土 皿	17.3cm	3.4cm		(外)横ナデ、ヘラ削り後ナデ (内)横ナデ、ヘラミカキ		普通	10Y R8/3	浅黄橙	0.1~3mm	7/8	
399		SR103	土 碗	14.5cm			(外)回転ナデ後ナデ (内)回転ナデ後ナデ		普通	5Y8/1	灰白	0.1~3mm	破片	

標本No.	図版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色	調	胎	土	残存量	備考
400		SR103	土 碗			6.0cm	(外)ナデ (内)ナデ,重ね焼痕	普通	10Y R8/1 灰白		0.1~3mm		底部完存	
401		SR103	土 碗			5.4cm	(外)ナデ (内)ナデ	普通	(外)10Y R8/1 灰白 (内)5Y 6/1 灰		0.1~4mm		底部完存	
402	42	SR103	黒A 碗			6.5cm	(外)磨滅,ヘラミガキ (内)ヘラミガキ	普通	(外)5Y R6/4 にぶい橙 (内)N2/ 黒		0.1~2mm	少量	底部完存	
403	42	SR103	瓦質 碗	14.6cm	5.1cm	5.1cm	(外)回転ナデ後回転ヘラミガキ (内)回転ナデ,ヘラミガキ後ナデ	普通	10Y 7/1 灰白 (口縁部一部黒染)		0.1~1mm	少量	底部ほぼ完存	
404		SR103	瓦質 碗	15.4cm			(外)回転ナデ後回転ヘラミガキ (内)ナデ	普通	(外)N3/ 暗灰 (内)5Y 5/1 灰		0.1~2mm	少量	口縁1/8	
405		SR103	瓦質 碗	13.3cm			(外)回転ナデ,重ね焼痕 (内)回転ナデ	普通	N8/ 灰白 口縁部外面N3/ 暗灰		緻密		口縁1/8	
406		SR103	瓦質 碗			4.1cm	(外)ナデ (内)板ナデ	普通	7.5Y 8/1 灰白		0.1~1mm	少量	底部完存	
407	42	SR103	瓦器 碗	14.8cm	4.0cm		(外)指おさえ後強い横ナデ,指おさえ後ナデ (内)暗文	普通	N3/ 暗灰		0.1~1mm	少量	6/8	
408		SR103	瓦器 碗	17.6cm			(外)横ナデ,指おさえ後板ナデ (内)ナデ,暗文	やや良	N2/ 黒		0.1~2mm	少量	口縁1/8	
409		SR103	瓦器 碗			3.7cm	(外)指おさえ (内)ナデ後暗文	普通	N3/ 暗灰		0.1~0.3mm	少量	破片	
410		SR103	瓦器 碗	13.3cm			(外)横ナデ,指おさえ (内)暗文	普通	(外)N7/ 灰白 (内)N5/ 灰		0.1~0.3mm	少量	破片	
411		SR103	瓦器 碗			3.9cm	(外)指おさえ (内)暗文	普通	N3/ 暗灰		0.1mm以下	少量	底部5/8	
412		SR103	白磁 碗			7.5cm	(外)施釉,高台削り出し (内)施釉,蛇の目釉はぎ	普通	(生)7.5Y 7/1 明緑灰 (軸)7.5Y 6/1 緑灰		緻密		2/8	
413		SR103	須 杯蓋	15.4cm			(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	N6/ 灰		0.1~1mm	少量	2/8	
414	42	SR103	須 円面碗				(外)ナデ,自然釉付着 (内)ナデ,ヘラ削り	やや良	N7/ 灰白		0.1~3mm		破片	
415	42	SR103	土 土鍋	26.6cm			(外)タテハケ後指おさえ (内)指ナデ,ナナメハケ後板ナデ	普通	(外)5Y 3/1 オリーブ黒紫付着 (内)10Y R6/3 にぶい黄橙		0.1~1mm		口縁1/8	外面来付着
416		SR103	土 土鍋	30.3cm			(外)横ナデ,タテハケ,磨滅,指おさえ (内)横ナデ,ヘラ掃き	普通	2.5Y R7/6~10Y R6/2 橙~灰黄緑		0.1~3mm 角閃石		口縁1/8	
417		SR103	瓦器 土釜	23.2cm			(外)横ナデ,指おさえ・工具痕 (内)ヨコハケ	普通	N3/ 暗灰		0.1~1mm	少量	口縁1/8	
418		SR103	須 甕	21.8cm			(外)回転ナデ,指おさえ,自然釉 (内)回転ナデ,板ナデ,自然釉	やや良	N5/ 灰		0.1~3mm		口縁2/8	
419	42	SR103	瓦質 甕	22.2cm		18.1cm	(外)回転ナデ,指子タタキ後ヘラ削り (内)回転ナデ,ナナメハケ後指ナデ,磨滅文後ナデ,ヨコハケ	普通	N2/ 黒		0.1~2mm	少量	2/8	亀山焼
420		SR103	土 甕				(外)ナデ,タテハケ,指ナデ (内)指ナデ,ヨコハケ	普通	10Y R4/1 緑灰		0.1~1mm 角閃石		破片	
422	42	SR104	縄 深鉢				(外)横ナデ,磨滅 (内)磨滅	普通	2.5Y 6/2 灰黄		0.1~3mm		口縁破片	
423	42	SR104	管状土鉢	現存長 5.4cm	最大幅 3.5cm	最大厚 1.3cm	(外)指ナデ (内)不明	普通	10Y R6/2 灰黄緑		0.1~3mm		完存	
424	42	SR104	土 蓋	つまみ径 2.7cm			(外)ヘラ削り,回転ナデ (内)ハケ後ナデ	普通	5Y R6/6 橙		0.1~1.5mm 金雲母		破片	
425	42	SR104	須 蓋	13.4cm	2.9cm		(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	N7/ 灰白		0.1~3mm		7/8	
426	43	SR104	須 甕	26.0cm			(外)回転ナデ,タタキ (内)回転ナデ,背海波文	普通	N6/ 灰		0.1~0.5mm		口縁3/8	
427	43	SR104	須 高杯			8.9cm	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	やや不良	N7/ 灰白		0.1~3mm		脚部7/8	
428		SR105	鉢 甕	16.4cm			(外)ナデ,タタキ (内)タテハケ	普通	10Y R6/3 にぶい黄緑		0.1~2mm		破片	

棟号No.	回版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色調	胎土	残存量	備考
429		SR105	瓦器 小皿	8.6cm	1.5cm	5.2cm	(外) 横ナデ, ナデ (内) 横ナデ, ナデ後暗文	やや良	N3/ 暗灰	0.1~1mm 少量	2/8	
430		SR105	土 杯	13.5cm		9.6cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内) 回転ナデ	普通	10Y R8/3 浅黄橙	0.1~1mm	1/8	
431		SR105	土 杯	14.8cm		11.0cm	(外) 横ナデ (内) 横ナデ	普通	10Y R7/3 にぶい黄橙	0.1~4mm	口縁2/8	
432	43	SR105	土 杯	13.4cm	3.7cm	5.0cm	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ 暗文	普通	口縁部 5Y R7/4 にぶい黄橙 その他 7.5Y R4/1 褐灰	0.1~3mm	口縁3/8	
433		SR105	瓦器 碗	16.2cm			(外) 横ナデ, 指おさえ後ナデ (内) ナデ, 暗文	普通	N3/ 暗灰	緻密	口縁1/8	
434	43	SR106	縄 深鉢				(外) 横ナデ, ハケ, 右上がり縄文 (内) ナデ, 摩滅	普通	10Y R6/2 灰黄褐	0.1~4mm 少量 金雲母, 珉閃石	破片	
435	43	SR106	須 蓋	16.1cm	5.8cm		(外) 回転ナデ, ヘラ削り後ナデ (内) 回転ナデ	普通	2.5Y7/1 灰白	0.1~4mm	ほぼ完存	
437	43	SR107	土 杯	13.5cm	3.2cm	10.0cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内) 回転ナデ	普通	10Y R6/4 にぶい黄橙	0.1~2mm	2/8	
438	43	IV区 選擇精査中	瓦質 土釜				(外) 指おさえ, 瓶ナデ後ナデ (内) 浅いハケ	普通	N3/ 暗灰	0.1~2mm	脚部3/8	
441		III区 中世包含層(灰色砂質土層)	土 小皿	8.4cm	1.0cm	6.7cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り (内) 回転ナデ	普通	2.5Y7/2 灰黄	0.1~3mm	3/8	
442		III区 中世包含層(灰色砂質土層)	土 小皿	8.2cm	1.2cm	7.1cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り (内) 回転ナデ, ナデ	普通	2.5Y7/2 灰黄	0.1~2mm	3/8	
443		III区 中世包含層(灰色砂質土層)	瓦器 小皿	8.3cm	1.4cm	2.8cm	(外) 指おさえ (内) ヘラミガキ, 摩滅	やや不良	N3/ 暗灰	0.1~2mm 少量	4/8	
444	44	III区 中世包含層(灰色砂質土層)	須 捏鉢	26.7cm			(外) 回転ナデ (内) ハケ, 回転ナデ後ナデ	普通	2.5Y6/1 灰灰	0.1~4mm 少量	破片	東播系
445		III区 中世包含層(茶褐色砂質土層)	須 捏鉢				(外) 回転ナデ, 重ね線痕 (内) 回転ナデ	普通	N6/ 灰	0.1~1mm	破片	東播系
446		III区 中世包含層(茶褐色砂質土層)	土 土釜				(外) 指おさえ後ナデ (内) 指おさえ後ナデ	普通	7.5Y R6/4 にぶい橙	0.1~3mm	脚部3/8	
447		III区 中世包含層	土 小皿	7.2cm	1.0cm	6.1cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り (内) 回転ナデ	普通	10Y R7/4 にぶい黄橙	0.1~2.5mm	2/8	
448		III区 中世包含層	土 小皿	8.3cm	1.1cm	7.1cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り (内) 回転ナデ	普通	10Y R8/3 浅黄橙	0.1~2mm	1/8	
449		III区 中世包含層	土 小皿	8.4cm	1.1cm	6.8cm	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ, ヘラ切り	普通	2.5Y5/1 灰灰	0.1~3mm	1/8	
450		III区 中世包含層	土 小皿	8.0cm	1.1cm	3.4cm	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ, ヘラ切り	普通	(外) 5Y R6/6 橙 (内) 7.5Y R6/6 橙	0.1~1mm	底部1/8	
451		III区 中世包含層	土 小皿	8.2cm	1.1cm	6.2cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り (内) 回転ナデ	普通	10Y R8/3 浅黄橙	0.1~1mm	4/8	
452		III区 中世包含層	土 小皿	8.4cm	1.0cm	6.6cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り (内) 回転ナデ	普通	10Y R5/2 灰黄褐	0.1~3mm	2/8	
453		III区 中世包含層	瓦器 小皿	8.5cm	1.2cm	7.0cm	(外) 指おさえ後ナデ (内) ナデ	普通	(外) N4/ 灰 (内) N7/ 灰白	0.1~1mm 少量	2/8	
454		III区 中世包含層	瓦器 小皿	8.5cm			(外) 摩滅 (内) 摩滅	普通	N3/ 暗灰	0.1~2.5mm 少量	2/8	
455		III区 中世包含層	土 杯	10.7cm		8.1cm	(外) 回転ナデ, 摩滅, ヘラ切り (内) 摩滅	普通	(外) 7.5Y R6/3 にぶい褐 (内) 10Y R8/2 灰白	0.1~2mm 多量	1/8	
456		III区 中世包含層	土 杯	13.8cm		9.2cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内) 回転ナデ	普通	(外) 7.5Y R5/4 にぶい褐 (内) 10Y R4/4 褐	0.1~2mm やや多い	1/8	
457		III区 中世包含層	土 杯			8.9cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内) 回転ナデ	普通	10Y R3/1 黒褐	0.1~1mm	底部1/8	
458		III区 中世包含層	土 碗			5.5cm	(外) ナデ (内) 摩滅	普通	(外) 2.5Y R6/4 にぶい橙 (内) 10Y R5/3 にぶい黄褐	0.1~1mm	底部4/8	
459		III区 中世包含層	土 碗			7.2cm	(外) 指おさえ後ナデ, ナデ, ヘラ切り (内) ナデ	普通	10Y R8/3 浅黄橙	0.1~4mm	底部1/8	

棟号No.	団版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色	調	胎土	残存量	備考
460		Ⅲ区 中世包含層	瓦器 碗				(外)指おさえ後ナデ (内)ナデ	普通	10Y4/1 灰		0.1~2mm	破片	
461		Ⅲ区 中世包含層	瓦器 碗			4.6cm	(外)ナデ (内)ナデ	普通	2.5Y8/1 灰白		0.1~2mm	底部5/8	
462		Ⅲ区 中世包含層	白磁 碗	18.2cm			(外)施釉 (内)施釉	普通	2.5Y8/2 灰白		0.1~0.5mm 少量	破片	
463	44	Ⅲ区 中世包含層	須 捏鉢	27.0cm			(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	N5/ 灰		0.1~1mm 少量	口縁1/8	東播系
464	44	Ⅲ区 中世包含層	須 捏鉢	30.8cm			(外)ナデ,自然釉,重ね焼痕 (内)回転ナデ	普通	N6/ 灰		0.1~1mm	破片	東播系
465	44	Ⅲ区 中世包含層	須 捏鉢				(外)回転ナデ,重ね焼痕 (内)回転ナデ	普通	2.5Y7/1 灰白		0.1~1mm	破片	東播系
466	44	Ⅲ区 中世包含層	須 捏鉢				(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	10Y6/1 灰		0.1~3mm	破片	東播系
467	44	Ⅲ区 中世包含層	土 土鍋	35.5cm			(外)タテハケ後指おさえ,横ナデ (内)ヨコからナメハケ後ナデ,指おさえ	普通	10Y R4/2 灰黄褐		0.1~1mm	口縁1/8	
468		Ⅲ区 中世包含層	土 土鍋	29.7cm			(外)横ナデ,ヨコハケ後ナデ (内)ヨコハケ,指おさえ後ナデ	普通	10Y R6/4 にぶい黄橙		0.1~3mm	口縁1/8	
469		Ⅲ区 中世包含層	土 土鍋	28.2cm			(外)横ナデ,指おさえ,タテハケ後ナデ (内)ヨコハケ後横ナデ	普通	(外)10Y R4/2 灰黄褐 (内)10Y R6/2 灰黄		0.1~6mm 金雲母	口縁2/8	
470		Ⅲ区 中世包含層	土 土鍋	31.5cm			(外)横ナデ,指おさえ後板ナデ (内)横ナデ,ヨコハラ削り後ナデ	普通	(外)7.5Y R3/3 暗褐 (内)10Y R6/3 にぶい黄橙		0.1~3mm	破片	
471		Ⅲ区 中世包含層	土 土鍋	22.2cm			(外)横ナデ,タテハケ,摩滅 (内)ヨコハラ後横ナデ,ヨコハラ後板ナデ	普通	(外)2.5Y R5/6 明赤褐 (内)5Y R5/6 明赤褐		0.1~3mm 多量	口縁1/8	
472		Ⅲ区 中世包含層	土 土釜				(外)指ナデ (内)指ナデ	普通	10Y R5/4 にぶい黄橙		0.1~4mm	脚部5/8	
473		Ⅲ区 中世包含層	土 土釜				(外)指ナデ (内)指ナデ	普通	5Y R5/4 にぶい赤褐		0.1~4mm やや多い	脚部6/8	
475	45	SE101	土 井戸枠	75.6cm	62.0cm	73.4cm	(外)板ナデ (内)板ナデ,指おさえ後ナデ,指おさえ後ハケ後ナデ	普通	(外)7.5Y R6/4 にぶい橙 (内)7.5Y R5/4 にぶい褐		0.1~5mm やや多い	6/8	

第2表 八丁地遺跡 石器・銭貨観察表

標図No.	図版No.	迎構名	器種	現存長	最大幅	最大厚	重量	石材	形態・手法の特徴	備考
226	46	Ⅳ区弥生土器包含層(暗褐色粘質土層(第2層))	石鏃	2.1cm	1.9cm	0.4cm	0.97g	サスカイト	凹基式	
227	46	Ⅳ区弥生土器包含層(暗褐色粘質土層(第2層))	石鏃	2.0cm	1.6cm	0.4cm	1.29g	サスカイト	平基式	
228	46	Ⅳ区弥生土器包含層(暗褐色粘質土層(第2層))	石鏃	2.1cm	1.6cm	0.45cm	1.33g	サスカイト	平基式	
229	46	Ⅳ区弥生土器包含層(暗褐色粘質土層(第2層))	大型蛤刃石斧	7.0cm	4.3cm	3.6cm	174.8g	結晶片岩		
239	47	Ⅳ区弥生土器包含層 其他	石庖丁	5.1cm	10.3cm	1.2cm	95.94g	サスカイト	つぶれ、碎滅	
266	46	S D 116	石鏃	2.3cm	2.0cm	0.25cm	0.78g	サスカイト	凹基式	
287	46	S X 101	石鏃	2.2cm	1.7cm	0.4cm	1.02g	サスカイト	平基式	
373	46	S R 102・S R 103合流部付近	石鏃	2.0cm	1.2cm	0.3cm	0.77g	サスカイト	凹基式	
374	46	S R 102・S R 103合流部付近	石鏃	2.1cm	1.6cm	0.3cm	0.77g	サスカイト	凹基式	
421	47	S R 103	スクレイパー	5.0cm	6.5cm	0.8cm	29.36g	サスカイト		
436	47	S R 106	ナイフ形石器	6.2cm	1.2cm	0.9cm	6.79g	サスカイト	風化	
439	47	Ⅳ区遺構精査中	石庖丁	4.2cm	9.8cm	0.6cm	45.55g	結晶片岩		
440		Ⅳ区遺構精査中	スクレイパー	3.5cm	2.7cm	0.8cm	4.54g	サスカイト		
474	47	Ⅲ区中世包含層	銅銭 至道元寶		2.2cm	0.1cm	1.7g			

第5章 調査に至る経緯と経過

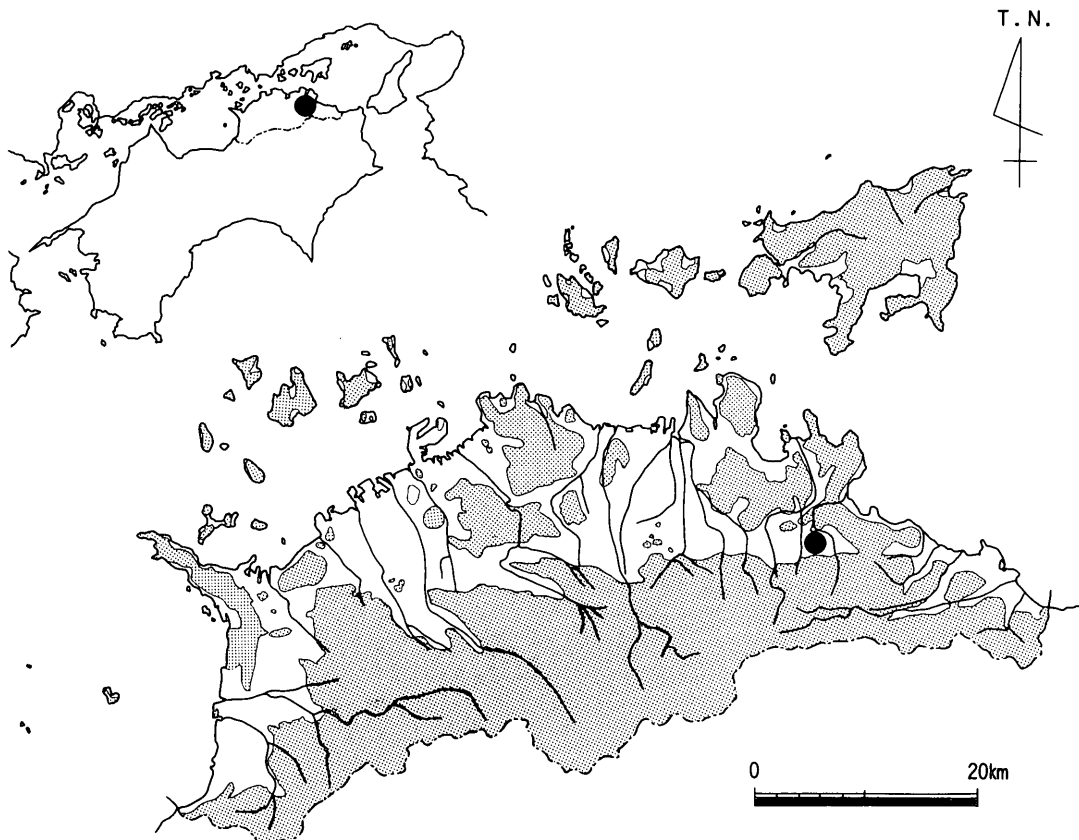
第1節 調査の経緯

本村・横内遺跡の発掘調査は県道石田東志度線改良工事に伴い実施されたものである。改良工事の実施区間は県道長尾大内バイパスから長尾街道の南側約12mまでの区間である。事業が実施されるに先立ち、事業予定地内の埋蔵文化財の包蔵状況を確認するため、平成4年10月に香川県教育委員会文化行政課が試掘調査を行ったところ、事業予定地内のうち北側と南側では旧流路と考えられる厚い砂層の堆積層を、中央部分では古代の遺構や遺物包含層を検出した。この結果を基に香川県教育委員会文化行政課と香川県長尾土木事務所が協議を行った結果、遺構・遺物を検出した箇所について1,500㎡を発掘調査することとなった。

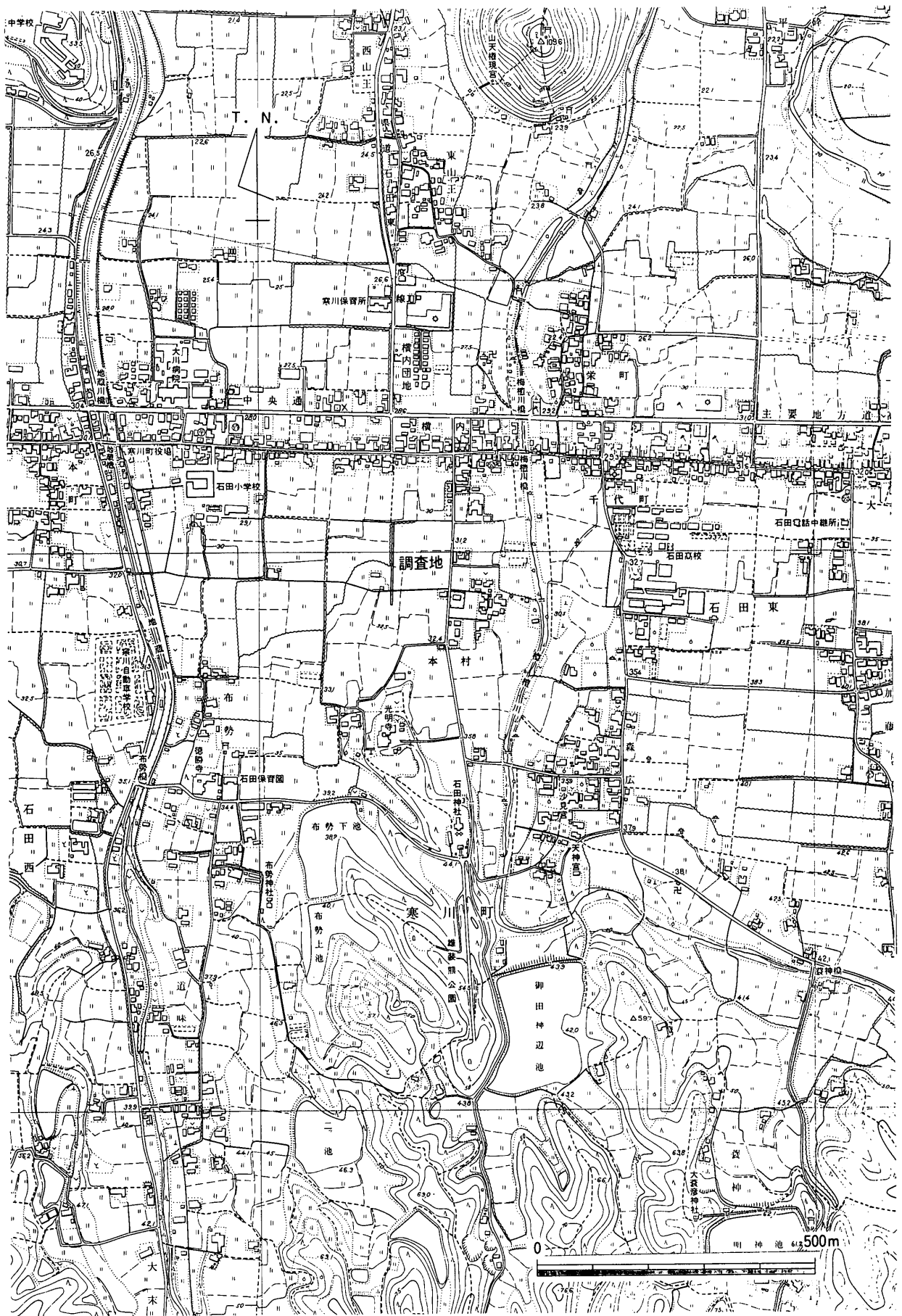
発掘調査は平成6年度4月1日付で財団法人香川県埋蔵文化財調査センターと香川県教育委員会の間で締結された「埋蔵文化財契約書」に基づき実施された。調査期間は平成6年4月1日から平成6年6月30日までの3ヶ月、調査面積は1,500㎡である。

第2節 調査の経過

本村・横内遺跡の調査は平成6年4月1日から6月30日の期間、調査面積1,500㎡を対象として実施した。調査の方法は直営方式である。調査区は南北に細長く、調査区のほとんどが水田に隣接し、調査期間が水田耕作の時期と重なるため、調査を行うに先立ち、調査区と民間地の境の調査区側に仮畦畔を設置し、必要に応じて仮設水路を設置した。



第74図 遺跡位置図(1)



第75図 調査位置図(2) (1/10,000)

調査区は、水田を単位として南からⅠ区からⅣ区まで設定した。基準杭は道路のセンター杭に求めた。表土除去は重機の進入路などの都合からⅣ区北から順次南へ向けて行い、引き続き作業員による精査を行った。

調査は6月15日に航空測量を実施した後、若干の残務調査を終え、6月24日で現場作業を終了、6月30日までに現地を撤収した。

調査体制は次のとおりである。

平成6年度

文化行政課

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

調査

総括	課長	高木 尚	総括	所長	松本 豊胤
	主幹	小原 克己		次長	真鍋 隆幸
	課長補佐	高木 一義	総務	参事(土木)	別枝 義昭
	副主幹	三好 利仁		係長(事務)	土井 茂樹(~5.31)
総務	係長	源田 和幸		係長(事務)	前田 和也(6.1~)
	主査	星加 宏明		主査	大西 健司
	主事	高倉 秀子	調査	参事	糸目 末夫
埋蔵文化財	係長	藤好 史郎		文化財専門員	西村 尋文
	主任技師	國木 健司		主任技師	中村 昭浩
	主任技師	森下 英治		主任技師	山元 素子
				調査技術員	福西 由実子

整理作業は平成11年7月1日より開始し、平成11年9月30日をもって終了した。

整理体制は次のとおりである。

平成11年度

文化行政課

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

調査

総括	課長	小原 克己	総括	所長	菅原 良弘
	課長補佐	小国 史郎		次長	川原 裕章
	副主幹	廣瀬 常雄	総務	副主幹	田中 秀文
総務	係長	中村 禎伸		係長(事務)	新 一郎
	主査	三宅 陽子		主査	山本 和代
	主査	松村 崇史	調査	主任文化財専門員	大山 真充
埋蔵文化財	係長	西村 尋文		文化財専門員	木下 晴一
	文化財専門員	森 格也		文化財専門員	山元 素子
	主任技師	塩崎 誠司		整理員	岡崎 江伊子
				整理補助員	合田 和子
					前田 好美
				整理作業員	松尾 優子

整理作業員

池内 妙子

堀口 知子

加藤 恵子

東川 真希子

第6章 立地と環境

第1節 地理的環境

本村・横内遺跡が所在する寒川町は香川県東部、大川郡の西南部に位置する。西は長尾町、東は大川町、東北では雨滝山塊で津田町、北は志度町、南は女体山系で白鳥町と接する。南部は阿讃山脈から派生する丘陵が東西に長く聳え、北側は鴨部川の両側に丘陵が連なる山がちな地形で、寒川町の中心部はそれらの山々に囲まれた狭い平野部の東部に位置する。

遺跡の両側には北側の丘陵に源を発する鴨部川の支流の地藏川、津田川の支流の梅檀川が流れる。遺跡は南部の丘陵と北部の平野部の境付近に位置し、付近は弥生時代後期の大規模な集落も知られ、また北側200mには南海道が想定されるなど古くから開けた場所で、条里型地割も残る。しかし、尾根と谷が深く入り組んでおり、川や谷筋の氾濫が繰り返起こったらしいことは、地割の乱れや、近隣の遺跡の発掘調査で至る所で砂層の堆積層が認められることから窺える。

第2節 歴史的環境 (第76図)

寒川町は特に弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけて大規模な遺跡が広がっており、東讃地方の中心的存在であったことを窺わせる。

旧石器時代の遺構・遺物は現在までに確認されていない。

縄文時代の遺跡の様相についても不明瞭ではあるが、雨滝山西麓の丘陵上から草創期の有舌尖頭器が出土している。石田地区においては石田高校校庭内遺跡で包含層中から縄文時代晩期後半～弥生時代前期の土器片が出土し、加藤遺跡からは縄文時代後期の土器が出土している。いずれも遺構に伴うものではないが、これらの遺跡の弥生時代後期の遺構が厚い洪水砂の上面に立地し、当該期の土器がその洪水砂層から出土することを考えれば、縄文時代後期・晩期の遺跡が山側で形成されていた可能性はあろう。

弥生時代前期についても引き続き遺跡の様相ははっきりはしない。前述の石田高校校庭内遺跡の包含層中から縄文時代晩期の土器とともに出土した他、神前遺跡では不時発見であるが、弥生時代前期後半の壺が出土している。

中期では、菘神遺跡で中期末の甕とともに環濠と思われる3条の溝が確認されている。布勢遺跡では弥生時代終末期以降の遺構が形成された層より下位の砂質土層中から中期末の土器が多量に出土している。この砂層は丘陵部側から流され、堆積したものと考えられよう。また、土器の出土はほとんどないものの、表採された石器資料の組成から、石田神社遺跡や極楽寺遺跡に中期の遺跡が営まれたと考えられる。中期末から徐々に遺構・遺物の出土とも増加していくことが窺えるが、遺跡の立地は後期よりも丘陵の高い場所になるようである。

後期になると石田地区の南部丘陵部で大規模な森広遺跡群が展開される。加藤遺跡では竪穴住居や掘立柱建物が数多く検出され、多数の遺物が出土した。なかでも遺跡の西端近くで小型扁平紐式袈裟襷文銅鐸の破片が7点出土したのは注目される。石田高校校庭内遺跡では弥生時代後期～終末期の集落が、さらに森広遺跡(平成6年度 寒川町調査)においては弥生時代後期前半の集落と弥生時代後期後半～終末期の集落が検出され、後期後半の集落では壺棺墓群を伴っている。東方の布勢遺跡においては弥生時代終末期～古墳時代初頭の溝が検出されている。さらに、これらの大規模な集落の南方の丘陵上の森広



- | | | |
|------------|------------------|-------------|
| 1. 本村・横内遺跡 | 13. 森広天神遺跡 | 25. 寺田大角遺跡 |
| 2. 宇佐八幡古墳群 | 14. 養神遺跡 | 26. 大井七つ塚古墳 |
| 3. 亀島古墳群 | 15. 極楽廃寺 | 27. 石井廃寺 |
| 4. 尾崎西遺跡 | 16. 相ノ山古墳群 | 28. 奥10号墳 |
| 5. 赤山古墳 | 17. 中尾古墳 | 29. 奥11号墳 |
| 6. 棕の木古墳 | 18. 養神東古墳群 | 30. 奥3号墳 |
| 7. 天王山古墳 | 19. 極楽寺古墳群・極楽寺遺跡 | 31. 奥13号墳 |
| 8. 布勢遺跡 | 20. 石田高校校庭内遺跡 | 32. 奥14号墳 |
| 9. 石田神社遺跡 | 21. 森広遺跡 | 33. 雨滝城址 |
| 10. 養神古墳群 | 22. 加藤遺跡 | 34. 石枝古墳 |
| 11. 神前遺跡 | 23. 寺尾古墳群 | 35. 富田茶臼山古墳 |
| 12. スバ山遺跡 | 24. 神前古墳 | |

第76図 周辺遺跡図 (1/50,000)

天神遺跡で巴形銅器 8 点が、その西方300mの石田神社境内遺跡で平形銅剣 3 口が出土しており、各集落が相互に関連し合った大きな農業共同体を形成していた様子が窺える。雨滝山山麓に展開する奥古墳群では、奥10号・11号墓などの墳丘墓が築造される。集落との関連が注目されるとともに、古墳時代前期にさらに古墳群が形成され、系譜を追う上でも注目される。

北側の丘陵部では、標高100mのズバ山山頂付近で弥生時代後期前半～中頃の土器や石器の散布が知られる。実態はよくわかっていないが、津田湾へ通じる地理的要衝にあり、高地性集落に位置づけられよう。

古墳時代前期には雨滝山山麓に古墳群が形成される。椿井大塚山古墳と同範の三角縁神獣鏡が出土したことで知られる奥 3 号墳に始まり、古枝古墳、奥14号墳、奥13号墳へと続く。これ以後前期末から中期にかけて大規模な古墳群は津田湾沿岸や大川町富田茶臼山古墳へ移動し、寒川町内では古式群集墳などが築造されるようになる。北部丘陵部では甲冑や家形埴輪などが出土した神前古墳を中心とする寺尾古墳群、甲冑など多数の遺物が出土した石井古墳群、南部丘陵部では石田神社境内古墳群などがある。6 世紀代にはいと群集墳は更に増加する。6 世紀中葉の天王山古墳群を皮切りに、6 世紀後半には大末、叢神、相ノ山、極楽寺古墳群が相次いで作られ、それらを統率する首長墓として大型横穴式石室を持つ中尾古墳がある。集落遺跡はあまり知られていないが、森広遺跡（寒川町教委）では古墳時代後期～終末期の集落を検出し、南部丘陵に展開する群集墳との関連が注目される。

律令制下の寒川町には寒川郡神前里、石田里が定められた。神前地区に石井廃寺、石田地区に極楽寺がそれぞれ建造される。石井廃寺は現在塔心礎が残されており、複弁蓮華文軒丸瓦、重弧文軒平瓦や、藤原宮式偏行唐草文軒平瓦、鴟尾片が出土している。軒丸瓦は川原寺や山田寺の形式の影響を受けており、中央との結びつきが強かったことが窺われる。出土瓦の形式から白鳳末期に造寺活動が盛んであったと考えられる。極楽寺跡は四天王寺式の伽藍配置が想定され、白鳳期から平安時代までの単弁蓮華文軒丸瓦、重弧文軒平瓦、扁行唐草文軒平瓦、鴟尾片が出土した他、宝珠形輪頭の鉄錫杖、奈良興福寺金堂鎮壇具であった唐花双鸞八花鏡の踏み返し鏡が出土している。言い伝えでは大同 4 年（809）に焼失し、後に空海が志度町鴨部東山へ再興したとされている。集落としては、石田高校校庭内遺跡で 8 世紀代前半の溝が検出されている。この溝からは土師器、須恵器に混じって、回転台土師器や、東北系の黒色土器、北関東系の盤が出土し、関東・東北地方との結びつきがあったことが指摘されている⁴⁾。また、溝とは方位が異なるが、掘立柱建物が検出されている。森広遺跡（寒川町教委）の調査では 7 世紀中葉頃と 8 世紀代の 2 時期の掘立柱建物群を検出している。後者が周囲の条里型地割に沿うのに対し、前者はそれよりやや西へ振り、この地域における条里型地割の施行時期を指摘している⁵⁾。また、この付近は条里型地割が残る地域でもあり、本遺跡から北約200mの場所に南海道が通るという復元案もある。

中世においては石田高校校庭内遺跡（平成 5 年度）において12～13世紀の集落が検出され、布勢遺跡でも同時期の遺物を多く含む溝を検出している。文献上からは、当時讃岐国知行していたを前関白九条道家が天福元年（1233）に公領であった神前郷を興福寺へ寄進している。石田郷は、康治 2 年（1143）の太政官牒案に記載があり、郷内の一部が富田庄に含まれていたことがわかる。嘉元 4 年（1306）の御領目録によれば昭慶門院領で定氏卿知行になったことがわかる。

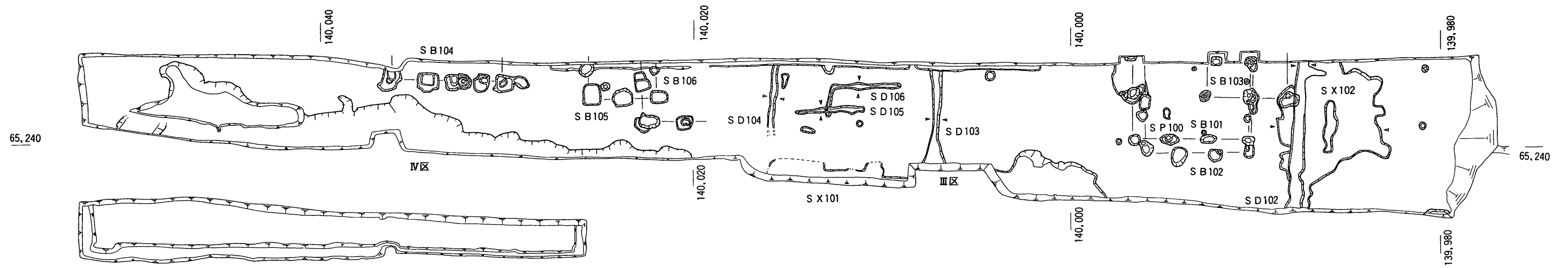
室町時代の戦国争乱の時代になると、県内でも多くの中世城郭が築造されるようになる。寒川町内では雨滝城が安富氏の拠点として築城され、支城として石田城、国弘城などが町内に築造される。しかし天正11年（1583）長曾我部元親の攻撃のより落城する。

(参考文献)

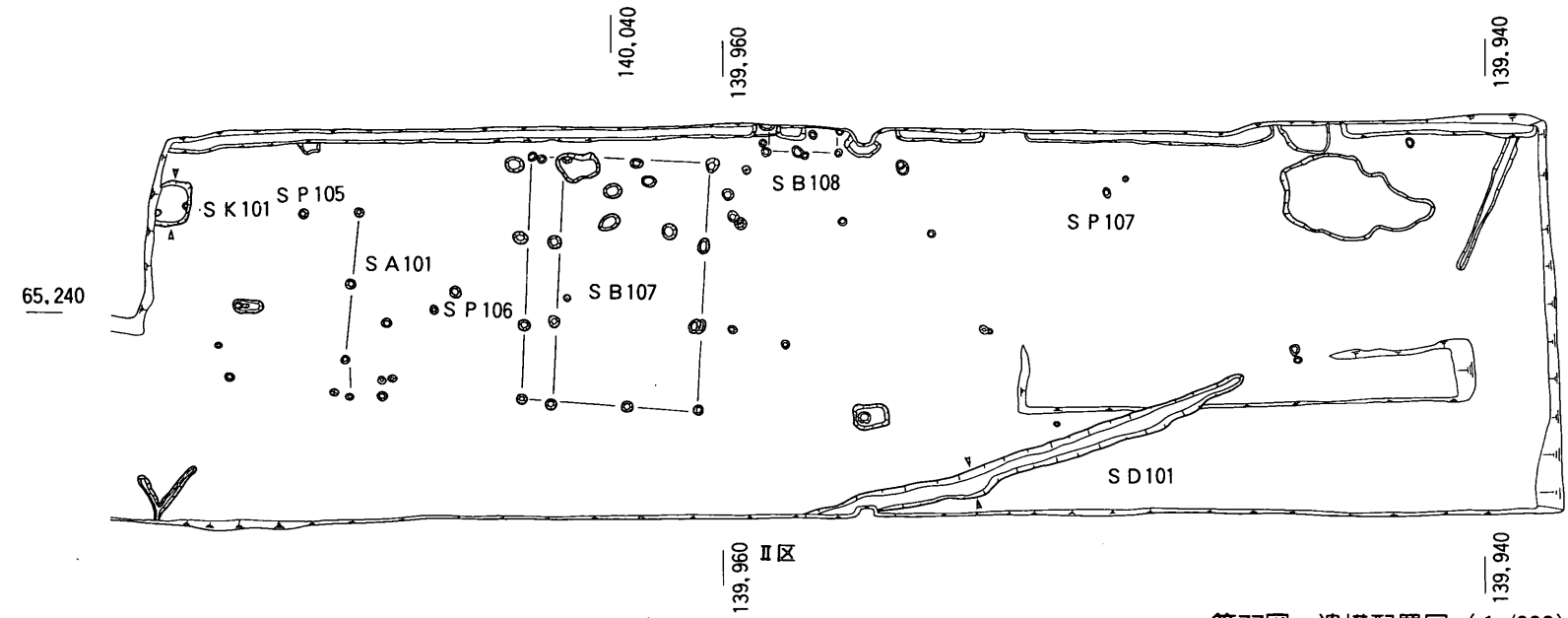
- 『寒川町史』 寒川町史編集委員会 1985年3月
『香川県史』 「第1巻 通史編 原始・古代」 香川県 1988年3月
『香川県史』 「第2巻 通史編 中世」 香川県 1988年3月
『石田高校校庭内遺跡』 香川県教育委員会 1993年12月
『第11回 特別展 讃岐の古瓦展』 高松市歴史資料館 1992年1月

(註)

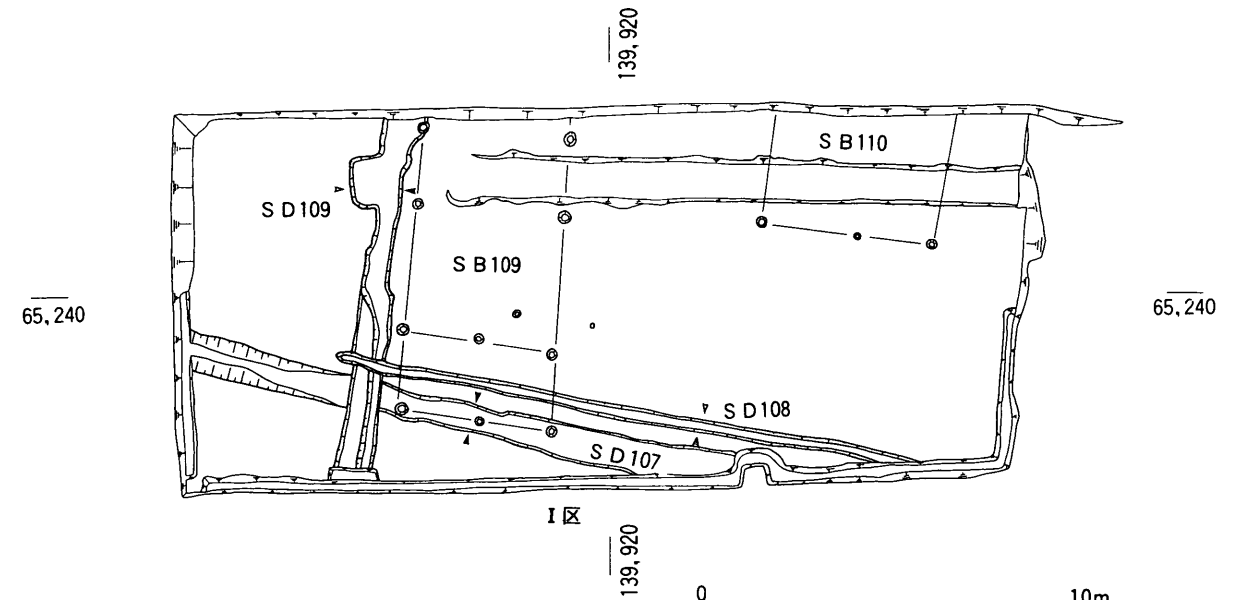
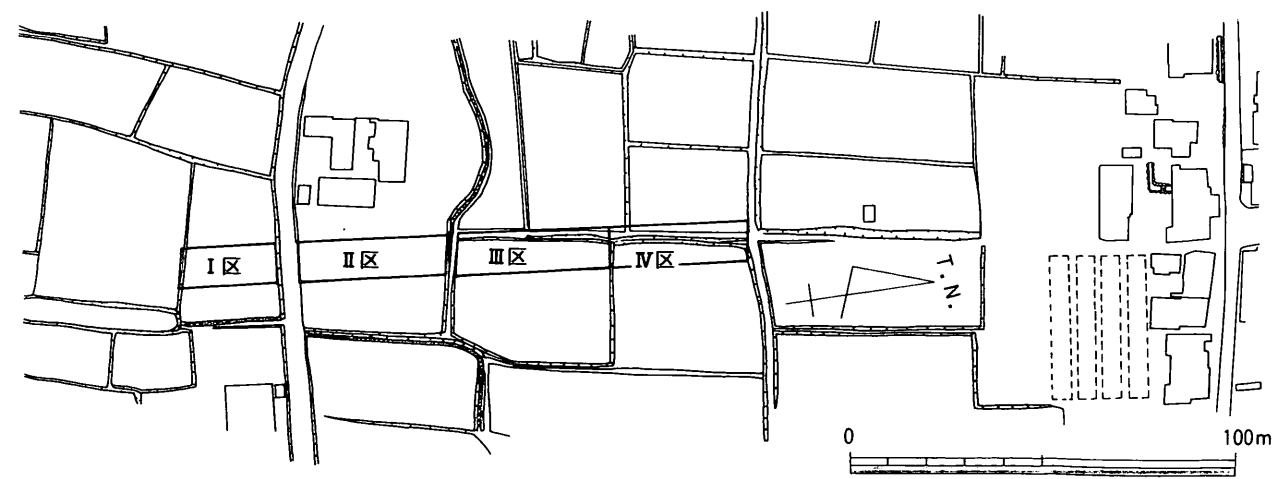
- (1) 「讃岐出土の東北系土器について～特に黒色土器について～」片桐 孝浩
『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 研究紀要Ⅲ 1995.3』
(2) 『大型店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 森広遺跡』 寒川町教育委員会 1997年3月



第77図 遺構配置図 (1/200)



第78図 調査区割図 (1/2,000)



第7章 調査の成果

第1節 調査の概要

本村・横内遺跡は南側の山塊から平野部へ下る境付近に立地する。北側約12mの位置に旧街道があり、これは旧南海道が想定されている。遺跡の北側は山塊から派生する尾根や谷筋が入り組んでおり、この旧南海道から南側は条里型地割の痕跡がやや希薄な地域である。

試掘調査の結果でも南北に長い調査区の南側（Ⅰ区の南側）と北側（Ⅳ区北端から北）では旧流路と考えられる砂層の厚い堆積がみられ、遺構は旧流路の間の微高地上（Ⅱ・Ⅲ区）で、また旧流路の縁辺部（Ⅰ・Ⅳ区）で古代の遺物を含む遺物包含層を検出した。

本調査では、Ⅱ区北端・Ⅲ区・Ⅳ区南半で奈良時代後期から平安時代前期の遺構を検出した。合計で掘立柱建物6棟、土坑1、溝1、不定形落ち込み1で掘立柱建物は1～2回の建て替えがある。不定形落ち込みからは奈良時代後期の須恵器、土師器がコンテナ3箱分出土した。土師器は回転台土師器と呼ばれる一群で当該期の土器様相を知る良好な資料になるといえよう。Ⅱ区北部で検出した土坑及び溝はやや下って10世紀代のものである。

Ⅱ区では13世紀頃の掘立柱建物を2棟検出した。うち1棟は北側に庇を持ち、掘立柱建物を構成するピットのうち2穴から土師器小皿の完形が埋納されていた。

Ⅰ区は旧流路の上部に古代の遺物包含層が堆積し、土器の小破片がコンテナ4箱分ほど出土したが、遺構は包含層上に溝が数条、近世と考えられるピットをわずかに検出しただけで遺構は希薄であった。

第2節 土層序（第79・80図）

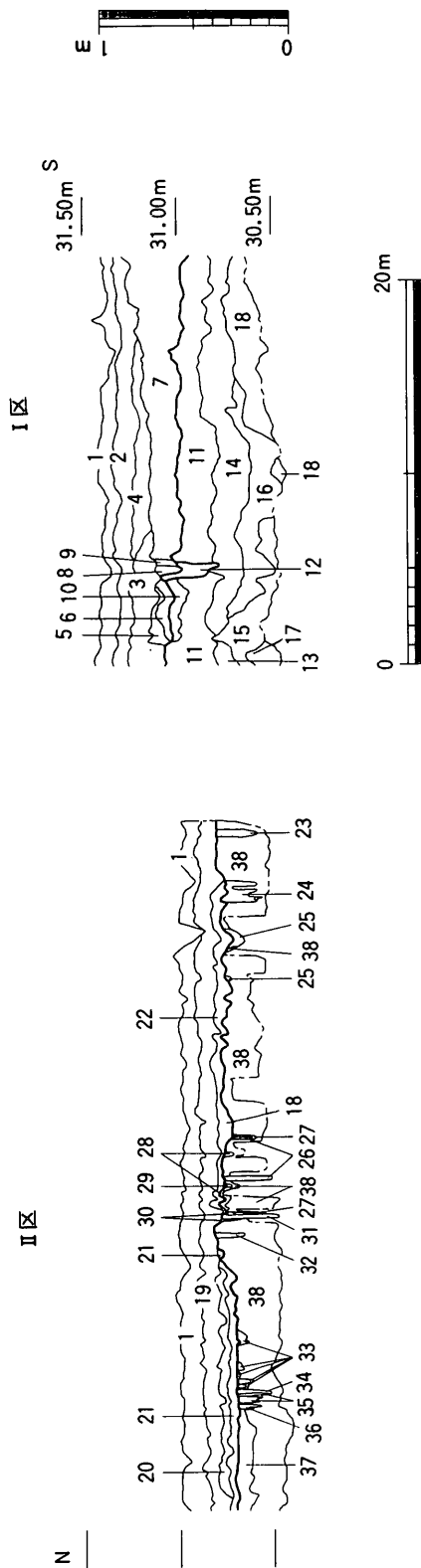
当遺跡は、北側の山塊に囲まれた谷筋から続く旧流路と平野部との境付近に立地している。試掘調査の結果では、Ⅳ区北部から北側とⅠ区から南約40mは旧流路と考えられる厚い砂層の堆積層が確認されている。なお、試掘対象地の南端に当たる箇所では、耕作土直下黄色粘土の地山を検出しており、丘陵地を削平したと考えられる。

発掘調査の結果、おおむねⅠ区とⅣ区の北端部で自然河川の堆積層が、それよりやや広い範囲で古代の遺物包含層が広がり、Ⅱ区とⅢ区の大半では耕作土・床土直下で黄色粘土の地山を検出した。

Ⅰ区では北西隅では耕作土直下に黄色粘土の地山がみられたものの、調査区の北西部分から徐々に暗褐色粘質土の遺物包含層が堆積し、さらに南東へ傾斜するに従って包含層の下部に旧流路の堆積である砂層が、さらには砂層の上に黒色粘土層が堆積する。国土基本図からは南西から北東への地形の乱れがみられるが、おそらく地蔵川の上流である谷側から平野部へ向いて流れ込む流路があったのだろう。土層の堆積状況からⅠ区部分についてはかつては旧河道であり、ある程度の堆積の後には湿地状態となり、更に包含層が形成されたと考えられる。暗褐色粘質土層の遺物包含層からは9～11世紀前半と考えられる土師器、須恵器、黒色土器などの小破片がかなり出土した。その下部の黒色粘土層、砂層からは遺物は出土しなかった。包含層の上面では溝を3条検出した。

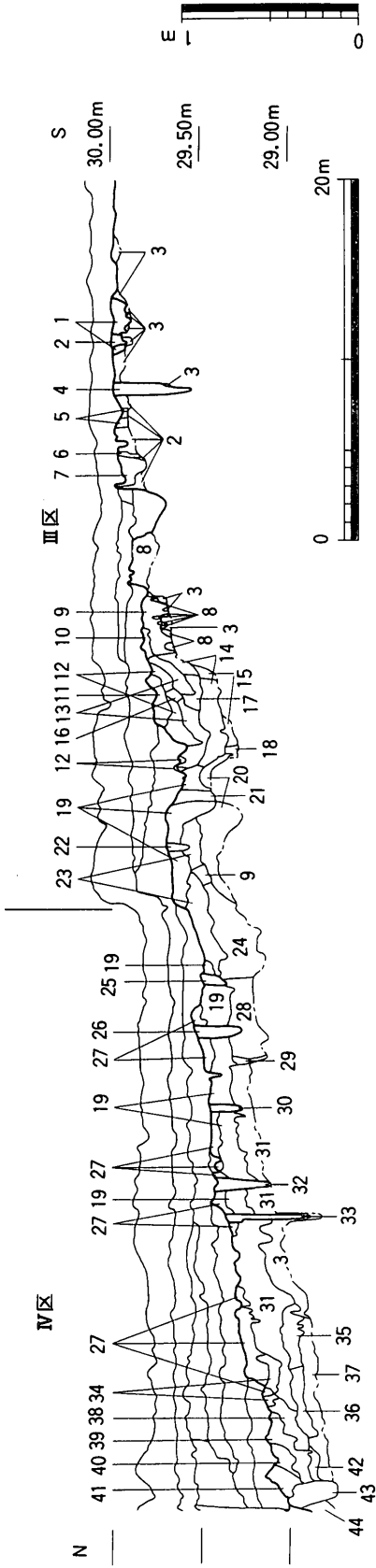
Ⅱ区は全面で耕作土・床土直下で黄色粘土の地山を検出し、この面から平安～鎌倉時代の遺構を検出した。

Ⅲ区南部ではⅡ区と同様耕作土・床土直下から黄色粘土の地山を検出しており、この面から平安時代



- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 耕土 2. 明灰色砂質土 (旧耕土) 3. 明黄灰色砂混粘質土 (Mn 含, 旧耕土) 4. 明黄灰色粘質土 (旧耕土) 5. 明褐色砂質土 6. 茶褐色砂質土 7. 黄灰褐色砂混粘質土 8. 褐色砂混粘質土 (Fe やや多) 9. 12で明灰色砂混 10. 暗褐色粘質土 (包含層) 11. 暗褐色粘質土 (Fe 含) 12. 褐色粘質土 (Fe 含) 13. 暗褐色砂質土 (やや粘土ばい) 14. 黒褐色粘土 (上面に Fe 集積) 15. 灰褐色粗砂 16. 黒灰色粘土 (部分的に筋状に砂が入る) 17. 灰色砂混粘土 18. 灰色粗砂 | <ul style="list-style-type: none"> 19. 床土 20. 灰色砂混粘質土 (旧耕土) 21. 黄茶褐色砂混粘質土 (旧床土) 22. 黄褐色砂混粘質土 23. 暗茶褐色粘質土 24. 明灰色砂混粘質土 + 地山 (黄色土) 25. 灰色粘質土 26. 灰色砂質土 27. 褐灰色粘質土 28. 明灰色粘質土 29. 灰白色粘質土 30. 明灰色砂混粘土 31. 黄灰白色粘質土 32. 暗褐色粘質土 (地山混) 33. 暗灰色粘土 (地山混) 34. 灰白色粘土 35. 暗褐色粘土 36. 灰色粘土 (地山ブロック混) 37. 褐色粘質土 (部分的に5~10cm大のくさり礫含む) (地山) 38. 黄色砂質土 (部分的に5~10cm大のくさり礫含む) (地山) |
|---|---|

第79図 I 区・II 区土層図 (左右 1/400, 天地 1/40)



※太線より上は旧耕土・旧床土

- 1. 茶褐灰色粘質土 (Mn含) S X 102
- 2. 明褐色砂質土 S D 102
- 3. 黄色粘土 (地山)
- 4. S B 103ピット
- 5. 茶灰色粘質土
- 6. 明褐色粘質土
- 7. 明灰褐色粘質土 (Mn含)
- 8. 暗茶灰褐色粘質土
- 9. 灰褐色砂
- 10. 黄褐色粘土混細砂
- 11. 灰褐色砂質土 (上面にFe沈着)
- 12. 褐色砂
- 13. 茶灰色砂質土 (やや粘土っぽい)
- 14. 暗茶褐色砂混粘質土 (13の砂多く入る)
- 15. 暗灰色粘土
- 16. 褐色砂
- 17. 暗褐色粘土
- 18. 暗灰色シルト
- 19. 暗褐色砂混粘質土 (包含層)
- 20. 褐色粗砂
- 21. 茶褐色砂質土
- 22. 明茶灰色砂質土 (S D 104)
- 23. 明灰色粗砂

- 24. 明黄灰色砂
- 25. 赤茶灰色砂質土
- 26. S B 105ピット
- 27. 茶褐灰色粘質土 (土質は19と同じ)
- 28. 暗灰色粘土混砂
- 29. 19と31が混ざった状態
- 30. 茶褐色砂混粘質土 (炭含む)
- 31. 暗黄褐色粘土
- 32. S B 104ピット
- 33. S B 104ピット
- 34. 灰褐色粗砂
- 35. 黒褐色砂混粘土
- 36. 黒灰色粘土
- 37. 明褐色砂質土
- 38. 暗茶褐色砂混粘質土
- 39. 灰褐色砂に暗茶褐色土がラミナ状に入る
- 40. 明茶褐色シルト質粘土
- 41. 黄褐色粗砂
- 42. 暗灰褐色粘土 (Fe少し混)
- 43. 灰色砂
- 44. 明灰色砂

第80図 III区・IV区土層図 (左右1/400, 天地1/40)

の掘立柱建物を検出している。Ⅲ区北部からⅣ区にかけて徐々に茶褐色砂混粘土層の遺物包含層が堆積し始め、一部では茶褐色砂混粘土層の下部で砂層の堆積がみられる。Ⅳ区北半部付近からⅣ区の畦道を挟んだ西部にかけては包含層の下部に旧河道の堆積である黒色粘土層・砂層が堆積し、Ⅳ区北端付近では茶褐色砂混粘土層が消失する付近からやはり厚い砂層の堆積がみられる。砂層の堆積状況から何度も流路方向が変わったことを窺わせるが、おおむね流路方向は南西から北東方向であった。茶褐色砂混粘土層ではコンテナ4箱分の遺物が出土した。黒色土器椀など9～10世紀の遺物もわずかに含まれていたが大半は8世紀代の土師器、須恵器であった。Ⅳ区の掘立柱建物群はいずれもⅣ区の南半部で、茶褐色砂混粘土層の下部に黄褐色粘土層の地山がある箇所、およびその南側の暗褐色砂混粘土層の下部に砂層が堆積する箇所で、茶褐色砂混粘土層の上面で検出した。

第3節 遺構・遺物

(1) 奈良・平安時代の遺構・遺物

S B 101 (第81図, 図版51)

Ⅲ区中央やや南寄りで検出した掘立柱建物である。桁行3間(6.3m)、梁間は推定2間(4.7m)の南北棟で、方位はN0.5°W、面積は推定29.6㎡である。柱間は桁行が南端が1.8m、他は2.2m、梁間は東側が2.2m、西側が2.5mである。柱穴の形状は円形または隅丸方形のものもあるが、大半は不整形であり、柱穴の断面では柱の抜き取り痕跡がみられるものや柱痕の確認できないものも多い。柱穴の規模は40～80cm、深さは20cm～40cm、埋土にはベースブロックを多量に含むものや、炭混のものが目立つ。

柱穴内からは土師器甕、須恵器蓋・杯などの小片が出土している。

S B 102 (第81図, 図版51)

S B 101とほぼ接して検出した掘立柱建物である。桁行3間(5.6m)、梁間2間(5.0m)の南北棟で、方位はN0.5°W、面積は推定28㎡である。柱間は桁行が1.8～1.9m、梁間は2.4m前後である。柱穴の形状は隅丸方形または不整形で、S B 101と同様柱の抜き取り痕跡が認められるものもある。柱穴の規模は80cm前後、深さ20cm～50cm、埋土は褐灰色粘質土が主で炭やベースブロックが混じる。柱穴内からはS B 101と同様土師器甕、須恵器杯などの小破片の他、東柱穴列の柱穴からは焼土塊も出土した。

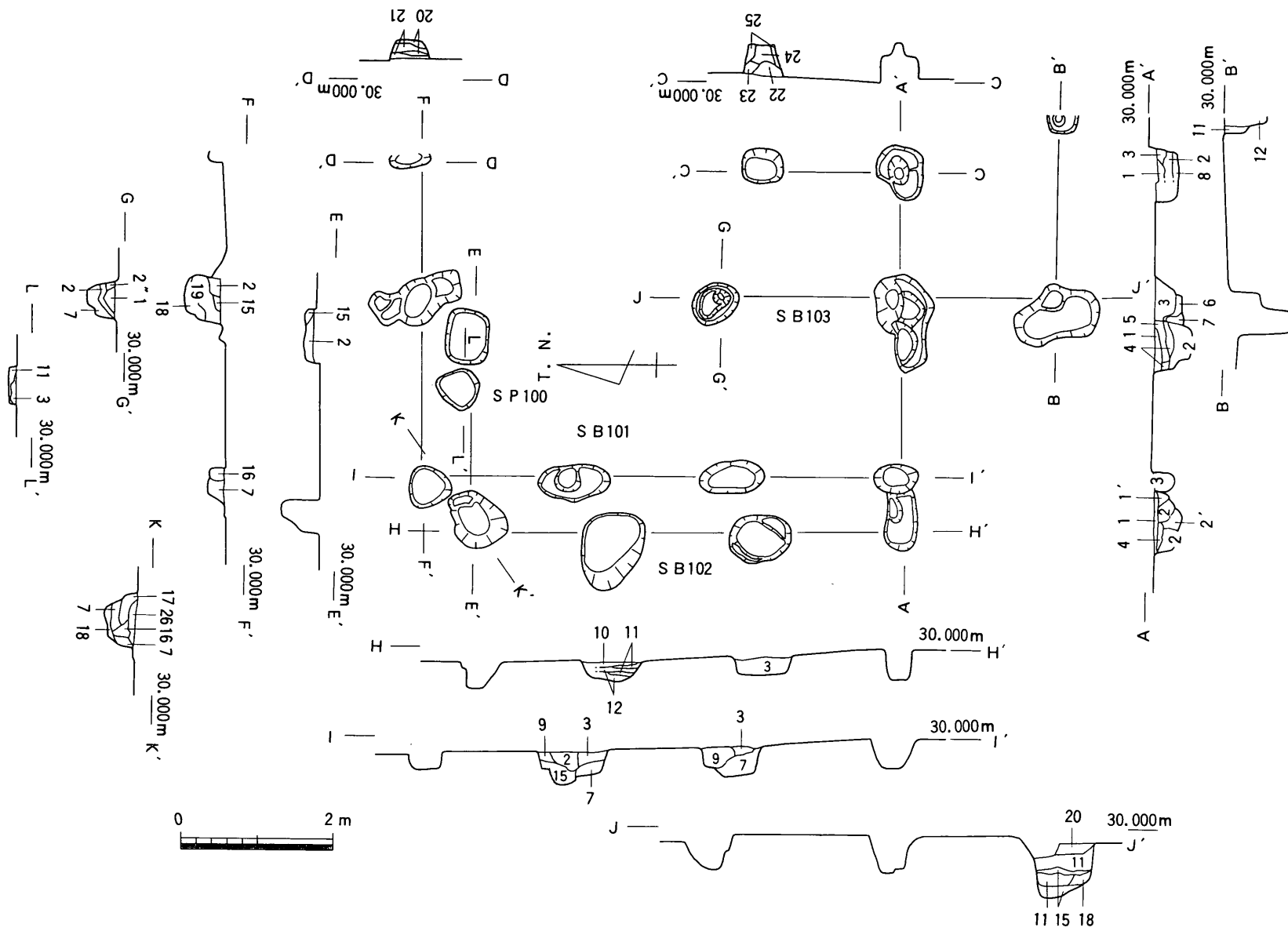
S B 101とS B 102の前後関係は南柱穴列の中央の柱穴の切り合い関係よりS B 102が新しいと考えられる。

S B 103 (第81図, 図版52(1))

S B 101・S B 102に隣接して検出した掘立柱建物である。桁行は不明(2.5m以上)、梁間は2間(4.5m)の東西棟で、方位はN87°Wである。柱間は桁行2.5m、梁間は南側が2.0m・北側が2.5mである。柱穴はおおむね不整形で、柱穴規模は60～120cm、深さ50cm～80cm、埋土は褐灰色粘質土が主で炭やベースブロックが混じる。柱穴内からは土師器の小破片がわずかに出土したほか、南側柱穴列の1穴からは焼土塊が多数出土した。

S P 100 (第82図 図版63(1))

S B 102の北側柱列の西側1穴目と2穴目の間で検出したピットである。S B 101の北側柱列西から1穴目と2穴目の中間やや南よりでもある。直径54cm、深さ12cmで埋土は上層は黄茶褐色砂混粘質土、下層は黄色粘土ブロックで、S B 101・102と共通する。時期はこれらの掘立柱建物群とほぼ同時期と考えられる。

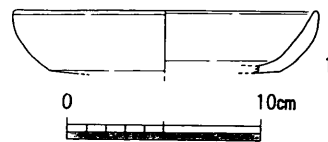


1. 褐灰色粘質土
- 1'. 1よりやや灰色が濃い
2. 褐灰色粘質土(スミ混)
- 2'. 2よりやや粒子が細かく砂が少ない
- 2''. 2より地山ブロック多い
3. 黄茶褐色砂混粘質土
4. 黄灰色粘質土
5. 2に似ているが色が少しすい
6. 茶褐灰色粘質土
7. 黄色粘土ブロックに灰色粘土混
8. 灰色粘質土

9. 黄茶灰色粘質土
10. 灰色粘土
11. 黄色粘土(地山ブロック)
12. 茶褐灰色粘質土
13. 灰白色粘土
14. 黄色粘土(地山ブロック)+灰白色粘土
15. 明灰色粘土(地山ブロック含)
16. 茶灰色粘質土(スミ、くさりレキ混、灰色土混)
17. 茶褐灰色粘質土(スミ、くさりレキ、黄色土混)
18. 明灰色砂混粘土
19. 明褐灰色粘土

20. 黄色粘土ブロックで褐色土混
21. 暗褐灰色砂混粘質土(スミ混)
22. 暗灰褐色砂混粘質土(スミ混)
23. 褐灰色粘質土
24. 暗灰褐色粘質土(黄色土ブロック混)
25. 暗褐色砂混粘土
26. 黄茶褐色粘質土

第81図 SB101・102・103平・断面図(1/80)

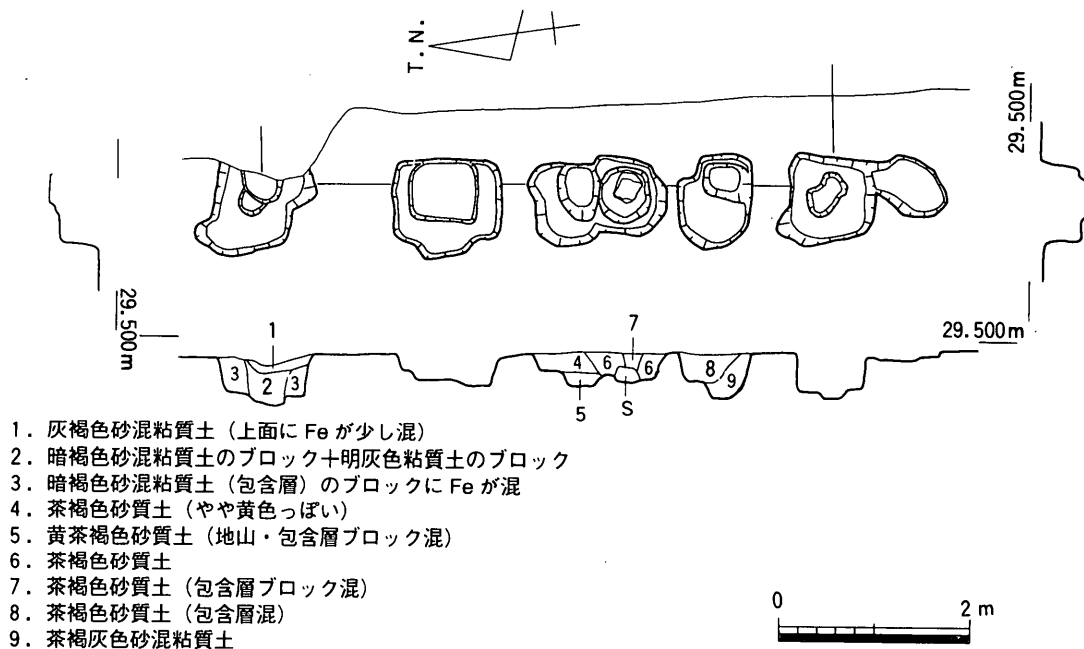


第82図 SP100出土遺物(1/4)

1は土師器杯。厚手で作りは粗い。

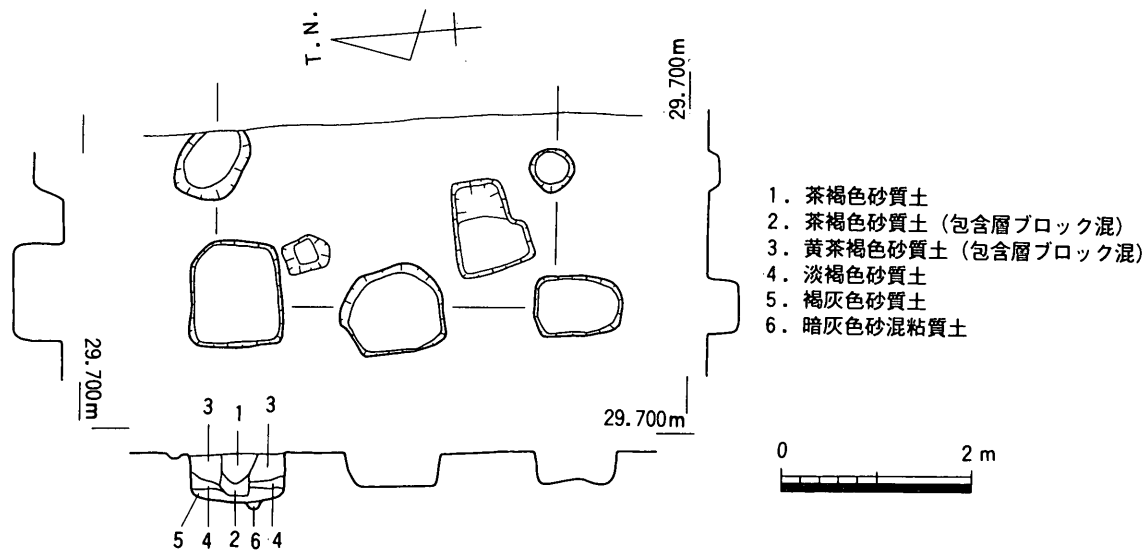
S B 104 (第83・86図, 図版50(1)・52(2)・53(1)・54(1))

IV区中央部付近東端隅で検出した掘立柱建物である。8世紀後半～9世紀後半の遺物を含む包含層を切り込んでいた。この包含層はIII区部分とIV区北部の砂層の上面及びその間の黄褐色粘土層の上層に堆積しており、整地層であったと思われるが、S B 104は整地層の下部が黄褐色粘土層の比較的安定した場所に建てられていた。調査区に限られるため南北に延びる柱列1列分しか検出できなかった。桁行は4間(7m)、梁間は不明(1.2m以上)。東壁に柱穴の北から2・5穴目に対応する柱穴の断面がみられたことから、北側の柱穴は間仕切り又は庇になる可能性がある。方位は真北方向、柱間は北側(庇部分か)が2.1m、以下1.8m, 1.5m, 1.2mと徐々に柱間が狭くなる。柱穴列から東壁はおおむね1.2mで、梁間の柱間はそれに近い値と考えられる。柱穴規模は80～120cm、深さはおおむね60～90cmの隅丸方形であ



1. 灰褐色砂混粘質土 (上面に Fe が少し混)
2. 暗褐色砂混粘質土のブロック+明灰色粘質土のブロック
3. 暗褐色砂混粘質土 (包含層) のブロックに Fe が混
4. 茶褐色砂質土 (やや黄色っぽい)
5. 黄茶褐色砂質土 (地山・包含層ブロック混)
6. 茶褐色砂質土
7. 茶褐色砂質土 (包含層ブロック混)
8. 茶褐色砂質土 (包含層混)
9. 茶褐色灰色砂混粘質土

第83図 S B 104平・断面図 (1/80)



1. 茶褐色砂質土
2. 茶褐色砂質土 (包含層ブロック混)
3. 黄茶褐色砂質土 (包含層ブロック混)
4. 淡褐色砂質土
5. 褐灰色砂質土
6. 暗灰色砂混粘質土

第84図 S B 105平・断面図 (1/80)

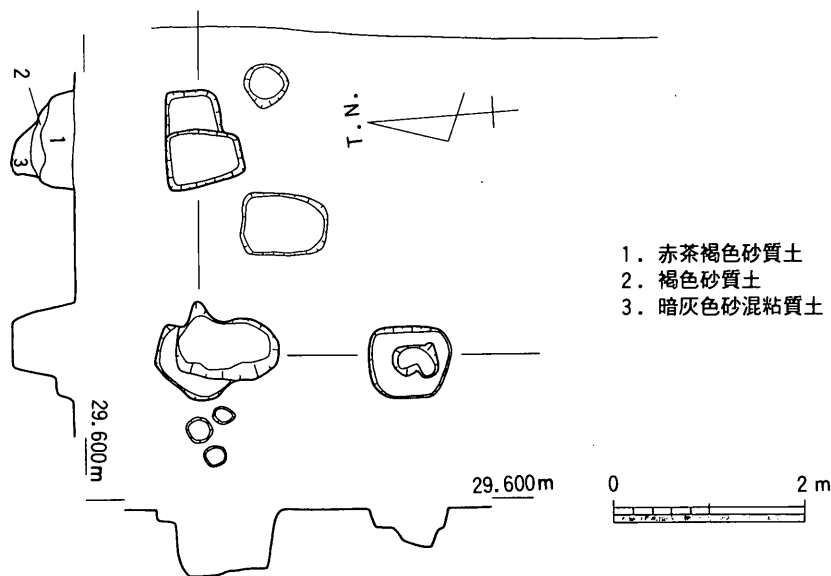
る。概報⁽¹⁾では2棟の建物を重複して検出したとしたが、今回改めて検討し直したところ、柱穴の南から2穴目と3穴目の断面によれば、新しいと思われる方の柱穴の間隔が非常に狭くなり、また、柱穴断面から、柱痕が2本見えるものもないので、2穴が接して見えるのは柱の抜き取り痕跡である可能性が高いと思われる。間仕切りを持つ南北棟と考えたが、南北の柱穴列を梁間とし、北側に庇を持つ掘立柱建物になる可能性もあろう。その場合は建物面積が50㎡を越す大型建物となろう。出土遺物は土師器蓋、須恵器杯など土器の小破片の他、焼土塊が出土した。

2は土師器甕。口縁部と体部のなす角度が鈍く、長胴甕と考えられる。内面に横方向のハケ、体部外面に縦方向のハケが施される。口縁端部をわずかに上部へあげる。

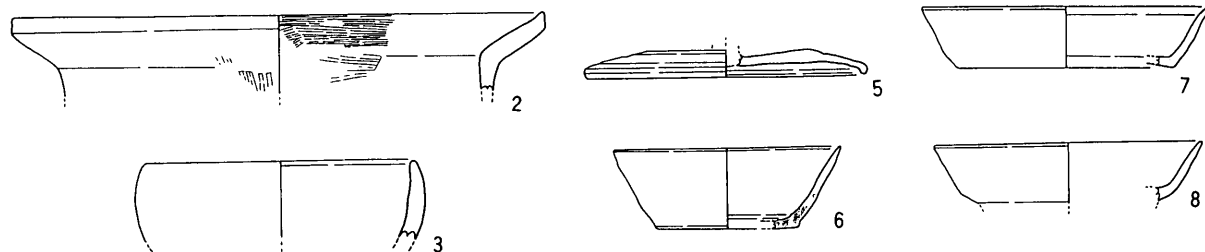
S B 105 (第84・86図, 図版50(2)・53(2)・54(2))

IV区南東端付近で検出した掘立柱建物である。S B 104と同様包含層の上面から切り込んでいた。しかし、包含層の下部は砂層であり、地盤は悪かったと考えられる。桁行は不明(1.5m以上)、梁間は2間(3.6m)の東西棟と考えられる。方位は真東方向、柱間は桁行が1.5m、梁間が1.8mである。柱穴規模は1辺60cm~1mの方形または長方形で深さは40cm~50cmである。柱穴内からは土師器杯・甕、須恵器杯・甕の他焼土塊が出土した。

3は土師器杯。やや厚手で作りが粗い。4は須恵器杯。体部の破片で高台が付くかどうかは不明。



第85図 S B 106平・断面図 (1/80)



2 S B 104
3・4 S B 105
5~8 S B 106

第86図 S B 104~106出土遺物 (1/4)

S B 106 (第85・86図, 図版50(2))

Ⅳ区南東端付近で検出した掘立柱建物である。S B 105の南側で検出した。他の掘立柱建物と同様包含層の上面で検出した。S B 105同様包含層の下部は砂層が堆積する場所で地盤の悪い場所である。しかし掘立柱建物の南半分についてはⅣ区とⅢ区の境付近に柱列が想定され、調査時の不手際から検出できなかった。桁行不明(2.1m以上)、梁間不明(2.1m以上)であるが、おそらく規模などは、S B 105と類似するものであろう。方位はN88° E、柱間は東西方向が2.1m、南北方向が2.4mである。柱穴規模はおおむね1辺60cm～90cmの隅丸方形または隅丸長方形、深さは40cm～70cmである。柱穴内からは土師器杯、須恵器杯・蓋・甕が出土した。

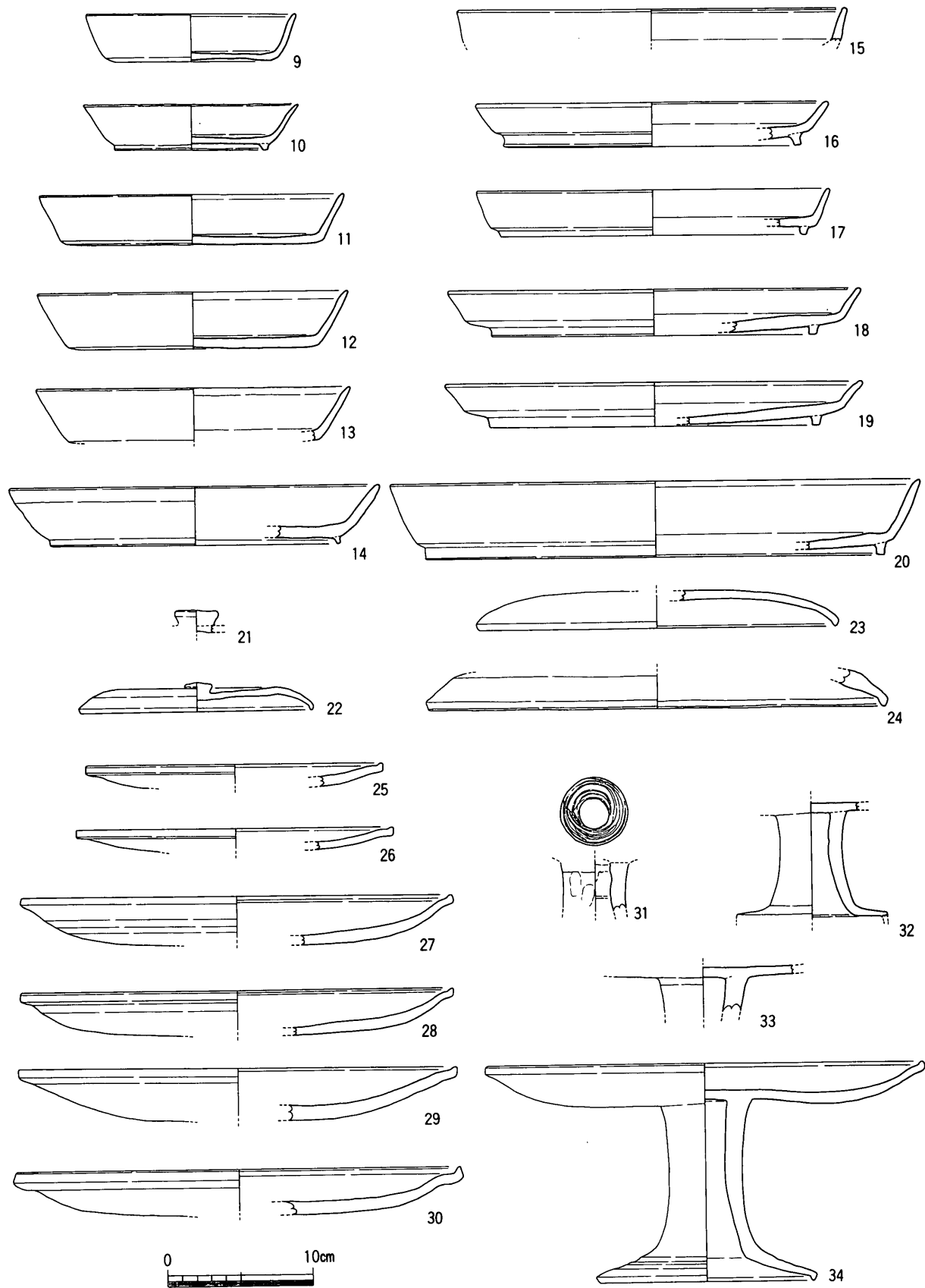
S B 105とS B 106は重複しており、互いに立て替えの関係にある可能性が高いと考えられるが、前後関係については不明である。

5は土師器蓋。回転台土師器。6・7・8は須恵器杯。6・7は内外面に火襷がかかる。8はわずかに高台部分を残す。5・8は8世紀、6・7は9世紀中頃と考えられる。

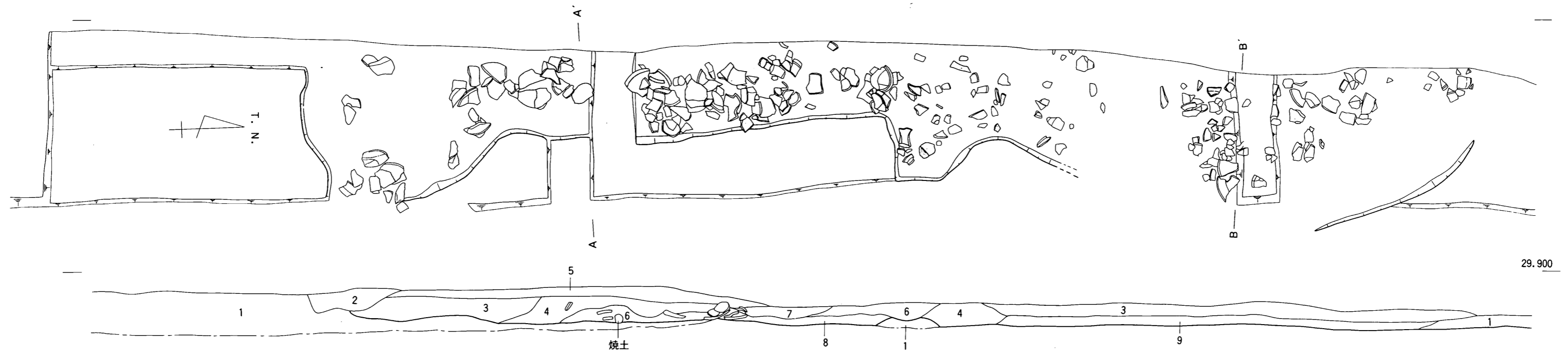
S X 101 (第87～91図, 図版55・56(1)・63(2)・64～67)

Ⅲ区北西端で検出した。西側は水路へ延び、東側は表土掘削の際に不注意から下げてしまい、全体の規模、形状は不明であるが、南北長は5.9m、東へは約5.3mに位置する調査区東壁までは延びない。断面形状は浅い皿形で、深さは12cmである。遺構が検出された位置のベースは褐色砂質土である。S X 101の南側でもこの埋土を持つ不定形の落ちがあり、西へ向かって落ちる落ちの縁辺部に当たると考えられる。埋土は遺構の中央部付近の最下層に直径80cm程度の範囲で厚さ5cmの炭の堆積層がみられ、おおむねその南に炭と焼土塊を多量に含む層がある。その上面はベースである包含層の色調に近く、埋土中に炭や焼土塊を少し含む。ベースは赤変していなかった。遺構内からはほぼ全面にわたってコンテナ3箱分の土師器・須恵器が出土した。土器はほぼ全面に散らばっていたが、炭・焼土塊が集中する箇所には土師器の大型品が須恵器よりもやや優位を占め、他では須恵器がやや優位を占めていた。遺構のラインがやや不明瞭なのに対し、出土土器量が多かった。比較的土器を多く包含した大形のくぼみ地形をたわみとして、居住者の生活用具の廃棄場としての性格を持つと推測する向きもあり⁶⁾、S X 101も、それに該当する可能性が高い。S X 101から出土したのは土師器、須恵器のみであった。土師器は大半が回転台土師器で、大型供膳具が目立った。また、土師器には須恵器にない高杯が多く出土した。

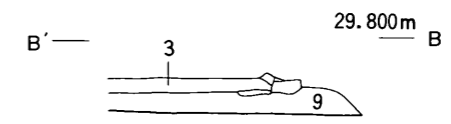
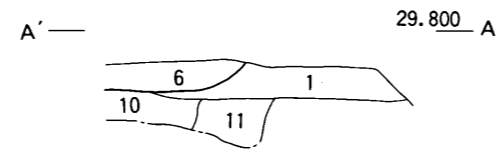
9～13はS X 101から出土した土器である。9～39は土師器。9～13は杯。10のみ高台付杯。15～19は皿。15は形態のわかるものでS X 101から出土した土師器の中で唯一回転台土師器ではないものである。口縁端部を丸くし、内面に沈線を1条巡らせる。16～19は高台付皿。16・18・19は底部から体部への立ち上がりが緩く、色調が肌色であるのに対し、17は底部から体部への立ち上がりが急で、色調は赤っぽい。18・19は高台が底部の内側へ付く。14・20は杯と皿の中間形態。21～24は蓋。21のつまみを除き法量のわかるもの3点を図化した。それぞれ小型、中型、大型になると思われる。22は内面は明黄褐色を呈し、焼成状況は土師器と同じものであったが、外面は一部灰色を呈し、焼成の悪い須恵器に近い。25～34高杯。杯部の口径21cm前後(25・26)のものと30cm前後(27～30)のものに分けられ、それに対応して脚部も小型(31・32)と大型(33・34)に分けられる。31は杯部との接合部分をヘラ状工具で同心円状に刻みを入れて、接合部を強化している。高杯の中では他が色調が肌色に近いのに対し、31のみが赤っぽい色調である。34は唯一杯部と脚部が接合した例である。35～39は鉢である。35～37は法量、形態がよく似ており、同一規格のものと考えられる。口縁端部は丸く仕上げ、35で残っている底部



第87図 S X101出土遺物(1) (1/4)

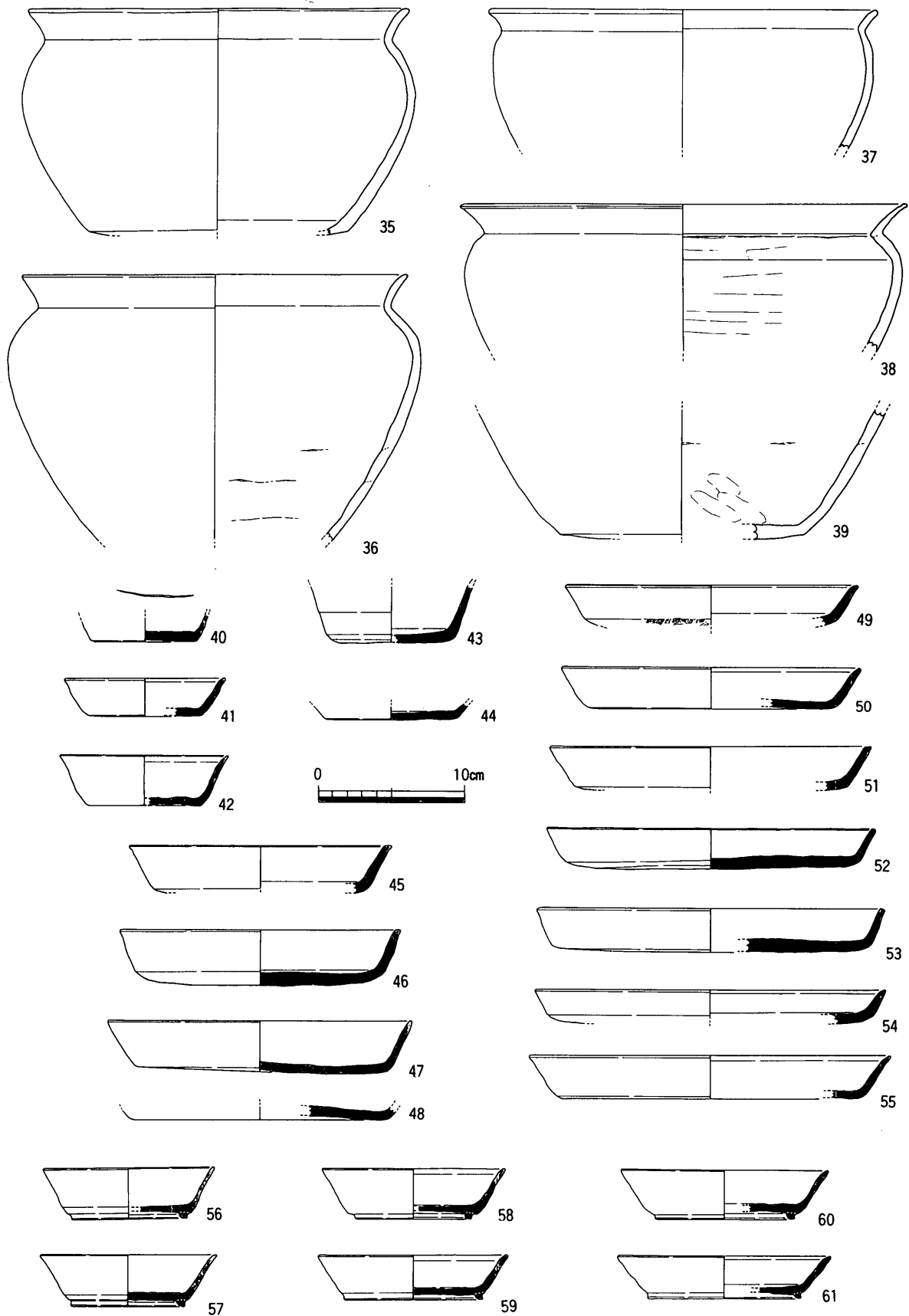


- 1. 褐色砂質土 (ベース)
- 2. 明黄褐色砂質土
- 3. 褐色砂質土 (スミ, 焼土をわずかに含む, やや茶がかる)
- 4. 暗褐色砂混粘土
- 5. 黄褐色粘質土
- 6. 暗褐色粘土 (スミ, 焼土を多量に含む)
- 7. 明黄褐色砂
- 8. スミ
- 9. 褐色砂質土 (スミ混)
- 10. 灰色砂質土 (ベース)
- 11. 暗褐色砂混粘質土 (ベース)

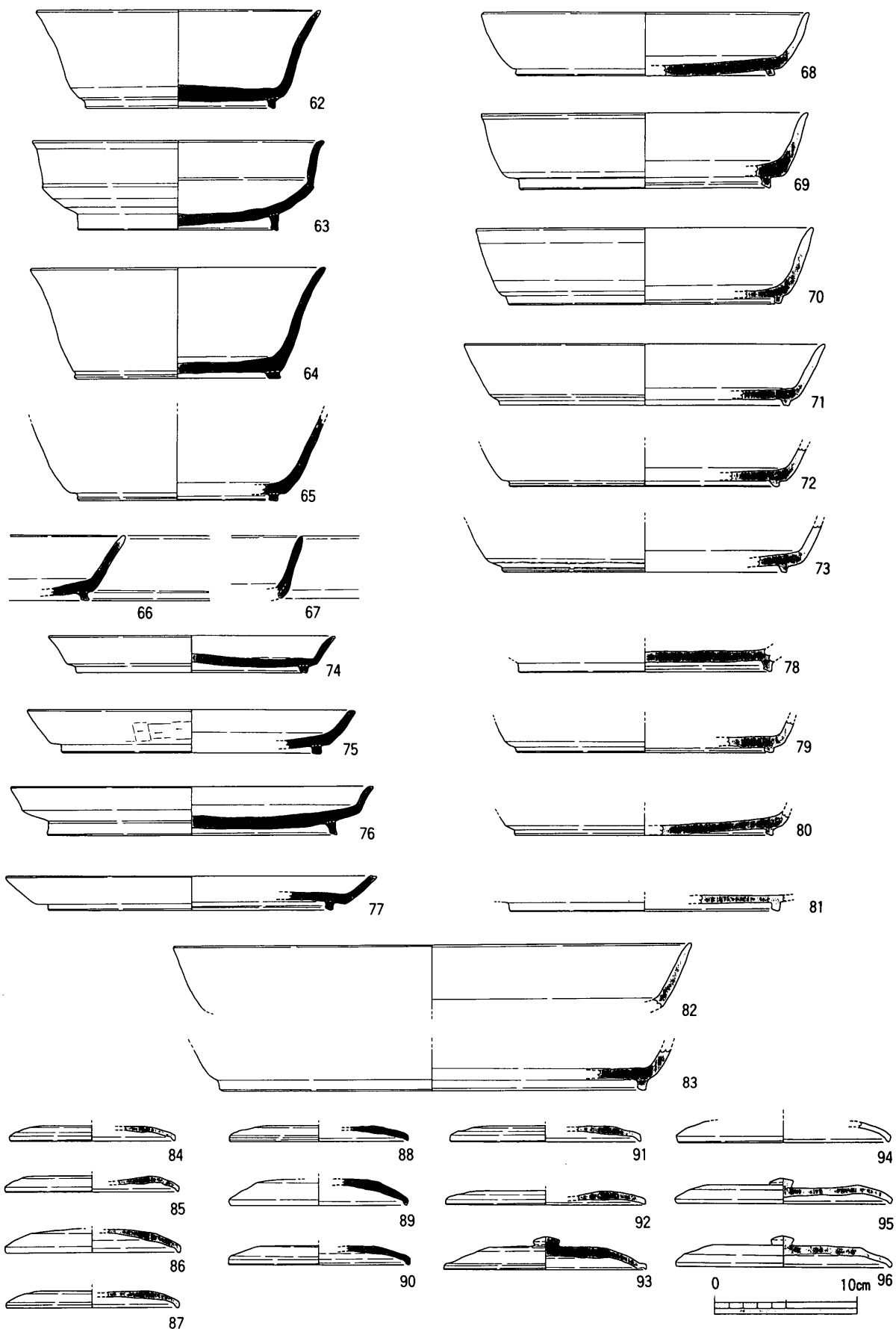


※スクリーントーン……土師器

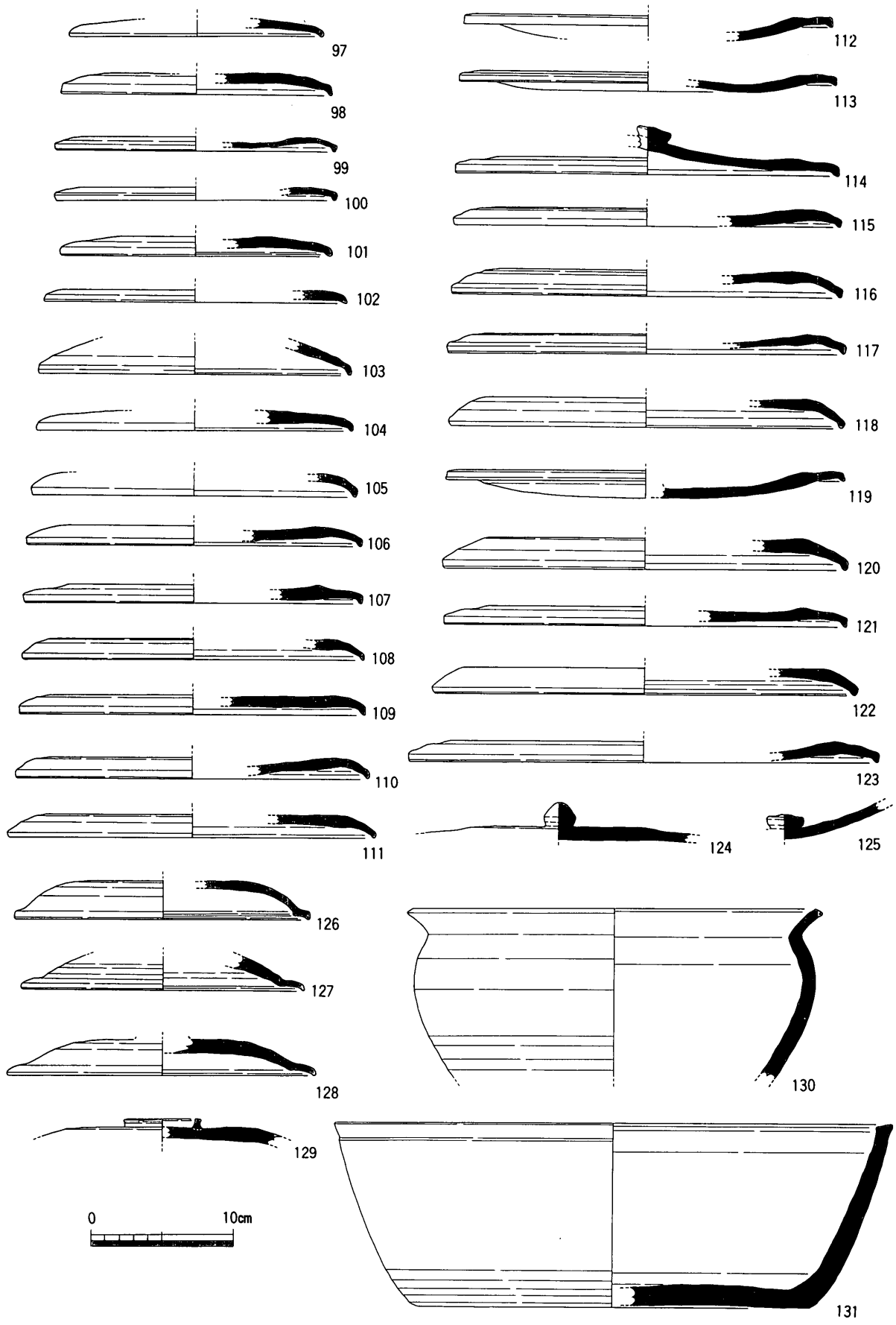
第88図 S X 101平・断面図 (1/20)



第89図 S X 101出土遺物(2) (1/4)



第90図 S X101出土遺物(3) (1/4)



第91図 S X 101出土遺物(4) (1/4)

に高台が付かないので、おそらく高台は付かない形態であろう。38は他の鉢に比べて口縁端部を四角く仕上げ、口縁部と体部の境を強く屈曲させ、肩を張らせる。39は底部である。

40～131は須恵器である。40～47は杯。いずれも回転ナデで仕上げ、底部のヘラ切り痕はきれいにナデ消している。40～44は法量の小さいもの。40～43は口径5～6cm程度に収まると思われる。40は底部内面に横方向の浅いヘラ描きがある。45～47は杯で、径高指数の小さい一群。45・47は焼成が悪く、47は形態や法量からは土師器の11～13に類似する。45は口縁端部を外側へ屈曲させ、上面に面を作る。46は口縁端部を四角く仕上げ、焼成は堅緻である。口縁端部に重ね焼き痕跡を残す。48は杯または皿の底部。焼成は悪く、部分的に橙褐色を呈する。49～55は皿。49は体部と底部の境に工具の擦痕を残す。50は口縁端部に重ね焼き痕を残す。51～53は口縁端部を四角く仕上げ、51・52は端部に浅い凹線が巡る。52は焼成が悪く、部分的に橙褐色を呈する。53は内外面に火襷がかかる。56～73は高台付杯。56～61は口径11.6cm～14.4cmの小法量のもの。底径が7.6～7.9cm(56～58)のものと9.5～10.3cm(59～61)のものに細分される。59は高台の接合粘土がほとんどなく、高台が剥離している部分は高台の痕跡がほとんどわからなかった。62～65は口径20～21cmの大型の杯である。63は体部中位に稜を持ち、その部分に内外面に沈線を施す。底部には回転ヘラ削りを施す。稜碗である。67は小破片であるが、高台部と体部が一体となっており、外面からは高台の判別が付かない。193と同じ器形と考えられる。68～73はやや浅めの高台付杯。口径はおおむね23cm前後のもの(68～70)と25.5cm(71)程度のものである。74～77は高台付皿。75・77は口縁端部を四角く仕上げ、凹線を巡らせる。76は底部をヘラ削りによりきれいに仕上げ、底部と体部の境の稜を持つ部分よりかなり内側に高い高台を貼り付ける。高台と杯部が密着しやすくするために高台が当たる部分の杯部にヘラで同心円状に沈線を入れている。78～81は高台付杯または皿の底部。高台径から考えれば杯で径高指数の小さい一群(68～73)になる可能性が高いと思われる。82・83は同一個体の可能性がある。84～129は蓋。蓋は一部の特殊な器形を除けばおおむね器高は低く、頂部は平らである。口縁端部は下へ折り曲げた程度の簡単な作りである。頂部のヘラ切り痕はいずれも丁寧にナデ消しており、頂部から口縁部へ移る境付近をヘラ削りするものもある。蓋は他の器種に比べて歪みのあるものが目立つ。84～90は口径11.5～12.7cmのもの。口径では高台付杯の法量の一番小さいものとおおむね合う。いずれもよく焼き締まっている。85・89はやや歪みがある。87・89は外面に自然釉がかかる。91～96は口径13.3～15.0cmのものである。口径はややばらつきを持つが、高台付杯の底径9.5cm～10.3cmのものとおおむね組むと考えられる。95・96は部分的に橙褐色を呈し、焼成のよくない箇所がある。97～125は口径が17.8～29.6cmまで計るが、口径的にはよくまとまらず、法量分化ができていないのかどうかは不明である。しかし、高台付杯や皿の口径に応じてやや口径が他よりは集中する箇所がみられる。98～101は口径が19～19.6cmのもので大型の杯と組むと思われる。98～100は歪みがある。102は外面に粗い自然釉がかかる。103は嵩高の器形である。外面に粗い自然釉がかかり、127～129に似た胎土、焼成状況である。104～110は口径22.2～24.7cmのもので、杯で径高指数の小さい一群や皿と組むと考えられる。104～107は歪みがある。104は外面にオリブ色の自然釉が多くかかる。108は内面に一部橙褐色を呈し、焼成は悪く土師器に近い部分もある。111～121は口径25.8～28.4cmのものである。これに合う高台付杯または皿はほとんどない。この法量のものには他の法量のものにはみられなかった、頂部に直径7～8.5cm程度の重ね焼き痕跡を持ち、焼成は堅緻で歪みが大きい個体が数多くみられる(112～115, 119, 125)。123は焼成がやや悪く、外面には一部に橙褐色を呈する箇所がある。124は擬宝珠型つまみを持つ蓋である。外面にはオリブ色の自然釉が厚くかかっている。126～129は金属

器を模倣したものと考えられる。このうち126だけは胎土や焼成状況が異なる。126はやや笠型で丸みを持ち、頂部をヘラ削りして丁寧に調整する。口縁端部内側に返りを付ける。胎土は63の稜椀と類似する。127～129は焼成が堅緻で外面に粗い自然釉がかかる。127・128は口縁部。口縁端部付近には内面の返りが退化したような稜線を持ち、器形は笠型で丸みを持つ。128では頂部にヘラ削りがあるのが観察できる。129は頂部。輪状のつまみが付く。胎土の類似性から、接合はできなかったものの、おそらくこれが127・128の器形に付くつまみであろう。130・131は鉢。130は土師器の鉢（35～38）と器形の上では類似するが、35～37に比べると口縁端部を四角くし、内面に緩い沈線を巡らす。器壁も厚く、口径も大きい。また、38に比べると体部の張りが弱い。131は底部から斜め上方へまっすぐ立ち上がる。口縁端部は平坦にし、体部下端付近はヘラ削りする。

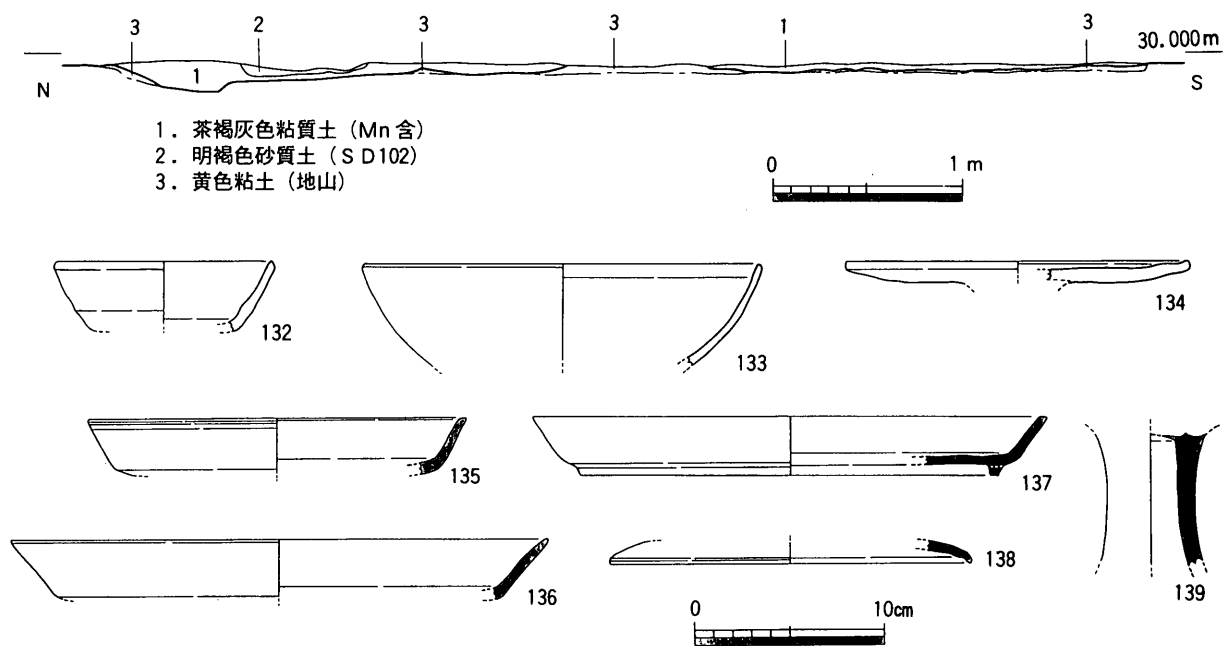
これらの土器群はおおむね8世紀中葉前後になるものであろう。

S X 102 (第92図)

Ⅲ区南端付近で検出した不定形の落ちである。東西は6.5m、南北は5.7mで深さ4～20cm、埋土は茶褐色粘質土である。明確な遺構ではなく、たまたま低い場所に堆積したものであろう。S X 102除去後にS B 103の柱穴の一部を検出した。埋土中からは土師器杯・甕、須恵器杯・甕などが出土した。

132は土師器杯。口縁部外面に面を持ち、体部はやや厚い。133は土師器椀。134は土師器高杯。外面中央付近に接合痕を残す。135・136は須恵器皿。135は口縁端部にやや面を持ち、体部外面上端付近を強くなでている。外面に火禰がかかる。137は須恵器高台付皿。口縁端部に面を持つ。138は須恵器蓋。口縁端部は内面を強くなでることで作り出すだけである。139は須恵器高杯の脚部。

S X 102は8世紀後半～10世紀頃の遺物を含み、最終的には10世紀代に埋没したと考えられる。

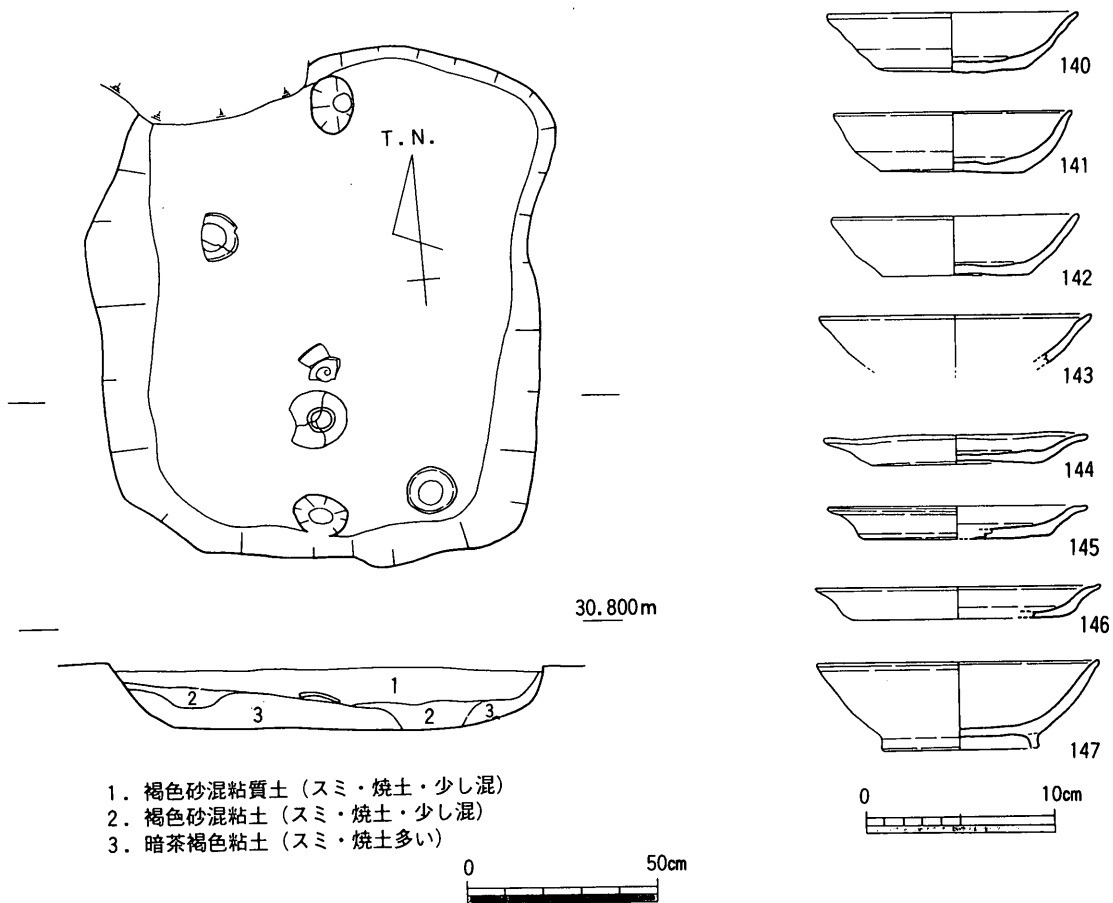


第92図 S X 102断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

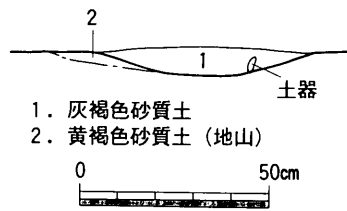
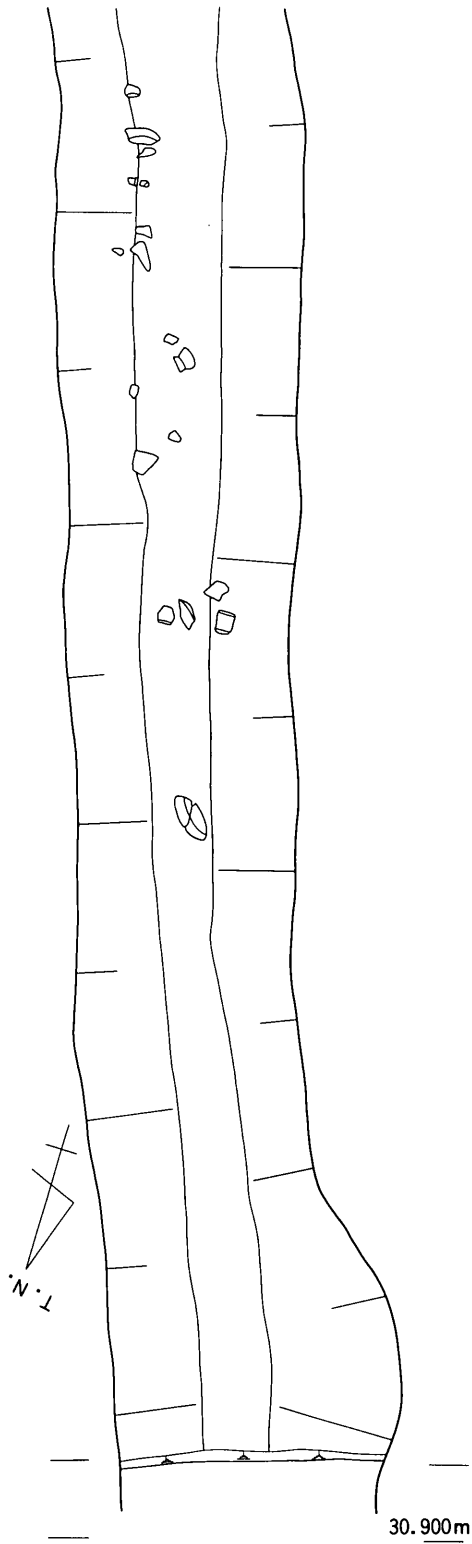
S K 101 (第93図, 図版56(2)・57(1)・68(1))

Ⅱ区東北隅で検出した土坑である。隅丸長方形で軸はほぼ条里型地割の方向に沿う。東西1.14m, 南北1.31m, 深さ18cmで, 断面形状は逆台形である。埋土はおおむね上半が褐色砂混粘質土で炭, 焼土塊を少し含み, 下半は暗茶褐色粘土で炭・焼土塊を多量に含むものである。炭・焼土を多量に含む層の上面付近で土師器杯・碗が4点出土した。土坑の完掘後, 土坑の北辺中央付近の直径12cm, 深さ28.2cmの円形のピットを, 南辺の中央付近に直径12cm, 深さ11.1cmの円形のピットを検出した。何らかの上部構造を持つ可能性もある。土坑内からは上記の土師器杯・碗の他土師器, 須恵器の小破片などが出土した。土器焼成遺構である可能性もあろうが, 土坑底面や壁面は赤変しておらず, 性格は不明である。

掲載遺物はいずれも土師器である。140~142は杯。いずれも直径12.6~13.0cmに収まり, 器高は3.1cm, 底径は7.6~7.8cmで, 体部はやや丸みを持ちながら立ち上がる。これらは同一規格の元で作られたものであろう。143は杯と思われるが, 他よりは口径が若干大きい。144~146は皿。口径13.5~15cm, 器高は1.4~1.8cm, 底径は9~11cmである。いずれも口縁端部を強く外反させる。147は碗。ほぼまっすぐ立ち上がる口縁で底部と体部の境付近に高台をつける。時期は10世紀前半と考えられる。

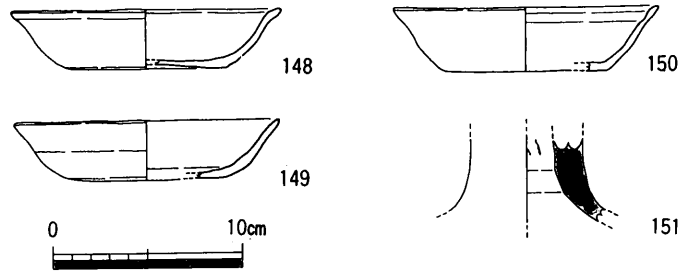


第93図 S K 101平・断面図 (1/20)



- 1. 灰褐色砂質土
- 2. 黄褐色砂質土 (地山)

第94図 S D101平・断面図 (1/20)



第95図 S D101出土遺物 (1/4)

S D101 (第94・95図, 図版57(2)・68(2))

Ⅱ区の西半を北西から南東へ走る溝である。後世の削平のためか南東部は途中で切れている。耕作土直下でベースである黄色粘土層が検出できるが、Ⅰ区の旧流路の北肩付近に当たり、土地自体はやや低い。方向はやや西へ振っているが、ほぼ条里型地割の坪界線に一致すると考えられる。幅56cm、深さ7cm、断面形状は浅い皿形で灰褐色砂質土層の単層である。

現在の地割では、Ⅲ区・Ⅳ区付近を、坪界線に相当する位置に南北方向の水路が走っているが、Ⅱ区とⅢ区の境でこの水路は西へ方向を変え、湾曲しながら南西方向へ等高線に沿って走ようになる。一度は条里型地割に基づいて坪界線の位置に溝を作ったものの、何らかの理由で後につけ替えられたようだ。

溝の埋土中からは土師器杯、須恵器小破片が出土した。

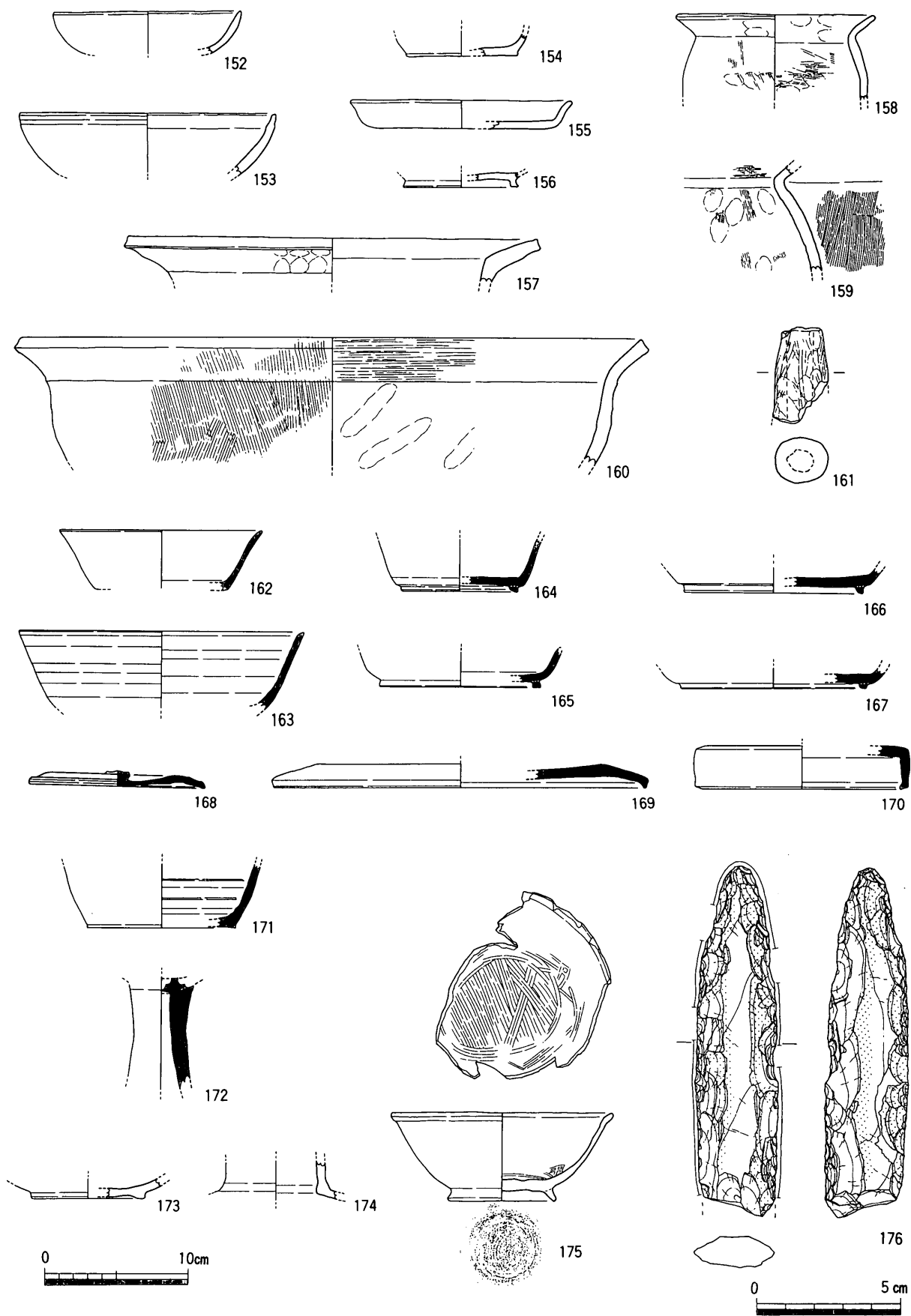
148～150は土師器杯。148は口縁端部を強く外反させ、体部はやや丸みを持つ。149は体部下半に丸みを持ち、底部と体部の境が不明瞭である。150は体部がまっすぐ立ち上がるもの。151は須恵器高坏脚部。内面に絞り目を残す。時期は12世紀前半と考えられる。

Ⅳ区茶褐色粘質土層 (第80・96～98図, 図版49(2)・68(3)・69)

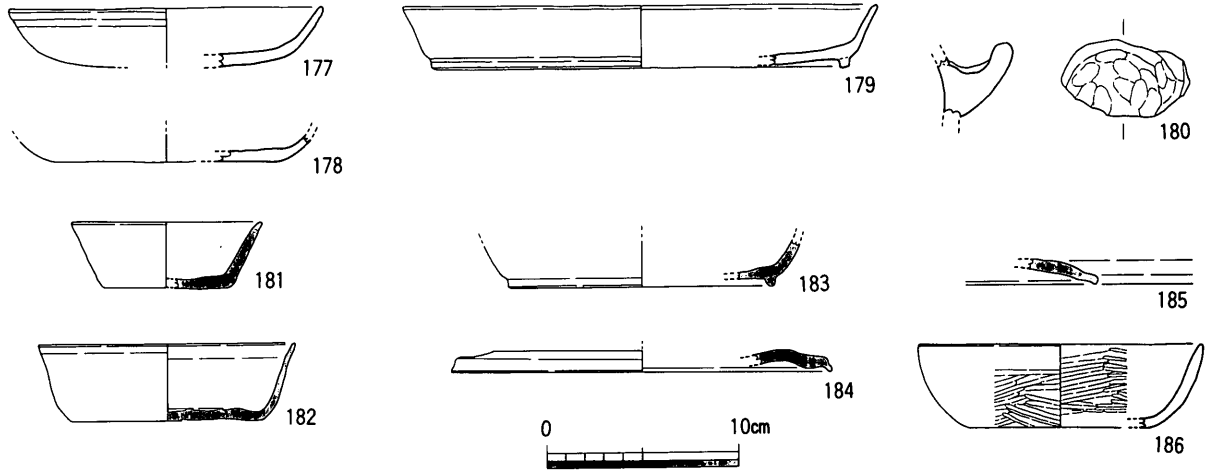
Ⅲ区北部からⅣ区中部にわたって堆積する茶褐色粘質土の遺物包含層である。Ⅲ区北部で旧流路と考えられる砂層の上面で堆積し始め、Ⅳ区北部で消失する。厚さは10cm～30cmで堆積するが、おおむね均一に堆積しており、掘立柱建物を検出した付近を中心に一部では上部に土壌化もみられる。この包含層の上面で掘立柱建物を検出した。ここでは土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器が出土した。土師器は回転台を利用しないもので、厚手でナデ以外の調整のみられないやや作りが粗雑なものと回転台を利用するものがある。須恵器は杯、蓋、壺、高坏が出土した。黒色土器は内面ののみいぶすもので、杯と碗が出土している。おおむね8世紀中葉～後半が主体であるが、土師器碗や黒色土器碗、施釉陶器など9世紀後半頃へ降るものもみられる。

152～176は茶褐色粘質土包含層から出土した遺物である。

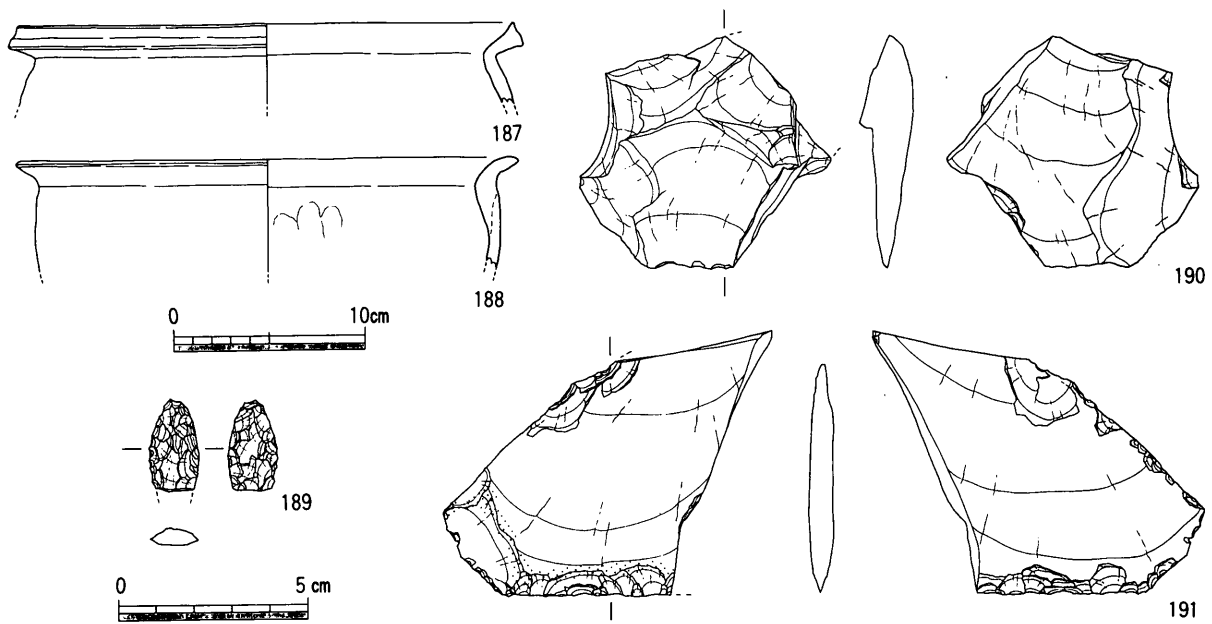
152～161は土師器である。152・153は杯。厚手で、作りは粗雑である。153は外面口縁端部は強いナデにより沈線状になる。154は回転台土師器杯底部。155は皿。回転台を使用しない。体部はやや外反する。156は碗底部。しっかりした高台が付く。157～159は甕。157は口縁部から体部への屈曲が緩く、長胴型の甕と考えられる。158は体部がやや丸みを帯びる。小型の甕。159は弥生土器の甕。内外面にハケ目を施す。160は鍋。口縁部内面を横方向のハケ目、外面を縦方向のハケ目をいれる。161は土錘。外面に縦方向のハケ目を入れる。162～172は須恵器。162・163は杯。162は内外面に火襷を残す。163は内外面に轆轤目を顕著に残す。高台の有無は不明。164～167は高台部分。高台は165以外は外側が高く、内側は接地していない部分もある。165は他に比べ底部と体部の境が丸く、他とは異なる形態になると考えら



第96图 IV区包含层出土遗物(1) (1/4·1/2)



第97図 IV区包含層出土遺物(2) (1/4)



第98図 IV区包含層出土遺物(3) (1/4・1/2)

れる。外面はおおむねヘラ切り痕を回転ナデなどで消している。168・169は蓋。168は焼成は堅緻で、外面にはゴマ状の自然釉がかかる。歪みがある。170は壺の蓋。口縁端部は内側をやや肥厚させる。焼成はやや悪く、断面は淡橙色を呈する。頂部の体部際を1cmほどヘラ削りする。171は須恵器壺底部。内面は轆轤目を顕著に残す。172は高坏脚部。173は碗底部。高台は削り出しによるもので、焼成は土師質である。釉は残っていないが、おそらく京都産の緑釉陶器であろう。174は灰釉陶器壺の頸部と体部の屈曲部。外面に均一に灰釉がかかっている。175は黒色土器碗。内面のみ炭素を吸着させ、内面にヘラミガキを入れる。底部は糸切りにより切り離す。この遺跡で糸切りの唯一の例である。口縁端部は若干外傾し、肥厚する。176は石槍。サヌカイト製。基部がやや欠けているもののほぼ完形。つぶれや磨滅がみられる。

177~186は包含層が堆積する部分での側溝掘りや壁切りの際に出土した遺物で、包含層出土と考えられるものである。177~180は土師器。177は皿。浅めで作りがやや粗い。口縁部外面に沈線状に凹線が巡る。底部外面には不定方向のナデを施す。178は杯底部。179は高台付皿。回転台土師器。180は甕または甑の把手。181~185は須恵器。181・182は杯。181は厚手で、小型。182は薄手で底部の体部際を約

2 cm幅で強くナデ、体部と底部の境を際立たせる。ともに回転ナデで仕上げ、底部はヘラ切り痕をきれいになでて消している。183は高台付杯。184・185は蓋。184は頂部をヘラケズリし、ヘラ切り痕を消す。歪みが大きい。185は小型のもの。186は黒色土器杯。内面のみいぶす。体部はやや厚め。小破片ではあるが、内外面に密に分割ヘラミガキを入れると考えられる。

152～186は同一層からの出土と考えられる。やや時期幅を持つものの、178が12～13世紀頃まで時期が下ると考えられることを除けば、8世紀～9世紀後半頃と考えられる。

187～191はⅣ区北端付近で出土した遺物である。ここでは茶褐色粘土層の包含層は消失し、自然河川の埋土である灰褐色砂層、暗茶褐色砂層・粘土層が交互に堆積する。自然河川と包含層は切り合い関係がなく、前後関係は不明である。

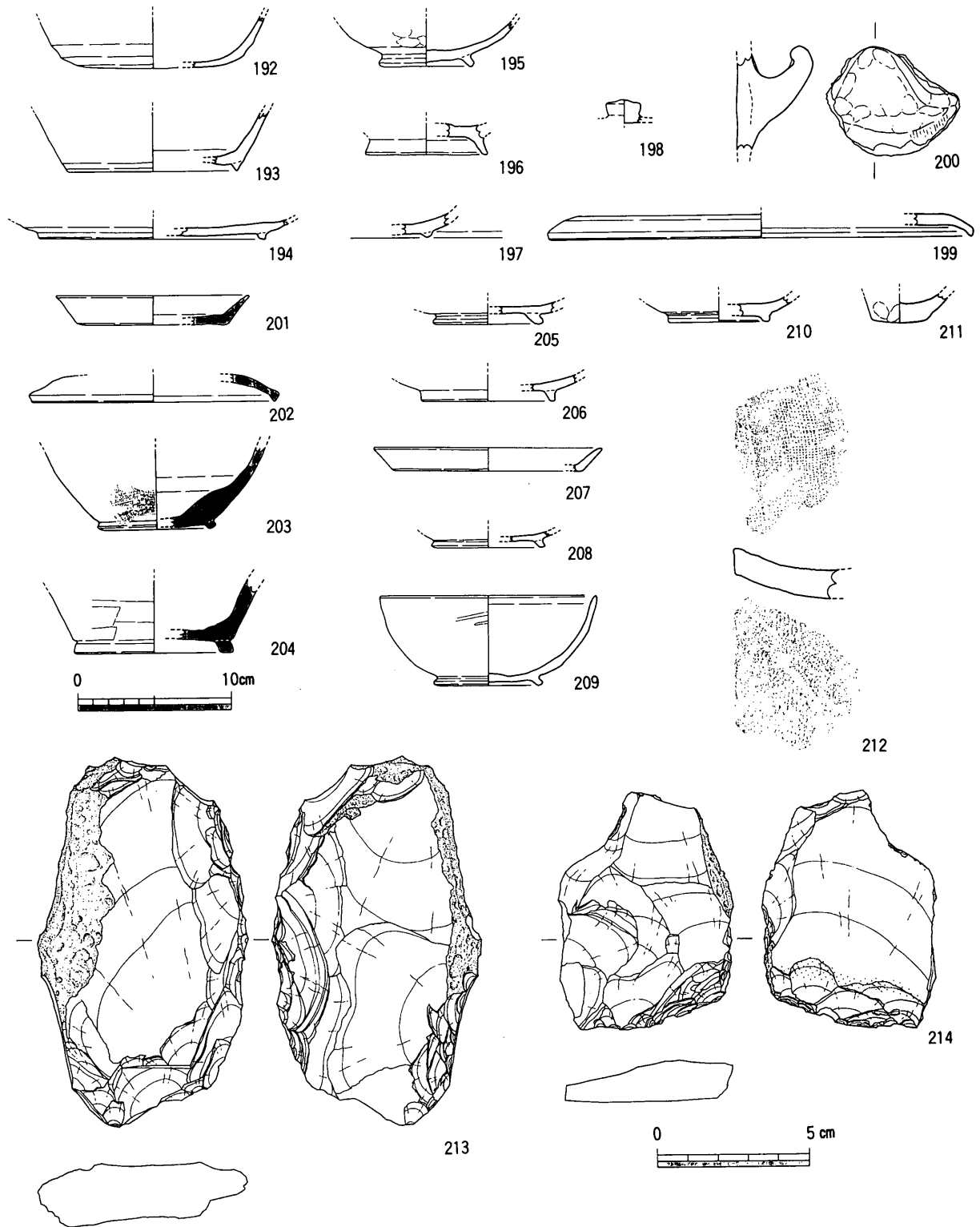
187は弥生土器甕。口縁部を拡張させ、緩い沈線を入れる。磨滅が著しい。弥生時代中期後半。188は土師器甕。189は石鏃。サヌカイト製で基部が欠損しているが、柳葉式と考えられる。190・191はスクレイパー。いずれもサヌカイト製。190は下面をわずかに刃を作る。いずれもローリングを受けており、旧流路の上流側で弥生土器を巻き込んだものと考えられる。

I 区暗褐色粘質土層 (第79・99～101図, 図版49(1)・70・71(1))

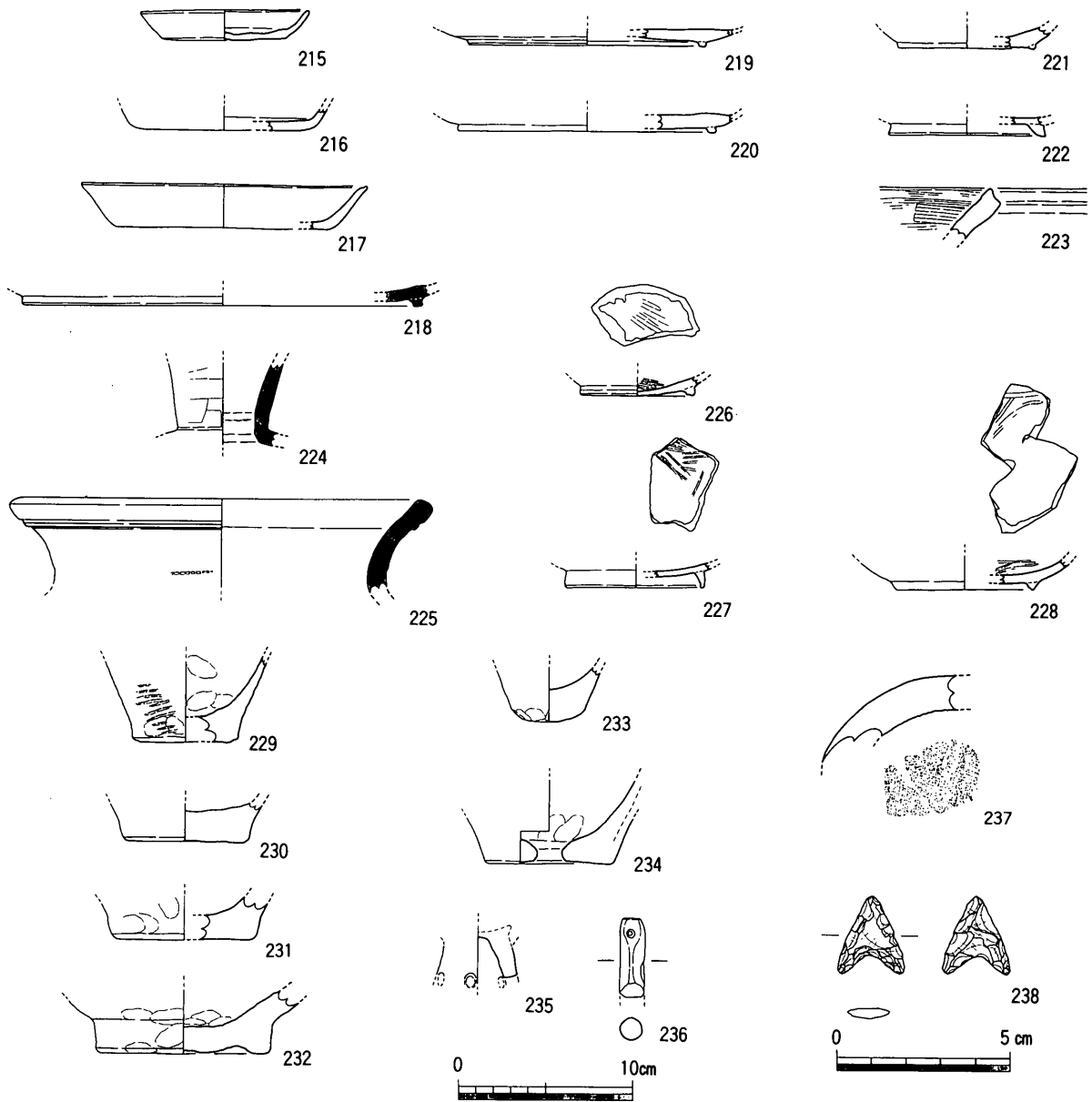
I 区に堆積していた包含層から出土した遺物である。包含層上面の遺構検出の際に出土した遺物と、包含層上面の遺構のベースを形成する遺物包含層を掘りあげる際に出土した遺物と2度に分けて掘りあげたが、時期差はないと思われ、壁面等の土層観察からも両者の区別はつかなかった。遺物は土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、瓦などが出土したが、磨滅を受けたものや、原形のわからない小破片のものも非常に多い。遺物は全部でコンテナ4箱分ほど出土している。

土師器は回転台土師器と椀が出土している。土師器のなかで回転台土師器は同一個体でも色調が橙色、黄褐色などと灰白色系の色が混在するものが多く、土師器か非常に焼成の悪い須恵器か区別が難しいものもあった。須恵器の出土量は少ない。黒色土器は内面のみいぶすものもみられるが、両面いぶすものが多い。特殊遺物としては、轆の羽口が図化したもの他にも小破片が若干出土している。その他弥生土器が数点出土している。いずれも磨滅が著しく、他所からの紛れ込みであろうが、近在に当該期の遺構があった可能性がある。これらからⅣ区の包含層よりやや降って、9世紀前半～11世紀前半頃と考えられる。

192～200は土師器。192は杯。193は高台付杯。焼成の悪い須恵器の可能性もある。体部と高台部は一体となって、外面からは高台部がみえない。194は高台付皿または杯。回転台土師器。195～197は土師器椀。196は高台が高く細い。197は高台は低い。198は蓋のつまみ。199は蓋。回転台土師器。200は土師器甕または甑の把手。体部外面を縦方向のハケで調整する。201～204は須恵器。201は皿。厚手で、底部外面に火襷を残し、ヘラ切り痕をナデ消す。202は蓋。歪みがある。203・204は高台付壺の底部。203は体部が丸みを持つものと思われる。体部下端に格子タタキの痕跡がみえる。204は体部は直線的に立ち上がり、体部下部をヘラ削りし、内面には自然釉が付着している。206は黒色土器椀。内面のみいぶす。205・208・209は黒色土器椀で両面をいぶすもの。内面のみいぶすものに比べて高台部は太く外側へ強く踏ん張り、胎土もやや粗め。207は黒色土器皿。両面をいぶすが、断面まで黒色化は及んでいない。器形は須恵器や回転台土師器と同じである。210は緑釉陶器椀。釉はほとんど残らないが、高台は削り出して作る。焼成は須恵質だがやや悪い。京都産。211は弥生土器底部。212は平瓦。土師質焼成で、外面は縄目、内面はやや粗めの布目が残る。213・214は打製石斧。いずれもサヌカイト製。

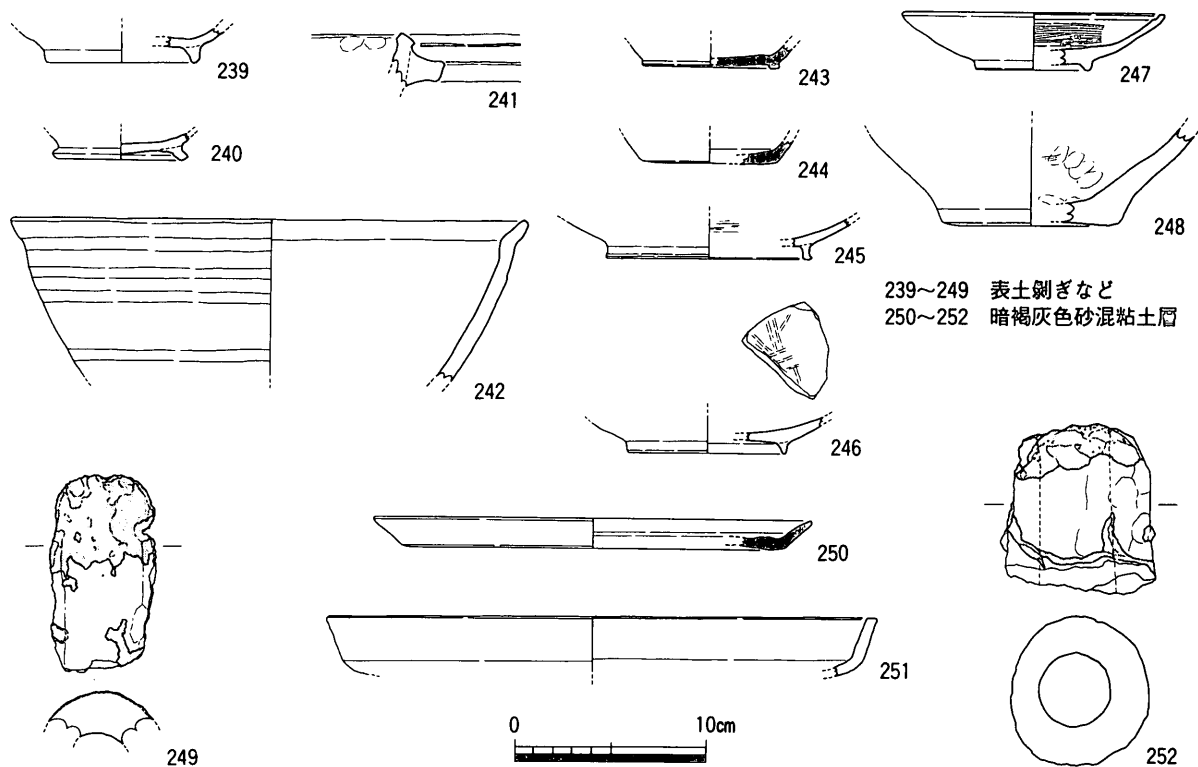


第99图 I区包含層出土遺物(1) (1/4·1/2)



第100図 I区包含層出土遺物(2) (1/4・1/2)

215～238は暗褐色粘土層の下部で、中近世の遺構のベースを掘り下げ中に出土した。215～223は土師器。215は小皿。216は杯底部。217は皿。口縁端部内側をわずかに窪ませて沈線状にする。磨滅がひどく、調整はわかりにくいだが、回転台を使わないものと考えられる。219・220は高台付底部。高台は非常に退化し、底部は厚い。回転台土師器。221・222は碗底部。221には退化した高台が、222は外側へ踏ん張るやや高めの高台が付く。223は甕口縁部破片。内面に横方向のハケを施す。218・224～225は須恵器。218は高台付皿底部。焼成は不良。一部では黄褐色～黄橙色を呈し、回転台土師器の可能性もある。224は壺の頸部。頸部の断面は2mm程度に層状に剥離しており、厚さ2mm程度の粘土板を巻いて頸部を作ったと考えられる。体部を頸部際で丸く打ち欠いているようである。225は甕口縁部。口縁端部は外側へ肥厚させ、その下端付近に沈線を1条施す。外面に自然釉が付着し、格子タタキがわずかに残る。226～228は黒色土器碗底部。内面ののみいぶす。高台の形態は様々だが、いずれも内面にヘラミガキを残す。228は高台径が大きい。229～235は弥生土器。229～232は壺または甕の底部。いずれも平底で器壁が厚



第101図 I区包含層出土遺物(3) (1/4)

い。234は甑。底部は平底で厚く作る。235は高坏脚部。杯との接合部に剥離痕跡を残す。孔は4箇所に残り、その位置関係から2個1対の孔が3箇所、合計6カ所に穿孔されたと思われる。236は棒状土錘。下部は欠損。237は丸瓦。土師質の焼成で、内面には粗めの布目痕を残す。布目や焼成、色調などは212の平瓦に似る。238は石鏃。表は縁辺のみ調整しており平らである。サヌカイト製で風化が激しい。215・216は後出するようだが、おおむね9世紀～11世紀前半と考えられる。

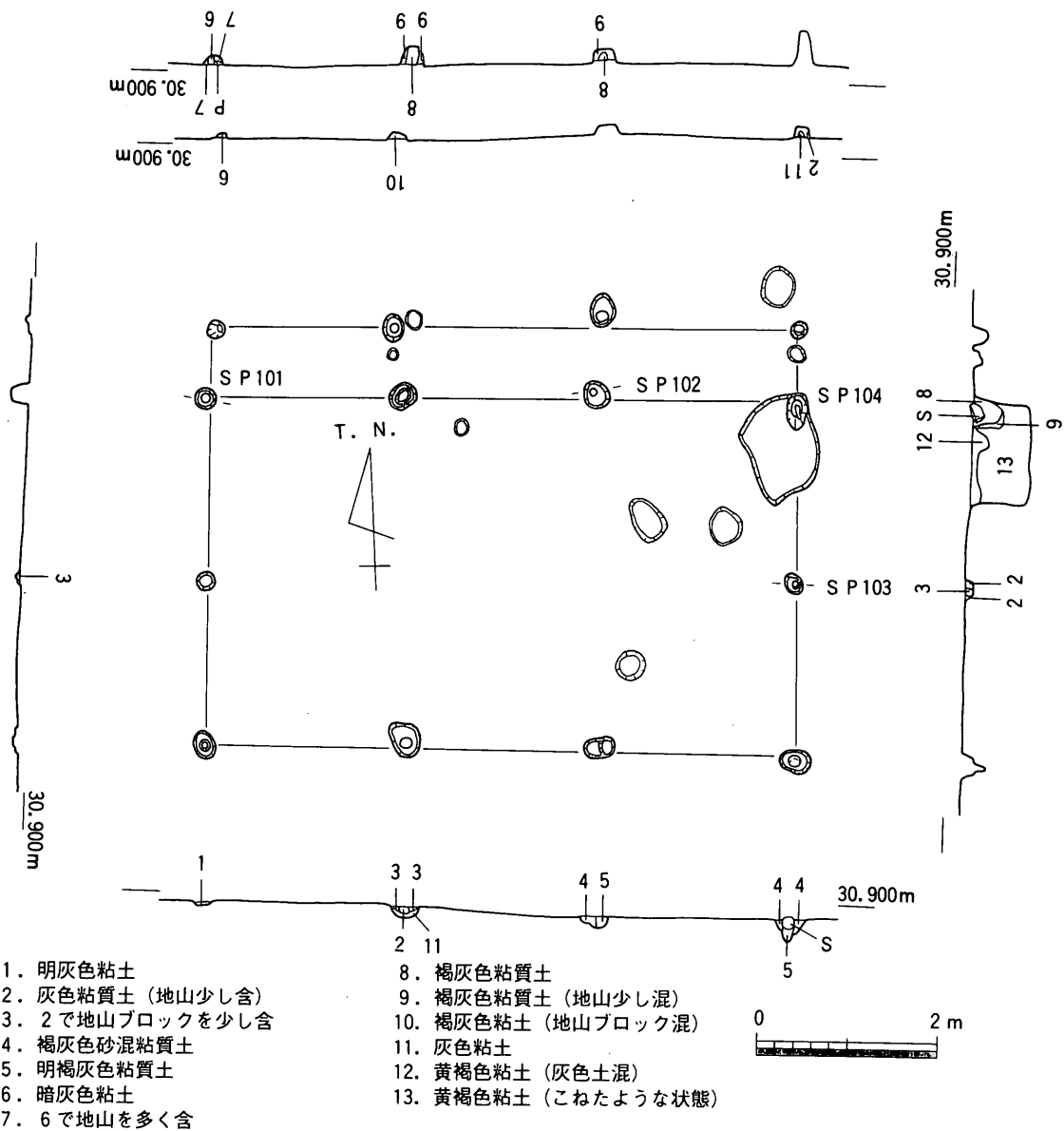
239～249は表土剥ぎ・壁切り・側溝掘りの際に出土した土器である。各層の包含層の遺物が含まれていると考えられる。239～242は土師器。239・240は椀。241は土釜。口縁端部付近に短めの鰐が付き、口縁端部内面はわずかに肥厚する。242は鉢。243～244は須恵器杯。243は退化した高台が付く。245・246は黒色土器椀。いずれも内側だけいぶすもので、内面にヘラミガキを残す。高台径はやや大きめ。247は緑釉陶器皿。高台は削り出し、内面に横方向のヘラミガキを入れる。口縁部内面に緩い沈線が回る。焼成は須恵質である。京都産。248は弥生土器壺の底部。底部はしっかりとした平底で器壁は厚い。249は轆の羽口。1/3ほど残存する。表面はガラス状に熔融している。

250～252は主にI区北部で堆積がみられた暗褐色灰色砂混粘土層である。暗褐色粘質土の下部で10cm程度堆積していた。

250は須恵器皿。焼成は非常に悪く白っぽい。251は弥生土器高坏。褐色で、胎土中に角閃石を含む。弥生時代後期。252は轆の羽口。先端付近は被熱のためガラス状に熔融している。

(2) 鎌倉・室町時代

当該期の遺構としてはII区で掘立柱建物を2棟検出した。そのうちの1棟は北側に庇を持ち、構成する柱穴のうち2穴には土師器小皿の完形が埋められていた。溝についてはIII区とI区で検出したものを当該期に入れた。出土遺物は古代後期のものしか出土していないが、これらの溝が古代後期の土器をか



第102図 SB107平・断面図（1/80）

なり含む遺物包含層を切り込んでいること、遺構の埋土が古代のものより当該期のものに近いことからこの時期のものとした。

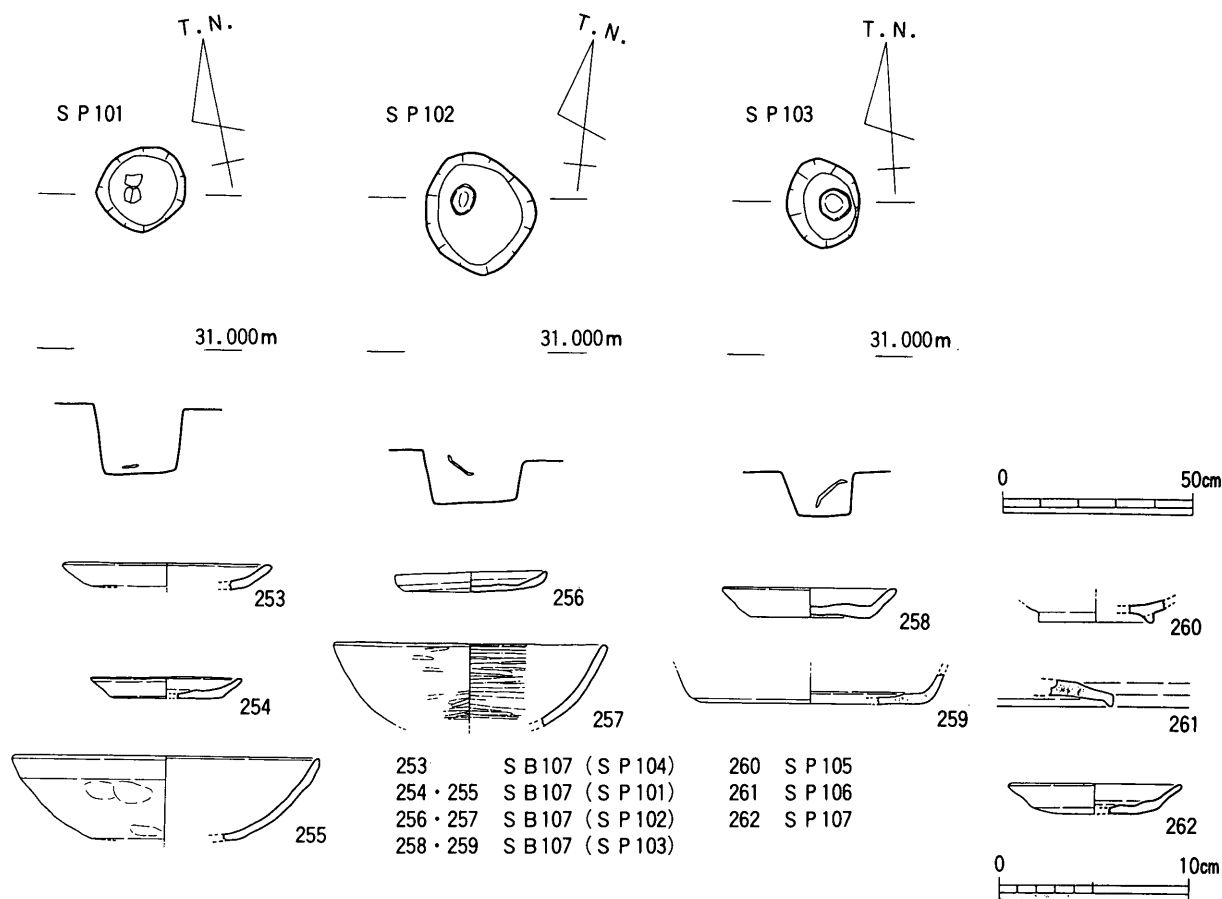
SB107（第102図、図版58・59・60(1)）

Ⅱ区中央部やや北寄りで検出した掘立柱建物である。桁行3間（6.5m）、梁間2間（3.9m）、東西棟で北側に庇を付ける。方位はN87°Wで、周囲の条里型地割の方向とほぼ同じ、身舎部分の面積は25.35㎡である。柱間は桁行が西から2.25m、2.15m、2.1m、梁間が1.9～2m、身舎部分と庇部分の間隔は0.8mである。柱間はほぼ一定であるが、柱通りはやや悪い。柱穴は円形、不整円形、楕円形などで、直径20～30cm、深さ10～30cm程度である。掘立柱建物を構成するピットのうちSP101、SP103からは土師器小皿が完形で、SP102からは土師器杯が割れた状態で出土した。

253は身舎部分の北東隅のピット（SP104）から出土した土師器小皿である。小破片で内外面に重ね焼きの痕跡を残す。

SP101（SB107）（第102・103図、図版60(1)・71(2)）

SB107の身舎部分の北西隅のピットである。直径20cm、深さ17cmの円形で、埋土は暗灰色粘土で地



第103図 S P101・102・103平・断面図 (1/20), II区ピット出土遺物 (1/4)

山ブロックが混じる。断面では直径8cmの柱痕跡が確認できた。ピットの埋土からはおおむね柱痕跡部分を避けるようにして、上面から底部にかけて土師器杯の破片がまんべんなく混じっており、底付近から底部が割れた状態で出土した。

254は土師器小皿。255は土師器杯。わずかに底部が残存するが、高台は付かない。体部はやや丸みを持って立ち上がり、体部は指押さえて成形する。

S P102 (S B107) (第102・103図, 図版59・71(2))

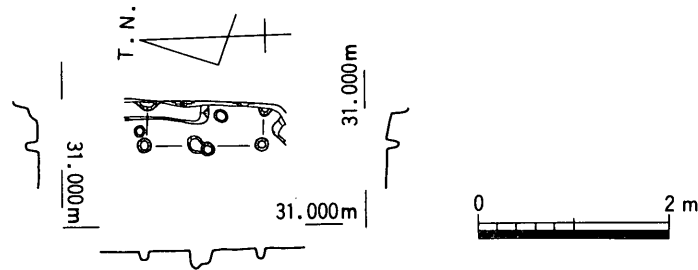
S B107の北側桁行列東から2穴目のピットである。直径30cm, 深さ11cmの円形で、埋土は褐灰色粘質土で地山ブロックが少し混じる。断面では直径8cmの柱痕跡が確認できた。ピットの上面では、柱痕跡に沿うように、土師器小皿が内面を柱の側へ向けて立たせた状態で完形で出土した。柱を埋める際に最後に土師器小皿を柱とともに立たせたのではないかと推測される。

256は土師器小皿。法量は254とほぼ同じだが、254が橙褐色であったのに対して灰白色を呈し、254に比べて体部はかなり内傾し、内面では体部と底部の境は明瞭ではない。257は黒色土器碗。両面に炭素を吸着させ、内外面に横方向のヘラミガキを施す。

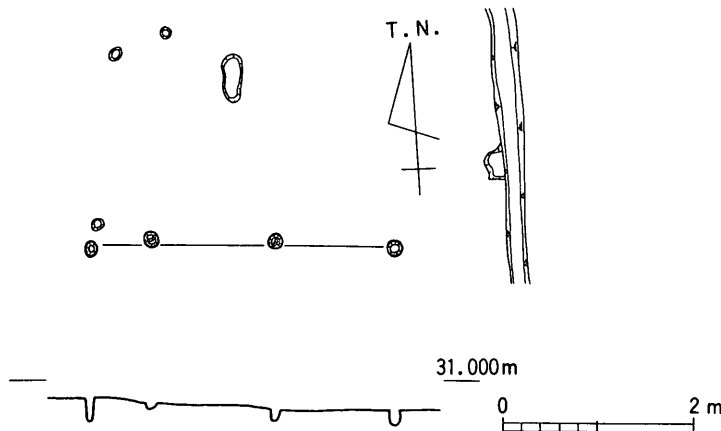
S P103 (S B107) (第102・103図, 図版58(2)・71(2))

S B107の東側の梁間列の中央のピットである。直径20cm, 深さ12cmの円形で、埋土は灰色粘質土で地山ブロックが多く混じる。断面では直径8cmの柱痕跡が確認できた。ピットの下位から上位にかけて土師器小皿が、底部を上に向けた状態で斜めになって完形で出土した。この場合も柱の東側に、柱を埋める際にも埋めたと考えられる。

258は土師器小皿。法量はやや大きめで器壁は厚い。3mm程度の大きい砂粒を多く含み歪みがある。



第104図 S B 108平・断面図 (1/80)



第105図 S A 101平・断面図 (1/80)

259は須恵器杯。周囲からの紛れ込みか。

S B 108 (第104図)

Ⅱ区中央付近東端で検出した。東は調査区外へ延びると考えられ、全容は不明である。桁行不明(0.7m以上)、梁間2間(2m)の東西棟と考えられる。方位はN87.5°Wで、周囲の条里型地割とはほぼ同じである。柱間はS B 107に比べて狭く、桁行が0.6~0.7m、梁間が0.9~1.1mである。柱穴は円形でおおむね直径20cm、深さ12~19cmである。埋土は褐灰色粘土である。柱間が短いので居住用ではなく倉庫か堂のようなものか。

S A 101 (第105図)

Ⅱ区やや北寄り、S B 107の4.6m北側で3間分検出した。方位はN86°Wで、S B 107と柱筋が揃うわけではないが、ほぼ並行する。柱間は西から1m, 2m, 2mである。柱穴は円形で直径は19~22cm、深さは西側柱穴が25cm、東側柱穴が16cmと両端が深く、中央2穴は5cm程度で浅い。埋土は暗褐灰色粘土である。S B 107の目隠し塀のようなものと考えられる。

S P 105~107 (第103図)

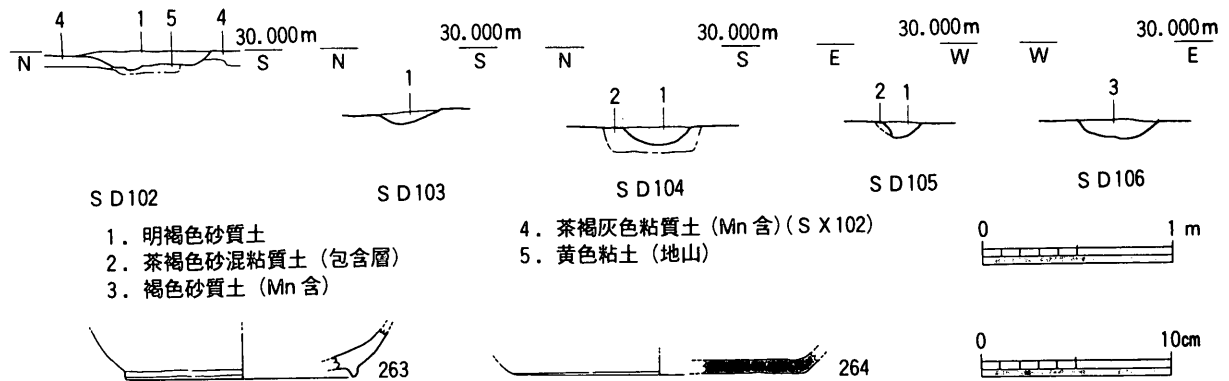
S P 105は直径22cm、深さ17cmの円形で、埋土は暗褐灰色粘質土である。S A 101の北側に近接している。260はS P 105から出土した土師器碗底部である。

S P 106はS A 101とS B 107の間に位置する。直径30cm、深さ13cmの円形で埋土は暗褐灰色粘質土である。261はS P 106から出土した須恵器蓋である。

S P 107はS B 108の南側で検出した。直径20cm、深さ10cm、埋土は褐灰色粘質土である。262はS P 107から出土した土師器小皿。回転ナデによる凹凸が顕著である。

S D 102 (第106図)

Ⅲ区南よりで検出した東西方向の溝である。方位はおおむね周囲の条里型地割と同じく、幅65cm、深



第106図 SD102～106断面図（1/40），SD102出土遺物（1/4）

さ10cmで埋土は明褐色砂質土である。S X 102を切り込んでいる。埋土中からは8～9世紀と考えられる土師器高台付杯や須恵器杯が出土しているがS X 102からの紛れ込みである可能性が高い。この埋土は他のⅢ区の溝やⅠ区の溝群と類似する。遺物は古代後半のものが少量出土したが、埋土から中世のものと考えられる。

263は土師器高台付杯。体部は厚く、高台は退化する。264は須恵器杯底部。内外面に火襷を残す。歪みがある。

SD103（第106図）

Ⅲ区やや北寄りで見出した東西方向の溝である。SD102の18m北側に当たる。方位は周囲の条里型地割と同じく、幅31cm、深さ6cmで埋土は明褐色砂質土である。埋土中からは須恵器杯や土師器小片が出土している。時期はSD102等と同じであると考えられる。

SD104（第106図）

Ⅲ区北端付近で見出した東西方向の溝である。SD103の8.6m北側に当たる。方位はおおむね周囲の条里型地割と同じである。規模は幅34cm、深さ10cmで埋土は明褐色砂質土である。Ⅲ区北部からⅣ区にかけて広がる茶褐色粘質土包含層を切り込んでいる。溝からの出土遺物はなかった。時期はSD102等と同じと考えられる。

SD105（第106図）

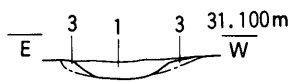
Ⅲ区SD103とSD104の間に位置する南北方向の溝である。SD103・104とはほぼ直交する。検出長3.7m、幅20cm、深さ10cmで埋土は明褐色砂質土である。Ⅲ区北部からⅣ区にかけて広がる茶褐色粘質土包含層を切り込んでいる。溝からは須恵器杯・蓋・甕などの小破片が出土した。時期はSD102等と同じと考えられる。

SD106（第106図）

SD103とSD104の間に位置する小規模な溝である。L字状に屈曲し、SD105に切られる。検出長は南北部分が3.5m、北端で屈曲して東西部分が1.6m、幅42cm、深さ10cmで埋土は褐色砂質土である。Ⅲ区北部からⅣ区にかけて広がる茶褐色粘質土包含層を切り込んでいる。溝からは出土遺物はなかった。時期は遺構の切り合い関係からSD105より先行するが、溝の埋土は他の溝と類似し、時期もあまり変わらないと考えられる。

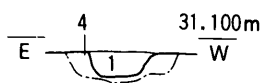
SD107（第107図、図版60(2)）

Ⅰ区西部で見出した溝である。南北方向で方位はN13°Wで、周囲の条里型地割より若干西へ振る。幅65cm、深さ8cm、断面形状は浅い皿形で、埋土は明褐色粘土である。9～11世紀前半の遺物を含む暗



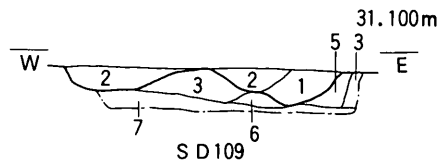
S D 107

1. 明褐色粘土 (Fe混)
2. 明褐色砂質土 (Fe混)
3. 暗褐色砂混粘土 (包含層)
4. 黒灰色砂混粘土 (包含層)

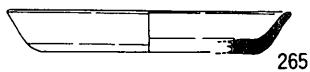


S D 108

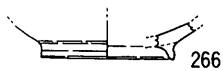
5. 明褐色粘土 (Fe多)
6. 赤茶褐色砂混粘土 (包含層)
7. 暗灰色砂混粘土 (Fe含)(包含層)



S D 109



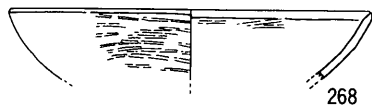
265



266

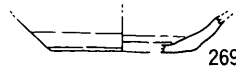


267

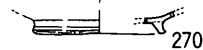


268

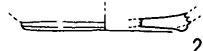
265~268 S D 107
269~272 S D 109



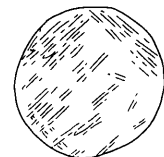
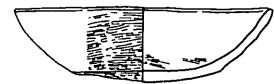
269



270



271



272



第107図 S D 107~109断面図 (1/40), 出土遺物 (1/4)

褐色砂混粘土層から切り込んでいる。埋土中からは土師器杯・蓋・碗, 須恵器蓋, 黒色土器碗が出土したが, 包含層からの紛れ込みの可能性が高い。途中でS D 109と交差するが, 遺構の切り合い関係は認められなかった。埋土も類似しており, 同時併存だった可能性が高い。

265は須恵器皿。やや開き気味の体部で, 厚手である。焼成は不良。266は土師器碗。267は須恵器蓋のつまみ部分。268は黒色土器碗。内外面に炭素を吸着させ, 横方向のヘラミガキを施す。

S D 108 (第107図, 図版61(2))

I区西部で検出した溝である。南北方向で方位はN11°Wで, 周囲の条里型地割より若干西へ振る。おおむねS D 107に平行し, S D 107の0.5m東側に位置する。幅36cm, 深さ13cmで, 断面形状は逆台形, 埋土は明褐色粘土である。8~11世紀の遺物を含む暗褐色砂混粘土層から切り込んでいる。埋土中から土師器, 須恵器の小破片が出土しているが, 包含層からの紛れ込みの可能性が高い。

S D 109 (第107図, 図版61(1)・71(3))

I区北部で検出した溝である。東西方向で方位はN82°Eで, S D 107・108にほぼ直交する。幅90cm, 深さ20cm, 断面形状は鉢状で, 埋土は上層が明褐色砂質土, 下層が明褐色粘土である。他の溝と同じく9~11世紀前半の遺物を含む暗褐色粘土層から切り込んでいる。埋土中からは土師器杯・碗・甕, 須恵器甕・杯等が出土しているが, 包含層からの紛れ込みの可能性が高い。

269は土師器杯。270~272は黒色土器。270・271は碗。内面のみ炭素を吸着させている。270は高台が細く高く, 271は高台は低い。272は高台痕跡はみられず, 内外面に炭素を吸着させ, 内外面にヘラミガキを入れる。内面のヘラミガキは磨滅のため充分観察できなかったが, 体部外面では4または5分割の

ヘラミガキが、底部でも4分割ヘラミガキが施される。

(3) 近世

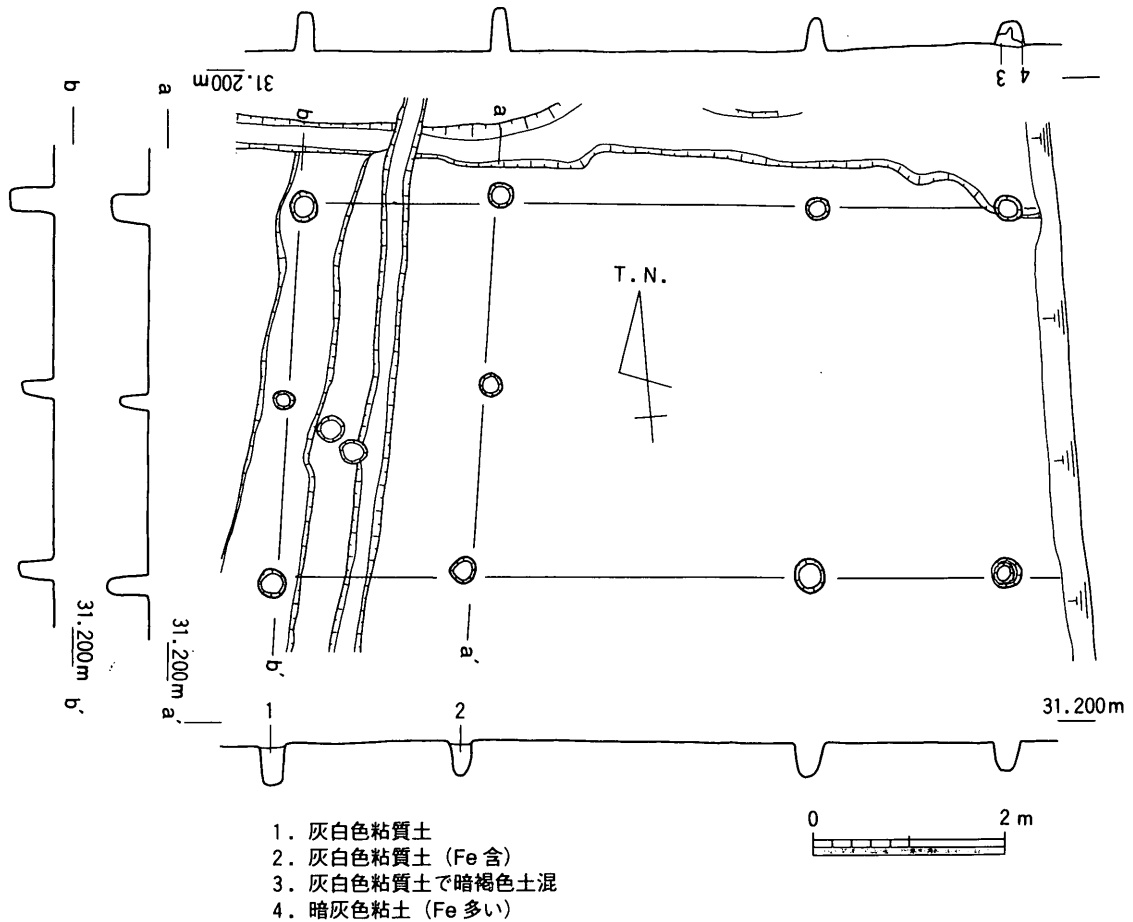
S B 109 (第108図)

I区北部で検出した掘立柱建物である。ピットはS D 107の上面で検出した。復元した掘立柱建物は柱穴の間隔が不規則であるが、柱通りがよいのでこのように復元した。西側へ庇又は間仕切りを持つ東西棟で桁行2間以上(5.7m以上),梁間は2間(4m),主軸方向はN85°W,周囲の条里型地割の方向と先行するI区の溝群の方位のおおよそ中間である。面積は30.8㎡以上,柱間は桁行方向は西から3.2m,2m,梁間方向は2m,庇の出は2mである。柱穴はおおむね円形で直径25cm前後,深さ30~40cm程度,埋土はおおむね灰白色粘質土である。柱穴からの出土遺物はなかったが,遺構の切り合い関係や埋土から,近世以降の農作業用の仮小屋のようなものと思われる。

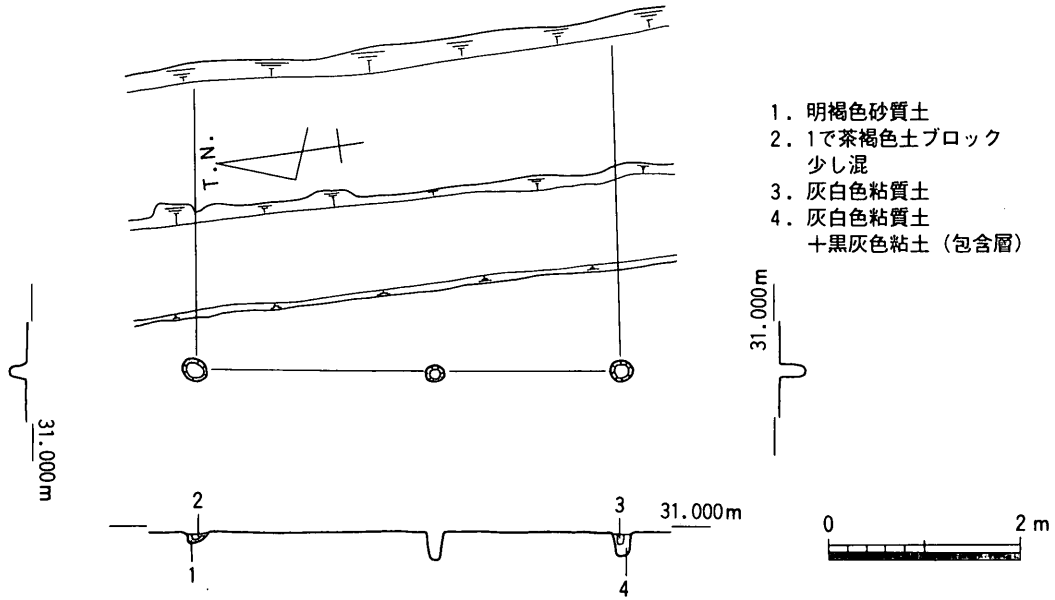
S B 110 (第109図)

I区南部で検出した。桁行が東側へ延びる掘立柱建物としたが柵列の可能性もある。桁行不明(3.5m以上),梁間2間(4.5m)で主軸方向はN84°Wである。この掘立柱建物の梁間列がS B 109の桁行の中央の柱列と揃う。柱間は桁行が3.5m以上,梁間が北から2.5m,2mである。柱穴は円形で直径17cm程度,深さは20cm程度,埋土はおおむね灰白色粘質土である。柱穴からの出土遺物はなかったが,遺構の切り合い関係や埋土から,近世以降の農作業用の仮小屋のようなものと思われる。

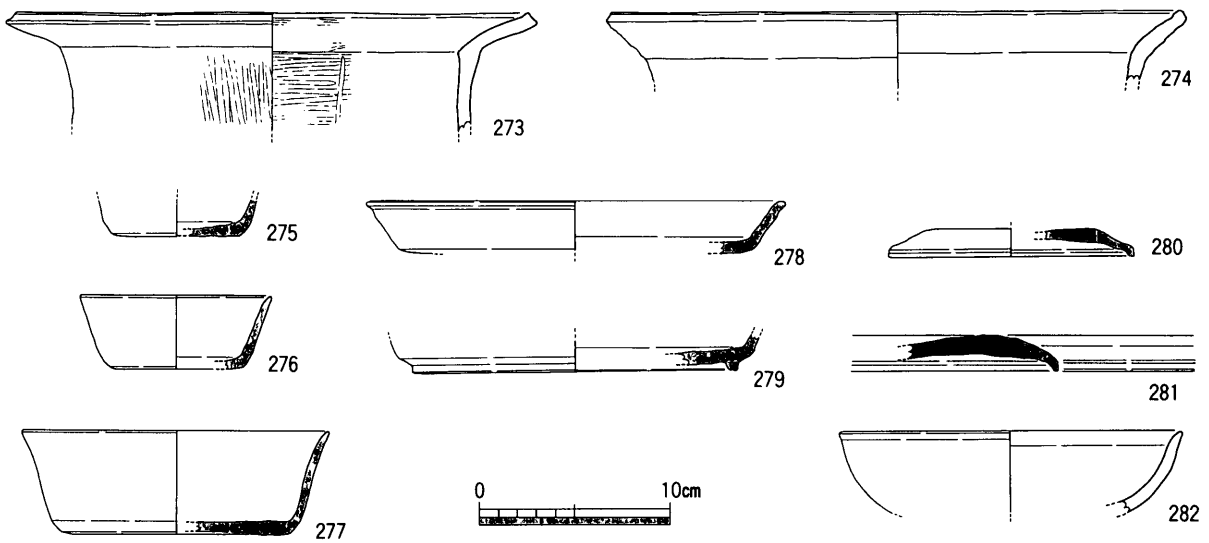
(4) その他の遺物 (第110・111図, 図版71(4)・(5))



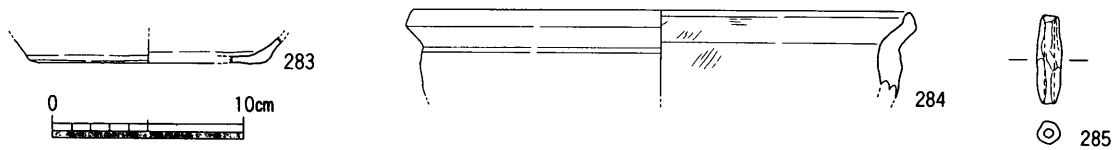
第108図 S B 109平・断面図 (1/80)



第109図 S B110平・断面図 (1/80)



第110図 Ⅲ区その他出土遺物 (1/4)



第111図 Ⅱ区その他出土遺物 (1/4)

273～282はⅢ区の表土剥ぎや遺構精査の際に出土した遺物である。278～281はS X 101を検出した付近の遺構面精査で出土したもので、S X 101の資料である可能性もある。277, 282は、Ⅳ区に近い場所で暗褐色粘質土包含層が薄く堆積していた場所で出土し、他は表土剥ぎ、壁切り、遺構面精査で出土した遺物である。

273・274は土師器甕。いずれも口縁部から体部への移行が緩やかで、長胴甕と考えられる。273は口縁端部が角張るタイプ、274は口縁端部を上方へ引き上げる。275～281は須恵器。275～277は杯。275は底部外面にヘラ削りを施す。278は須恵器皿。口縁端部に面を持ち、口縁部外面に凹線が1条巡る。279は高台部。280・281は須恵器蓋。280はよく焼締まり、外面には自然釉がかかり口縁端部内面には重ね焼きの痕跡が残る。281は大型の蓋。焼成は悪く、内面は一部橙褐色を呈している。282は黒色土器椀。口縁部先端を外反させ、薄く仕上げる。内面のみいぶす。

283～285はⅡ区の表土剥ぎ、遺構精査で出土した遺物である。283は土師器杯底部。284は土師器甕。内面に粗いハケ目を入れる。285は管状土錘。

(註)

- (1) 「県道関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成6年度」1995.3 香川県教育委員会
 (財)香川県埋蔵文化財調査センター
- (2) 「津寺遺跡4 山陽自動車道建設に伴う発掘調査 14」1997
 日本道路公団中国支社岡山工事事務所 岡山県教育委員会

第8章 まとめ

第1節 遺構の変遷

(1) 奈良時代以前

遺構は検出しなかったが、Ⅰ区及びⅣ区の包含層の下部から弥生土器が出土している。

Ⅰ区は、暗褐色粘質土層の下部から弥生時代中期の土器が数点出土している。この包含層の主体は9世紀～11世紀前半であるが、周辺に当該期の遺跡があった可能性がある。

Ⅳ区では北端付近の、包含層の堆積が途切れるあたりで堆積する砂層と粘土層の堆積層の付近で弥生時代中期のローリングを受けた土器が出土している。これも遺構には伴わないが、近辺に当該期の遺構があったと考えられる。

(2) 8世紀

明確な遺構は存在しないが、S X 101の不明瞭な落ちが形成される。S X 101は輪郭は不明瞭で、断面は浅い皿状の落ちを形成しており、断面では下部に焼土や炭の堆積層がある。不要物を廃棄した際に、燃やしたものであろう。この他に明確な遺構はないが、S X 101からは8世紀第3四半期頃の土器群がコンテナ3箱分出土している。ここからは回転台土師器や産地不明の稜椀などの金属器模倣の土器が出土しており、近辺に8世紀第3四半期の官衙的要素の強い遺構群が存在した可能性が高い。

森広遺跡群のなかで昭和53年度に石田高校旧実習用農園地を発掘調査した際には、8世紀前半の溝と時

期不明だが古代と考えられる掘立柱建物群を、また平成6年度に寒川町教育委員会が発掘調査した際には7世紀前半の掘立柱建物群と8世紀代の掘立柱建物群をそれぞれ検出しており、それらとの関連が注目される。

(3) 9～10世紀

この時期の遺構としては、Ⅲ・Ⅳ区で検出した掘立柱建物群（S B101～106）とS K101が挙げられる。

Ⅳ区の掘立柱建物については、切り込んでいる包含層に含まれる遺物は大半は8世紀代であるが、なかに9世紀後半の緑釉陶器、糸切り底を持つ黒色土器A碗などがある。Ⅳ区掘立柱建物からは8世紀と考えられる遺物が出土しているが、包含層の時期からこの掘立柱建物の時期が8世紀代のS X101に伴わないことは確実であり、9世紀後半以降と考えられる。佐藤竜馬氏は県下で古代の掘立柱建物群を検出した遺跡を整理し、検討を行った結果、3つの画期を指摘している⁴⁾。そのうち第3の画期を9世紀後半～10世紀前半とし、尻付で「東柱・通し柱構造」の大型主屋を中心とした不規則な配置の建物群が出現する時期とした。建物規模や配置などの点で、問題が残るかもしれないが、S B104～106はおおむねこの時期にあたるのではないかと考えられる。ただし、S B101～103については柱穴からの出土遺物がほとんどなく、時期が動く可能性もある。

なお、Ⅰ区及びⅣ区の包含層中からは9世紀代の土器が出土しており、当遺跡では確認できなかったものの、S B101～106に先行する集落が近辺で営まれた可能性があるだろう。

S K101は10世紀前半の土師器がまとまって出土した平面形が長方形と考えられる土坑である。この土坑は下半部に炭や焼土の堆積層が認められるが、土坑の壁面や底部に焼けた痕跡はない。

掘立柱建物群は10世紀前半頃で終結し、この後は小規模な掘立柱建物しか出現しなくなる。

(4) 中世

Ⅱ区の掘立柱建物を中心に展開する。Ⅱ区に掘立柱建物が2棟、柵列が1列作られる。うち1棟は北側に底を持つ構造で、柱穴のうち2穴から土師器小皿の完形が出土している。この小皿の時期から12世紀後半～13世紀前半と考えられる。その他、Ⅰ区の溝群とⅢ区の溝群を埋土から中世のものとしたが、はっきりとした所属時期は不明である。

(5) 近世

Ⅰ区に小規模な掘立柱建物が2棟作られる。

(1) 佐藤竜馬「讃岐における官衙関連遺跡と集落動向」『律令国家における地方官衙遺構研究の現状と課題－北海道を中心に－』1998 古代学協会四国支部第12回大会発表資料

第2節 S X101出土土器について（第112・113図、表3）

S X101からはコンテナ3箱分の多量の土師器、須恵器が出土した。遺構が調査区外へ延びていたため全体を確認することはできなかったため、出土した土器が遺構内の土器の傾向を反映していない可能性もあるが、出土した範囲での土器群の傾向についてまとめてみる。

・器種構成

出土したのは土師器・須恵器で、土師器は15以外はすべて回転台土師器であった。いずれも鉢がわずかに含まれる他はすべて供膳形態である。法量はいくらか分化しているようではあるが、個体数が少ないものもあること、歪みがあるものも多く、破片が小さいと口径が正確に計れないことから、どの程度法量分化を遂げているかは明らかにはしにくいだが、わかる範囲で検討してみる。

《土師器》 () 内は径高指数

杯 (3個体)

口径14.5cm (23), と口径21.5cm (16~18) 前後に分かれる。器高はあまり変わらず、口径のみ大きくなり、浅い器形になる。全般に磨滅が著しく調整はわかりにくい、おおむね回転ナデで仕上げ、底部にヘラ切り痕は残さない。

高台付杯 (3個体)

口径14.8cm (18), 25.4cm (13), 36.6cm (14) に分かれる。調整は杯と同じである。

高台付皿 (4個体)

口径が24cm前後と28.5cm前後のものに分かれる。径高指数はいずれも10~11。しかし口径が24cm前後のものうち17の器形は、他が体部が斜め上方に立ち上がっていくのに対し、体部が上方にほぼまっすぐ立ち上がる。調整は他の土師器とおおむね同じであるが、18は底部にヘラ削りが観察できる。

蓋 (4個体)

口径15.9cm, 24.6cm, 31.6cmのものがある。観察できるものはいずれも頂部をヘラ削りし、つまみ部分を除いた径高指数はいずれも10~11程度で、平らな頂部から口縁部へなだらかに傾斜する。この蓋はそれぞれ高台付杯の小型、高台付杯の中型または高台付皿の小型、高台付杯の大型のものに合うと考えられる。

高坏 (10個体)

口径29.5~30.5cm, 脚部長12.4cmと口径20.5~22.0cm, 脚部長7.4cmのものに分かれる。形態的には杯部は浅く、口縁部付近を緩くS字状に屈曲させ、口縁端部を上部へ屈曲させる。脚部は円筒形で、調整はヘラミガキはみられず回転ナデで仕上げる。

鉢 (5個体)

口縁端部を丸くし、頸部の屈曲、肩部の張りともやや緩めのもものが3個体、口縁端部にやや面を持ち、頸部の屈曲がややきついものが1個体ある。前者は口径26.5~26.8cmでまとも、高台を持たない。後者は口径が30.0cmで高台の有無は不明。

《須恵器》

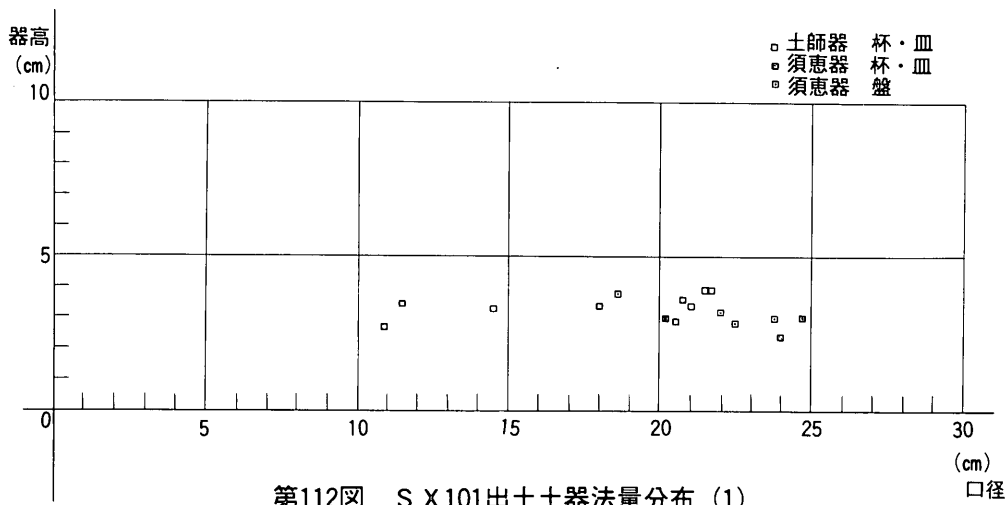
杯, 皿 (16個体)

おおまかには口径が10.9~11.5cm (26~30), 口径が18.0~23.8 (12~20) cmに分かれる。前者はいずれも口縁端部は丸く仕上げ、底部はヘラ切り痕を完全にナデ消す。後者は口径、径高指数とも漸次的に大きくなり、明確なピークはでない。口縁部形態は丸く収めるものと四角くするもの(盤)の2形態がある。口縁部形態別に分けると、明確ではないが、口縁端部が丸い-口径18.0cm (19), 口径20.2~20.8cm (14~17), 24.0~24.7cm (10~12), 口縁端部が四角い-18.6cm (20), 22.0~23.8cm (12~15) に分けられよう。口径が大きく径高指数の小さい1群は皿に分類されようが、杯から皿への移行は緩やかである。

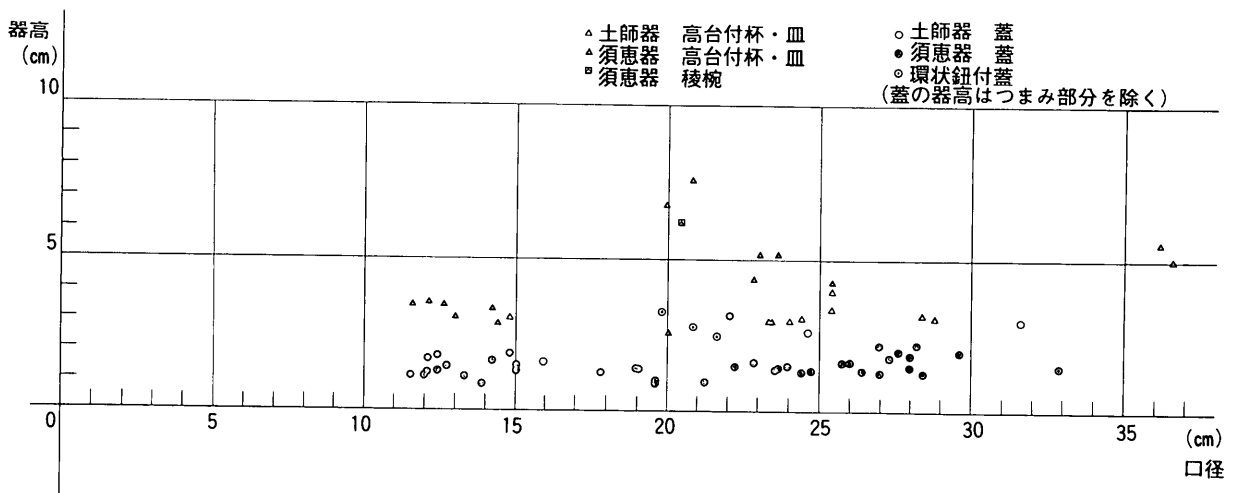
高台付杯 (17個体)

器形はいずれも口縁端部を丸く仕上げ、ほとんどは低い高台を体部と底部の境付近に貼り付ける。高台は接合するための余分な粘土はほとんどなく、剥がれやすいようである。調整は回転ナデで仕上げ、底部はヘラ切り痕をほとんど残さない。

大きくは口径11.6~14.4cm (20~30) の小型のもの、口径19.9~20.8cm (34~37) の大型で深いもの、口径22.8~25.4cm (17~23) の口径が大きく、やや浅めのものがある。小型のものは更に口径11.6~12.6cm (28~30) のやや深めの器形と13.0~14.4cm (20~24) の浅めの器形に分かれる。大型のものは22.8



第112図 S X 101出土土器法量分布 (1)



第113図 S X 101出土土器法量分布 (2)

～23.6cm (19～23) と25.4cm (17) にわかれる。

またこの中に金属器の模倣と考えられる稜碗が2点出土している。

高台付皿 (4 個体)

径高指数はいずれも13,口径は20.0～25.8cmであるが,形態はそれぞれ異なる。口径20.0cmのものは高台付杯を浅くした器形で,口縁端部は丸く仕上げ,短い高台を体部と底部の境付近に付ける。口径23.3cmのものは口縁端部を四角く仕上げ,そこに緩い凹線を巡らせる。底部と体部の境は鋭い稜を持ち,体部下半はヘラ削りする。口径25.4cmのものは底部をきれいに回転ヘラ削りする。底部と体部の境は緩く屈曲させ,高い高台はこの屈曲部よりかなり内側に付ける。

蓋 (46個体)

蓋は大半は頂部は平たく,口径にあまり関わりなく口縁から2.5cm付近で緩く屈曲する器形である。つまみを除いた器高は金属器模倣の蓋を除けば口径に関わりなく大半は1～2cmの間で収まる。口径の大きい一群を中心に,平たく,歪みが大きく,外面中央に直径7～8.5cm程度の重ね焼きの痕跡の残るものがある。また,金属器模倣と考え得られる環状つまみを持つ蓋や口縁端部に退化した返りを持つものもある。法量はおおむね須恵器高台付杯,高台付皿に合い,口径11.5～12.8cm,口径13.3～15.0cmの小型の高台付杯に合うもの,口径19.0～19.5cmの大型の高台付杯に合うもの,口径18.2～19.6cmの浅めの高台付杯に合うもの,にわけられよう。しかし蓋には21cm前後～23.5cmに集中部がみられるのに対し,それに組むと考えられる高台付杯,高台付皿はない。また,個体数自体も杯,皿に比べて多い。

蓋については金属器模倣と考えられるものが4点出土した。このうち126は稜碗とよく似た胎土で,つまみ部分は残らないが,口縁端部にわずかに返りを持つ。残る3点は外面にゴマ状の降灰がみられ,口縁端部には返りが退化したと考えられるような稜を持ち,環状のつまみを持つ。

鉢 (2 個体)

口縁部と体部の境が屈曲するものと鉢状のものの器形のことなるものが2個体出土した。口縁部と体部の境が屈曲するものは,土師器の鉢と似ているようだが,土師器の1のタイプと比べると口径が大きく,口縁部も四角く面を持つ。2のタイプと比べると,口径は近似し,口縁端部に面を持つことも似ているが,口縁部の器壁は須恵器の方がかなり厚く,肩の張りも弱く,同じ器形を強く意識したわけではないと考えられる。

・須恵器と土師器の割合について

須恵器と土師器の割合について概報では口縁部を計測することでそれぞれの割合について算出していた。しかし今回改めて遺物の接合を時間をかけて行ったところ,新たに破片が接合したものについて,多くが口径が違ったことが判明し,当初考えていたより遺物の歪みが大きかったことが明らかになった。したがって,小破片については正確に口径を出すことは難しく,今回は破片から個体数を見積もってそれぞれの割合を算出した。結果は表の通りである。

器 種	土 師 器										須 恵 器									合計	
	杯	高台付杯	皿	高台付皿	皿 or 高台付皿	蓋	高杯	鉢	甕	小計	杯	高台付杯	皿	杯 or 皿	高台付皿	稜碗	蓋	鉢	甕		小計
個 体 数	4	2	1	7	3	5	8	5	1	36	8	17	7	9	4	2	49	2	1	99	135
土師器・須恵器 中の割合(%)	11.11	5.56	2.78	19.44	8.33	13.89	22.22	13.89	2.78	100.00	8.08	17.17	7.07	9.09	4.04	2.02	49.49	2.02	1.01	100.00	
全体の中の 割合(%)	2.96	1.48	0.74	5.19	2.22	3.70	5.93	3.70	0.74	26.67	5.93	12.59	5.19	6.67	2.96	1.48	36.30	1.48	0.74	73.33	100.00

第3表 S X 101 出土土器 組成表

・回転台土師器について

S X 101の回転台土師器は調整や製作技法は須恵器と同一のものであり、杯などの供膳形態については明らかに須恵器と同一の器形を意識していると考えられる。法量についても一部須恵器と合致しない個体もあるが、おおむね須恵器の法量分布に乗ってくる。ただし、土師器高台付杯や蓋の大型品については須恵器の法量とは異なるものがある。また、須恵器にはない高坏が2規格ある。口縁部を外側へ屈曲させるタイプの鉢については、土師器と須恵器では細部で異なっているものの、土師器でも類似した器形で2形態あり、必ずしも土師器と須恵器で形態を異にしているとはいえないであろう。

これらのことからS X 101の回転台土師器は森隆氏が「土師器の生産において、在来の須恵器工人が陶土や燃焼効率の改善と、生産面での合理化、省力化を図り、意図的に低火度酸化炭焼成に製品を仕上げる生産形態」と定義付けた回転台土師器第2群に相当すると考えられる⁽¹⁾。そのことは同一個体であっても部分によって土師質焼成であったり須恵質焼成であったりするものが数点あったことからもいえるだろう。県内での古代における供膳具の土師器と須恵器の比率について、8世紀後半には土師器の占有比率に対し須恵器の占有比率が減少すること、そしてそれまでの土師器が「律令的土器様式」の範疇にはいるのに対して回転台土師器が増加する傾向があることが指摘されている⁽²⁾。また、県内では8世紀中葉から9世紀中葉までは資料上の制約もあり実態がよくわからなかったものの、回転台土師器の成立の契機が国分寺造営による国衙財政の圧迫であるとの指摘があることから⁽³⁾、香川県における回転台土師器の成立も8世紀中葉～後半にかけてであろうとの指摘があった⁽⁴⁾。今回の調査で8世紀第3四半期の土器が大量に出土し、土師器は回転台土師器で大部分が占められていたことはそのことを裏付けたといえよう。

ただし、高坏や大形の蓋・高台付杯など須恵器にはみられない器形もあり、何らかの区別があった可能性は充分あろう。また、本村・横内遺跡に隣接する森広遺跡では8世紀前半と考えられる溝の中から須恵器、土師器とともに回転台土師器や東北系と考えられる黒色土器、栃木県北部系と考えられる土師器盤状皿が出土するなど特異な状況を見せている⁽⁴⁾。地域的な特殊性も考慮に入れる必要があるのかもしれない。

(1) 森隆「機内における古代後半の土器様相」『シンポジウム「土器からみた中世社会の成立」』

シンポジウム実行委員会 1990

(2) 片桐孝浩「中小河川大東川改修工事（津ノ郷橋～弘光橋間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 川津元結木遺跡」香川県教育委員会（財）香川県埋蔵文化財調査センター

(3) 巽淳一郎「古代窯業生産の展開－西日本を中心として－」『奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集 文化財論叢』同朋舎 1982

(4) 片桐孝浩「讃岐出土の東北系土器について－特に黒色土器について－」『研究紀要3』（財）香川県埋蔵文化財調査センター

第4表 本村・横内遺跡 土器観察表

挿入No.	図版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色	調	胎土	残存量	備考
1	63-(1)	SP100	土杯	15.5cm		11.9cm	(外)磨減 (内)磨減	普通	(外)10YR4/1 褐灰 (内)2.5Y4/1 黄灰		0.1~4mm	2/8	
2		SB104	土甕	27.6cm			(外)横ナデ、ハケ目 (内)ハケ目	普通	(外)7.5YR4/3 褐 (内)7.5YR3/3 暗褐		0.5~3mm	破片	
3		SB105	土杯	14.0cm			(外)磨減 (内)磨減	普通	(外)2.5Y3/1 黒褐 (内)10YR8/3 残黄褐、2.5YR5/1 黄灰		0.1~4mm	破片	
4		SB105	須杯	28.0cm			(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)5Y6/1 灰 (内)5Y6/1 灰		0.1~1mm	破片	
5		SB106	土蓋	14.3cm			(外)回転ナデ、ヘラ切り (内)回転ナデ	不良	(外)2.5Y8/2 灰白 (内)2.5Y8/2 灰白		0.1~1mm 少量	1/8	
6		SB106	須杯	11.8cm	4.2cm	7.4cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り (内)回転ナデ	やや不良	(外)N6/0 灰 (内)N6/0 灰		0.1~1mm	2/8	内外面火ダスキ
7		SB106	須杯	15.0cm	3.2cm	11.2cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	(外)7.5Y6/1 灰 (内)7.5Y6/1 灰		0.1~1mm	破片	内外面火ダスキ
8		SB106	須高台付杯	14.0cm			(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)10Y6/1 灰 (内)10Y6/1 灰		0.1~0.3mm	破片	
9	63-(2)	SX101	土杯	14.5cm	3.3cm	10.8cm	(外)磨減、回転ナデ (内)磨減、回転ナデ	普通	(外)10YR5/4にぶい 黄褐 (内)10YR5/4にぶい 黄褐		0.1~1mm 少量	底部2/8	
10	63-(2)	SX101	土高台付杯	14.8cm	3.1cm	10.6cm	(外)回転ナデ、ヘラ削り後ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)10YR6/6 明黄褐 (内)5Y7/1 灰白		0.1~2mm	底部完存	
11	63-(2)	SX101	土杯	21.0cm	3.4cm	18.2cm	(外)横ナデ、ヘラ切り (内)横ナデ	普通	(外)2.5Y7/4 浅黄 (内)5YR6/6 橙		0.5~2mm	底部7/8	
12	63-(2)	SX101	土杯	21.5cm	3.9cm	17.2cm	(外)横ナデ、ヘラ切り(磨減) (内)横ナデ	普通	(外)7.5YR6/1 褐灰 (内)2.5Y6/1 黄灰		0.5~2mm	2/8	
13		SX101	土杯	21.7cm		17.3cm	(外)回転ナデ、磨減 (内)回転ナデ	普通	(外)2.5Y7/4 浅黄 (内)2.5Y7/1 灰白		0.1~2.5mm	1/8	
14	63-(2)	SX101	土高台付杯	25.4cm	4.0cm	20.1cm	(外)回転ナデ、指ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)7.5YR7/6 橙 (内)10YR8/3 浅黄橙		0.1~2mm	2/8	
15		SX101	土皿	26.6cm			(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)2.5Y7/2 灰黄 (内)2.5Y7/2 灰黄		0.1~1mm	破片	
16	63-(2)	SX101	土高台付皿	24.0cm	3.0cm	20.5cm	(外)横ナデ (内)横ナデ	普通	(外)2.5Y8/2 灰白 (内)2.5Y8/2 灰白		0.1~0.3mm	口縁1/8	
17	63-(2)	SX101	土高台付皿	24.4cm	3.1cm	21.0cm	(外)磨減 (内)磨減	普通	(外)10YR4/3 にぶい、黄褐 (内)5YR6/8 橙		0.5~2mm	口縁2/8	
18	63-(2)	SX101	土高台付皿	28.4cm	3.2cm	22.4cm	(外)磨減、ヘラ削り後ナデ (内)磨減	普通	(外)10YR8/4 浅黄橙 (内)10YR7/4 にぶい、黄橙		0.1~2mm 少量	底部2/8	
19	63-(2)	SX101	土高台付皿	28.8cm	3.1cm	22.8cm	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)2.5Y6/3 にぶい、黄 (内)2.5Y6/2 灰黄、10YR8/4 浅黄橙		0.1~1mm	底部5/8	
20	63-(2)	SX101	土高台付杯	36.6cm	5.1cm	31.7cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り(磨減) (内)回転ナデ	普通	(外)5YR6/6 橙 (内)5YR6/6 橙		0.5~2mm	口縁2/8	
21		SX101	土蓋	つまみ後 3.0cm			(外)ナデ (内)磨減	普通	(外)10YR4/2 灰黄褐 (内)10YR7/6 明黄褐		0.1~0.5mm	つまみ完存	
22	64	SX101	土蓋	15.9cm	2.0cm		(外)ヘラ削り後ナデ、回転ナデ (内)回転ナデ	良	(外)5Y7/1 灰白 (内)10YR7/6 明黄褐		0.1~1mm	6/8	
23	64	SX101	土蓋	24.6cm			(外)磨減 (内)磨減	普通	(外)10YR7/2 にぶい、黄橙 (内)7.5YR6/6 橙		0.5~2mm	口縁1/8	
24		SX101	土蓋	31.6cm			(外)回転ナデ、ヘラ削り (内)回転ナデ	普通	(外)2.5Y6/2 灰黄 (内)2.5Y6/1 黄灰		0.1~3mm	破片	
25		SX101	土高杯	20.4cm			(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)10YR8/3 浅黄橙 (内)10YR8/3 浅黄橙		0.1~1mm	口縁1/8	
26		SX101	土高杯	22.0cm			(外)磨減 (内)磨減	普通	(外)2.5Y7/4 浅黄 (内)2.5Y8/2 灰白		0.1~1mm	口縁1/8	

挿入No.	図版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色	調	胎	土	残存量	備考
27		S X 101	土 高杯	29.6cm			(外)回転ナデ, 摩滅 (内)回転ナデ	普通	(外)10Y R 8/2 灰白 (内)2.5Y 7/3 浅黄		0.1~1mm		口縁3/8	
28	64	S X 101	土 高杯	29.9cm			(外)摩滅 (内)摩滅	普通	(外)10Y R 6/6 明黄褐 (内)10Y R 6/6 明黄褐		0.1~0.3mm		口縁3/8	
29		S X 101	土 高杯	30.4cm			(外)回転ナデ, ヘラ削り後ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)2.5Y 7/2 灰黄 (内)2.5Y 7/2 灰黄		0.1~2mm		1/8	
30	64	S X 101	土 高杯	30.6cm			(外)回転ナデ, ヘラ削り後ナデ (内)回転ナデ, 摩滅, ヘラミガキ?	普通	(外)10Y R 7/2 にぶい黄橙 (内)10Y R 7/2 にぶい黄橙		0.1~1mm		口縁2/8	
31		S X 101	土 高杯				(外)指おさえ後ナデ, 接合部に剥み目? (内)ナデ	普通	(外)5Y R 5/6 明赤褐 (内)5Y T 5/6 明赤褐		0.1~2.5mm 多量		脚部破片	
32	64	S X 101	土 高杯				(外)摩滅 (内)剥離	普通	(外)7.5Y R 4/3 褐 (内)7.5Y R 3/2 黒褐		0.1~3mm		脚部破片	
33		S X 101	土 高杯				(外)剥離 (内)剥離	普通	(外)2.5Y 7/3 浅黄 (内)7.5Y R 6/6 橙		0.1~2mm 金雲母		破片	
34	64	S X 101	土 高杯	30.2cm	14.9cm	14.7cm	(外)回転ナデ, 楕ナデ (内)摩滅, 回転ナデ, 楕ナデ(痕状工具のナデが先行するかも)	普通	(外)7.5Y R 7/6 橙, 10Y R 7/2 にぶい黄橙 (内)7.5Y R 7/6 橙, 2.5Y 7/1 灰白		0.1~1mm		3/8	
35	64	S X 101	土 鉢	25.8cm		17.8cm	(外)回転ナデ, 摩滅 (内)摩滅	普通	(外)5Y R 6/6 橙 (内)5Y R 6/4 にぶい橙		0.5~4mm		口縁2/8	
36	64	S X 101	土 鉢	26.5cm			(外)回転ナデ, 摩滅 (内)回転ナデ, 摩滅	普通	(外)7.5Y R 8/6 浅黄橙 (内)10Y R 8/4 浅黄橙		0.5~2mm		口縁5/8	
37		S X 101	土 鉢	26.6cm			(外)摩滅 (内)摩滅	普通	(外)10Y R 8/6 黄橙 (内)10Y R 7/6 明黄褐		0.5~2mm		口縁4/8	
38		S X 101	土 鉢	30.0cm			(外)摩滅 (内)回転ナデ, 楕ナデ	普通	(外)7.5Y R 7/4 にぶい橙 (内)5Y 6/1 灰		0.5~3mm		口縁1/8	
39		S X 101	土 鉢			16.8cm	(外)摩滅 (内)摩滅, 指ナデ	普通	(外)7.5Y R 8/6 浅黄橙 (内)10Y R 8/4 浅黄橙		0.1~2mm		底部2/8	
40	64	S X 101	須 杯			7.2cm	(外)回転ナデ, ヘラ切り (内)回転ナデ	良	(外)N 7/0 灰白 (内)N 7/0 灰白		0.1~1mm		底部完存	内面火ダスキ 底部内面にヘラ掻き
41		S X 101	須 杯	10.9cm	2.7cm	7.6cm	(外)回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	やや良	(外)N 6/0 灰 (内)N 6/0 灰		0.1~1.5mm		口縁1/8	
42		S X 101	須 杯	11.5cm	3.5cm	7.8cm	(外)回転ナデ (内)回転ナデ, ヘラ切り後ナデ	良	(外)N 6/0 灰 (内)N 6/0 灰		0.1~1mm 少量		底部2/8	内面火ダスキ
43	64	S X 101	須 杯			8.2cm	(外)回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)N 5/0 灰 (内)N 5/0 灰		0.1~2mm		底部4/8	
44		S X 101	須 杯			9.0cm	(外)回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	やや良	(外)N 5/0 灰 (内)N 5/0 灰		0.1~5mm		破片	
45		S X 101	須 杯	18.0cm			(外)回転ナデ (内)回転ナデ	やや不良	(外)N 7/0 灰白 (内)N 7/0 灰白		0.1~2mm		破片	
46	65	S X 101	須 杯	18.6cm	3.8cm	17.1cm	(外)回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	良	(外)N 6/0 灰, N 5/0 灰 (内)N 6/0 灰		0.1~0.2mm		2/8	口縁部に重ね焼痕
47	65	S X 101	須 杯	20.8cm	3.6cm	17.0cm	(外)回転ナデ, ヘラ切り? (内)回転ナデ	不良	(外)5Y 6/2 灰オリーブ (内)N 6/0 灰		0.5~2mm		底部6/8	
48		S X 101	須 杯又は皿			17.2cm	(外)摩滅 (内)摩滅	やや不良	(外)7.5Y 7/1 灰白 (内)5Y 6/1 灰		0.1~1mm		底部2/8	
49		S X 101	須 皿	20.2cm			(外)回転ナデ, ハケ目, 浅いハケ目 (内)回転ナデ	やや不良	(外)N 6/0 灰 (内)N 6/0 灰		0.1~3mm		口縁2/8	
50	65	S X 101	須 皿	20.5cm	2.9cm	16.7cm	(外)回転ナデ, ヘラ切り後指ナデ (内)回転ナデ後指ナデ	普通	(外)N 6/0 灰 (内)N 6/0 灰		0.1~3mm		1/8	歪み有り
51		S X 101	須 皿	22.0cm			(外)回転ナデ, ヘラ削り (内)回転ナデ	普通	(外)N 7/0 灰白 (内)N 7/0 灰白		0.1~1mm		破片	
52	65	S X 101	須 皿	22.5cm	2.8cm	17.5cm	(外)回転ナデ, 摩滅 (内)回転ナデ, 不定方向のヘラ削り	不良	(外)7.5Y 6/1 灰 (内)7.5Y 6/1 灰		0.1~2mm		底部ほぼ完存	内外面-火ダスキ
53	65	S X 101	須 皿	23.8cm	3.0cm	20.5cm	(外)回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	良	(外)N 5/0 灰 (内)N 7/0 灰白		0.1~1mm		1/8	内外面-火ダスキ
54		S X 101	須 皿	24.0cm		22.4cm	(外)回転ナデ, 摩滅 (内)摩滅	不良	(外)5Y 7/1 灰白 (内)5Y 7/1 灰白		0.1~2mm		破片	

棒圖No.	図版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色	調	胎	土	残存量	備考
55		S X 101	須 皿	24.7cm	3.0cm	21.0cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)N4/0 灰 (内)7.5Y6/1 灰		0.1~4mm		破片	内面火ダスキ
56	65	S X 101	須 高台付杯	11.6cm	3.5cm	7.8cm	(外)回転ナデ (内)回転ナデ後ナデ	普通	(外)N6/0 灰 (内)N6/0 灰		0.1~3mm		2/8	
57	65	S X 101	須 高台付杯	12.1cm	3.6cm	7.6cm	(外)回転ナデ,ヘラ削り,爪形圧痕 (内)回転ナデ	普通	(外)N5/0 灰 (内)5Y5/1 灰		0.1~1mm		底部完存	
58	65	S X 101	須 高台付杯	12.6cm	3.5cm	7.9cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り,爪形圧痕 (内)回転ナデ	良	(外)7.5YR6/4にぶい焼,5Y6/0灰 (内)7.5YR6/4 にぶい焼		0.1~1mm		2/8	
59	65	S X 101	須 高台付杯	13.0cm	3.1cm	9.5cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り,爪形圧痕 (内)回転ナデ	良	(外)N3/0 暗灰 (内)N6/0 灰		0.1~1mm		1/8	
60	65	S X 101	須 高台付杯	14.2cm	3.4cm	9.6cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り,爪形圧痕 (内)回転ナデ	普通	(外)N6/0 灰 (内)N6/0 灰		0.1~1mm		口縁3/8	
61	65	S X 101	須 高台付杯	14.4cm	2.9cm	10.3cm	(外)回転ナデ,ヘラ削り後ナデ (内)回転ナデ	良	(外)N5/0 灰 (内)N6/0 灰		0.1~0.5mm		2/8	
62	65	S X 101	須 高台付杯	19.9cm	6.8cm	13.2cm	(外)回転ナデ,ヘラ削り後ナデ (内)回転ナデ,ナデ	良	(外)N4/0 灰 (内)N6/0 灰		0.1~0.3mm		ほぼ完存	
63	65	S X 101	須 稜碗	20.4cm	6.2cm	14.0cm	(外)回転ナデ,ヘラ削り後ナデ (内)回転ナデ	良	(外)5Y6/1 灰 (内)N6/0 灰		0.1~2mm		2/8	
64	65	S X 101	須 高台付杯	20.8cm	7.6cm	14.4cm	(外)回転ナデ,ナデ (内)回転ナデ,自然釉	良	(外)N3/0 暗灰 (内)N6/0 灰		0.1~2.5mm		2/8	
65	66	S X 101	須 高台付杯			14.0cm	(外)回転ナデ,ナデ (内)回転ナデ	良	(外)10YR4/1 褐灰 (内)N7/0 灰白		0.1~0.7mm		底部1/8	
66		S X 101	須 高台付杯				(外)回転ナデ (内)回転ナデ	やや良	(外)N5/0 灰 (内)N6/0 灰		0.1~1mm		破片	
67		S X 101	須 高台付杯				(外)回転ナデ (内)回転ナデ	やや不良	(外)N5/0 灰 (内)N5/0 灰		0.1~1mm		破片	
68	66	S X 101	須 高台付杯	22.8cm	4.4cm	18.2cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)N5/0 灰 (内)10Y5/1 灰		0.1~3mm		底部3/8	内面に火ダスキ
69	66	S X 101	須 高台付杯	23.0cm	5.2cm	17.6cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り (内)回転ナデ	やや良	(外)N5/0 灰 (内)N5/0 灰		0.1mm 程度細砂粒を含む		口縁3/8	
70	66	S X 101	須 高台付杯	23.6cm	5.25cm	19.2cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	やや良	(外)5Y7/1 灰白 (内)N6/0 灰		0.5~2mm		口縁1/8	
71	66	S X 101	須 高台付杯	25.4cm	4.3cm	20.4cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り後ナデ,爪形圧痕 (内)回転ナデ	やや不良	(外)N5/0 灰 (内)N6/0 灰		0.5~1mm		口縁1/8	
72		S X 101	須 高台付杯			18.8cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	やや不良	(外)5Y6/1 灰 (内)5Y6/1 灰		0.1~3mm		破片	
73		S X 101	須 高台付杯			20.0cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り後ナデ,ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)N6/0 灰 (内)N6/0 灰		0.1~3mm 少量		破片	
74	66	S X 101	須 高台付皿	20.0cm	2.6cm	16.2cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り後ナデ,爪形圧痕 (内)回転ナデ	普通	(外)N5/0 灰 (内)2.5Y4/1 黄灰		0.1~1mm		底部6/8	
75		S X 101	須 高台付皿	22.8cm	3.0cm	18.0cm	(外)回転ナデ,ヘラ削り (内)回転ナデ	やや不良	(外)5Y6/1 灰 (内)5Y6/1 灰		0.1~2mm		破片	
76	66	S X 101	須 高台付皿	25.4cm	3.4cm	20.3cm	(外)回転ナデ,ヘラ削り (内)回転ナデ	良	(外)7.5Y6/1 灰 (内)2.5Y7/1 灰白		0.1~1mm		底部1/8	
77		S X 101	須 高台付皿	26.0cm	2.4cm	20.0cm	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)5Y5/1 灰 (内)5Y5/1 灰		0.1~2mm		破片	
78		S X 101	須 高台付杯 又は皿			17.8cm	(外)回転ナデ,ヘラ削り後ナデ (内)回転ナデ後ナデ	良	(外)N6/0 灰 (内)N6/0 灰		0.1~1mm 少量		破片	
79		S X 101	須 高台付杯 又は皿			18.0cm	(外)回転ナデ,ヘラ削り (内)回転ナデ	やや良	(外)N5/0 灰 (内)N5/0 灰		0.1~1mm 少量		底部1/8	
80		S X 101	須 高台付杯 又は皿			18.0cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ後横ナデ	やや良	(外)N6/0 灰 (内)N6/0 灰		0.1~0.5mm 少量		底部1/8	歪み有り
81		S X 101	須 高台付杯 又は皿			19.0cm	(外)回転ナデ,ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	やや不良	(外)5Y6/1 灰 (内)2.5Y6/2 灰黄		0.1~2mm		破片	
82		S X 101	須 皿	36.2cm			(外)回転ナデ (内)回転ナデ	やや不良	(外)5Y6/1 灰 (内)5Y6/1 灰		0.1~3mm		口縁1/8	

挿入No.	器種	出土位置	口径	器高	底径	調整	焼成	色	調	胎土	残存量	備考
83	須 高台付杯 又は皿	S X 101			30.0cm	(外) 回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内) 回転ナデ後ナデ	やや不良	(外) 5Y6/1 灰 (内) 5Y6/1 灰		0.1~2mm	破片	
84	須 蓋	S X 101	11.5cm			(外) 回転ナデ, ヘラ削り (内) 回転ナデ	良	(外) N5/0 灰 (内) N5/0 灰		0.1~1mm	口縁1/8	
85	須 蓋	S X 101	12.0cm			(外) 回転ナデ, ヘラ削り (内) 回転ナデ後ナデ	良	(外) N4/0 灰 (内) N5/0 灰		0.1~1mm	口縁1/8	歪み有り
86	須 蓋	S X 101	12.1cm			(外) 回転ナデ, ヘラ削り後ナデ (内) 回転ナデ	良	(外) 5Y5/1 灰 (内) 5Y6/1 灰		0.1~1mm	4/8	
87	須 蓋	S X 101	12.1cm			(外) 回転ナデ, ヘラ削り後ナデ (内) 指ナデ, 横ナデ	良	(外) 10YR5/1 褐灰 (内) N6/0 灰	褐灰	0.1~1mm 少量	4/8	
88	須 蓋	S X 101	12.4cm			(外) 回転ナデ, ヘラ削り後ナデ (内) 回転ナデ	やや良	(外) 5Y5/1 灰 (内) N7/0 灰		0.1~3mm	口縁1/8	
89	須 蓋	S X 101	12.4cm			(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	良	(外) 5Y5/2 灰 (内) N7/0 灰	灰オリーブ	0.1~5mm	口縁1/8	外面自然釉付着 歪み有り
90	須 蓋	S X 101	12.7cm			(外) 回転ナデ, ヘラ削り後ナデ (内) 回転ナデ後ナデ	良	(外) N5/0 灰 (内) N6/0 灰		0.1~1mm 少量	1/8	
91	須 蓋	S X 101	13.3cm			(外) 回転ナデ, ヘラ削り後ナデ (内) 回転ナデ	普通	(外) 7.5Y5/1 灰 (内) 7.5Y5/1 灰		0.1~0.3mm	口縁1/8	
92	須 蓋	S X 101	13.9cm			(外) 回転ナデ, ヘラ削り (内) 回転ナデ	不良	(外) 5Y5/1 灰 (内) 2.5Y6/1 黄灰		0.1~0.3mm やや多く	口縁2/8	
93	須 蓋	S X 101	14.2cm	2.2cm		(外) ヘラ削り後ナデ, 回転ナデ (内) 回転ナデ	やや不良	(外) 10Y5/1 灰 (内) N6/0 灰		0.1~1mm	5/8	
94	須 蓋	S X 101	14.8cm			(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	やや良	(外) N5/0 灰 (内) N6/0 灰		0.1~1mm	口縁1/8	
95	須 蓋	S X 101	15.0cm	1.7cm		(外) ヘラ削り後ナデ, 回転ナデ (内) 回転ナデ	普通	(外) N5/0 灰 (内) 10YR7/1 灰白		0.1~1mm	完存	
96	須 蓋	S X 101	15.0cm	2.1cm		(外) ヘラ削り後ナデ, 回転ナデ (内) 回転ナデ	普通	(外) N6/0 灰 (内) N6/0 灰		0.5~1mm	5/8	
97	須 蓋	S X 101	17.8cm			(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	普通	(外) N5/0 灰 (内) 7.5Y6/1 灰		0.1~2mm	破片	
98	須 蓋	S X 101	19.0cm			(外) ヘラ切り後回転ナデ, 回転ナデ, 自然釉 (内) 回転ナデ後指ナデ	良	(外) 7.5Y4/1 灰 (内) N5/0 灰		0.1~1mm 少量	3/8	歪み有り
99	須 蓋	S X 101	19.6cm			(外) 回転ナデ, 回転ナデ後ナデ (内) 回転ナデ	良	(外) N7/0 灰白 (内) N7/0 灰白		0.1~2mm	破片	歪み有り
100	須 蓋	S X 101	19.6cm			(外) 回転ナデ, ヘラ削り (内) 回転ナデ	良	(外) N7/0 灰白 (内) N7/0 灰白		0.1~3mm	口縁2/8	歪み著しい
101	須 蓋	S X 101	18.9cm			(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	やや良	(外) N6/0 灰 (内) N6/0 灰		0.1~3mm やや多く	破片	
102	須 蓋	S X 101	21.2cm			(外) 回転ナデ, ヘラ削り (内) 回転ナデ	良	(外) 5Y6/1 灰 (内) N5/0 灰		0.1~3mm	口縁2/8	
103	須 蓋	S X 101	22.0cm			(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	良	(外) 5Y5/1 灰 (内) N6/0 灰		0.1~2mm やや多く	口縁1/8	
104	須 蓋	S X 101	22.2cm			(外) 自然釉 (内) 回転ナデ	良	(外) 7.5Y3/1 オリーブ黒 (内) N6/0 灰		0.1~0.5mm 少量	破片	歪み有り
105	須 蓋	S X 101	22.8cm			(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	普通	(外) N6/0 灰 (内) 7.5Y5/1 灰		0.1~0.5mm	破片	歪み有り
106	須 蓋	S X 101	23.6cm			(外) 回転ナデ後後板ナデ, ヘラ切り後ナデ (内) 回転ナデ	やや良	(外) N5/0 灰 (内) N6/0 灰		0.1~0.5mm 少量	1/8	歪み有り
107	須 蓋	S X 101	23.7cm			(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	やや良	(外) N6/0 灰 (内) N6/0 灰		0.1~3mm	口縁1/8	歪み有り
108	須 蓋	S X 101	23.9cm			(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	不良	(外) 5Y6/1 灰 (内) 2.5Y6/2 灰黄		0.1~1.5mm	破片	
109	須 蓋	S X 101	24.4cm			(外) 回転ナデ, ヘラ削り後ナデ (内) 回転ナデ後指ナデ	やや不良	(外) 5Y6/1 灰 (内) 5Y6/1 灰		0.1~1mm 少量	4/8	
110	須 蓋	S X 101	24.7cm			(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	普通	(外) 5Y6/1 灰 (内) N6/0 灰		0.1~1mm	破片	

挿入No.	図版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色	調	胎	土	残存量	備考
111		S X 101	須蓋	25.8cm			(外)回転ナデ、ヘラ削り後ナデ (内)回転ナデ、ナデ	不良	(外)2.5Y7/2 灰黄 (内)2.5Y7/1 灰白		0.1~3mm		口縁1/8	
112	67	S X 101	須蓋	26.0cm			(外)ヘラ切り、ヘラ削り後回転ナデ (内)回転ナデ	良	(外)N6/0 灰 (内)N6/0 灰		0.1~1mm		1/8	歪み著しい
113		S X 101	須蓋	26.4cm			(外)回転ナデ、重ね焼痕 (内)回転ナデ	良	(外)N6/0 灰、7.5Y6/1 灰 (内)N6/0 灰		0.1~1.5mm		口縁1/8	歪み有り
114	67	S X 101	須蓋	27.0cm			(外)ヘラ切り後ナデ、横ナデ (内)横ナデ	良	(外)N6/0 灰、N5/0 灰 (内)N6/0 灰		0.5~3mm		1/8	
115		S X 101	須蓋	27.0cm			(外)回転ナデ、重ね焼痕 (内)回転ナデ	良	(外)N7/0 灰白、5Y6/1 灰 (内)N6/0 灰		0.1~4mm		口縁1/8	歪み有り
116		S X 101	須蓋	27.3cm			(外)回転ナデ (内)回転ナデ	やや良	(外)N6/0 灰 (内)N6/0 灰		0.1~4mm		口縁1/8	
117		S X 101	須蓋	28.0cm			(外)回転ナデ、ヘラ削り後回転ナデ (内)回転ナデ、後ナデ	普通	(外)5Y6/1 灰 (内)5Y6/1 灰		0.1~2mm		口縁1/8	歪み有り
118		S X 101	須蓋	27.6cm			(外)回転ナデ、ヘラ削り (内)回転ナデ	普通	(外)N6/0 灰 (内)N6/0 灰		0.1~3mm		口縁1/8	
119		S X 101	須蓋	28.0cm	1.9cm		(外)回転ナデ、ナデ、重ね焼痕 (内)回転ナデ、ナデ	良	(外)N6/0 灰、N5/0 灰 (内)N6/0 灰		0.1~2mm		口縁1/8	歪み有り
120		S X 101	須蓋	28.2cm			(外)ヘラ削り後ナデ、横ナデ (内)横ナデ	不良	(外)5Y7/1 灰白 (内)5Y7/1 灰白		0.1~4mm		破片	
121	67	S X 101	須蓋	28.4cm			(外)ヘラ削り後ナデ、横ナデ (内)横ナデ	良	(外)N5/0 灰 (内)N6/0 灰		0.5~3mm		口縁2/8	
122		S X 101	須蓋	29.6cm			(外)回転ナデ、ヘラ削り後回転ナデ (内)回転ナデ	やや良	(外)N6/0 灰 (内)N6/0 灰		0.1~3mm		口縁1/8	
123		S X 101	須蓋	32.9cm			(外)回転ナデ、ヘラ削り (内)回転ナデ	やや不良	(外)2.5Y7/1 灰白 (内)2.5Y6/2 灰黄		0.1~1mm		破片	
124	67	S X 101	須蓋				(外)回転ナデ、自然釉 (内)回転ナデ後ナデ	良	(外)10Y3/1 オリーブ黒 (内)N6/0 灰		0.1~1mm		破片	
125	67	S X 101	須蓋				(外)回転ナデ (内)ナデ	やや良	(外)N5/0 灰 (内)N5/0 灰		0.1~1mm		破片	歪み有り
126	67	S X 101	須蓋	20.8cm			(外)回転ナデ、ヘラ削り (内)回転ナデ	普通	(外)N7/0 灰白 (内)N7/0 灰白		0.1~1mm		2/8	
127		S X 101	須蓋	19.8cm			(外)回転ナデ (内)回転ナデ	良	(外)N7/0 灰白 (内)N7/0 灰白		0.1~1.5mm		口縁1/8	
128		S X 101	須蓋	21.6cm			(外)回転ナデ、ヘラ削り (内)回転ナデ	やや良	(外)7.5Y6/1 灰 (内)N6/0 灰		0.1~3mm		1/8	やや歪み有り 外面に自然釉
129	67	S X 101	須蓋	つまみ付 5.4cm			(外)ナデ?、自然釉 (内)回転ナデ後ナデ	良	(外)5Y5/2 灰オリーブ (内)N7/0 灰		0.1~3mm		破片	
130	67	S X 101	須鉢	29.2cm			(外)回転ナデ、ヘラ削り (内)回転ナデ	普通	(外)2.5Y6/1 黄灰 (内)2.5Y6/1 黄灰		0.5~2mm		口縁2/8	
131	67	S X 101	須鉢	39.3cm	13.0cm	27.7cm	(外)回転ナデ、ヘラ削り、グタ痕有 (内)回転ナデ	普通	(外)5Y6/1 灰 (内)5Y6/1 灰		0.5~2mm		底部4/8	
132		S X 102	土杯	11.3cm		7.6cm	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	やや不良	(外)10Y R5/2 灰黄褐 (内)10Y R5/2 灰黄褐		0.1~3mm		口縁1/8	
133		S X 102	土碗	20.6cm			(外)摩滅 (内)摩滅、回転ナデ	普通	(外)10Y R8/3 淡黄褐 (内)7.5Y R4/4 褐		0.1~0.5mm		口縁1/8	
134		S X 102	土高杯	18.0cm			(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)5Y R4/6 赤褐 (内)5Y R4/6 赤褐		0.1~1mm		口縁1/8	
135		S X 102	須皿	19.8cm			(外)強い横ナデ、回転ナデ (内)回転ナデ	やや良	(外)N7/0 灰白 (内)N6/0 灰		0.1~0.5mm		1/8	外面火ダスキ
136		S X 102	須皿	28.0cm		22.9cm	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	やや良	(外)N6/0 灰 (内)N6/0 灰		0.1~1mm		破片	内面火ダスキ
137		S X 102	須高台付皿	27.0cm	3.1cm	22.0cm	(外)回転ナデ、ヘラ削り (内)回転ナデ	普通	(外)N6/0 灰 (内)7.5Y7/1 灰白		0.1~1mm		破片	
138		S X 102	須蓋	18.8cm			(外)回転ナデ (内)回転ナデ	やや不良	(外)7.5Y6/1 灰 (内)5Y7/1 灰白		0.1~0.5mm		破片	

神田No.	図版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色調	胎土	残存量	備考
139		S X102	須高杯				(外)回転ナデ, 摩滅 (内)回転ナデ	不良	(外)5Y6/3 オリーブ黄 (内)5Y6/3 オリーブ黄	0.1~2mm	脚部1/8	
140	68-(1)	S K101	土杯	13.0cm	3.1cm	7.8cm	(外)回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)7.5Y R7/4 にぶい橙 (内)10Y R7/4 にぶい黄橙	0.1~1mm 少量	完存	
141	68-(1)	S K101	土杯	12.6cm	3.1cm	7.8cm	(外)回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	やや不良	(外)5Y6/6 橙 (内)5Y6/6 橙	0.1~6mm 多量	4/8	
142	68-(1)	S K101	土杯	12.8cm	3.1cm	7.6cm	(外)回転ナデ, ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	(外)7.5Y R5/4C にぶい黄 2.5Y R6/6橙 (内)10Y R7/6 明黄橙	0.1~4mm	3/8	
143		S K101	土杯	14.2cm			(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)7.5Y R6/6 橙 (内)10Y R7/6 明黄橙	0.1~1mm	口縁1/8	
144	68-(1)	S K101	土皿	13.7cm	1.4cm	8.9cm	(外)回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)10Y R8/4浅黄橙 7.5Y R5/1褐色 (内)10Y R8/4 浅黄橙	0.1~1.5mm	底部4/8	
145	68-(1)	S K101	土皿	13.5cm	1.8cm	10.2cm	(外)横ナデ, ヘラ切り後ナデ (内)横ナデ, ナデ	普通	(外)10Y R7/4 にぶい黄橙 (内)10Y R7/4 にぶい黄橙	0.1~2mm	5/8	
146		S K101	土皿	15.0cm	1.7cm	11.0cm	(外)回転ナデ, ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	(外)7.5Y R6/6 橙 (内)7.5Y R6/6 橙	0.1~1mm	口縁1/8	
147	68-(1)	S K101	土碗	14.6cm	4.7cm	8.0cm	(外)回転ナデ, 摩滅, ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)7.5Y R7/4 にぶい橙 (内)5Y R6/6 橙	0.1~4mm	ほぼ完存	
148	68-(2)	S D101	土杯	14.1cm	3.1cm	8.6cm	(外)回転ナデ, ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	(外)2.5Y6/4 にぶい黄 (内)7.5Y R6/6 橙	0.1~1mm 少量	4/8	
149	68-(2)	S D101	土杯	13.9cm	3.0cm	8.6cm	(外)回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)7.5Y R8/6 浅黄橙 (内)7.5Y R8/6 浅黄橙	0.1~3mm	口縁2/8	
150		S D101	土杯	14.0cm	3.3cm	8.6cm	(外)回転ナデ, 摩滅 (内)回転ナデ, 摩滅	普通	(外)10Y R8/2 灰白 (内)10Y R7/6 明黄橙	0.1~0.5mm	破片	
151		S D101	須高杯				(外)横ナデ, しぼり目 (内)横ナデ	やや不良	(外)N4/0 灰白 (内)5Y7/1 灰白	0.1~5mm	脚部2/8	
152		IV区 茶褐色粘質土層	土杯	13.0cm			(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)7.5Y R7/4 にぶい黄 2.5Y6/6黄灰 (内)7.5Y R6/4 にぶい橙	0.1~1mm 少量	口縁1/8	
153		IV区 茶褐色粘質土層	土杯	18.0cm			(外)強い横ナデ, 回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)7.5Y R7/6 橙 (内)7.5Y R6/6 橙	0.1~0.5mm	破片	
154	68-(3)	IV区 茶褐色粘質土層	土杯	7.7cm		7.7cm	(外)回転ナデ (内)回転ナデ, ナデ	普通	(外)7.5Y R5/6 明橙 (内)10Y R8/4 浅黄橙	0.1~0.5mm	底部2/8	
155	68-(3)	IV区 茶褐色粘質土層	土皿	15.5cm	1.9cm	11.4cm	(外)回転ナデ, 摩滅 (内)回転ナデ, 摩滅	普通	(外)10Y R8/4浅黄橙, 5Y R5/6明赤 (内)10Y R8/4浅黄橙, 5Y R5/6明赤	0.1~0.5mm 少量	1/8	
156		IV区 茶褐色粘質土層	土碗			8.0cm	(外)摩滅 (内)摩滅	普通	(外)7.5Y R5/6 明橙 (内)10Y R6/4 鈍い黄橙	0.1~0.5mm	底部1/8	
157		IV区 茶褐色粘質土層	土壺	28.5cm			(外)横ナデ, 指おさえ後ナデ (内)横ナデ	普通	(外)10Y R5/3 にぶい黄橙 (内)10Y R8/3 浅黄橙	0.1~3mm 多量 金雲母	破片	
158		IV区 茶褐色粘質土層	土壺	13.6cm			(外)横ナデ, ハケ目後指おさえ (内)ハケ目後指おさえ	普通	(外)10Y R6/3 にぶい黄橙 (内)10Y R6/3 にぶい黄橙	0.1~5mm	口縁破片	
159		IV区 茶褐色粘質土層	弥壺				(外)横ナデ, ハケ目 (内)ハケ目, 摩滅, ハケ目後指おさえ	普通	(外)10Y R5/6 明赤褐 (内)10Y R4/2 灰黄褐	0.1~4mm 金雲母	破片	
160		IV区 茶褐色粘質土層	土鍋	43.0cm			(外)横ナデ, ハケ目 (内)横ナデ, 摩滅, 指ナデ	普通	(外)10Y R3/1 黒褐 (内)10Y R7/4 にぶい黄橙	0.1~1mm	破片	
161	68-(3)	IV区 茶褐色粘質土層	土罐				(外)指おさえ後ハケ目後ナデ (内)不明	普通	(外)7.5Y R8/3 浅黄褐 (内)10Y R8/3 浅黄褐	0.1~5mm 多量 金雲母	4/8	
162		IV区 茶褐色粘質土層	須杯	14.1cm			(外)回転ナデ, ヘラ切り (内)回転ナデ	やや不良	(外)5Y7/1 灰白 (内)5Y7/1 灰白	0.1~1mm 少量	口縁1/8	内外面火ダスキ
163		IV区 茶褐色粘質土層	須杯	20.0cm			(外)回転ナデ (内)回転ナデ	やや不良	(外)7.5Y5/1 灰 (内)7.5Y5/1 灰	0.1~2mm	口縁3/8	
164	68-(3)	IV区 茶褐色粘質土層	須高台付杯		8.0cm		(外)回転ナデ, ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)10Y5/1 灰 (内)10Y5/1 灰	0.1mm 少量	底部3/8	
165		IV区 茶褐色粘質土層	須高台付杯		11.2cm		(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)N6/0 灰 (内)N7/0 灰白	0.1~2mm	底部1/8	
166		IV区 茶褐色粘質土層	須高台付杯		12.5cm		(外)回転ナデ (内)回転ナデ, ナデ	普通	(外)N4/0 灰 (内)N5/0 灰	0.1~0.5mm	破片	

挿入No.	図版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色調	胎土	残存量	備考
167		IV区 茶褐色粘質土層	須 高台付杯			13.0cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り (内)回転ナデ後ナデ	やや良	(外)N4/0 灰 (内)N5/0 灰	0.1~4mm 少量	破片	
168	69	IV区 茶褐色粘質土層	須 蓋	12.2cm	1.0cm		(外)回転ナデ後ナデ (内)回転ナデ	良	(外)N5/0 灰 (内)N5/0 灰	0.1~0.5mm	1/8	至み有り
169		IV区 茶褐色粘質土層	須 蓋	26.0cm			(外)回転ナデ、ヘラ削り (内)回転ナデ	普通	(外)N6/0 灰 (内)N6/0 灰	0.1~2mm	口縁1/8	
170		IV区 茶褐色粘質土層	須 蓋	14.0cm		14.8cm	(外)回転ナデ、ヘラ削り後回転ヘラ削り (内)回転ナデ	やや不良	(外)N5/0 灰 (内)7.5Y6/1 灰	0.1~2mm	破片	
171		IV区 茶褐色粘質土層	須 壺			10.4cm	(外)回転ナデ、ナデ (内)回転ナデ	やや良	(外)N6/0 灰 (内)N7/0 灰白	0.1~1mm	破片	
172		IV区 茶褐色粘質土層	須 高杯				(外)回転ナデ (内)回転ナデ	やや不良	(外)5Y7/1 灰白 (内)2.5Y6/2 灰黄	0.1~1.5mm	破片	
173		IV区 茶褐色粘質土層	緑釉陶器 碗			7.8cm	(外)ナデ削り出し高台 (内)ナデ	普通	(外)10Y R8/4 浅黄緑 (内)10Y R8/4 浅黄緑	0.1~1mm 少量	底部2/8	京都産
174	69	IV区 茶褐色粘質土層	灰釉陶器 壺				(外)灰釉 (内)回転ナデ	良	(外)2.5Y6/2 灰黄 (内)2.5Y7/1 灰白	緻密	破片	
175	69	IV区 茶褐色粘質土層	黒A 碗	15.4cm	6.2cm	7.3cm	(外)横ナデ、糸切り (内)横ナデ、暗文	普通	(外)10Y R8/4 浅黄緑 (内)10Y R8/4 浅黄緑	0.1~0.5mm	2/8	
177	69	IV区 御溝掘り	土 皿	16.5cm			(外)横ナデ、ヘラ削り後ナデ (内)横ナデ、ナデ	普通	(外)7.5Y7/4 にぶい橙 (内)7.5Y7/4 にぶい橙	0.1~3mm	3/8	
178		IV区 御溝掘り	土 杯または 土 皿			11.9cm	(外)回転ナデ、ヘラ削り後ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)7.5Y R8/4 浅黄緑 (内)7.5Y R8/4 浅黄緑	0.1~2mm	底部1/8	
179	69	IV区 御溝掘り	土 高台付皿	24.8cm	3.3cm	21.9cm	(外)回転ナデ、ナデ (内)回転ナデ	やや不良	(外)10Y R7/6 明黄緑 (内)2.5Y8/2 灰白	0.1~0.5mm	破片	
180		IV区 御溝掘り	土 羹(把手)				(外)指おさえ (内)指おさえ	普通	(外)10Y R8/4 浅黄緑 (内)10Y R8/4 浅黄緑	0.1~4mm	把手7/8	
181	69	IV区 御溝掘り	須 杯	10.0cm	3.4cm	6.6cm	(外)回転ナデ、ヘラ削り後ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)N7/0 灰白 (内)N5/0 灰	0.1~0.5mm	2/8	
182	69	IV区 御溝掘り	須 杯	13.5cm	4.0cm	10.0cm	(外)回転ナデ、ヘラ削り後ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)7.5Y6/1 灰 (内)7.5Y6/1 灰	0.1~1mm	2/8	
183		IV区 御溝掘り	須 高台付杯			14.0cm	(外)回転ナデ、ヘラ削り (内)回転ナデ	やや良	(外)N6/0 灰 (内)N6/0 灰	0.1~1mm 少量	破片	
184		IV区 壁切り	須 蓋	20.0cm			(外)回転ナデ、ヘラ削り (内)回転ナデ	普通	(外)N4/0 灰 (内)N4/0 灰	0.1~3mm	破片	至み有り
185		IV区 御溝掘り	須 蓋				(外)回転ナデ (内)回転ナデ	良	(外)N5/0 灰 (内)N5/0 灰	0.1~3mm	破片	
186		IV区 御溝掘り	黒A 杯	14.8cm	4.3cm	9.5cm	(外)ヘラミガキ (内)暗文	普通	(外)7.5Y7/6橙、2.5Y2/1黒 (内)2.52/1 黒	0.1~2mm	破片	
187		IV区 暗茶褐色粘土	弥 甕	26.0cm			(外)剥離、横ナデ (内)剥離	普通	(外)10Y R8/3 浅黄緑、10Y R6/6 明黄緑 (内)10Y R8/3 浅黄緑	0.1~2mm	破片	
188		IV区 暗茶褐色砂 + 粘土	土 甕	25.8cm			(外)横ナデ、磨滅 (内)横ナデ、指おさえ、磨滅	普通	(外)10Y R7/6 明黄緑、2.5Y7/6 明黄緑 (内)10Y R7/6 明黄緑、2.5Y7/6 明黄緑	0.1~5mm	口縁破片	
192		I区 暗褐色粘質土層(上部)	土 杯			9.9cm	(外)磨滅 (内)磨滅	やや不良	(外)10Y R8/3 浅黄緑 (内)7.5Y R8/6 浅黄緑	0.1~2mm	底部1/8	
193		I区 暗褐色粘質土層(上部)	土 高台付杯			11.0cm	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)2.5Y8/2 灰白、2.5Y7/6 明黄緑 (内)2.5Y8/1 灰白	0.1~4mm	破片	
194		I区 暗褐色粘質土層(上部)	土 高台付杯 又は皿			14.7cm	(外)磨滅 (内)磨滅	普通	(外)2.5Y8/1 灰白、7.5Y R6/6 橙 (内)2.5Y8/1 灰白、2.5Y7/6 明黄緑	0.1~1mm	破片	
195	70	I区 暗褐色粘質土層(上部)	土 碗	6.0cm			(外)磨滅 (内)磨滅	普通	(外)2.5Y8/3 浅黄 (内)2.5Y8/2 灰白	0.1~2mm	底部完存	
196		I区 暗褐色粘質土層(上部)	土 碗			8.0cm	(外)横ナデ、ナデ (内)横ナデ	普通	(外)10Y R8/3 浅黄緑 (内)10Y R8/3 浅黄緑、10Y R4/6 褐	0.1~2mm 少量	底部2/8	
197		I区 暗褐色粘質土層(上部)	土 碗				(外)横ナデ、ナデ (内)ナデ	やや良	(外)5Y R8/4 浅黄、5Y R4/3 にぶい赤褐 (内)5Y R8/4 浅黄、5Y R4/3 にぶい赤褐	0.1~0.5mm 少量	破片	
198		I区 暗褐色粘質土層(上部)	土 蓋	つまみ付 2.2cm			(外)回転ナデ (内)ナデ	普通	(外)10Y R8/4 浅黄、10Y R6/6 明黄緑	0.1~0.5mm	つまみ部分	

挿入No	図版No	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色調	胎土	残存量	備考
199		I区 暗褐色粘質土層(上部)	土蓋	27.7cm			(外)回転ナデ, 摩滅 (内)回転ナデ	普通	(外)5Y8/1灰白, 7.5YR7/6橙 (内)7.5YR7/6 橙	0.1~2mm	破片	
200		I区 暗褐色粘質土層(上部)	土壺(把手)				(外)指おさえ後ナデ, ハケ目, 摩滅, 剥離 (内)指おさえ後ナデ	普通	(外)7.5YR6/8橙, 10YR8/4浅黄橙 (内)7.5YR5/6 明褐	0.1~4mm 多量	把手完存	
201		I区 暗褐色粘質土層(上部)	須皿	12.7cm	1.9cm	10.0cm	(外)回転ナデ, ハケ目, 剥離 (内)回転ナデ, 回転ナデ後ナデ	良	(外)N4/0 灰 (内)N4/0 灰	0.1~2.5mm	破片	外面火タスキ
202		I区 暗褐色粘質土層(上部)	須蓋	16.0cm			(外)回転ナデ (内)回転ナデ	やや良	(外)5Y6/1 灰, N4/0 灰 (内)N7/0 灰, N4/0 灰	0.1~1mm 少量	口縁1/8	歪み有り
203		I区 暗褐色粘質土層(上部)	須壺			6.8cm	(外)回転ナデ, 格子タタキ (内)ナデ	良	(外)N6/0 灰白 (内)N7/0 灰白	0.1~0.5mm	底部1/8	
204		I区 暗褐色粘質土層(上部)	須壺			10.2cm	(外)回転ナデ後ヘラ削り, ナデ, ハケ目 (内)回転ナデ, 自然釉	良	(外)2.5Y7/1 灰白 (内)2.5Y7/1 灰白	0.1~1mm	底部1/8	
205		I区 暗褐色粘質土層(上部)	黒B 碗			6.8cm	(外)ナデ (内)ナデ	普通	(外)7.5Y3/1 黒褐 (内)7.5Y3/1 黒褐	0.1~1mm	破片	
206		I区 暗褐色粘質土層(上部)	黒A 碗			8.6cm	(外)回転ナデ, 摩滅 (内)ナデ, 摩滅	やや良	(外)10YR6/6 明黄褐 (内)10YR4/2 灰黄褐	0.1~1mm 少量	底部2/8	
207		I区 暗褐色粘質土層(上部)	黒B 皿	14.8cm	1.5cm	12.2cm	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)2.5Y3/1 黒褐 (内)2.5Y3/1 黒褐	0.1~2mm	破片	
208		I区 暗褐色粘質土層(上部)	黒B 碗			6.8cm	(外)摩滅 (内)摩滅	普通	(外)7.5Y3/1 黒褐 (内)7.5Y3/1 黒褐	0.1~1mm	底部1/8	
209	70	I区 暗褐色粘質土層(上部)	黒B 碗	14.2cm	5.9cm	7.2cm	(外)ヘラミガキ, ナデ (内)摩滅	普通	(外)10YR3/1 黒褐色 (内)2.5Y4/1 黄灰	0.1~2mm	底部完存	
210	70	I区 暗褐色粘質土層(上部)	緑釉陶器 碗			6.5cm	(外)回転ナデ, 削り, ハケ目, 削り出し高台 (内)回転ナデ後ナデ	やや不良	(外)2.5Y8/2 灰白 (内)2.5Y8/2 灰白	0.1~0.5mm 少量	底部2/8	京都産
211		I区 暗褐色粘質土層(上部)	弥底部			3.5cm	(外)剥離 指おさえ (内)剥離	普通	(外)10YR7/4にふい黄橙, 10YR4/1黒灰 (内)7.5YR6/6橙, 7.5YR3/1黒褐	0.1~2mm	底部完存	
212	70	I区 暗褐色粘質土層(上部)	土師質 平瓦	最大厚 1.9cm			(凸面)縄目 (凹面)布目	普通	(凸面)10YR8/4 浅黄橙 (凹面)7.5YR7/4 にふい橙	0.1~6mm	破片	
215	70	I区 暗褐色粘質土層(下部)	土 小皿	9.6cm	1.7cm	7.1cm	(外)回転ナデ, ハケ目, 削り後ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)10YR7/4 にふい黄橙 (内)10YR7/4 にふい黄橙	0.1~3mm	7/8	
216		I区 暗褐色粘質土層(下部)	土 杯			9.0cm	(外)剥離 (内)回転ナデ, 摩滅	普通	(外)10YR6/6 明黄褐 (内)10YR6/6明黄褐, 10YR5/3にふい黄	0.1~0.5mm 少量 金雲母	底部2/8	
217		I区 暗褐色粘質土層(下部)	土 皿	16.6cm	2.5cm	12.2cm	(外)回転ナデ, 摩滅 (内)ナデ, 摩滅	普通	(外)7.5YR7/4 にふい黄橙 (内)7.5YR8/6 浅黄橙	0.1~2mm	破片	
218		I区 暗褐色粘質土層(下部)	須 高台付皿			23.0cm	(外)摩滅 (内)ナデ	不良	(外)10YR7/6明黄橙, 2.5Y6/3にふい黄 (内)10YR8/8黄橙, 2.5Y6/3にふい黄	0.1~2mm 少量	破片	
219		I区 暗褐色粘質土層(下部)	土 高台付杯 又は皿			13.7cm	(外)ナデ (内)ナデ	普通	(外)7.5YR7/6 橙 (内)2.5Y8/3 淡黄	0.1~1mm	底部1/8	
220		I区 暗褐色粘質土層(下部)	土 高台付杯 又は皿			14.9cm	(外)摩滅 (内)摩滅	普通	(外)10YR7/2にふい黄橙, 5YR6/6橙 (内)10YR8/6黄橙, 2.5Y4/1黄灰	0.1~1mm 少量	底部2/8	
221		I区 暗褐色粘質土層(下部)	土 碗			7.8cm	(外)摩滅 (内)摩滅	普通	(外)7.5YR6/6橙, 10YR7/3にふい黄橙 (内)10YR5/3 にふい黄褐	0.1~0.5mm	底部1/8	
222		I区 暗褐色粘質土層(下部)	土 碗			9.0cm	(外)ナデ, 摩滅 (内)摩滅	普通	(外)2.5Y8/3 淡黄 (内)2.5Y8/3 淡黄	0.1~1mm 少量	底部1/8	
223		I区 暗褐色粘質土層(下部)	土 壺				(外)摩滅 (内)ハケ目	やや不良	(外)5Y8/3淡黄, 10YR8/4浅黄橙 (内)10YR6/6 明黄褐	0.1~4mm 多量	破片	
224		I区 暗褐色粘質土層(下部)	須 壺				(外)回転ナデ, 回転ナデ後板ナデ後ナデ (内)回転ナデ	良	(外)N4/0 灰, N5/0 灰 (内)N4/0 灰	0.1~3mm 少量	脚部破片	断面形状に剥離, 体部は打欠か?
225		I区 暗褐色粘質土層(下部)	須 壺	22.8cm			(外)回転ナデ, 格子目タタキ, 自然釉 (内)回転ナデ	良	(外)2.5Y5/1 黄灰 (内)2.5Y6/1 黄灰	0.1~1mm	破片	
226		I区 暗褐色粘質土層(下部)	黒A 碗			6.6cm	(外)摩滅 (内)摩滅, 暗文	普通	(外)10YR7/6 明黄褐 (内)2.5Y5/1 黄灰	0.1~0.2mm 少量	底部3/8	
227		I区 暗褐色粘質土層(下部)	黒A 碗			8.0cm	(外)回転ナデ, ナデ (内)暗文	普通	(外)10YR7/4 にふい黄橙 (内)5Y2/1 黒	0.1~1mm 少量	底部1/8	
228	70	I区 暗褐色粘質土層(下部)	黒A 碗			8.0cm	(外)剥離, 暗文 (内)摩滅, 暗文	普通	(外)10YR7/6明黄褐, 7.5YR8/4浅黄橙 (内)2.5Y3/1 黒褐	0.1~0.5mm	底部1/8	

標本No	図版No	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色調	胎土	残存量	備考
229		I区 暗褐色粘質土層(下部)	弥 底部			6.2cm	(外)剥離、タキ目、指おさえ、摩滅 (内)指おさえ、摩滅	普通	(外)10YR8/4(薄黄緑、10YR5/1)褐灰 (内)10YR6/4(薄灰、10YR6/4)黄緑	0.1~6mm	破片	
230		I区 暗褐色粘質土層(下部)	弥 底部			6.8cm	(外)剥離 (内)剥離	普通	(外)10YR7/6 明黄緑 (内)7.5YR6/6 橙	0.5~4mm 多量	底部完存	
231		I区 暗褐色粘質土層(下部)	弥 底部			8.0cm	(外)剥離、指おさえ (内)剥離	普通	(外)10YR7/6(明黄緑、10YR4/1)褐灰 (内)7.5YR6/8 橙	0.1~2mm	底部3/8	
232		I区 暗褐色粘質土層(下部)	弥 底部			9.6cm	(外)指おさえ、摩滅 (内)指おさえ、摩滅	やや不良	(外)10YR6/6 明黄緑 (内)2.5Y6/6 明黄緑	0.1~5mm 多量	底部4/8	
233	70	I区 暗褐色粘質土層(下部)	弥 底部			2.8cm	(外)剥離 (内)剥離	普通	(外)2.5Y6/6(橙、5Y6/1)褐灰 (内)2.5Y6/8 橙	0.1~2mm	底部完存	
234		I区 暗褐色粘質土層(下部)	弥 瓶			7.5cm	(外)剥離 (内)剥離	普通	(外)10YR6/4 (こぶい)黄緑 (内)10YR7/6 明黄緑	0.1~3mm やや多く	底部3/8	
235	71-(1)	I区 暗褐色粘質土層(下部)	弥 高杯				(外)剥離 (内)剥離	普通	(外)7.5YR8/4(薄黄緑、5Y7/1)灰白 (内)7.5YR8/6 浅黄緑	0.1~4mm	破片	
236	71-(1)	I区 暗褐色粘質土層(下部)	棒状土錘	現存長さ 4.5cm	最大幅 1.3cm		(凸面)ナデ (凹面)布目痕 (内)	普通	(外)10YR5/6 黄緑 (内)10YR5/6 黄緑	0.1~2cm 金雲母角閃石	4/8	
237	71-(1)	I区 暗褐色粘質土層(下部)	土師質 丸瓦	最大厚 2.0cm			(外)ナデ (内)剥離	普通	(外)10YR7/3 (こぶい)黄緑 (内)10YR6/4 (こぶい)黄緑	0.1~4mm	破片	
239		I区 表土剥ぎ	土 碗			7.8cm	(外)剥離 (内)剥離	普通	(外)5YR7/6 橙 (内)5YR7/6 橙	0.1~0.5mm 少量	底部1/8	
240		I区 表土剥ぎ	土 碗			6.6cm	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)2.5Y8/4 淡黄 (内)2.5Y8/4(淡黄、7.5YR4/4)褐	0.1~1mm	底部4/8	
241	71-(1)	I区 御溝掘り	土 土釜				(外)溝ナデ (内)指おさえ後横ナデ	普通	(外)10YR7/6 明黄緑 (内)10YR7/6 明黄緑	0.1~2mm	破片	
242		I区 御溝掘り	土 鉢	26.8cm			(外)剥離、強い横ナデ (内)剥離	普通	(外)2.5Y8/2(灰白、10YR7/6)明黄緑 (内)5Y8/1(灰白、5Y7/1)灰白	0.1~0.5mm 少量	口縁1/8	
243		I区 御溝掘り	須 高台付杯			7.0cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	やや不良	(外)N6/0 灰 (内)N6/0 灰	0.1~0.5mm	底部1/8	
244		I区 御溝掘り	須 杯			7.0cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	やや不良	(外)N4/0 灰 (内)N4/0 灰	0.1~1mm	底部1/8	内外面火タスキ
245		I区 壁切り	黒A 碗			10.7cm	(外)ナデ、横ナデ (内)暗文(摩滅)	普通	(外)7.5YR6/8 橙 (内)10YR2/1 黒	0.1~1mm 少量	底部1/8	
246		I区 壁切り	黒A 碗			8.1cm	(外)ナデ (内)暗文	普通	(外)10YR8/3 浅黄緑 (内)10YR3/1 黒	0.1~2mm	破片	
247	71-(1)	I区 表土剥ぎ	緑釉陶器 皿	13.8cm	2.9cm	6.0cm	(外)回転ナデ、削り出し高台 (内)回転ナデ、線釉	良	(外)5Y7/1 灰白 (内)2.5Y7/1 灰白	0.1~0.5mm	2/8	京都産
248		I区 表土剥ぎ	弥 壺			9.2cm	(外)剥離 (内)浅いハケ目、指おさえ	普通	(外)10YR5/3 (こぶい)黄緑 (内)10YR3/2 黒	0.1~3mm 多量	底部4/8	
249	71-(1)	I区 御溝掘り	輪羽口				(外)ナデ、表面にガラス状のものが付着 (内)ナデ(摩滅)	普通	(外)7.5YR7/7(明黄緑、7.5YR3/1)黒 (内)10YR8/4 浅黄緑	0.1~5mm	破片	総研所(京都府)から 採った(い)の標本
250		I区 暗灰黄色粘質土	須 皿	23.0cm	2.5cm	20.2cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	不良	(外)5Y8/1(灰白、2.5Y8/4)淡黄 (内)5Y8/1 灰白	0.5~2mm	破片	
251		I区 暗灰黄色粘質土	弥 高杯	28.8cm			(外)溝ナデ (内)横ナデ	普通	(外)10YR4/6 橙 (内)10YR4/6 橙	0.1~2mm 角閃石	破片	
252	71-(1)	I区 暗灰黄色粘質土	輪羽口				(外)ナデ(摩滅) (内)ナデ	普通	(外)10YR6/4(明黄緑、10YR2/1)黒、10YR7/6(灰白) (内)10YR8/4 浅黄緑	0.1~6mm	破片	
253	S B107 (SP104)		土 小皿	10.8cm			(外)回転ナデ、重ね焼き痕 (内)回転ナデ、重ね焼き痕	普通	(外)5Y5/6(明黄緑、7.5YR7/4)黄緑 (内)2.5Y6/6(橙、7.5YR4/3)褐	0.1~4mm	破片	
254	S B107 (SP101)		土 小皿	7.8cm	1.1cm	5.9cm	(外)剥離、摩滅 (内)剥離、摩滅	普通	(外)5YR7/6 橙 (内)5YR7/6 橙	0.1~4mm	1/8	
255	S B107 (SP101)		土 杯	16.0cm			(外)剥離、横ナデ (内)剥離	やや不良	(外)2.5YR6/6 橙 (内)2.5YR6/6 橙	0.1~2mm 少量	4/8	
256	S B107 (SP102)		土 小皿	8.0cm	1.1cm	7.1cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	(外)10YR8/1 灰白 (内)10YR8/1 灰白	0.1~3mm	完存	
257	S B107 (SP102)		黒B 碗	14.2cm			(外)ナデ、ヘラミガキ(摩滅) (内)ヘラミガキ(摩滅)	普通	(外)2.5Y3/1 黒 (内)2.5Y3/1 黒	0.1~2mm	口縁1/8	

標本No.	図版No.	出土位置	器種	口径	器高	底径	調整	焼成	色	調	胎土	残存量	備考
258	71-(2)	SB107 (SP103)	土 小皿	9.0cm	1.5cm	6.2cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	(外)7.5YR7/6 橙 (内)7.5YR7/8 黄橙	橙	0.1~3mm	完存	歪み有り
259		SB107 (SP103)	須 杯			12.5cm	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)7.5Y5/1 灰 (内)N6/0 灰	灰	0.1~1mm	破片	
260		SP105	土 碗			6.0cm	(外)ナデ (内)ナデ	普通	(外)10YR7/4 にぶい、黄橙 (内)10YR5/1 褐灰	にぶい、黄橙	0.1~1mm	底部1/8	
261		SP106	須 蓋				(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)N5/0 灰 (内)7.5Y7/1 灰白	灰白	0.1~2mm	破片	
262		SP107	土 小皿	8.9cm	1.6cm	6.6cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)2.5Y5/8 明赤褐 (内)2.5Y6/8 橙	明赤褐	0.1~0.5mm 少量	底部2/8	
263		SD102	土 高台付杯			12.0cm	(外)摩滅 (内)摩滅	普通	(外)10YR7/6 明黄褐 (内)10YR7/6 明黄褐	明黄褐	0.1~1mm 少量	破片	
264		SD102	須 杯			15.0cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ、ナデ	やや不良	(外)N6/0 灰 (内)N6/0 灰	灰	0.1~4mm	2/8	歪み有り 内外面火ダスキ
265		SD107	須 皿	14.8cm	2.1cm	11.2cm	(外)回転ナデ、摩滅 (内)回転ナデ、摩滅	不良	(外)5Y8/1 灰白 (内)5Y8/1 灰白	灰白	0.1~0.5mm 少量	破片	
266		SD107	土 碗			6.8cm	(外)摩滅 (内)ナデ	普通	(外)10YR5/6 黄褐 (内)10YR5/6 黄褐	黄褐	0.1~2mm	底部1/8	
267		SD107	須 蓋	つまみ付 2.0cm			(外)回転ナデ (内)ナデ	普通	(外)N5/0 灰 (内)N6/0 灰	灰	0.1~0.5mm	つまみの部分	
268		SD107	黒B 碗	19.0cm			(外)ヘラミガキ (内)暗文、摩滅	普通	(外)7.5Y3/1 黒褐 (内)7.5Y3/1 黒褐	黒褐	0.1~1mm 少量	口縁1/8	
269		SD109	土 杯			8.0cm	(外)横ナデ、ヘラ切り後ナデ (内)横ナデ、ナデ(摩滅)	普通	(外)5YR7/4 にぶい、橙 (内)5YR7/4 にぶい、橙、2.5YR7/6 橙	にぶい、橙	0.1~1.5mm	底部1/8	
270		SD109	黒A 碗			6.6cm	(外)摩滅、横ナデ (内)暗文(摩滅)	普通	(外)7.5YR5/8 明褐 (内)7.5YR5/8 明褐、2.5Y4/1 黄灰	明褐	0.1~2mm 少量	底部2/8	
271		SD109	黒A 碗			8.5cm	(外)摩滅 (内)摩滅	普通	(外)7.5YR5/8 明褐 (内)10YR3/1 黒褐	明褐	0.1~0.5mm	底部1/8	
272	71-(3)	SD109	黒B 碗	13.4cm	3.9cm	7.8cm	(外)ヘラミガキ、摩滅、ヘラ切り後ヘラミガキ (内)暗文、摩滅	普通	(外)2.5Y2/1 黒 (内)2.5Y2/1 黒	黒	0.1~2mm 少量	6/8	
273		Ⅲ区 遺構精査	土 甕	26.9cm			(外)横ナデ、ヘラミガキ(摩滅) (内)ヘラミガキ(摩滅)	普通	(外)7.5YR5/6 明褐 (内)7.5YR5/6 明褐	明褐	0.1~4mm 多量 金雲母	口縁1/8	
274		Ⅲ区 壁切り	土 甕	29.8cm			(外)横ナデ、摩滅 (内)摩滅	普通	(外)7.5YR3/2 黒褐、5YR5/6 明赤褐 (内)5YR3/2 黒褐、5YR5/6 明赤褐	明赤褐	0.1~6mm	破片	
275		Ⅲ区 壁切り	須 杯			7.0cm	(外)回転ナデ、ヘラ削り (内)回転ナデ、回転ナデ後ナデ	やや良	(外)N5/0 灰 (内)N5/0 灰	灰	0.1~1mm	2/8	
276		Ⅲ区 表土剥ぎ	須 杯	10.0cm	3.8cm	7.0cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	(外)N5/0 灰 (内)N4/0 灰	灰	0.1~3mm 多量	破片	
277	71-(4)	Ⅲ区 遺構精査	須 杯	16.0cm	5.4cm	11.0cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り後ナデ (内)回転ナデ、ナデ	やや良	(外)N4/0 灰 (内)N6/0 灰	灰	0.1~4mm	底部2/8	
278		Ⅲ区 遺構精査	須 皿	21.3cm		18.5cm	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	やや良	(外)N4/0 灰 (内)N5/0 灰	灰	0.1~1mm	口縁1/8	
279		Ⅲ区 遺構精査	須 高台付杯 又は皿			17.0cm	(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)N4/0 灰 (内)N6/0 灰	灰	0.1~4mm	底部1/8	
280		Ⅲ区 表土剥ぎ	須 蓋	12.8cm			(外)回転ナデ、自然釉 (内)回転ナデ、自然釉	やや良	(外)5Y6/1 灰 (内)N7/0 灰白	灰白	0.1~1mm	1/8	
281		Ⅲ区 遺構精査	須 蓋				(外)回転ナデ (内)回転ナデ	普通	(外)5Y6/1 灰 (内)2.5Y6/2 灰黄	灰黄	0.1~0.5mm	破片	
282		Ⅲ区 遺構精査	黒A 碗	17.8cm			(外)横ナデ、摩滅 (内)横ナデ、ナデ	普通	(外)7.5Y8/4 黄橙、5YR7/6 橙 (内)10YR8/1 灰白、2.5Y2/1 黒	黄橙	0.1~3mm	破片	
283		Ⅱ区 遺構精査	土 杯			11.6cm	(外)回転ナデ、ヘラ切り (内)回転ナデ	普通	(外)5YR6/6 橙 (内)5YR6/6 橙	橙	0.1~0.5mm 少量	底部1/8	
284		Ⅱ区 表土剥ぎ	土 甕	26.0cm			(外)ナデ (内)ハナ目	普通	(外)2.5Y4/4 オリーブ褐 (内)10YR5/6 黄褐	オリーブ褐	0.1~1mm	破片	
285	71-(5)	Ⅱ区 遺構精査	管状土埴	最大長 4.8cm	最大幅 1.3cm	最大厚 0.3cm	(外)指おさえ (内)不明	普通	(外)10Y2/1 黒 (内)10Y2/1 黒	黒	0.1~1mm 少量	完存	

第5表 本村・横内遺跡 石器 観察表

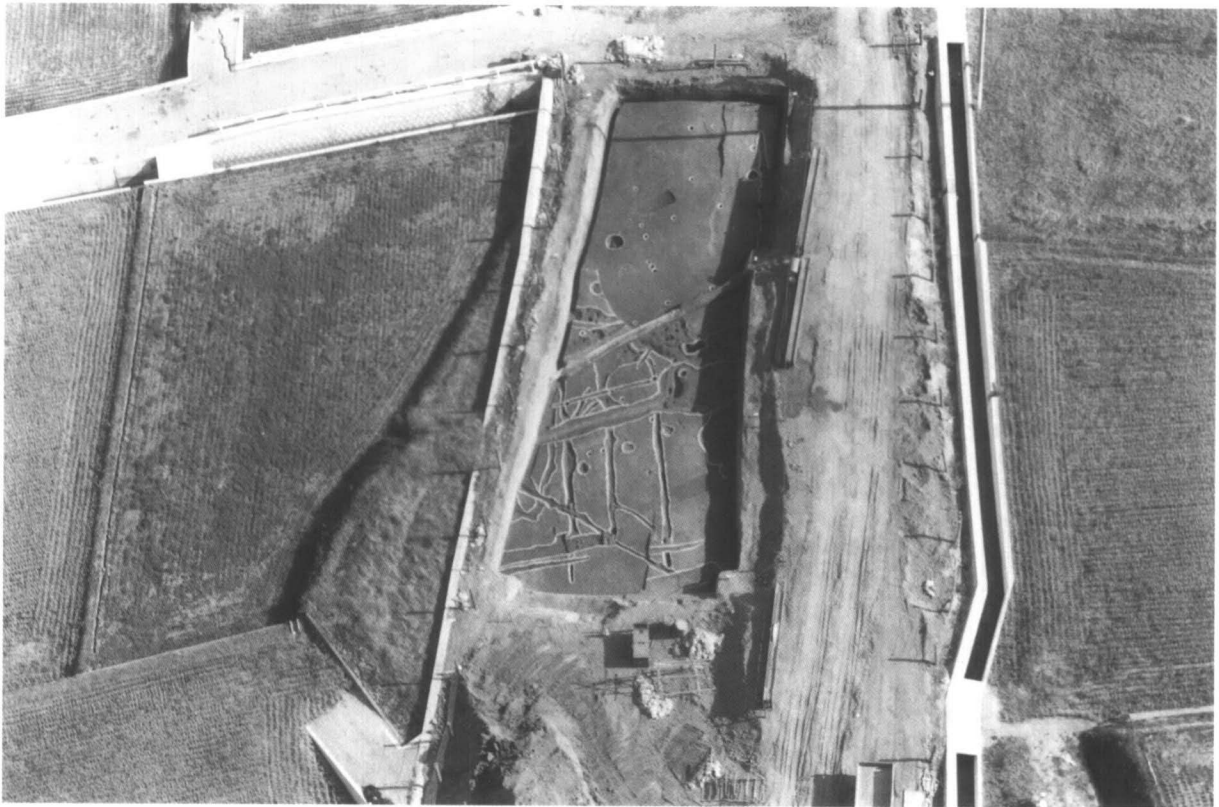
挿図番号	図版番号	出土位置	器種	現存長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	形態・手法の特徴	備考
176	69	IV区 茶褐色粘質土層	石槍	12.3cm	2.9cm	1.1cm	51.19	サスカイト	棒減, ツブレ有り	
189	69	IV区 暗茶褐色砂+粘土	石鏃	2.4cm	1.3cm	0.4cm	1.48	サスカイト	基部欠損, 柳葉式	
190	69	IV区 暗茶褐色砂+粘土	スクレイパー	6.1cm	6.6cm	1.4cm	42.59	サスカイト		
191		IV区 暗茶褐色砂+粘土	スクレイパー	6.9cm	6.7cm	0.7cm	41.34	サスカイト	棒減	
213	70	I区 暗褐色粘質土層(上部)	打製石斧	12.2cm	6.9cm	2.0cm	227.1	サスカイト	風化	
214	70	I区 暗褐色粘質土層(上部)	打製石斧	7.8cm	5.7cm	1.4cm	82.72	サスカイト	風化	
238	71-(1)	I区 暗褐色粘質土層(下部)	石鏃	2.2cm	1.9cm	0.3cm	1.00	サスカイト	凹基式, 風化	

八 丁 地 遺 跡

圖 版



(1) II区 (南半) 全景 (下が北)



(2) III区 (北半) 全景 (左が北)



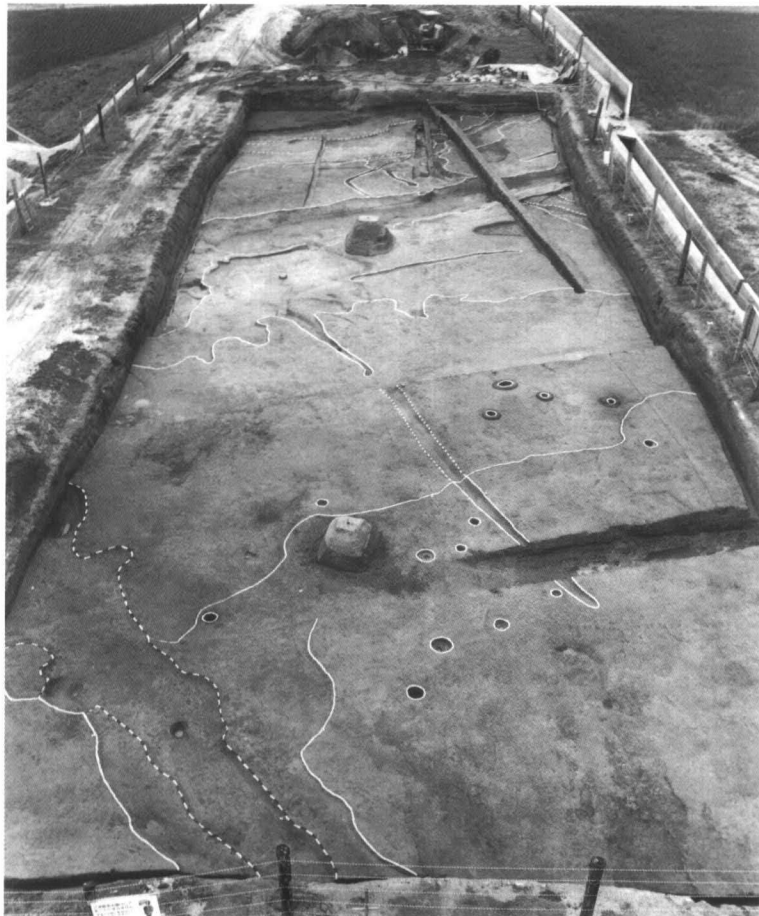
(1) IV区 (北半) 全景 (下が北)



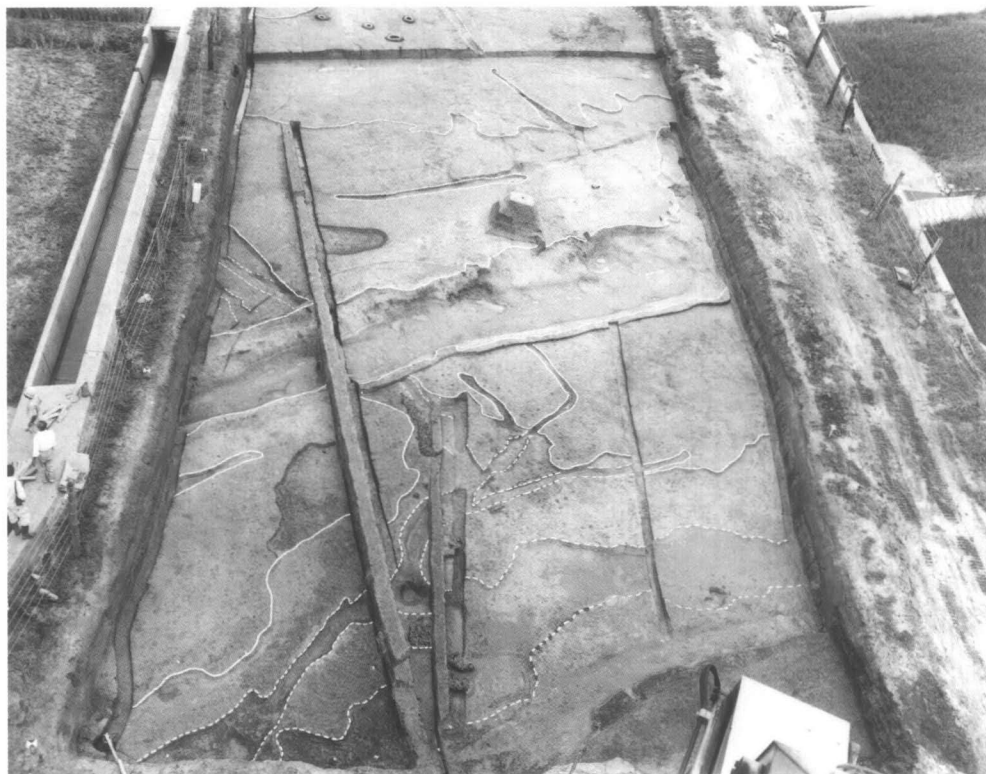
(2) VI区 全景 (下が北)



(1) I区 全景 (東から)



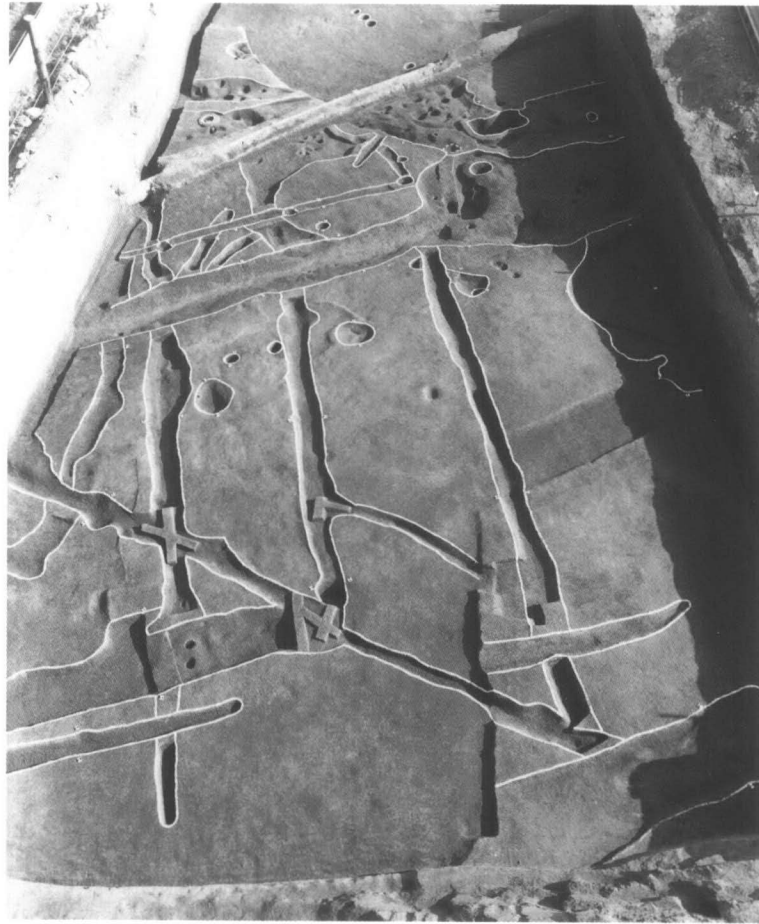
(2) II区 (南半) 全景 (西から)



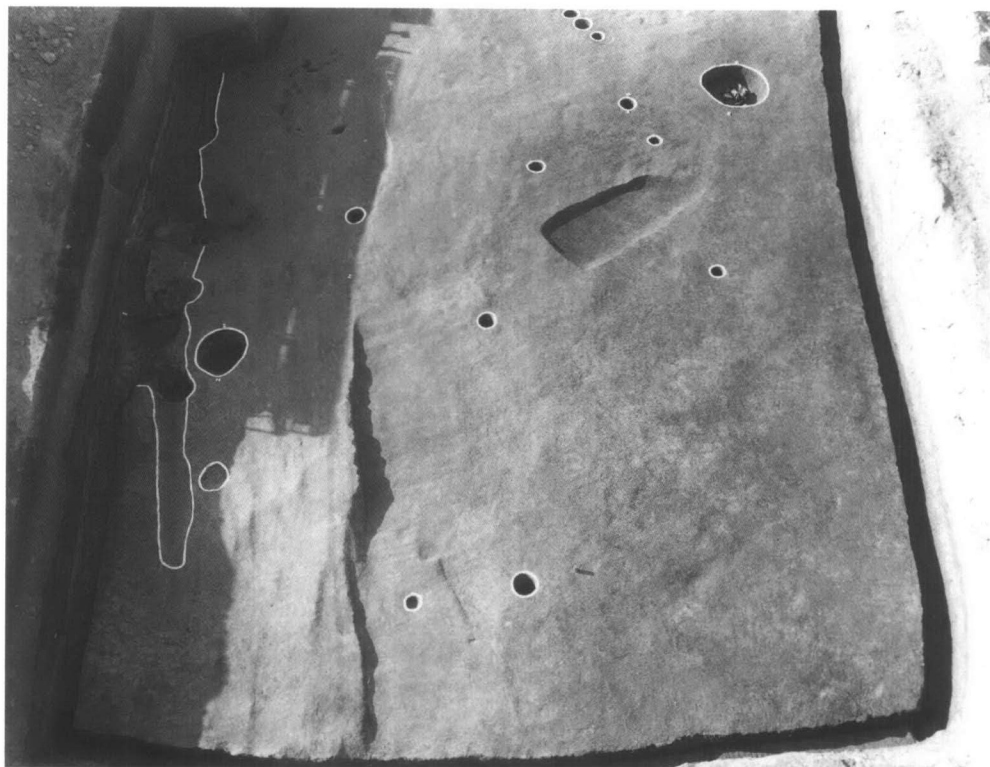
(1) II区 (南半) 全景 (東から)



(2) II区 (北半) 全景 (西から)



(1) Ⅲ区 (北半) 全景 (西から)



(2) Ⅲ区 (北半) 全景 (東から)



(1) Ⅲ区 (北半) 全景 (東から)



(2) Ⅲ区 (南半) 全景 (西から)



(1) IV区 (北半) 全景 (東から)



(2) IV区 (南半) 全景 (西から)



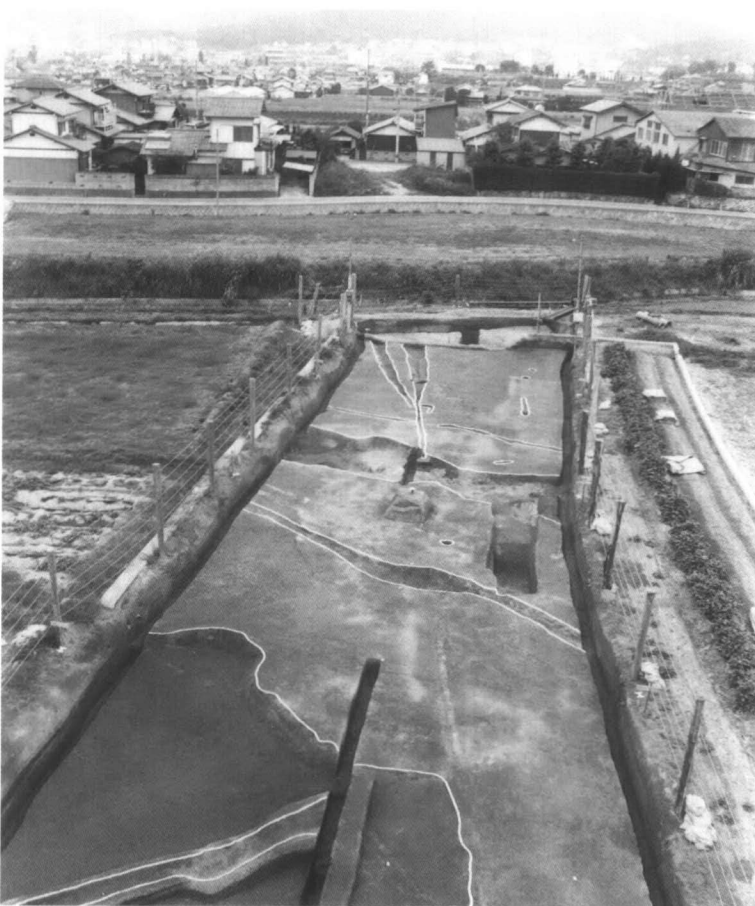
(1) VII区 全景 (西から)



(2) V区 全景 (西から)



(1) VI区 全景 (西から)



(2) VI区 全景 (西から)



(1) V区 縄文土器包含層土器出土状況 (西から)



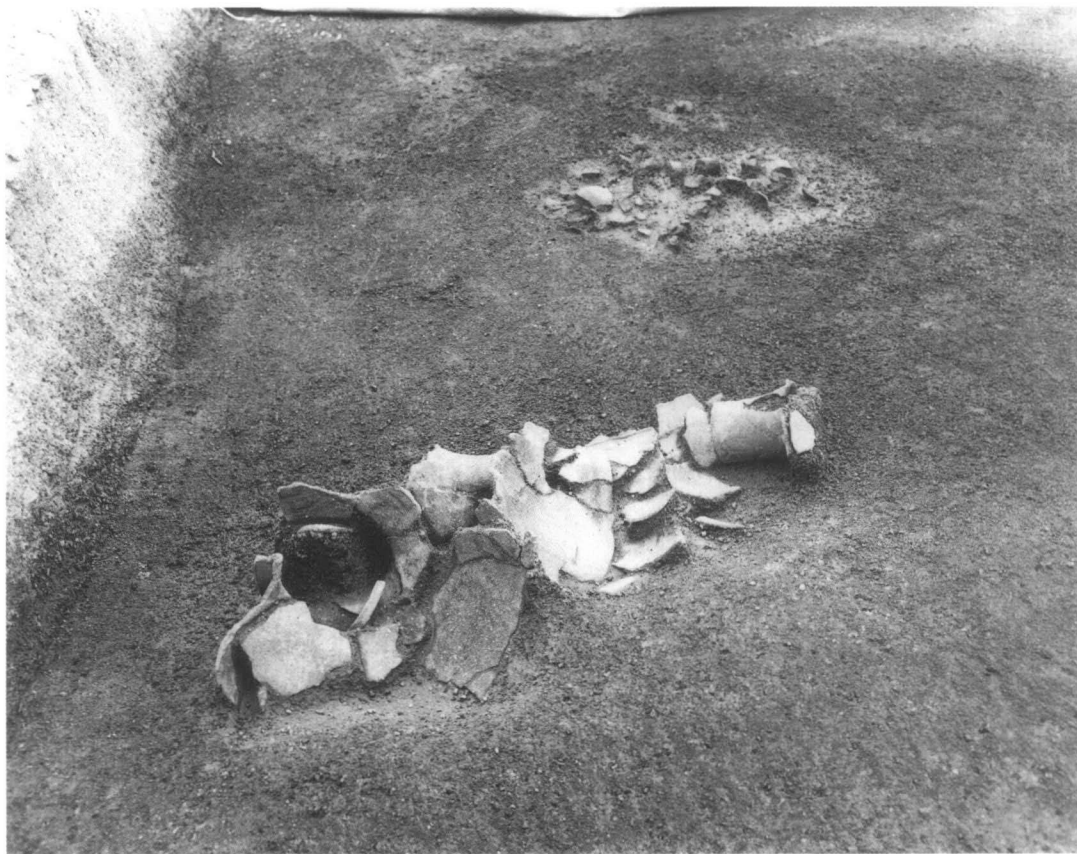
(2) SD101 土器出土状況 (南部) (北東から)



(1) SD101 土器出土状況 (南西部) (北東から)



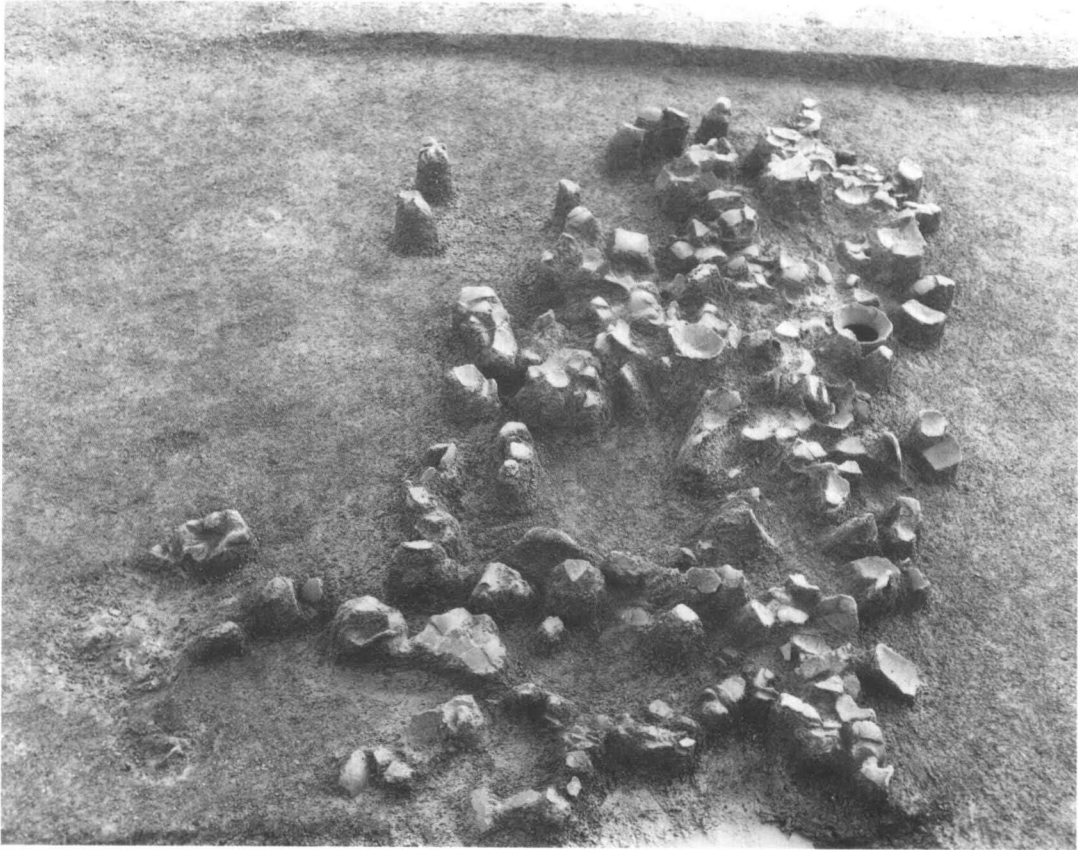
(2) SD101 土器出土状況 (南部) (東から)



(1) SD101 土器出土状況（南部）（西から）



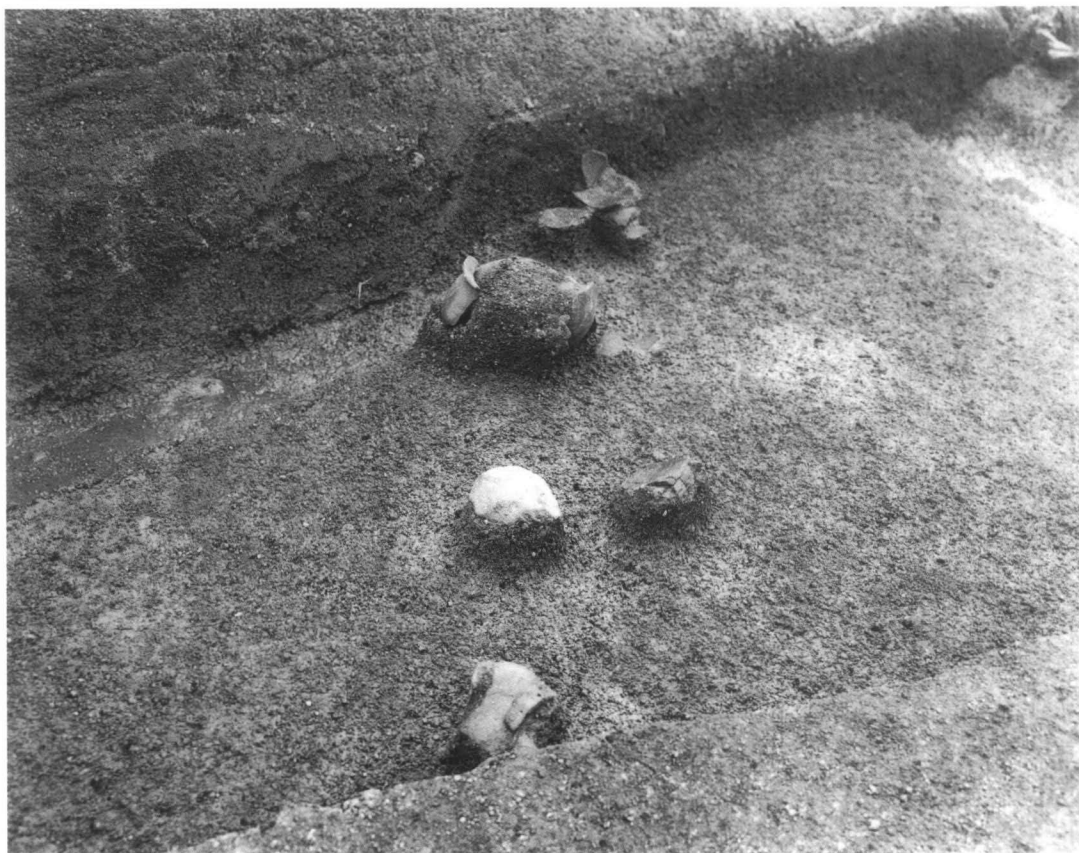
(2) SD101 土器出土状況（中部）（南東から）



(1) SD101 土器出土状況（北部）（北から）



(2) SD102 土器出土状況（南端部）（西から）



(1) SD102 土器出土状況 (南端部) (北から)



(2) SD102・SD103・SD104 (Ⅱ区合流部付近) 出土集中部 (西から)



(1) SD102・SD103・SD104 (Ⅱ区合流部付近) 出土集中部 (北から)



(2) SD102・SD103・SD104 (Ⅱ区合流部付近) 土器集中部 (東から)



(1) SD102 (東部) 土器集中部 (西端) (北から)



(2) SD102 (東部) 土器集中部 (西から2) (北から)



(1) SD102 (東部) 土器集中部 (東から2) (北から)



(2) SD102 (東部) 土器集中部 (東端) (東から)



(1) SD102 (東部)
土器集中部全景 (東から)



(2) SD102 (東部)
土器集中部全景 (西から)



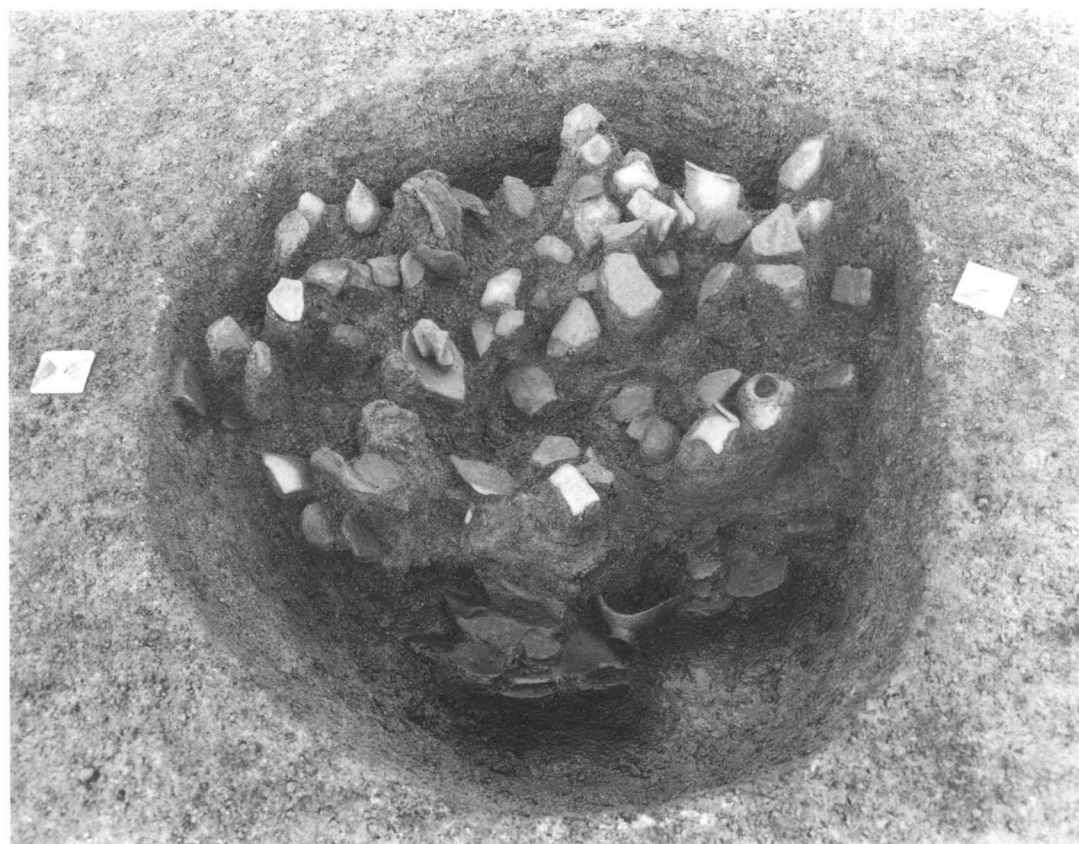
(1) SD103・SD105 土器出土状況（北東から）



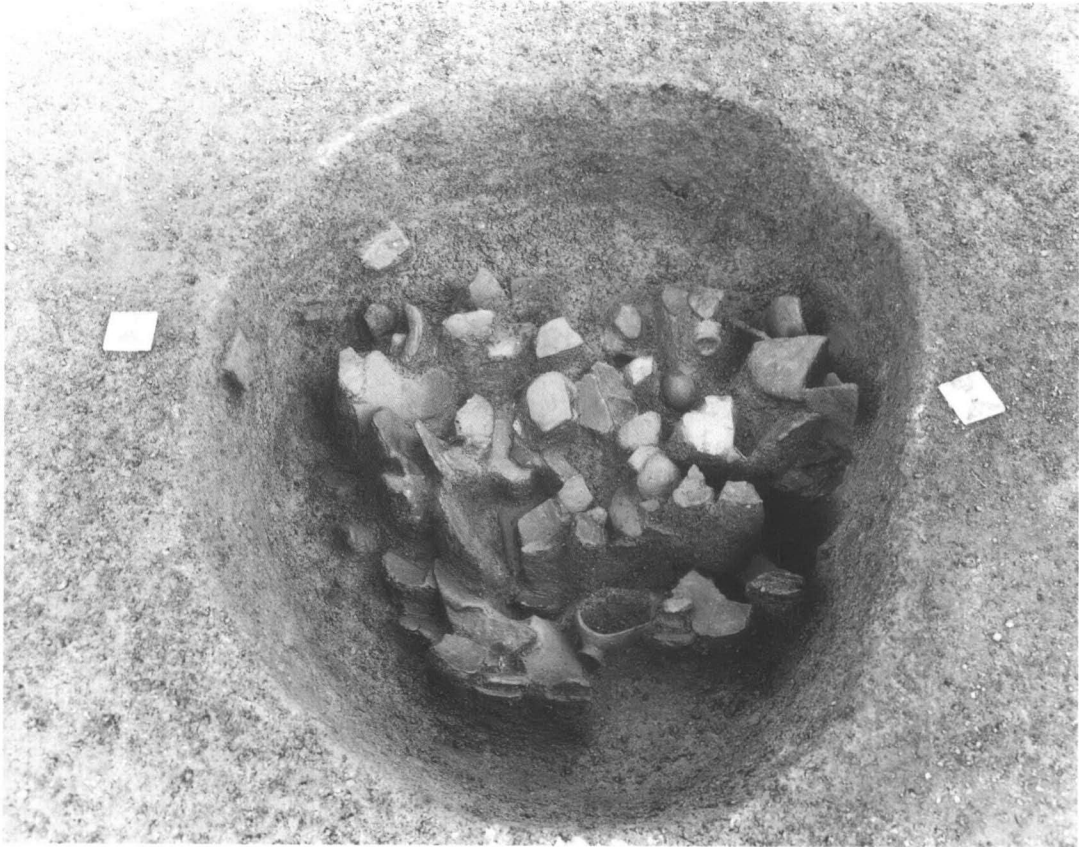
(2) SD103・SD105 土器出土状況（北から）



(1) SK101土層 (南から)



(2) SK101 土器出土状況 (上位) (南から)



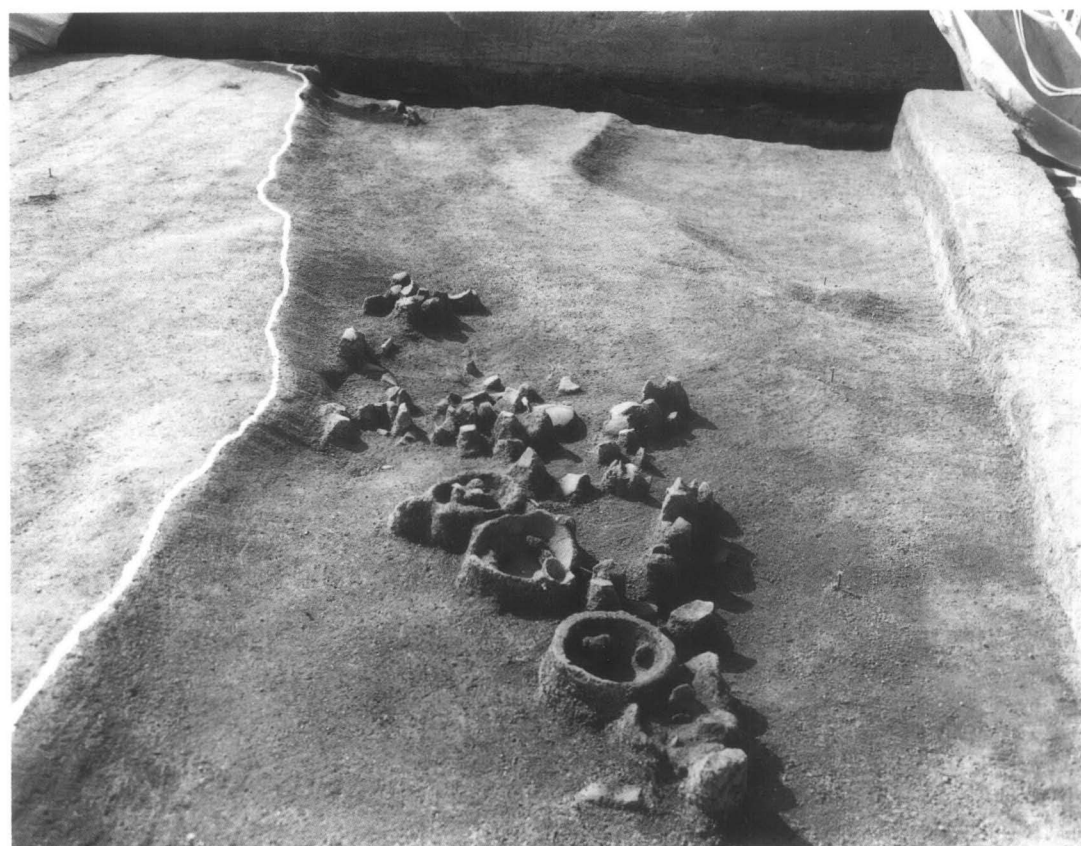
(1) SK101 土器出土状況 (中位) (南から)



(2) SK101 土器出土状況 (下位) (南から)



(1) SR101 土層 (南から)



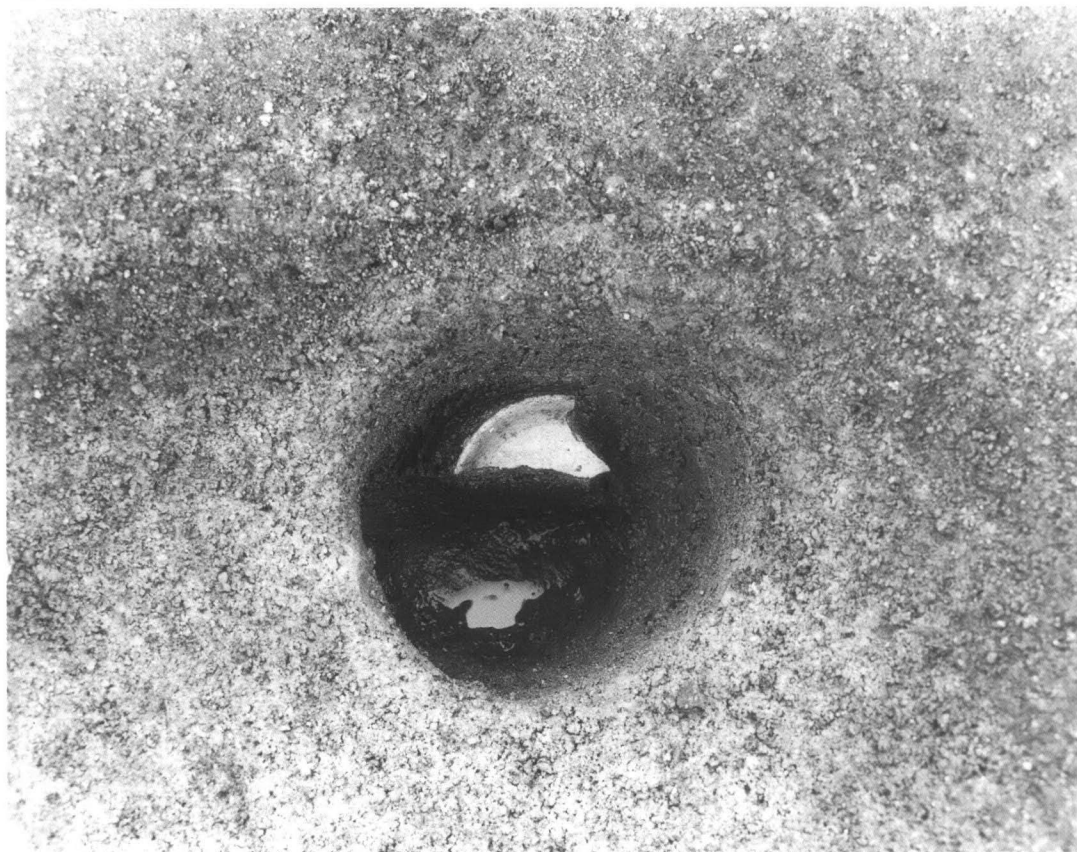
(2) VI区 西部包含層土器集中部 (東から)



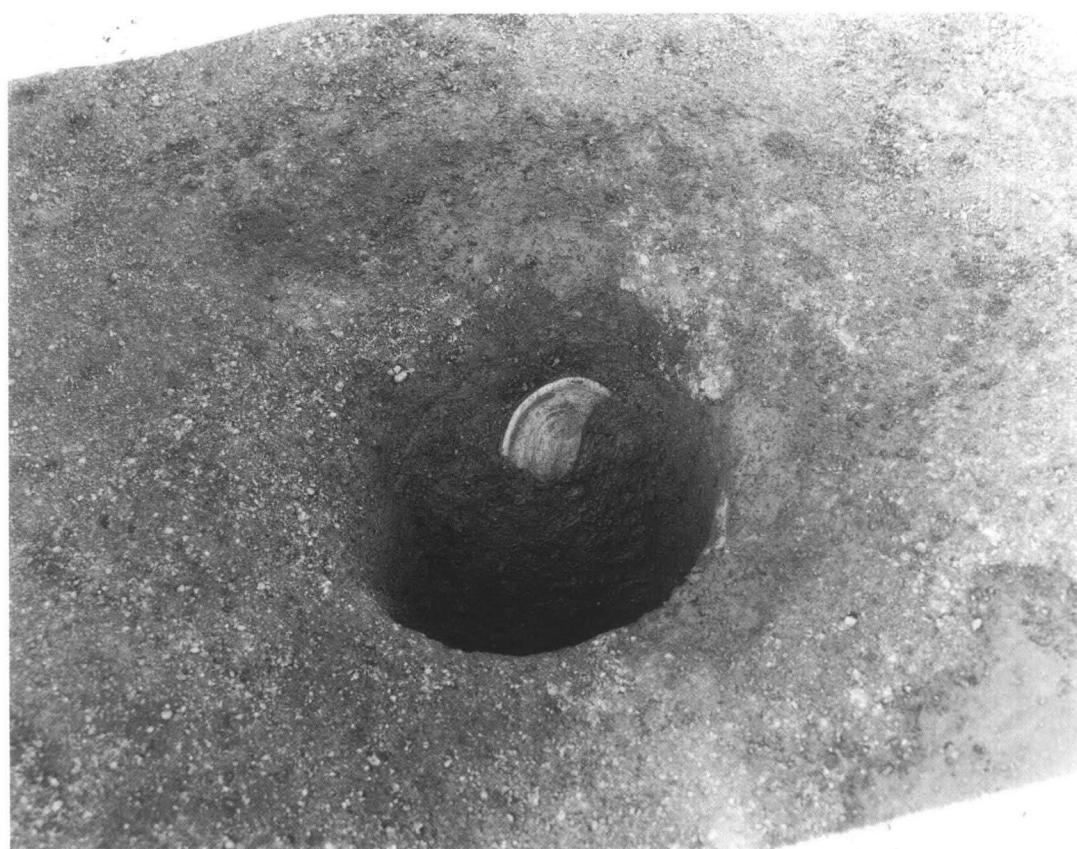
(1) SD106 土器出土状況



(2) SP102 土器出土状況 (東から)



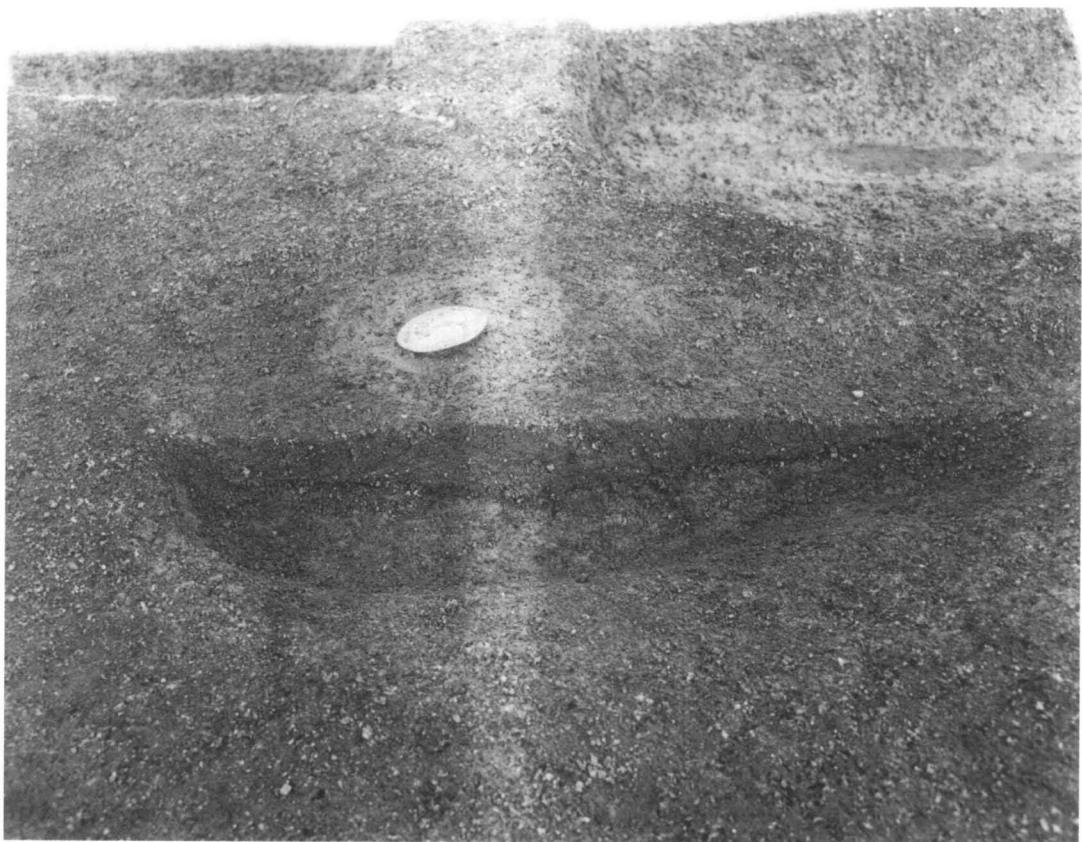
(1) SP104 土器出土状況 (北東から)



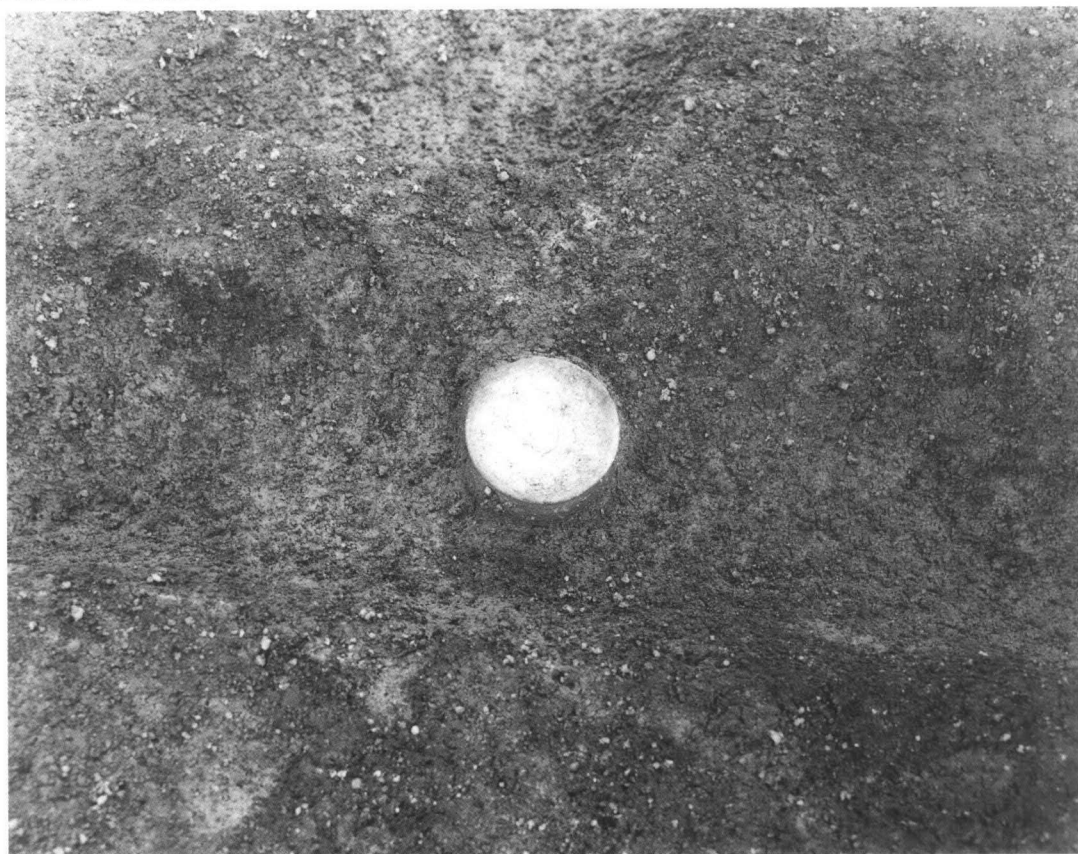
(2) SP107 土器出土状況 (東から)



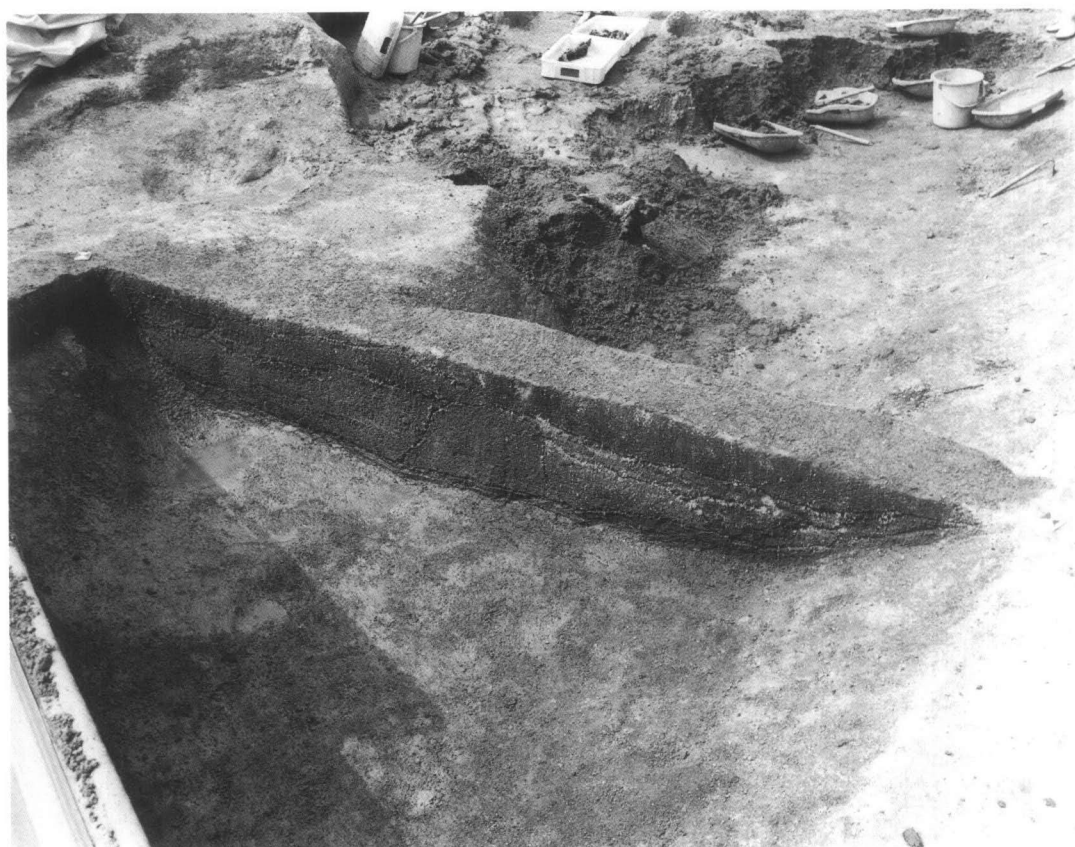
(1) SP108 土器出土状況 (南東から)



(2) SK102土層 (南から)



(1) SD115 土器出土状況 (西から)



(2) SD121 土層 (南から)



(1) II区 南壁 (SD121部分)



(2) SR106土層 (北から)